

様ナ御言葉ハ吾々議員タル者ハ傾聴シナケレバナラヌ、兎ニ角其産業ヲ發達サセルト云フコトニ付テハ、長者ノ言デアアル、長者ノ言デアアル、是ニハ尊敬ヲ拂ハナケレバナラヌデアリマスルガ、果セル哉澁澤男爵ノ申サレシ如ク、アレカラ朝鮮ニ事業ヲ起サウト云フト、軍人先生ガ跋扈シ居ルトコロデ、ナカク許可ヲシナイ、ナカク爲サシメナイデアアル、爲サシメナイデアアル、是デ朝鮮デ仕事ヲシヤウト云フ幾多ノ人ガ先ツ手下スコトガ出来ナイ、下ダシタ人ガ費用ガ掛ッテ困ッテ居ル、斯ウ云フ譯デアリマス、此朝鮮ノ會社合ト云フモノヲ廢止スルト云フコトニ付テノ實否ノ事柄ヲ、此處デ一々舉ゲマスレバ枚舉ニ違アラズ、私ガ此法律案ヲ一ツ出シテカラ以來無名ノ投書ガ幾ッ來ルカモ知レヌ、朝鮮カラモ來ル、内地カラモ來ル、之ヲ一々言ヒマスルト言フト藏原君ノ二ノ舞ガ出來ル、ソコデ私ハ藏原君ノ二ノ舞ヲシテ諸君ニ御手數ヲ掛ルハ恐縮、讀ンダリ言ッタリ致シマセヌガ、併シ澤山アルト云フコトハ責任ヲ以テ申上ゲマス、ソコデ此架紮ノ政治ヂヤト云フ、此政治ヲバ架紮ノ政治ヂヤト斯ウ云フ、我君ヲ堯舜ニ致スト云フコトハ一日片時モ吾々ト諸君ハ忘レテハナラナイ、此明治——大正ノ文明ニ當ッテカラニ其道ノ方ニ架紮政治ト罵ラレル政治ハ何トシテモ除クト云フ事柄ハ、我明天子ヲシテ堯舜ノ君トスル道デアラウト考ヘルノデアリマスカラ之ヲ廢止シタイ、ソコデ殘ル問題ハ斯ウ云フコトガ出來テ來ル、サレバ此會社合ヲ廢スト云フ事柄ハ熱心ニシテモ、倍其手續ガ法律デ廢スト云フコトガ出來ルカ出來ヌカト云フ一ノ法律問題ガ茲ニ殘ルノデアアル、私ハ何トシテモ廢シタイト云フコトヲ熱心ニ考ヘテ居ル一人デアリマスカラ致シマシタガ、僕ハドウシテモ是ハ法律デ廢セラレト考ヘマス、併ナガラ是ハ又廢セラレナイト云フ法律上ノ御論モアラウト考ヘマス、私ハ兩樣研究致シテ見マシタガドチラモアリマスガ、之ヲ廢シ得ルト云フ事柄ヲスルニハ、政府ガ之ヲ拵ヘタ沿革諸般ノ事柄ヲ調べテ見マスルト明カニ分リマスガ、此事柄ハ此處デ申スヨリカハ委員會デ詳シク申上ゲ、又名論モ聽カシテ戴キマスト云フコトガ私ハ相當ト心得マスノデアリマスカラ、此點ニ付テノコトハ總テ委員會デ名論ヲ聽シテ戴キマスガ、吾輩ノ愚説モ其處デ述ベサセテ貰ヒタイ、斯ウ云フコトヲ以テ此提案ノ理由ト致シテ置キマスカラ、ドウカ諸君御賛成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

四六 國稅徵收法中改正法律案

國稅徵收法中左ノ通改正ス

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書ニ通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

附 則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年二月十六日長谷場純孝君外六名提出、同月二十四日第一讀會ヲ開キ提出者(三土忠造君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ市町村ノ交付金ヲ二百二十六萬圓程増スト云フ案デアリマスルカラシテ、市町村ニ取リマシテハ餘程重大デアリマスカラ、詳細ニ提案ノ理由ヲ説明シヤウト思ヒマス、ケレドモ餘程時刻モ遅レテ居リマスカラ詳細ハ委員會ニ讓ルコトニ致シマシテ、極ク簡單ニ説明致シマス、丁度



本案ト同様ナル案ガ渡邊修君數名ノ諸君ヨリ曩ニ御提出ニナッテ居リマスガ、彼ト是トハ目的ガ相均シクシテ、方法ガ少シク違フノデアリマス、即チ渡邊君外數名ノ諸君ノ御提案ハ他ノ國稅ノ手數料ハ百分ノ四、地租ガ千分ノ十七ニナッテ居ルノヲ、地租モ他ノ國稅同様百分ノ四ニシヤウト云フノデアリマス、其方法ニ依リマスト云フト稅ト稅トノ間ノ均衡ハ多少得マスケレドモ、市ト町村トノ間ノ均衡ハヤハリ十分ニ保タレマセヌ、又稅ト稅トノ間ノ均衡モ十分デアリマセヌ、依ッテ各稅ノ間ノ均衡ヲ成ベク近クスルト云フコトニ致シマスト云フト、二ツノ標準デヤリタインデアリマス、即チ金高ニ依テ手數料ヲ交付スルト云フコトト、夫カラ納稅告知書ノ數ニ依テ手數料ヲ交付スル、此二ツノ標準ヲ採リタイト思ヒマスガ、是ガ即チ本案ノ骨子デアリマス、ソレカラ金高ヲ百分ノ二ト致シマシテ、ソレカラ納稅告知書一枚四錢ト致シマスト、一番公平ニ出來マスノデアリマスガ、サウ致シマスト市ニ是迄交付サレテ居ルトコロノ金高ガ二十二萬圓程減ルコトニナリマス、是デハ市ノ財源ニ缺陷ヲ生ジマスカラ、既得權ヲ尊重致シマシテ、多少理想ニハ遠サカリマスケレドモ金高百分ノ三、夫カラ納稅告知書一枚ニ付二錢、斯ウ云フコトニ致シマスルト、市ニ於テモ多少金高ガ増シマスルシ、同時ニ町村ニ於テモ餘程増シマス、兩方合セマシテ二百三十六萬圓増スト云フ案デアリマス、本案ガ通りマスルト市町村ノ財源ガ豊富ニナッテ、自治團體ガ鞏固ニナリマスルトコロノ名案デゴザイマスカラ、ドウカ諸君ノ御贊成ヲ得ンコトヲ希望致シマス

次テ渡邊修君外十名提出國稅徵收法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ渡邊修君提出案可決ノ結果審議ヲ要セサルモノト決シ、同月二十八日同案議決ノ結果本案ハ消滅シタリ(三八號參看)

四七 織物消費稅法中改正法律案

織物消費稅法中左ノ通改正ス

第十三條ノ二 織物ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ニ依リ組織セラレタル組合ニ對シ政府ハ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵稅事務ヲ爲スヘキコトヲ命スルコト得  
前項ノ組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ取扱ヒタル織物ニ對シ賦課シタル稅額百分ノ一以內ノ交付金ヲ下付ス

附 則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四八 通行稅法中改正法律案

通行稅法中左ノ通改正ス

第一條ノ二 學生、兵卒、勞働者ニシテ割引乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ乘船車賃ノ割引歩合ニ準シテ通行稅ヲ低減ス但シ貸切、多人數、回數又ハ定期乘船車ノ契約ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ場合ニ於テ稅額一錢未滿ナルトキハ之ヲ徵收セス



第五條 汽車、電車、汽船營業者前條ニ依リ徵收スヘキ通行税ヲ徵收セサルトキ又ハ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ之ヲ其ノ營業者ヨリ徵收ス

通行税ヲ徵收納付シタル營業者ニ對シテハ其ノ税金百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四九 織物消費税法中改正法律案

織物消費税法中左ノ通改正ス

第二條中「百分ノ十」ヲ「百分ノ七」ニ改ム

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

五〇 通行税法中改正法律案

通行税法中左ノ通改正ス

第一條中「五十哩又ハ五十海里未滿」ノ項ヲ削ル

第三條ニ左ノ一項ヲ追加ス

三 五十哩又ハ五十海里未滿ノ乗車又ハ乗船ヲ爲ストキ

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(四七)、(四八)ハ三年二月十六日長谷場純孝君外六名、(四九)、(五〇)ハ同月十七日武富時敏君外一名提出、同月二十四日順次第一讀會ヲ開キ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(四七)小林源藏君ノ演說

本案提出ノ賛成者トシテ私ハ其理由ヲ説明致シマス、織物消費税ニ關スル議論ハ數年來アルノデアリマスルガ、主トシテ織物消費税ノ從價一割ハ高キニ失スルト云フ議論ト、織物消費税徵收ノ手續ガ煩瑣ニ失スルト云フ此ニツノ議論ガ常ニアルデアリマス、曩ニ否決セラレタル織物消費税廢止案ノ如キ、或ハ日程ニ上ッテ居ルトコロノ三割減或ハ五割減ノ如キハ、從價一割ハ高キニ失スルト云フ論デアリマス、本案ハ主トシテ織物消費税徵收手續ノ煩瑣ナルコトヲ省カント欲スルノ趣旨ニ出デタルモノデアリマス、今日此織物消費税ガ實行セラレテ居ル有様ヲ見マヌルノニ、從價一割、價ニ從ッテ一割ヲ課スル其價ヲ如何ニシテ定ムルカト云フ點ニ於テ、非常ナル煩雜ガアルデアリマス、ソコデ現ニ今日織物製造者若クハ販賣業者ガ作ッテ居ル組合ト、收稅官吏ガ協定シテ其價ヲ定ムルト云フヤウナ方法モ執ッテ居リマス、單ニ收稅官吏ノ意見ノミニ任セテ課税スベキ價案ヲ定ムルト致シマスルト、往々收稅官吏ト織物製造業者ノ間ニ於テ、意



見ヲ異ニスルコトガアルノデアリマス、其他納稅濟ノ消印ガ附ケルガタメニイロク、煩雜ナル手續等モアリマス、又急ニ販賣ノ爲ニ檢査ヲ受ケテ納稅ヲセント欲シテモ、收稅官吏ニ時間ノ制限ガアリマスルノデ、急速其間ニ合ハナイト云フヤウナ不都合モアルノデアリマス、ソコデソレ等ノ不便ヲ省カンガタメニ織物ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ニ依ッテ組織セラレタル組合ニ對シテ、政府ガ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ、又ハ徵稅ノ幫助ヲ爲サシムルト云フコトヲ規定シタイト思フノデアリマス、斯ノ如クニ致シマスルト、織物ノ製造又ハ販賣ヲ業トシテ居ル組合ガ、其徵收ニ參與致スルノデアリマスカラシテ、收稅官吏ト織物業者トノ間ニ意思ノ疏通ガ出來ルバカリデナク、檢査場等ノ設備ヲモ組合ニ命ズルコトガ出來ルノデアリマスカラシテ、極メテ簡便ニシテ從來不便アリシトコロノ煩雜ナル手續ヲ省クコトガ出來ルト信ズルノデアリマス、其結果ト致シマシテ組合ニ多少ノ費用ヲ必要トスルコトハ、明カナ事實デアリマスノデ、其組合ニ於テ取扱タルトコロノ税金ノ百分ノ一以内ヲ、組合ニ對シテ交付シヤウト云フノデアリマス、此百分ノ一以内ハ果シテ實際ノ費用ニ適スルノデアアルカ否ヤハ、將來ノ經驗ニ待タネバナラヌコトデアリマスルガ、先以テ百分ノ一位ヲ交付シタナラ間ニ合ハウト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、唯此以内ト申シマスルト、當局者ト官吏ト營業者トノ間ニ將來疑問ヲ生ズルノ虞ガアリマスルノデ、委員會ニ付セラレタナラバ此以内ノ文字ニ付テハ、篤ト御審議ヲ望ムノデアリマス、而シテ今申上ゲマシタ如ク、本案實行ノ結果トシテ多少ノ金額ヲ要スルノデアリマスルカラシテ、此改正案ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行セント欲スルノデアリマス、願クバ諸君ノ御贊成ヲ得テ成立センコトヲ希望致シマス

(四八)横田千之助君ノ演說

通行稅法中改正法律案提出ノ主意ヲ極ク簡單ニ述ベマス、改正ノ要點ハ通行稅法第一條ノ二ト云フ條項ヲ加ヘマシテ、割引乗車券ノ契約ヲナシタル人々ニ對シテ、即チ其内容ヲ申上マスレバ學生兵卒勞働者ト云フ此階級ニ向ッテ、通行稅ヲヤハリ半減ヲスルト云フノガ主意デス而シテ其

第二項ハ前項ノ場合ニ於テ稅額一錢未滿ナルトキハ之ヲ徵收ゼズト云フ規定ガアリマス、此規定ニ依ッテ交通ノコトヲ扱ッテ居ル會社ノ割引ノ契約ヲシタ人々ニシテ、其稅額ガ一錢デアアル場合ハ半減シテ五厘ニナル、而シテ此五厘ノ稅額ト云フモノハ打切ッテ徵收シナイト云フトコロノ待遇ヲシヤウト云フノガ、此法案ノ精神デアリマス、改正ノ第二點ハ第五條ノ中ニ通行稅ヲ徵收セザルトキハト云フ文字ガ書イテアル、是ニ當テ或ル電車會社ガ、故意カ又ハ過失ニ依ッテ徵收ヲセザリシ場合ガアル、此場合ニ於テ現行ノ法律ニ於テハ、意納處分ハ納稅者タル通行人ニ向ッテ追徵スベキモノデアアルカドウカ、或ハ此上納ヲ取扱ッテ居ルトコロノ會社ニ向ッテ要求スベキモノデアアルカドウカ、法律上非常ニヤカマシキ疑義ガ生ジタルトコロノ事案ガアッタノデアリマス、此ニ於テ此疑問ヲ避クルトコロノ用意ノ爲メニ、第五條ニ於テ通行稅ヲ徵收セザル時ト雖モ、營業者即チ交通ヲ扱ッテ居ルトコロノ營業者ハ、政府ニ對シテ通行稅納付ノ義務ヲ有スルト云フコトヲ明確ニシテ、此權利義務ノ關係ヲ將來紛糾無カラシムルコトヲ期シタノデアリマス、而シテ其第二項ニ「通行稅ノ徵收納付シタル營業者ニ對シテハ、税金百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス」是ハ今マデ無手數料デ營業者ニ租稅徵收ノコトヲ扱ハセタノデアリマスガ、國家ト雖モ人ノ勞力ヲ唯使フコトハ出來ヌト云フ理窟ノ上カラ、此條項ヲ置イタノデアリマス、要スルニ通行稅全廢ニ就テハ我黨ノ代議士ガ、此議案ノ日程ニ上リシ當時ニ於テ反復其荒唐無稽ナルコトヲ論破シタルトコロノ如クデアリマス、而シテ我黨ノ此議案ヲ提出シタル所以ノモノハ、此程度ニ於テ日本ノ財政經濟ノ状態、而シテ國民ノ通行稅ニ對スル眞ノ希望ガ、此程度ニアルト云フコトヲ深ク認識シテ此提案ヲナシタルモノデアリマス、願クバ諸君御慎重ノ御表決アラントコトヲ希望致シマス

(四九)加藤政之助君ノ演說

諸君、此織物消費稅法中改正法律案ヲ吾々カラ提出致シテ置キマシタ、ソレデ其意味ヲ簡單ニ要領ダケヲ申上ゲテ諸君ノ御贊同ヲ乞ハウト思ヒマス、吾々ノ提出致シマシタ織物消費稅法中改



正法律案ノ要旨ハ、第二條中ニ「百分ノ十」トアリマスノヲ「七」ト改メルノデアリマス、夫デ其要領ヲ申上マスルト云フト、織物ハ諸君御承知ノ通り、人生必要ノ衣食住ト云フ三大必需品中ノ首位ヲ占メテ居ル一デアリマス、而シテ其消費稅ノ過重ニ失スト否トハ、國民中流以下ノ人々ニ多大ノ影響ヲ及シマスルモノデアリマス、殊ニ營業者ニ取リマシテハ、先刻小林君カラ演說セラレマシタ通り、極メテ此稅ガ煩瑣ナ徵收ノ仕方デアリマシテ、非常ナ手續ヲ要スルノデアリマス、ソコデ此織物ト云フ事業ハ我日本ノ生産中極メテ重要ナル物品ノ一デアリマス、デ經濟上ノ原則カラ言ヒマスルト云フト、此織物ト云フ事業ノ盛衰ハ、其織物業自身ダケノ範圍ニ止マルモノデアリマセズ、或重要ナ國家ノ生産事業ガ盛シニナリマスト云フコトニナリマス、隨テ其餘響ハ他ノ總テノ事業ニ影響スルモノデアリマス、例ヘバ經濟界ノ有様ハ此車輪ノ如キモノデアリマス、一ツノ重要物產ガ盛シニナレバ、其結果トシテ他ノ事業ノ繁盛ヲモ招クトコロノモノデアリマス、故ニ此織物ト云フ事業——織物業ニ關係シテ居ル者ノ利益、織物ヲ消費スル者ノ利害ト云フ限局シタ意味ニ見ルトハ、經濟上極メテ間違タル觀察ト言ハナケレバナラス、而シテ茲ニ極ク手短ニ此織物業ノ盛衰ガ國家ノ財政經濟ニ至大ナル影響ヲ及ボスト云フコトヲ、諸君ノ前ニ申上ゲテ見タイノデアアル(中略)丁度今ヨリ百年以上デアリマスガ此歐羅巴大陸ニ彼ノ奈破翁戰爭ノアッタコトハ、諸君モ御承知デアリマセウ、其當時英吉利王國ニ於テハ此軍費ヲ如何ニシテ支ヘタノデアリマスカ、ソレハ殆ド英吉利王國デハ其當時國民ノ歲入ノ全部ヲ三箇年間此軍費ノタメニ費シタノデアリマス、而シテ此ノ如キ大ナル重キ軍費ヲ英吉利國民ガ如何ニシテ負擔シタカト申シマスルト云フト、此織物ノ事業、紡績ノ事業、此二大事業ガ當時偉大ナル發達ヲ致シテ、此二大事業ノ發達ヲシタ結果、英吉利ニ這入ッタコロノ金ガ此軍費ヲ支フルノ大部分ヲ爲シテ居ルト云フコトハ、當時ノ歴史ニ明瞭ニ書イテアルノデアアル、吾々國民ハ此實例ヲ深ク參照スルコトガ必要デアルト思ヒマス、殊ニ我日本國ノ現在ニ於テハ財政ハ困難デアアル、輸出入ノ貿易ノ逆調デアアル、此ノ如キ時機ニ當リマシテハ此敎訓ト云フモノハ吾々ガ深ク奉ズルト云フ考ヲ持タナケレバ、日本ノ財政經濟ヲ順調ニ復セシムルト云フコトハ出來ヌモノデア

アルト私ハ考ヘル、而シテ此織物稅ノ重イト輕イト申シマスルコトハ、是ハ成程戻稅ト云フモノガアリマスカラ、此直ニ輸出ニハ直接ニ影響ハアリマセヌヤウデアリマス、併ナガラ輸入ニハ偉大ノ影響ガアルデアラウト思フ、若シ日本ノ織物稅ガ減セラレテ、織物ガ安ク國民ニ供給セラルハ、ト云フコトニナリマスレバ、外國品ノ高イモノヲ買フヨリハ、日本デ出來ル安イ織物ヲ使フト云フコトニナル、從ッテ輸入ヲ減ズル結果ヲ生ズルコトハ當然デアリマス、殊ニ營業者ニ餘裕ガ出來レバ、營業者ハ此織物ニ付テ種々様々ノ工夫ヲ凝ラスト云フ餘地ガ出來ル、從ッテ此織物業ノ發達ヲ助クル、織物業ガ發達ヲシテ改良ヲスル、此改良シタ品物ハ外國ニ輸出ヲ導クト云フコトハ又當然ナル結果デアリマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、委シク申上ゲマスレバ種々ノ理窟ハアリマスケレドモ、此日本ノ織物業ニ今ノ煩瑣ナル過重ナル此稅ヲ輕減シテ、サウシテ織物ヲ廉ク供給スル、此織物ヲ改良ヲ圖ル、而シテ此織物ノ發達ヲシタ結果ヲ以ッテ、我日本現時ノ財政經濟ノ不如意ナル一端ヲ補フト云フコトニスルコトハ、吾々議場ニ立ツ者ノ最モ努メナケレバナラヌ事柄デアルト感ズルノデアリマス、當ニ私ハ今夕要領ダケヲ申上ゲテサウシテ此案ヲ委員ニ付託スルコトヲ希望スル而シテ本論ニ於テ審カニ……

(五〇) 福田又一君ノ演說

私共ハ過般通行稅ノ廢止法律案ヲ提出致シマシタケレドモ、不幸ニシテ否決致サレマシタカラ、少クトモ差當リノ時弊ヲ救フダケモ致シタイト考ヘマシテ此案ノ提出ヲ致シタノデアリマス、私共ノ提出ヲ致シマシタ簡條ハ、第一條中ノ第三項目ノ五十哩又ハ五十海里未滿ノ一等ハ金五錢、二等ハ金三錢、三等ハ金一錢ト云フ、先ヅ之ヲ廢シタイト云フ考デアリマス、サウ致シマシテ第三條ノ左ノ場合ニ於テ通行稅ヲ課セズト云フ中ノ三項目ノ「五十哩又ハ五十海里未滿ノ乘車又ハ乘船ヲ爲ストキ」之ニ通行稅ヲ課セズト云フコトニ致シタイ考デアリマス、極ク簡單ニ此趣意ヲ申上ゲテ置キマスレバ、曾テ鐵道ノ國有ヲスル時分ニモ、私立ノ會社ニ於キマシテ利益ヲ目的トスルト云フコトガ主ニナリマスカラシテ、ソコデ私立會社ノ鐵道ヲ國有ニスルト云フコト



ノ際ニモ、吾々ニモ成ベク交通ハ輕易ニセシムルト云フ趣意デアツタノデアリマス、又輕便鐵道ノ如キニ至リマシテハ、一面ニハ補助ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、一方ニ補助ヲ與ヘテ置イテ、一方カラ税金ヲ取ルコトハ頗ル矛盾シタト云フ事柄ハ、深ク論及スルマデモナイト思ヒマス、政府ハ頻リニ事務ノ簡捷トカ或ハ政費ノ節減トカ申シマスガ、一方ニハ税ヲ取ルニモヤハリ手數ガ掛ル、一方ニ補助ヲ與ヘルニモ手數ガ掛ル、甚ダ矛盾シタ是ハ政策デアリマス、故ニ短距離ノモノニ付キマシテハ、是非此場合税金ヲ廢止ヲシタイト云フ考デアリマス、ソレカラ一言私ハ此東京市ノコトニ關係シテ申上ゲテ置キタイト思ヒマスノハ、餘程注意致シマスト云フト奇態ナ現象ヲ現ハシテ居リマス、會テ東京市ノ電車賃ノ如キハ全廢案ガ出タコトガアリマスガ、是ハ今日ハ存シテ居リマスケレドモ、御承知ノ東京市アタリデ治療病院ガ立ッテ居リマス、此治療病院ニ行ク時分ニハヤハリ治療病院ニ行ク者デアリマスカラ、車ニ乗ルコトハ出來ヌ、電車ニ乗ッテ行ク、病院ニ行ッテ只治療シテ貰フケレドモ、病院ニ行クマデノ間電車ニ乗レバ電車賃デ税ヲ取ラレル、私ハ短距離ニ於テ税ヲ課スル事柄ハ、貧困者ニ對シテ非常ナ不幸デアラウト思フノデアリマス、先程勞働者ニ對シテ税金廢止ガ出テ居リマスケレドモ、勞働者ハマダ勞働者デ働イテ居ルノデ宜シウゴザイマスケレドモ、勞働ノ出來ヌ貧乏人ガイクラモ居ル、病院ニ行クニ電車ニ乗ル税ヲ取ラレル、随分奇態ナ現象デアルト私共思ヒマス、殊ニ輕便鐵道ノ如キハ長イ距離ガナイ、大概十里内外デ停車場ガ十箇所モアルト、十里内外ノ間デ一錢ヅ、取ラレマス、斯様ナ有様デアリマス、ドウカ短距離ニ屬スル五十哩ノ所ハ此際廢止セラレムコトヲ御賛成ヲ望ミマス深クハ論ジマセヌ

次テ議長指名(十八名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌二十五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末第一案ニ修正ヲ加ヘ、第二案ヲ可決シ他ハ孰レモ否決シ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(第一案ニ對スル委員會修正案)

(小字及——ハ委員會修正)

織物消費稅法中左ノ通改正ス

第十三條ノ二 織物ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル者ニ依リ組織セラレタル組合ニ對シ政府ハ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵稅事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得  
前項ノ組合ニ對シテハ命令ノ定ムルニ所ニ依リ當該組合ノ取扱ヒタル織物ニ對シ賦課シタル稅額百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス以內ノ交付金ヲ下付ス

附 則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

同月五日(三月三日議事日程ニ掲ケタルモ延會セリ)各案ノ外曩ニ併セ付託セラレタル岡部次郎君提出織物消費稅法中改正法律案(五一號參看)ト共ニ一括シテ第一讀者ノ續會ヲ開キ委員長植場平君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

唯今問題ニナツテ居リマスル日程第十七ヨリ二十一マデ、議長ノ命ニ依ッテ一括シテ御報告ヲ申上ゲマス、此修正案ニ付キマシテ委員會ハ三回開キマシタノデゴザイマスルガ、最モ長時間ノ質



疑應答及討論、十分ニ委員諸君ノ意ヲ盡サレマシテ、此日程ノ十七織物消費稅法中改正法律案、長谷場純孝君外一名ノ御提出ノ案ハ修正可決ヲ致シタノデゴザイマス、此修正ニナリマシタ箇條ハ報告書トシテ諸君ノ御手許ニ差上ゲテ置キマシタガ、念ノ爲ニ此處ニ於テ申上ゲテ置カウト思ヒマス、此案ノ中ニ「百分ノ一以內交付金ヲ下付ス」トアリマスノヲ「百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス」斯ウ云フコトニ改メマシタ、ソレカラ現行ノ十四條中「前條」トアリマスノヲ「十三條」ト改ムルコトニ修正ヲ致シタノデアリマス、本案ハ以上修正ノ如クニシテ大多數ヲ以ッテ可決ヲ致シタノデアリマス、次ハ日程ノ十八デアリマス、是ハ武富君外一名ノ御提出ニ係ル案デゴザイマシテ、織物消費稅第二十條中「百分ノ十」トアルノヲ「百分ノ七」ニ改メルト云フ御修正デアリマス、是ハ曩キニ御報告致シマシタノトハ趣ヲ變ヘテ居リマシテ、稅率ヲ引下ゲルノデアリマス、此案ニ付キマシテモ十分ノ討論ヲ盡シマシタ結果、否決スベキモノナリト決定ヲ致シタノデアリマス、次ハ日程ノ十九デアリマス、是ハ岡部君ノ御提出デアリマス、織物消費稅ノ第二條中「織物消費稅ノ稅率ハ織物價格ノ百分ノ五トス」ト云フ修正デアリマス、之ニ付キマシテモ同様審議ヲ盡シマシテ否決ヲ致シタノデゴザイマスルガ、茲ニ一言加ヘテ置キマスノハ、此反對ノ御議論ノ中ニハ二ツノ御議論ガアッタノデアリマス一ハ財源無キヲ如何セント云フ御議論ト、ソレカラ一ツノ御議論ハ廢稅ヲ主義トスルガ故ニ減稅ニハ反對デアアル、斯ウ云フ御議論ガゴザイマシテ、是ハ兩案トモ大多數ヲ以ッテ否決ヲ致シタ譯デアリマス、次ハ日程ノ二十デアリマス、通行稅法中改正法律案、長谷場純孝君外六名ノ御提出ニ係ル案デアリマスルガ、此案ニ付テモ前段申述ベマスル如ク討論審議ノ結果十分ニ諸君ノ意ヲ盡サレテ此案ハ可決スベキモノナリト決定ヲ致シタノデアリマス、次ハ二十一デアリマス、二十一ハ武富君外二名ノ御提出デアリマスルガ、是ハ討論ノ末否決スベキモノナリト決定ヲ致シタノデアリマス、此案ニ付キマシテモ織物稅同様ニ武富君ノ案ニ對シマシテハ、財源餘裕無シト云フ御議論ト、廢稅ト云フ趣意ノ御議論トニ依ッテ是亦大多數ヲ以ッテ否決シタ譯デアリマス、此討論ノ内容ニ付キマシテハ長キ時間ヲ要シマシタ次第デゴザイマスカラシテ、一々申上ゲマスレバ諸君ノ御倦怠ヲ恐レマス、故ニ是

ハ速記録ニ讓ルコト、致シマス、尙ホ此案ニ付キマシテハ後ニ贊否ノ御議論、御討論モアルコトト思ヒマスカラシテ、此報告ハ之ニ止メマスコトニ致シマス

質疑應答ノ後討論ニ移リ武内作平君ハ第三案ニ贊成、武藤金吉君、岡田泰藏君ハ第三案及岡部君提出案ニ反對、相島勘次郎君ハ第一、第三及岡部君提出案ニ反對ノ演說ヲ爲セリ

武内作平君ノ演說

私ハ委員長ノ報告ニ反對ヲ致シマシテ、武富君提出ノ織物消費稅法中改正案維持ノタメニ、簡單ニ其理由ヲ一言致シタイト思フノデアリマス、諸君ノ御承知ノ通り、此織物消費稅ハ日露戰爭ノ際、非常特別稅トシテ之ヲ賦課セラレタノデアリマス、デアリマスルカラシテ戰爭ノ終了ト共ニ之ヲ改廢致スベキガ當然ノコトデアリマシタガ、ヤハリ財界ノ狀況已ムヲ得ザル事情ノタメ今日マデ延滞ヲシテ居ルノデアリマス、本年ニ至リマシテハ多少財源ニ餘裕ガ出來マシタノデ、所得稅或ハ營業稅ノ如キモ多少改廢ヲ得タノデアリマスカラ、此機會ニ於キマシテ織物消費稅ノ減稅ヲスルト云フコトハ當然ノコトデ、尤モ機宜ニ適シタコト、信ジマシテ、本案ヲ提出シタノデアリマスルガ、豈…提出致シマシタ上ハ無論諸君ノ御贊同ヲ得ベキモノト信ジテ居リマシタノニ、大多數ヲ以ッテ是ガ否決サレマシタノデアリマス、甚ダ遺憾千萬ニ存ズル次第デアリマスガ、是ガ否決スルニ至リマシタトコロノ理由ハ甚ダ根據ノナイモノデゴザイマス、根據ノナイ薄弱ナ理由ノタメニ否決サレタノデアリマス、ソコデ其否決サレマシタトコロノ理由ガ間違デアルト云フコトヲ一言致シタインデアリマス、本案ノ否決ノ第一ノ理由ニナリマシタノハ、本案ノ如ク百分ノ十トアルヲ七ニシテ、其結果五百八十萬圓ノ減稅ヲスルト當業者ガ非常ニ苦痛ヲ感ズル、非常ニ損失ヲシテソレガタメニ破産ヲスルヤウナモノガアルノデ、當業者ハ之ヲ希望ヲシナイ、斯ウ云フコトナノデアリマス、所ガ是ハ此議論ガ調査ノ淺薄ニ基ク議論デゴザイマシテ、決シテ實際ノ事實ハサウ云フ譯ノモノデナイノデアアル、其百分ノ十ヲ百分ノ七ニスルト云



フコトニ致シマスルト、是ハ代金ノ上ニ於テハ僅ニ三分デアリマス、代金ノ總額ノ上カラ申シマス、僅ニ三分デゴザイマス、所ガ其三分ダケノ稅ヲ減ジタカラト云テ其三分ガ市場ノ價格ニ影響ヲ及ボスベキモノデナイ、是ハ經濟上ノ原則トシマシテ是ガタメニ價格ノ低減サルベキモノハ恐ラク百分ノ二、即チ二分位ノモノデアラウト思フノデアリマス、然ルニデス、織物ノ相場ト云フモノハドウ云フ關係ニナッテ居ルカト申シマスルト、非常ナ高下ノアルモノデゴザイマシテ、一割若クハ二割ノ高下ノアルコトハ諸君ノ御承知通りデアリマス、現ニ此織物稅ノ標準價格ヲ定ムルニ付キマシテモ、市場ノ價格二十分ノ七ヲ掛ケテ、ソレヲ以ッテ課稅ノ標準價格ト致シテ居ルノハ、其間ニ二割ノ變動アルコトヲ豫想シタカラデアリマス、サウ云フヤウニ價格ノ高低變動ノアリマスル際ニ二分ダケノ減稅ヲシテ、ソレガタメニ價格ガ下ツタカト云ッテ此品物ヲ持ッテ居リマス者ニ、ソレ程大ノ損害ヲ嫁スル譯ノモノデハナイノデアリマス、營業者ハ——營業者ノ總テガ之ヲ希望シナイノデアアル、營業者ハ之ニ反對デアルト云フ議論デアリマシタケレドモ、是ハ營業者ノ全體反對スルノデハナイノデアリマス、營業者ハ之ヲ希望シテ居ル唯織物業者ノ中デ反對ヲセヌニシテモ、喜ビマセヌノハ織物ノ問屋デアリマス、要スルニ是マデ課稅ヲ致シマシタトコロノ品物ヲ、現在貯藏シテ居リマストコロノ一部ノ商人ニ過ギナイノデアリマス、所ガ一部ノ商人モ二分位ノ變動ノタメニ多大ナ澤山ノ迷惑、非常ノ迷惑ヲ受クルモノデナイト云フ理由ハ、相場ノ變動ガ非常ニ多イノデアアルカラシテ、サウ云フコトハ太抵豫想サレテ居ル範圍ノモノデアリマスルノミナラズ、是等ノ問屋織物ヲ引取りマシテ更ニ之ヲ轉賣致シマストコロノ問屋ノ手數料ト云フ、所謂口錢利益ト云フモノハドウデアアルカト申シマスルト、五分若クハ一割以上デアリマス、デアリマスカラシテ是ニ對シマシテ縱シ通常デゴザイマスレバ、五分若クハ一割ノ利益ノアル中カラ、二分ダケ價格ガ下リマシタニ致シマシテモ、ソレニ受クルトコロノモノハ其口錢ノ中ノ幾分餘計儲クルトコロヲ少ク儲ケタト云フコトニ歸スルノデアリマシテ、論者ガ申シマス如クニ非常ニ多大ノ損害ヲ受ケテ、ソレガタメニ破産ヲスル者ガ彼方ニモ此方ニモ頻出スル恐ガアル、故ニ之ニ反對センナラント云フヤウナ御議論ハ、決シテ此場合

ニ徹底スベキモノデナイト私ハ主張スルノデアリマス、況ヤ本案ハ此施行期限ガ大正四年四月一日ヨリトアルノデアリマス、之ヲ實施スルマデノ間ニ尙ホ一年ノ猶豫ガアル、デアリマスカラシテ此織物問屋ニシテ已ニ納稅ヲシテ品物ヲ貯藏シテ居ル人ハ、其間ニ手心ヲシテソレヲ轉々致シマスルカラシテ、決シテ持ッテ居リマストコロノ品物ニ對シマシテ一時ニ多大ナ損害ヲ受クルト云フヤウナ恐レハナイノデアリマス、斯ウ云フ理由デゴザイマスカラシテ、本案ノ否決ノ第一ノ理由トナリマシタトコロノ織物業者ガ多大ノ損害ヲ受ケ破産ニ陥ルノ恐レガアル、ソレガ故ニ織物業者ハ之ヲ喜バヌ、寧ロ反對ヲシテ居ルカラ之ヲ否決スルト云フ理由ハ根據ノナイモノト信ジマス、第二ニ是ガ否決サレマシタ所ノ理由ハ、所謂財源ガナイト云フコトデアリマス、所ガ諸君大藏大臣ガ貴族院ニ於テ辯明ヲ致シテ居リマスルトコロニ依ルト、稅制整理ノ爲メニ使フベキ所ノ金ガ、大正四年度ニ於テハ一千五百萬圓アルト云フコトヲ云ッテ居ルノデアリマス、サウ致シマシテ猶此政友會諸君ノ稅制整理ノ計畫ニ依リマスレバ、是モ同様一千五百萬圓ノ稅制整理ヲスル、サウ致シマシテ其中ニハ織物消費稅ノ中ニ——織物消費稅ニ付テ二百三十萬圓ダケ輕減ラスルト云フコトヲ公表サレテ居ルノデアリマス、サウ致シマスルト、本案ハ總計ノ高ニ於キマシテ五百八十萬圓ニナルノデアリマス、ケレドモ已ニ政府及ビ最モ多數ヲ有スル政友會諸君ノ認メテ居ラレマス所ノ二百三十萬圓ヲ控除シマスルト、後ハ僅カニ三百五十萬圓ニナル、吾々同志ハ稅制ノ整理、民力ノ休養ヲ以ッテ刻下ノ急務ト致シマス、豫算ニ對シマシテ三千萬圓ノ減稅ヲ實行シヤウト云フ計畫ヲ致シタノデアリマス、是ハ決シテ空論デナイ、慎重審議ヲ政シマシテ豫算會若クハ營業稅其他通行稅等ニ於キマシテ、屢、諸君ノ前ニ提供シテ言明致シタ次第ナンデアリマスカラシテ、此際ニ於キマシテ政府ガ唯財源無シト申シマスルノハ減稅ヲ避ケル一種ノ口實ニ過ギナイノデ、財源無シト云フコトハ決シテ本案ヲ否決スルトコロノ理由ニハナラナイト信ズルノデアリマス、第二ノ否決ノ理由トナリマシタトコロノ元立憲同志會ガ廢稅ヲ常ニ主張シツ、アッタモノナルニモ拘ラズ、俄カニ此減稅案ヲ提出シタ、是ハ甚ダ輕薄ナ行動デアアルカラ否決スベシナド、云フ議論ガアッタノデアリマス、ケレドモ諸君、吾々ガ廢



税ヲ主張スルニ付キマシテハ、無論税制——惡税ノ改廢ト云フコトヲ公表スルト同時ニ民力ノ休養ト云フモノモ一ツノ理由ナンデアリマス、サウ致シマスレバ四圍ノ事情ニ依リマシテ、總テ正ガ出來ルナラバ夫ヲ實行スルト云フコトハ、少シモ其主義——本義ニ反スル譯ノモノデハナイノデアリマス、御承知ノ通り今日ニ於キマシテハ、我黨ノ主張ニ依リマスレバ相當ノ財源ハアル、財源ハアルノデアアルガ織物税ヲ全廢ラシヤウニモ此案ハ已ニ一度否決サレタモノデアアルデアリマスカラシテ今期議會ニ此織物税ヲ輕減スルニ付テ法律トシテ——法律案トシテ之ヲ實行スルニ付テハ本案ヲ以ッテ最モ適當トスルノデアリマス、デアリマスカラシテ吾々ハ決シテ輕薄ナノデモ何デモナイ、モト／＼十年以來主張シテ居ル所ノ政見ノ一部ヲ此機會ニ於テ是非實行シタイト云フ誠意ニ外ナラヌノデアリマス、唯誤解ノ爲ニ之ニ反對セラル、如キコトノナカラシテ切ニ希望スルノデアリマス、以上申上ゲマシタ如ク、本案否決ノ理由ハ全ク根據ナイモノト信ジマスガ、尙ホ此外ニ諸君ニ御注意ヲ願ハシケレバナラヌ點ガ一點アルト私ハ考ヘルノデアアル、夫ハ何デアアルカト申シマス、此政府及政友會ガ此税制整理ト致シマシテ此低減ヲシヤウ、織物税ニ付テ低減ヲシヤウト云フ二百三十萬圓、此方法ハ非常ニ違法ノモノデゴザイマシテ、之ニ伴フ弊害ガ餘程多大ナモノデアアルト云フコトデアリマス、政友會ナリ政府ガ此織物税ニ付テ二百三十萬圓ノ減税ヲ實行セント致シマシテ居リマスルトコロノ方法ハ何デアアルカト申シマスルト、ソレハ織物價格今日ノ課税ノ標準價格ガ十分ノ八トナッテ居ルノヲ引下ゲテ、十分ノ七ニシヤウ——十分ノ七ニスルト丁度三百萬圓低減ガ出來ルカラト、斯ウ云フ御意見ナンデスガ、是ハ私ハ非常ニ間違ッタ議論デアルト思フ、切ニ諸君ニ御研究ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、諸君、織物税ノ第二條ニ於キマシテハ織物價格ニ對シテ税ヲ賦課スルト云フコトニナッテ居ル、デアリマスカラシテ織物ノ價格ヲ勝手ニ行政官吏、寧ロ稅務官ガ上ゲタリ下ゲタリスルト云フコトガ出來ルト云フコトニナリマスレバ、此織物稅法ト云フモノハ全ク效力ヲ失チマウノデアアル、現今實行シテ居リマスニコロノモノハ先キニ政府委員ノ答辯ノアリマシタ通り、市場

ノ取引ノ價格ニ對シマシテ十分ノ七——十分ノ八ヲ掛ケタモノヲ以ッテ標準價格ト致シテ居ルンデアリマス、此標準價格即チ十分ノ八ヲ掛ケマスル所以ハ市場ノ取引ノ價格ノ上ニハ既ニ稅ヲ含ンデ居ルト云フコト、サウシテ織物ニ始終變動ガゴザイマスカラシテ、此變動ヲ公平ナラシムルコトノ爲メニ已ムヲ得ヌ結果ト致シマシテ十分ノ八ヲ乘ジテ居ルノデアリマス、十分ノ八ヲ乘ジテ居リマスコトハ眞正ニ申シマスナラバ、所謂織物稅法ニ書イテアリマス所ノ百分ノ十——織物ノ價額ノ百分ノ十ハ其織物ノ價額ト云フコトニ致シマシテハ、少シハ安イ位デアッテモ結局高イモノデハナイ、高イモノデハナイ少シ安イ位ノ恐レノアルモノデアリマスケレドモ、是ハ此稅法ヲ實施致シマスル上ニ於キマシテ、斯ウ致シマセヌト是ヨリ以上適當ノ方法ガナイノデアリマスカラ、此織物稅ヲ實行スル上ニ於キマシテ、實行上已ムヲ得ヌモノトシテ吾々ハ之ヲ了承致シテ居ルノデアリマス、然ルニ若シカ實行上必要ナルガ故ニアラズシテ、租稅ヲ輕減シテ織物稅ヲ輕減スルコトノ爲メニ織物ノ價額ヲ安ク見積ルト云フコトニナリマスレバ、其結果ハドウ云フコトニナルデアリマセウ、例ヘバ十圓相當ノ——當リ前ノ値打ハ其價額ハ十圓デアアルニ拘ラズ、ソレヲ稅務官ノ手ニ依ッテ九圓ト云フコトニ見積ルト云フコトニナリマスレバ、其低下致シマシタ——相當ヨリ故ナク茲ニ低下致シマシタ代金ニ對シマシテ、稅務官ハ納稅者ト共謀致シマシテ、脫稅ヲスル結果ニナルノデアリマス、雷ニ脫稅スル結果ニナルノミナラズ、立法權ヲ侵害シタ結果ニナル、現ニ明ニ法律ガ立法府ニ於キマシテ百分ノ十ノ稅ヲ課スル、斯ウ云フコトニナッテ居ルノニ、織物ノ價額ヲ順々ニ減ジテ行ク、若シカ是ガ百分ノ八ヲ七ニ減スコトガ出來ルナラバ、百分ノ六ニモ減ズルコトガ出來マセウ、五ニモ減ラスコトガ出來マセウ、終ニ百分ノ一ト云フコトニナリマシタナラバ、結局夫ト共ニ織物稅法ト云フモノハ、ソレト共ニ效力ヲ失スルコトニナル、法律ノ改廢ニ立法府ヲ之ニ參與セシメズシテ、行政官ガ勝手氣儘ニ改廢スルト云フコトハツマリ立法權ヲ侵害スルコトニナル、法律ヲ無視シテ法律ヲ根柢カラ改廢スルト云フコトニナルノミナラズ、斯ウ云フヤウナ手心ヲ今日ニ於キマシテモ稅務官ノ手心ガ甚ダ多イ、織物稅ヲ惡稅ナリト云フ理由ノ一ニハ、稅務官ノ手心ガ甚ダ多ウ過ギ



ル、種々ノ干渉ヲスル、不公平ダト云フコトガ其一デアリマス、所ガ此際ニ於キマシテ立法ノ手續ニ依ラズシテ稅務官吏ノ手心ヲ最モ多ク用ユルコトヲ許スガ如キ方法ヲ採ルト云フコトハ、是ガ爲メニ生ズル所ノ弊害ハ甚ダ恐ルベキモノガアルト思フノデアリマス、右様ナ次第デアリマスカラ、此織物價格低減ヲ致シマシテ、サウシテ減稅スルトコロノ方法ニハ非常ノ弊害ガアル、此點ハ政友會ノ諸君ハ篤ト御研究下サレマシテ、既ニ二百三十萬圓ヲ御低減下サルト云フコトニハ私ハ滿腔ノ熱血ヲ捧ゲテ感謝スル、ケレドモ其低減スルニモ其方法宜シキヲ得ナケレバ、低減ヲシテソレガ爲メニ受クル所ノ利益ニ優ル害ヲ生ズルノデアアル、宜シク此低減ヲスルナラバ堂々ト法律ヲ改正致シマシテ法律ノ結果ニ依ッテ其恩澤ヲ織物業者ニ受ケシメナケレバナラヌノデアリマス、右様ノ次第デアリマスカラシテ、尙若シカ金額等ニ就テ御意見ガアリマシタナラバ、是ハ二讀會ニ於テ相當ノ方法モアルノデアリマスカラ、篤ト御了承ノ上政友會諸君ノ御贊同ヲ希望致シマス、尙其他ノ法案ニ就キマシテモ意見モアリマスケレドモ、先ヅ此法案ダケニ就テ意見ヲ茲ニ述ベテ置キマス

武藤金吉君ノ演說

私ハ委員長ノ報告ヲ支持シマシテ、同志會即チ武富君及中正會ノ岡部案ニ向ッテ敬意ヲ表シテ少シク批評ヲ試ミタイ積リデアリマス、諸君、此織物消費稅ニ關シテ稍、智識ニ富メル島田君武富君ガ御説明ノ任ニ當ラズシテ、前側ノ武内君ノ御説明ヲ吾々ガ聽クノハ甚ダ遺憾ト存ズル次第デゴザイマス、諸君、嘗テ私共ハ此案ニ對シマシテ同志會ハ廢稅ヲセナイノデアアルカ、スルノデアアルカト云フコトヲ委員會デ承リマシタ、所ガ是ハ四圍ノ事情ニ於テスルノデアアルト云フ御答デアッタ、今日武内君カラモ、亦其通りノ御辯明デアリマシタガ、第一武内君ハ甚ダ失禮デアリマスケレドモ、織物消費稅ノ御研究ガ進ンデ居ナイ、此處デ唯今政府ニ質問サレタ演說ノ前ニ質問サレタ、現在ニ於テ課稅シテ居ル標準ハ十一分ノ八デアリマス、然ルニ其數字ヲ十分ノ八十分ノ八トシテ速記録ニモ書イテアリマスルガ、何回モ繰返サレテ御演說ナサレテアリマス、現行ノ

課稅標準ハ十一分ノ八デアリマス、斯様デ、織物消費稅ノ問題ハ或ル點ニ於テ吾々ハ同志會ノ說ニ同意ヲスル、併ナガラ同志會ノ諸君ガ主張セラル、要點ハ負擔ノ苛重ヲ減ズルト云フコト、モウ一ツハ産業發達ノ阻碍ヲ除クト云フコト、ソレカラ國民生活ノ困難ヲ救濟スルト云フノガ眼目デアリマス、吾々ハ其ノ上ニモモウ一ツ負擔ノ公平ヲ保ツ、負擔ノ公平ヲ保ッテ全國均一負擔ヲサセルト云フ大希望ヲ持ッテ居ルノデアリマス、織物消費稅ガ最モ惡稅ト呼バレルノハ、負擔ノ均衡ヲ缺クト云フコトガ一般當業者ニ於テモ一般ノ經濟狀態ニ於テモアルノデアリマス、而シテ武富案ガ十分ノ七ニ減ズルノ數字ト、而シテ現在ノ十一分ノ八ノ數字トドノ位ノ差ガアリマスカ、諸君ノ言ハレル十分ノ七、即チ三ヲ減ズルト云フ數字ハ、之ヲ十一分ノ八ニ割ッテ見マサルト、現在ニ於テハ七厘二毛七デアリマス、現在ニ於テ織物稅ハ七厘二毛七ヨリ以上取ラレテ居ル者ハアリマセヌ、果シテ然ラバ諸君、十分ノ七ニスルト云フコトハ現在大藏省デ徵稅シテ居ル率ト二毛七シカ數字ノ上ニ於テ相違ガナイノデアリマス、吾々ガ主張スル所ノ徵稅ノ方法ヲ變ヘテ公平ニシヤウト云フニ就キマシテハ、組合ニ之ヲ取扱ハセテ、サウシテ從來デモ組合ニ取扱ハセテ檢査シテ居ッタノデアアルガ、更ニ貯藏所ヲ増築セシメ組合員ヲ増シテ徵稅ノ保證ヲナシ、サウシテ千差萬別ナル織物稅ニ對シテハ遺憾ナク公平ノ課稅ヲシテ、サウシテ此方法ヲ誤ラナイヤウニシヤウト云フガ抑、本案ヲ提出シマシタトコロノ骨子デアリマス、諸君、果シテ然ラバ諸君ハ既ニ廢稅ヲ抛ッテ今日減稅ヲスルト云フ減稅ノ率ニ於キマシテモ、現行ノ十一分ノ八ニ二毛七ダケノ差シカナイ、諸君ガ前說ヲ抛ッテ政友會ノ說ニ御贊成ニナッテ此取扱ノ手数料ヲ交付スルト云フコトニ何故ニ進デ御贊成ヲナサラヌノデアリマスカ、諸君ハ能ク御演說セラレマス、雄辯デアリマス、併シソレハ空饒舌デアアル、恐ラクハ數字ヲ知ラナイノデアアル——數字ヲ知ラナイノデアアル、此點ニ於テ更ニ吾々ハ現在ノ十一分ノ八デ満足致シマセヌ、デ財政ノ狀態ニ依リマシタナラバ之ヲ更ニ十一分ノ七ニ減ズルコトモ吾々ハ政府ニ要求ヲ致シテアルノデアリマス、其時期ニ至リマシテハ何時之ガ行ハレルカ知リマセヌガ、恐ラクハ諸君ガ大正四年四月一日カラ施行スルト云フコトガ、此處ニ施行期日ガ書イテアリマスカラ、諸君ノ希望セラル、時分ニ



ハ十一分ノ七即チ六厘三毛六ト云フコトニナリマスカラ、諸君ガ希望セラル、點ヨリモ尙多クノ減稅ヲ見ルコトガ出來テ、徵稅ノ便利ヲ與ヘラレルト云フコトガ、此改正ノ法律案デハ出來テ往クノデアリマス、此點ニ付テ諸君ハ能ク之ヲ吟味ヲ致シマセヌデ、可否ヲ論ズルト云フコトハ甚ダ斯業ノタメニ國家ノタメニ私ハ諸君ノタメニ惜ム次第デアリマス、次ニハ今度ハ中正會ノ諸君ニ少シク申上ゲテ見タイト思ヒマス、此中正會ノ岡部君ノ案ハ十分ノ五ヲ減ズルト云フ案デアリマス、而シテ驚クベキノハ大正三年四月一日カラ之ヲ施行スルト云フコトデアリマス、諸君俄ニ此減稅ヲスルト云フコト、半分ニ減ズト云フガ如キコトハ製造家ハ左程ニ害ハ受ケナイノデアリマスガ、我國ニ於ケル絹綿毛織物等ノ織物ハ市場ニ於テハ二億以上堆積ヲ致シテ居ルノデアリマス、二億萬以上ノ織物ニ對シテ、今年ノ四月ニ之ヲ五割減ヲ施行スルト云フコトニナリマシタナラバ、實ニ織物ノ市場ハ大恐慌ガ起ルノデアリマス、事實斯ノ如キコトハ行レヌノデアリマス、況ヤ十分ノ五ヲ減ズルト云フガ如キ此大ナル減額ヲシテ、サウシテ本年四月一日ト云フトモウ三十日ナイノデアリマス、此期間ニ於テ之ヲ出スト云フガ如キハ論ニナラナイコトデアッテ、是ハ甚ダ失禮ナ申分デアリマス、ケレドモ實際ニ副ハナイ案デアルト私ハ思フノデアアル、斯ノ如キ中正會ノ議論ハ同ジ減稅デアリマシテモ、ドウモ是ハ實際ニ副ハナイトコロノ案デアアルノデアリマス、此二案ガ委員會ニ於キマシテハ共ニ否決ニナッタノデアリマスガ、マダ此同志會ノ案ニ付キマシテハ我政友會ノ案ト稍同ジ所ガアルノデアリマスガ、此岡部君ノ御提出案ニ付キマシテハ實際是ハ事實ノ上ニ於テ不可能ノコトデアアルノデアリマスカラ、絶對ニ私ハ反對ヲ致ス、是ダケデ澤山デアルト思フ、而シテ此政友會ノ案ヲ實行致シマスル場合ニハ、從來織物ノ課稅ハ引取人ガ拂フノデアリマスガ、千差萬別デアリマシテ生産費ニ課ケマストキニハ經絲、緯絲、捻絲、染色、ソレカラ仕上ゲ、整理、ソレカラ職工賃、之ニ課ケル標準モアリマスルシ、又賣買價格別チ意匠ヲ主トシテ柄ニ課ケルコトモアレバ、此意匠ガ宜シイ此圖案ガ宜シイト言ッテ之ニ依ッテ價ヲ取ルコトモアリマス、又京都ノ友禪ノ如キモ夫ガ大分ヤカマシクッテ、此染メナイモノ、標準ニナッテ居リマスガ、織物稅ト云フモノハ御承知ノ通り各府縣盡ク別々ニ

課稅ヲシテアッテ、實ハ大藏當局者ニ於キマシテモ、此課稅ニ於テハ如何ニセバ改善ガ出來ルカト云フコトハ、今日ト雖ドモ今後ト雖ドモ大ニ苦慮スルトコロデアルト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテハ我黨ノ提出ヲ致シマシタ組合ノモノニ之ヲ補助セシメテ、組合ニ手数料交付金ヲ與ヘテ責任ヲ負ハセ、サウシテ此課稅ノ均衡ヲ保ッテサウシテ生産ヲ障害シナイヤウニナルト云フコトガ最モ良案デアルト思フ、是等ノ案ニ付キマシテハ唯我黨ガ出シタノデハナイ、十年間全国各地當業者ニ於テモ研究セラレタルコロノ最モ良イ方法ヲ取ッテ此案ガ生ジタ次第デアリマスカラ、願クハ同志會ニ於キマシテモ亦中正會ニ於キマシテモ、此理由ノ下ニ滿場一致ヲ以ッテ委員長ノ御報告通りニ御賛成アラント切ニ希望スル次第デアリマス

相島勘次郎君ノ演說

諸君、私ハ委員長ノ報告ノ中デ、政友會ノ案ニ對シテハ委員長ノ報告ニ反對シ、他ノ減稅ノ二案ニ對シテハ政友會ト同說デアルト云フ意見デアリマスガ、要スルニ二讀會ニ移スベカラズト云フ議論ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、唯今武藤君ハ頻リニ政友會案ヲ辯護ナサイマシタ、武藤君ハ織物稅ニ付テハ有名ナル方デアリマシテ、知識ノ十分ナル方デアリマス、又事情モ能ク分ッテ居リマスノデスガ、餘リ事情ガ分ッテ居ルト云フコトハ何カ卸賣ト云フヤウナ人、問屋ト云フヤウナ人ノ便利ヲ計ラナケレバナラヌト云フヤウナ考ヲ非常ニ強クスルノデアリマセウガ、此織物稅ト云フモノハ織物消費稅ト云フ其名ノ示ス如ク、是ハ消費稅デアッテ、詰リ之ヲ消費スルモノ、負擔デアアルノデアリマスカラシテ、唯問屋デアルトカ卸賣デアルトカ云フ人ノタメニ便利ノ不利ト云フコトヲ眼目ニシテ議論ヲナサルト云フコトハ如何デアラウカト思フノデアリマス、吾々ハ此織物稅ト云フモノハ唯今委員長ハ全廢主義ト申サレテ、何ダカ耳障リデアリマシタガ、全廢ヲスルヨリ外ニハドウモ手段ガナイト云フ考ヲ有ッテ居ルノデアリマス、課稅ノ性質ニ於テ既ニ不公平ヲ醸ストコロノ稅デアッテ、ドウシタトコロデ公平ヲ維持スルト云フコトハ出來マセヌ、是ガ醬油デアルトカ或ハ酒デアルトカ云フヤウナ、其造ル人モ限定サレ場所モ局限サ



レ、或ハ監督モ十分往クト云フモノデアラナラバ、ソレハ課税ト云フモノモ旨ク往キマセウケレドモ此製品課税ト云フモノヲヤツテ居ッテ、サウシテ而モ或ハ副業ニ農民ガ一段織ル二段織ルト云フヤウナモノヲデス、公平ニ課税スルト云フヤウナコトハ到底如何ナル方法ヲ以テスルモ出来ナイノデアリマス、又價格ノ評定ト云フコトモ吾々ガ全廢案ヲ出シタ時分ニ、我黨ノ人見君ガ述べタルガ如ク、決シテ是ハドンナニ苦心ヲシテモ公平ニ評價スルト云フコトハ出来マセヌ、又ドンナニ減税ヲ致シマシテモ今日ノ儘デ置キマシタナラバ、意匠ノ祕密ヲ破ルト云フコトハ免レルコトハ出来ナイノデアリマス、ソレ故ニドウシテモ今日ノ此税ヲ全廢シナケレバ、之ヲ公平ニスルト云フコトハ出来ナイノデアリマス、政友會ノ案ニ依リマス、ソレニ依ッテ幾ラカ徵税上ノ不都合ヲ除カレル、サウ云フコトハアリマセウ、アリマセウケレドモ私共ヲ以テ見マスレバ此織物税ト云フモノハ、織ル人トソレカラ卸賣屋、問屋ノヤウナ人ト吾々需要者ト、此三ツノ者ガ分レテ負擔ヲシテ居ッテヤウナ形ニナツテ居リマス、織物ニ織出ス人ハ金ガ無イ人デアッテ問屋ハ金ガアツテ買上ゲル人デアッテ、勢力アル人デアリマスカラ、其人ノ殆ド自由勝手ニ買上ゲルト云フコトニナツテ居ルノデアラカラ、税ノ或ル一部分ト云フモノハ織出ス人ガ負擔ヲシテ居ルノデアリマス、サウシテ其大部分ト云フモノハ吾々ガ負擔ヲスルノデアラケレドモ税ノ高イタメニ或ル一部ハ問屋ガ負擔ヲシテ居ル、所ガ政友會ノ豫テノ減税ト今度ノ此徵税上ノ解決ト云フヤウナコトニ依ッテ、此問屋先生ノ税ハ免レマセウ、サウスルト問屋ト云フ人達ハ今日マデ負擔ヲシタ税ハ自分ハモウ負擔シナイデ、サウシテ織物ヲ織出ス人ト吾々需要者トニ負擔ヲサセテ、サウシテ手数料ヲ貰ッテ、政府ノ徵税ノ御手傳ヲスルト云フ一種ノ徵税金ナルノデアリマス、問屋ト卸商ガ一種ノ收税官トナルノデアリマス、ソレ故ニ私共ハ此政友會案ヲ以テ決シテ此吾々ノ負擔ヲ減ズルモノデハナイノデアッテ、唯一部ノ當業者ニ便利ヲ與ヘルトコロノモノデアラカラシテ、ソレガ便利ヲ與ヘテ惡イト言ハヌガ、之ヲ税制一般ノ上カラ考ヘル時分ニハ、是ハ政略的ノ減税、少クトモ政治的減税デアッテ、經濟的ノ減税、經濟的ノ改正デハナイト私ハ言ヒ得ルダラウト思フノデアリマス、聞ク、政友會ノ諸君モ税制ノ事ニ付テハ餘程御苦心デアリマシテ、

此頃新聞ニ依リマスレバ税制研究會ト云フヤウナモノヲ御起シニナツタサウデス、私共ノ平素尊敬スル方々ガ皆其委員ニナツテ居ル、現ニ堀切君ノ如キモ其委員ノ一人トナラレテ——會員ノ一人トナラレテ居ルヤウデアリマスカラ、來年能ク御研究ヲ爲サレタナラバ是ハドウシテモ全廢スルヨリ外ニ仕方ガナイト云フ答ガ出マセウ堀切君ガ豫テ營業税ノ時分ニ、吾々ノ同志高木君ガ「エーベルヒ」ノ營業税法ヲ讀ムコトガ遅カッタト云ッテ大變惜マレタノデアリマスガ、私ハ諸君ガ此税制研究會ヲ起スコトノ遅カッタト云フコトヲ惜ムノデアリマス、ソレデ最後ニ私ハ同志會ノ諸君ニ向ッテ一言シナケレバナリマセヌ抑、税ヲ改廢スルト云フノニハ我國税制制度ノ全般ニ著目ヲシテ、サウシテ從來此増税計畫ヲ施行セラレタ時分ニ、先以ッテ第一ニ増サレルモノハ間接税デアアルノデアアル、サウシテ減ラサレル時分ニハ直接税デアアル、サウ云フコトノ不公平ヲ緩和シ、民力ヲ休養シ……ケレドモ其研究ナサツテ居ル事ヲ一朝ニシテ擲タレト云フコトハドウ云フ譯デアリマス、諸君ガ鹽專賣ノ如キハ人民ヲ苦シメル程度ト云フモノハ營業税以上ト論ズルノデアリマスガ、營業税ト云フコトハ今年初メテ唱ヘタトコロノ議論デアアル、而シテ鹽專賣ト云フモノニ付テハ十年以來唱ヘテ居ッタノデアリマセヌカ、然ルニ何ノ理由モナクシテ、而シテサウ云フ事ヲ一朝ニシテ擲ッテ、又織物税ノ如キモ全廢ヲ唱ヘテ居ッタノデアリマシカ、然ルニ之ヲ途中デ變更スルニ付テハ其理由ヲ十分ニ述べナケレバ、苟モ政治家ト云フモノ、責任ヲ盡シタモノトハ言ヘマセヌ然ルニ加藤君ハドウデアアル、先般君ガ議會ニ提出シタ時分ニ吾輩ガ其事ヲ質問シテ、其答ヲシナケレバ政治家トシテ責任ヲ盡スコトガ出来マイト云フコトヲ言ッタノニ答ヘル限リニアラズトハ何事デアアル左様ナル無責任ノコトハ苟モ政治家トシテ爲スベキモノデアアリマセヌ諸君ハ三税——惡税改廢ト云フコトガ行レナケレバ、吾々ハ死ヌマデ之ヲ主張スルトコロノ問題デアアル、然ルニ此神聖ナル歴史ヲ蹂躪シテ、而シテ吾輩ガ質問スレバ質問ノ限リニアラズ、答辯ノ限リニアラズトハ何事デアリマスカ吾々ハ斯ル輕薄ナル議論ニ依ッテサウシテ唯一時ノ人氣ヲ博センガタメニ、斯様ナル案ヲ提出シタルコトヲ惜ムノデアリマス諸君ハ人氣ヲ揚ゲルト云フコトニ付テハ大分御熱心デゴザル問題直接デナクテ宜シイコトデアレバ諸君ガ



人氣ヲ揚ゲンガタメニ種々ナル事ヲ爲シテ、サウシテ其結果此院ノ神聖マデモ害シテ居ルト云  
フヤウナコトヲ、吾輩ハ幾ラデモ擧ゲルコトガ出來ルノデアアル兔ニ角議論ガ餘波ニ互リマシタ  
ガ、要スルニ此織物稅ト云フモノハ全廢ヲスルヨリ外ニ手段ノ無イモノデアアル、ソレ故ニ諸君  
ハ此吾々ノ研究ノアルトコロヲ御賛成下スツテ、サウシテ斯ウ云フ姑息ナル一時ノ謀ヲスルヤウ  
ナコトヲ御廢メニナツテ、セメテ來年ヨリハ此全廢ニ御賛成アラントコトヲ希望スルノデアリマス

岡田泰藏君ノ演說

私ハ前論者相島君ガ同志會ト爭ハレル間ニ立ツテ、漁夫ノ利ヲ獲ンコトヲ語ルノデアアリマセヌ  
吾々ハ如何ナル主張ガ他ニアルトモ、此度織物消費稅ヲ決スルニ於キマシテハ、一面ニ財政ノ  
許スヤ否ヤヲ考慮シテ、一面ニ此織物販賣業者並ニ製造業者ノ要求スル所、其要求ノ眞意ハ何レニ  
アルヤ否ヤ、而シテ之ヲ吾々ガ取ツテ以テ稅制ヲ改廢スル上ニ於テ、如何ナル程度ニ如何ニ之ヲ  
定ムルカ、能ク此間ノ量定ヲ誤ラヌヤウニ致シタイト云フ誠意ヲ以テ自分等ハ委員會ニ於テ調  
査ヲ遂ゲタル結果、即チ長谷場案ニ賛成スルト同時ニ、他ノ武富岡部兩案ニ對シ之ヲ否決スルノ  
處置ヲ取ツテ、今此壇上ニ於テ吾々ハ長谷場案ヲ維持スルモノデアリマス、偕自分等ガ當業者ヨ  
リ聞ク所ニ於キマシテハ、從來織物消費稅ナルモノハ、相島君ノ言ハル、如クニ是レハ需用者  
ガ拂フ税金デ、結局スル所吾々ガ拂フ故ニ織物業者一般ニ於テハ此稅率ノ全廢若クハ之ヲ輕減  
スルト云フヨリモ、第一ニ吾々ハ此稅ニ對シテ徵收スル方法ガ甚ダ煩雜ヲ極ムルガ爲ニ常ニ多  
クノ違反者ヲ出シ、稅務署ト納稅者トハ敵視シテ相爭ハサルベカラザル事體ヲ持チ來シ誠ニ迷  
惑至極デアルト云フコトガ、即チ多年當業者ノ要望ナリト承知シテ居ル、是ガ即チ長谷場案トシ  
テ現レタル此民情ヲ取ツタ案デアリマス、然ラバ長谷場案ハ如何ナル徵收方法ヲ採用シ、從來及  
現在ノ弊害ヲ如何ニシテ改善スルカト云フニ、其著眼ハ稅務署自身ガ徵收スルコトヲ廢メテ、別  
ニ相當ナル交付金ヲ政府ヨリ織物組合ニ下付シテ、サウシテ織物組合自身ガ税金ヲ集メテ納稅  
ノ盡力ヲナス方法ヲ取ルノデアリマス、諸君此方法ハ至極適當デアツテ、隨ツテ今日ニ優ル便宜ニ

テ政府及人民ニ利益アル結構ナ方法ト自分等ハ贊成ヲシテ居ルノデス、斯ク組合自身ニ責任ヲ  
持タセ組合ガ此營業ニ對シテ盡スベキ所ノ、即チ國ニ對シテ納ムル税金ノ取立ヲ自カラ處理シ、  
同時ニ自己ノ營業ノ發達ヲ促ス、此二ノ働キヲ組合自身ガ自治ノ精神ヲ以テ鹽梅シ、政府モ亦  
其精神ヲ旨トシテ能ク指導サレタナラバ、誅求デアアル、苛酷デアアルト云フ人民ノ聲ハ全ク之ヲ消  
滅セシムルニ至ラズトモ、確ニ多クノ部分ノ惡聲ヲ聞カザルニ至ルコトヲ私共ハ固ク信ズルノ  
デアリマス、是ガ長谷場案ニ於ケル改正ノ趣旨トスベキモノデアリマス、次ニ論ズベキ問題ハ  
國民黨ノ織物消費稅全廢說ト中正會ノ半減說デアリマス、而シテ同志會ハ三割減ヲ主張サレテ  
居ル、此全廢若クハ減稅ニ於テ私ハ同志會ノ出サレタ三割減ノ程度ガ自己ガ下ニ述ブル論旨ニ  
對シ此所ニ明カニ申上兼マスガ、少クモ此消費稅ヲ全廢シ或ハ又半減スルト云フ說ハ蓋シ營業  
者ノ利害、其利害ニ就テノ眞意ガ十分ニ聽取ツテナイ所ノ提案デアルト私ハ考ヘテ居ル、ナゼナ  
レバ最前相島君ハ此織物消費稅ト云フモノハ需用者ガ拂フ所ノ稅デアルカラ、何モ當業者ニ於  
テハ左程ノ關係ハナイト言ハレタ、果シテ然ラバ何モ製造業者販賣業者ノ爲ニ全廢若クハ減稅  
スル必要ハナイト云フ議論ニナルガ、斯様ナ議論ハ別トシテ實際ハ全廢說ハ販賣業者勿論製造  
業者ニ於テモ容易ニ賛成ナリ希望ナリセヌコト、思ハレマス、ナゼカナラバ現在有スルトコロ  
ノ既成商品ニ對シテ非常ナ損害ヲ與ヘ、其商品ノ價額ノ變動ニ對シテハ中々税金全部ヲ減ジテ  
貰ツテモドウシテ償フコトガ出來ルカト云フノガ眞面目ナル考慮深キ織物業者ノ意見デアリマ  
ス、是ハ吾々ノ見ナケレバナラヌコトデアアル、此ニ於テ反對論者ノ内ニハ販賣業者ハ然ラン然レ  
ドモ製造業者ニ於テハ、サウ云フコトハ求メテ居ラナイト云フ議論ガ出ル、然レドモ是亦誤リデ  
アリマス、其譯ハ既ニ販賣業者ニ於テ商業ノ上ニソレダケノ損害ヲ受ケ打撃ヲ受ケルトキニハ、  
製造業者獨リドウシテ此商況ノ外ニ立ツコトガ出來マセウカ、製造業及販賣業、此關係ナルモノ  
ハ盛衰共ニ離スコトノ出來ナイモノデアアル、製造業者ガ値ヲ良ク賣ツテ貰ヒタイト云フ商品ハ、  
其販賣業者ニ於テ立派ニ之ヲ賣ツテ行カナケレバ、製造業者ノ希望ヲ満足セシムルコトガ出來ナ  
イ道理ハ洵ニ看易キコトデアアリマセンカ、今其聲ノ如ク又政府ノ云フ如ク別ニ課稅ノ方法ニ



於テ改良スベキ點ガアツテ、而シテ減稅同様ノ方法アリテ課稅金額ノ減少ヲ見ルト云フナラバ、其方法ヲ此度ハ政府ニ於テ現實ニ上サレシコトヲ思フテ居リマス諸君、本稅改廢ノ上ニ於テハ能クオ互ニ研究シテ、之レヲ廢スルニモ減ズルニモ適當ノ方針ヲ執ルニ非ズンバ、織物消費稅ヲ一時ニ改廢スルト云フコトハ慎重ノ注意ヲ要スルコトデアアル、若シ民意希望ヲ誤解シテ以テ吾カ法律ノ改廢ヲスルノ嫌ガアルト云フコトヲ以テ、委員會ニ於テモ爭ツタ次第デアリマス、聊カ茲ニ長谷場案ニ贊成ノ意見ヲ表シテ、且他二案ニ對スル反對ノ意見ヲ述ベタル譯デアリマス、織物消費稅法中改正法律案各三案ニ對スル討論終局シ院議第一案(四七)ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ

武富時敏君及岡部次郎君提出ノ兩案(四九、五一)ハ右議決ノ結果否決セリ

次テ通行稅法中改正法律案ノ討論ニ移リ 福田又一君ハ第二案ニ反對、小林源藏君ハ贊成ノ演說ヲ爲セリ

福田又一君ノ演說

本員ハ通行稅法中改正法律案ノ二案ニ對シマシテ、孰レモ委員長ノ報告ニ反對スルノデアリマス、長谷場君外數名ノ提出セラレマシタ所ノ改正案ハ、武富君外一名提出ノ改正案ガ成立致シマスル際ニハ、自ラ其中ニ包含セラレ、ノデアリマスカラ、改正ノ御希望ハ十分ニ貫徹スルノデアリマス、且ツ長谷場君ノ提出セラレマシタ所ノ此法案ニ依リマス、先ヅ第一番ニ議論ノ起ルノガ學生兵卒勞働者トゴザイマスケレドモ此勞働者ト云フモノ、區別ヲスルコトニ付テ直チニ紛擾ガ起ルノデアリマス、若シモ會社ノ側ノ者ガ是ハ勞働者デアルト云フコトヲ極メレバ、ソレデ宜イト云フコトニナルト勞働者ト云フモノ、決定ヲ會社ノ車掌若クハ會社ニ關係ス

ル者ガ持ツト云フコトニナツテ、若シ勞働者トシテ賃錢ノ割引ヲ請ハント欲スレバ、車掌ヤ何カニ諂ヒヲシナケレバナラヌト云フヤウナ甚ダ不都合ナ事ニ相成リマス、又單ニ學生兵卒勞働者ト云フコトニ限ラレテ居ツテ、此諸官省諸會社ノ雇員若クハ日當取リト云フ如キ薄給者ニ少シモ及ボシテ居ラヌノデアリマス、何故ニ學生兵卒勞働者ニハ恩典ヲ與ヘテ置キマシテ、各官省若クハ各會社ノ雇員ヤ日當取ト云フ者ニハ恩典ガ行カナイノデアリマセウ、勞働者ノ中ニハ隨分一日ニ一圓モ一圓五十錢モ取ル者ガアルノデアリマス、然モ雇員若クハ日當取ト云フ者ハ、日ニ五十錢カ六十錢ノモノデアツテ、然モソレデモ相當ナ身形モシナケレバナラヌノデアリマスカラ、勞働者ヨリハ頗ル經濟上ニ於テハ不便ヲ感ジテ居ルノデアリマス、勞働者ニモ及ブ恩典ハ必ズ是ニモ及バナケレバナラヌ、是ニ及ンデ居ラヌト云フコトハ少シモ下層ノ階級ノ人ノ負擔ヲ輕減スルト云フノ趣意ガ徹底シテ居ラヌノデアリマス、吾々ハソレ故ニ長谷場君ノ提出セラレタ案ナルモノハ、元來ノ趣意ヲ徹底シナイモノデアアルカラシテ、反對スルト同時ニ武富君ノ提出セラレタル案ガ成立致シマスレバ、長谷場君ノ提出セラレタ案ノ理由ハ、其中ニ包含サレテ目的ヲ達スルノデアリマスカラシテ、先以テ諸君ノ御贊成サレシコトヲ希望スルノデアリマス、今吾々ガ主張セント欲スル所ノ此短距離、即チ三階級ニナツテ居リマス所ノ一番末ノ五十哩又ハ五十海里未滿ノ此制限ヲ廢シヤウト云フ趣意ハ、理由ニ於キマシテハ通行稅全廢ノ理由ト少シモ差ガナイノミナラズ、却ツテ短距離ノ場合ハ痛切ニ其必要ヲ感ズルト私ハ思フノデアリマス、先達モ此案ニ付キマシテ二百哩モ行ク者ガ稅金ヲ四錢取ラレタ所ガ少シモ差支ナイデハナイカ、何等ノ苦痛ヲ感ジナイデハナイカト云フ御議論ヲナスタ方モゴザイマスガ、成程東京カラ下關マデ行キマス者ガ四錢ノ稅金ハ高クハゴザイマス、ケレドモ現ニ東京ニハ汽船ニ於テ一錢ノ賃錢ニ一錢ノ稅金ノ課テ居ル者モアルノデアリマス、之ヲ東京デバカリ申シテハ甚ダ遺憾ト思ヒマスレバ、輕便鐵道ノ如キモノガゴザイマスケレドモ、此輕便鐵道ハ大抵十哩内外、而シテ之ニ停留所ガ十箇所ゴザイマスレバ、停留所毎ニ一錢ヅ、拂フトシマスルト十哩デ十錢ノ稅金ヲ拂ハナケレバナラヌノデアアル、一方ハ二百哩デ四錢デアアルガ、短距離ノ場合ハ十哩デ、十錢ノ



税金ヲ拂ハナケレバナラヌト云フコトニナリマスカラ、短距離ノ場合ハ私ハ一層其改正ノ切實ナルコトヲ認ルノデアリマス、又御承知ノ如ク東京市ハ土地ガ漸次高價ニ相成リマスカラシテ、随ツテ家賃ノ増加スルコトハ御承知ノ如クデアリマス、家賃ガ増加致シマスカラ薄給ノ者ハ市内ニ住居スルコトガ出来ナイデ、止ムヲ得ズ市外ニ居ヲ移スノデアリマス、而シテ市内ニ出テ來テ勞働シ若クハ月給ヲ取ル、若クハ日當ヲ取ルト云フコトデアッテ、朝早く起キテ夜遅ク歸ル、而シテ其電車ニ乗ルト云フコトハ、贅澤デ乗ルノデハナイ、時間上ドウシテモ電車ニ乗ラナケレバナラヌカラ乗ルノデアリマス、ケレドモ併シ左様ナ薄給ノ者ハ往復ノ乗車券スラモ買フコトガ出来ナイデ、其日ニ働イテ歸リノ電車賃ヲ支拂フト云フヤウナ狀況ガアルノデアリマス、斯様ナコトカラ考ヘマシタナラバ、如何ニ致シマシテモ短距離ノ此税金ヲ廢スルト云フ事柄ハ、今日ノ場合一刻モ捨テ置クコトノ出来ナイモノト私ハ信ズルノデアリマス、元來ガ我が帝國ノ臣民ハ言フマデモナク、非常ニ國ヲ愛スルト云フ心ニハ富ンデ居ルノデアリマスカラシテ、國家非常ノ場合ト云フコトガアルナラバ、一身一家ノ事ト云フモノハ勿論眼中ニハナイ、何物ヲモ犠牲ニ供スルト云フ精神ニ富ンデ居ルノデアリマス、是ハ世界ニ卓絶ヲシテ居ルトコロノモノデアラウト思フノデアリマス、此通行税ノ如キモ實ハ不條理千萬デアッテ不條理千萬ノモノデゴザイマシタ、ケレドモ此通行税ノ制定セラレマスル當時ハ、國家多端ノ際デアリマシタカラシテ、誰一人苦情ヲ申シタ者ハナイノデアリマス、併ナガラ此不條理ノ點ヲ一一舉ゲマシテ、諸君ノ御參考ニ供シタイト考ヘマスケレドモ、先ツ第一ニ極ク特筆出來ルモノハ政府ガ行フトコロノ政策ノ矛盾デアルト云フ事柄ガ一目シテ解ララウト思フ、吾々ハ關係ヲセヌ當時デアリマシタケレドモ、私設鐵道ヲ國家ノ所有ニスルト云フ時分ニハ、ドウ云フ理由デ所有ニ致シタノデアリマセウ、畢竟私立會社ノ所有ニシテ置クト云フト、勢ヒ株主ノ利益ヲ圖ラナケレバナラヌカラ、國家ノ所有ニ致シテ而シテ國民ニ交通上ノ便利ヲ成ルベク與ヘタイト云フ趣意デ、國有ニシタト云フコトハ申スマデモナイノデアリマス、加之此輕便鐵道ト云フモノニ對シテハ、補助金マデモ與ヘント云フコトノ法案ガ出サレテ我が議會ハ之ニ承諾ヲ致シテアッタノデアリマス、是等ハ殊

ニ交通ニ對シテハ國民ニ便利ヲ成ルベク與ヘヤウト云フ主義ヲ發揮シテ私ハ餘リアルコト、思フ、誠ニ結構ナコトデアルト思フノデアリマス、然ルニ一方ニ對シテハ斯様ナ恩典ヲ與ヘテ置キナガラ、一方ニ對シマシテハ僅ニ一哩ニ付テ一錢ノ税ヲ課スルト云フヤウナ、斯様ナコトヲスルト云フノハ政府ノ政策ノ矛盾ト云フモノハ珍シクナイノデゴザイマスルケレドモ、是等ハ最モ其甚シキモノデアルト私ハ信ズルノデアリマス、第二ニハ先程モチヨット一言ヲ致シテ置キマシテゴザイマスケレドモ、全ク此今日ノ場合デアリマスト云フト、貧困者勞働者薄給者ト云フモノニハ、此負擔ガ重ク、而シテ富者ニハ輕クナルト云フ結果ヲ生ズル、第二十六帝國議會ニ於キマシテハ、政府ガ市内電車ノ税金ヲ百萬若クハ百五十萬圓ダケ減シヤウト云フコトデ、既ニ其法案ヲ提出ヲサレタノデアリマシタガ、是モ多數黨諸君ト妥協ヲ致サレマシテ、ソレガ引込ミニナリマシテ今日ハ殆ド消エナクナツテ居ルノデアリマス、斯様ナ譯デアリマスカラシテ、五十哩未滿ノ間ヲ通行スルト云フモノハ頗ル數ガ多ク、頗ル又ソレニ乗ル者ガソレニ依テ便利ヲ得、隨ツテ人文ノ進歩産業ノ發展ニモナルコトデゴザイマスカラシテ、此場合ニ於テハ全廢ヲ爲シ得ラレヌナラバ、是非共是ダケモ廢シタイト云フノガ吾々ノ希望デアリマスル、斯ノ如キ不條理ナル課税デゴザイマシテモ、吾々帝國民ハ非常ナル場合ニ於キマシテハ、一人ノ苦情モナカッタト云フ其法律ノ制定セラレタ當時ヲ少シク回想致シマシタナラバ、政府ハ大ニ反省ヲスベキ事實デアラウト思フ、此非常特別税ノ發布セラレマシタノハ明治三十七年デアルト云フコトハ御承知デアリマスルガ、既ニ其時ニハ海軍ニ於テハ砲火相交ヘタ後デアッテ、斯様ナ帝國ノ國難ニ際シマシテハ、誰レ一人課税ノ重キト云フコトヲ唱ヘタ者ハナイノデ、國家ノ安危ニ關係ヲスル場合デアリマスルカラシテ、税金ノ重キヲ唱ヘナイノミナラズ、吾々ハ血税ヲモ拂フコトヲ喜ンダノデアリマス、六千萬ノ同胞ハ國家ノ爲ニ身ヲ以テ盡シタイト云フコトヲ考ヘタノデゴザイマス、ソレ故ニ陋巷ニ蟄居セル商人詰リ其日暮シノ者デモ國家ノタメニ盡シタイ、若クハ自分ノ身ヲ以テ國家ニ盡スコトガ出来ヌナラバ、願ハクハ自分ノ兄弟親族ヲ以テモ國家ノ爲ニ盡シタイト云フコトヲ考ヘタノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ男子ハ國ノ爲ニ屍ヲ滿洲ノ野ニ暴



サント云フコトヲ希望シ、婦女子ハ自分ノ生命ノ如クニ考ヘテ居ル所ノ頭髮ノ飾マデ賣ッテモ、之ヲ國費ニ充テタイト云フコトヲ希望シタノデアリマスル所ノ如ク吾々國民ハ國家非常ノ際ニ當リマシテハ金ヲ出スノヲ惜ムドコロハナイ、吾々ノ肉體ヲモ國ノ爲ニ盡シタイト云フコトヲ考ヘル所ノ此國民デアリマスルノデ、今日ノ廢稅若クハ減稅ヲ唱ヘルト云フ者ハ徒ニ爲スノデハナイノデアリマス、乍併諸君、國家ハ財政上ノ餘裕ガ生ジタル時、又假令餘裕ガ生ジタル程ニ往カズトモ、政府ガ其意思ノ存スルコトガアルナラバ、實行シ得ラル、ト云フ其時ニ際會ヲ致シマシタナラバ、國家危急ノ場合ニ喜ンデ血稅ヲ拂フコトヲ致シタ者ガ、又廢稅若クハ減稅ヲ唱ヘル事柄ハ當然ノ權利デアルト信ズルノデアリマス、交通ノ機關ノ如キハ國家ハ出來得ル限リ國運ノ進歩ノ産業ノ發達ニ資シナケレバナラヌノデ、何故ニ政府又政府ニ與スル所ノ諸公ハ、此場合ニ之ヲ決行シナイノデアアルカヲ怪ムノデアリマス吾々ガ減稅ヲ絶叫スル所以ハ、一面ハ此際ニ大ニ國家ノ苦痛ヲ減ジマシテ而シテ民力ノ休養ヲ致シマシテ、他日國家事有ル時ニハ國民ノ本分ヲ盡シタイト考ヘルカラデアアル、唯徒ニ稅ヲ少シバカリ減ジテ貰ッテ、自分ノ懷中ノ都合ヲ好クシヤウト云フコトヲ考ヘテ居ルノデハナイノデアリマス諸君ガ眞ニ國家ヲ憂フルノ意ガアルノナラバ、殆ド國民ノ多數ヨリ信望ヲ失墜セル所ノ政友會員ニ非ザル山本權兵衛伯ト殉死スルヨリハ、國民多數ノ與望ニ副レンコトヲ私ハ求ムルノデアリマス、國防ノコトハ國力ノ充實ガ本デアアルコトハ言フ迄モナイノデアリマスガ、日露ノ戰爭ニハドレ程ノ戰費ヲ使ッタデアリマセウカ、二十一箇月間ニ二十億萬圓デアッテ一日ニ三百萬圓ノ金ヲ投ジテ居ルデアリマセウカ、其當時ハ日本ノ兵備ハドレダケデアアルカト申シタナラバ……減稅ニ付テ關係ガアルカヲ述ベテ居ルノデアリマス其當時ノ海軍ノ噸數ト云フモノハ二十四萬噸デアリマス、今日ハ五十萬噸若クハ六十萬噸ニナッテ居リマス、又其當時ノ陸軍ハ僅ニ二十五師團デアッタノガ今日ハ十九師團ニナッテ居リマス、其當時戰爭ヲ始メテ直ニ二十一箇月ニ二十億萬圓ノ金ヲ投ジタト云フノデアアルナラバ、今日ノ兵備ニ於テ今日ノ兵力ニ於テ戰ヲ致シタナラバ、少クトモ日ニ五百萬圓位ノ金ヲ投ゼナケレバナラヌノデアアリマセウカ、此金ハ諸君何處カラ得ラレルデアリマセ

ウ、今日ハ僅ニ五千萬圓ノ金ヲ募集ラスルニスラモ、ナカク日本ノ今日ノ信用デハ容易ヂヤナイト思フノデアリマス、然ルトコロニ三十億ノ金ヲ若シ茲ニ用立ツル時分ニハ、國力ヲ増シテ置カナカタナラバ、何ガ戰爭ガ出來ルデアリマセウ、諸君、軍艦ハ軍艦ダケデハ動キモシナケレバ鐵砲ノ彈丸モ出ナイノデアリマス、何等ノ效能モナイノデアリマス、又兵隊モ其通り兵隊ヲ組織シテアッタコロゴソレデハ戰爭ガ出來ナイノデアリマス……諸君、常ニ大藏大臣ハ我が帝國ハ軍備ニ依テ國光ヲ輝シタト言ウテ居リマス、併ナガラ兵備ヲ以テ國光ヲ輝シテ居リマシテモ、今日ハ兵備ヲ以テ國光ヲ輝スト云フコトハ出來ヌノデアリマス、僅ニ軍艦水雷艇ノ基金ノ千六百萬圓ト云フモノ、之ヲ置クト云フコトニシタノヲ今日ハ之ヲ産業基金ニ持ッテ行カレルト云フヤウナ状態デアッテ、雷ニ軍艦ノミヲ増シタトコロガ、是ガ爲ニ國防ガ充實スルト云フコトハ更ニ吾々ハ信ジナイノデアリマス、加之國防ノ事ハ製造費ニ「コンミッション」ヲ含マレルトコロノ軍艦ヤ、巡洋艦ヤ或ハ賄賂ヲ授受スルトコロノ海軍ノ將校ノミニ依頼スルコトハ出來ナイノデアリマス希クハ天下多數ノ國民ハ如何ナル眼ヲ以テ衆議院ヲ見テ居ルカト云フコトニ、諸君ハ想ヒ至ラレンコトヲ希望致シマス、隨ッテ吾々ノ案ニ賛成セラレンコトヲ希望致シマス

小林源藏君ノ演說

諸君、私ハ通行稅改正法律案ニ付キマシテ委員長報告通り我黨ノ提案ヲ賛成致シ、武富君其他ヨリ提案セラレタル所謂同志會案ナルモノニ反對セント欲スル者デアリマス、通行稅一般ノ事柄ニ關係致シマシテハ、既ニ曩ニ通行稅法廢止法律案ノ日程ニ上リマシタル際ニ十分討議セラレテ、今日茲ニ其全廢案ガ倒レタルト共ニ、通行稅ノ部分的改正案ノ討論ニ推移シ來ッタノデアリマス、通行稅ハ惡稅ナリ國民其負擔ニ困難シテ居ルト云フ論ハ過日既ニ倒レマシテ、通行稅ハ徵收ノ上ニ於テ其手續簡易ナルバカリデナク、通行者ガ其負擔ニ付テ甚シク困難シテ居ラヌト云フコトハ多數ニ依テ決定セラレタノデアリマス、ケレドモ其通行稅ナルモノガ惡稅デナイト云フコトガ決定セラレマシタニ拘ラズ、尙且ツ我黨ハ通行稅ヲ納ムル總テノ人、總テノ階級ガ困



難シテ居ラナイト云フノデハナイ、多クノ通行者ノ中ニハ通行税ノ負擔ニ窮シテ居ル者モアルト云フコトヲ認メルノデアリマス、是ガ即チ茲ニ改正案ヲ提出シタル所以デアアル、惡税デハナイ、多數ハ其負擔ニ苦ンデ居ラヌケレドモ、多クノ中ニハ其負擔ニ苦シム者モアルカラシテ、其負擔ヲ輕減シテヤラネバナラヌト云フ以上ハ、其免稅ヲスル、若クハ減稅ヲスル範圍ハ極メテ狹隘デナクテハナラヌト云フコトハ自ラ明カデアリマス、同志會ノ案ハ既ニ全廢トシテ倒レタルニ拘ラズ、其全廢ニ等シキトコロノ案ヲ改正案トシテ提出セラレマシタノデアリマスガ、同志會諸君ハ恐クハ斯クノ如ク云フダラウ、惡税ナル通行税ヲ免ゼシメンガ爲ニ、全廢案ヲ提出シタケレドモ敗北シタリ、此ニ於テカ更ニ策ヲ運ラシテ其全廢案ニ稍等シキトコロノ案ヲ提出シテ、議員諸君ヲ欺カントマデ智恵ヲ絞ッテ考ヘタケレドモ又敗レタリ、通行者諸君ノ爲ニ努力スルコト斯ノ如クデアルト諸君ハ言フデアリマセウ我黨ノ案ハ斯ノ如キモノデアリマセヌ、通行者諸君ノ爲ニ全廢モシタカッタ、ケレドモ財政ノ餘裕ナキ今日ニ於テ到底全廢ハシ兼ネタノデアアルモ極ク狹キ範圍ノ上ニ於テ減稅若ハ免稅ヲ爲シタノデアアル、全廢シタキコトハ山々ナレドモ財政ノ許サザルヲ如何セン、其著シキ財政ノ中ニ於テモ最モ通行税ノ爲ニ苦ンデ居ルトコロノ人ノ爲ニ、斯ノ如キ些細ナル減稅若クハ免稅ヲ爲シタル誠意ヲ諒トセラレンコトヲ望ムト云フノガ提案ノ骨子デアリマス、今申シマシタルガ如ク明カニ白狀致シマスルガ如ク、我黨ノ案ハ多キヲ減稅スルモノデハナイ、極メテ狹隘ナル範圍ニ於テ誠意ノアラシム限リヲ盡シタル案デアリマス、ソコデ御覽ノ通りニ此法律案ノ條件ナルモノハ極メテ嚴酷ニ出來テ居ル、第一減稅若クハ廢稅ヲ受ケ居ルトコロノ其者ガ學生兵卒勞働者デナクテハナラヌ、其學生兵卒勞働者デモ、尙運送業者ガ其學生兵卒勞働者ニ對シテ運賃ノ割引ヲ爲ストコロノモノデナクテハナラヌ、斯ウ云フ二重ノ制限ヲ置イテ居ルノデアリマス、單ニ學生兵卒勞働者タルダケデハ通行税減稅ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイ、其學生兵卒勞働者ニ對シテ既ニ會社ガ運賃ノ割引ヲ爲シテ居ルモノデナクテハナラヌ、此結果トシテ其兵卒勞働者並ニ學生ニ對シテ、運賃ノ割引ト同一ノ割引ヲ爲シ、其割引シタル結果ガ一錢未滿ニナッタ時ニハ免稅スルト云フノデ、其結果トシテ五十哩未滿

五十海里未滿ノ旅行者ニシテ前ニ申シタル如ク會社ガ——會社即チ運送業者ガ割引ヲシテ居ッタトコロノモノデアリマシタナラバ、全部免稅サレルト云フ結果ニナルノデアリマス、反對論者ハ茲ニ於テ難詰シテ曰ク、其學生兵卒勞働者ト云フガ其中ニ就テモ勞働者ノ解釋ハ如何ニ定ムベキカガ決シナイデナイカ、煩累ノ基ニナルト斯ウ言ハレルノデアリマス勞働者ノ定義勞働者トハ何ヲ言フカト云フ定義ヲ法律ニ掲ゲルコトガ却テ煩雜ノ基ヲ爲ス、勞働者ノ實質ニ付キマシテハ世自カラ定論ガアル、之ヲ運送業者ト通行者トノ間ノ解釋ニ任シテ、自カラ甚シキ不當デナイ程度ノ解釋ヲ得ルコトガ困難デナイト私ハ思フノデアリマス、加之何ハ勞働者ナリト云フコトヲ法律ノ面ニ書キマスコトハ却テ煩雜ノ嫌ガアル、現ニ今日ニ於キマシテモ、運送業者ガ勞働者並ニ學生ノ爲ニ割引ヲ爲シテ居ル、割引ヲ爲シテ居ル以上ハ何ハ勞働者ナリヤ何ハ學生ナリヤト云フノ解釋ハ、自然其間ニ明カニナッテ居ルモノト言ウテ宜シイ、尙ホ醫者ニ通ッテ治療ヲ受ケツ、アルヤウナ窮民デサヘモガ、運賃ヲ拂ヒ且ツ通行税ヲ拂ハネバナラヌト云フ不都合ナルコトガアルデハナイカト云フ非難モアリマスガ、此法律ノ上ニ於キマシテ貧困者ト云フ文字コソ書イテ居リマセヌケレドモ、貧困者ナル勞働者ハ無論此法律ノ適用ヲ受ケルコトガ明カデアアル、勞働者ナラザル貧困者ニシテ無代デ療治ヲ受ケルヤウナ人ガアッタナラバ、諸君ガ通行税ヲ免セラレテ居ルガ如ク、其人ニ向ッテ運賃ノ全部ヲ運送業者ガ免ズルガ宜シイ、運賃ノ全部ヲ免ジタナラバ從ッテ通行税ハ免ゼラレル、何モ此法律ニ於テ貧困者ノコトヲ書ク必要モアルマイ殊ニ此學生勞働者ノ區別ノ困難ナリト云フコトハ、地方ニ於ケル閑散ナル鐵道ノ場合ニアラズシテ、蓋シ東京市ノ如キ煩雜ナル場合ヲ諸君ガ指スノデアリマセウ、東京市ノ如ク通行人ノ煩雜ナル市ノ鐵道ニ於キマシテハ、寧ロ今日學生並ニ勞働者ナルモノガ運賃割引ノ恩典ヲ受ケテ居リマスケレドモ、餘リニ勞働者並ニ學生以外ノ人ガ其車ニ乗ルノデ、學生勞働者ハ困難ナル地位ニ立ッテ居ルト云フコトヲ了解セネバナラヌ、朝ニ或時間ヲ定メテ學校ニ出ル所ノ學生、時間ヲ定メテ工場ニ行ク所ノ勞働者ガ割引ノ恩典ニ浴セント欲シテ電車ニ乗ラント欲スレバ、他ノ人ノ爲ニ妨ゲラレテ其割引電車ニ乗ルコトガ出來ナイト云フ現況ニ於テアルノデアリマ



ス此ノ混雜ヲ避ケルガタメニ學生並ニ勞働者ノ保護ヲ完全ナラシムルガ爲ニ、割引ノ方法ヲ改メネバナラヌト云フコトハ、將來必ズヤ問題ニナテ來ルコロノモノデアラウト思フ、學生並ニ勞働者ニ對シテ通行税ヲ免ズルガタメニ、其問題ガ起ツテ來ルニアラズシテ、現今ノ狀況既ニ其問題ヲ解決セネバナラヌ所ノ有様ニ迫ツテ居ルノデアアル、此ノ通行税ノ問題ヲ機會ニシテ、眞ニ東京ノ學生並ニ眞ノ勞働者ニ對シテノミ、割引並ニ通行税免除ノ恩典ガ行ハレルコトニナリマシタナラバ、都下ニ於ケル學生並ニ勞働者ガ如何ニ仕合ラスルカ測リ知ルベカラザルモノガアルノデアリマス、ソコデ如何ナル時、如何ナル方法ニ依ツテ今申上ゲタル區別ヲ立テルマデニ進歩シ行クカハ問題トシマシテ、或論者ガ憂フルガ如ク、東京市ニ於テ朝ノ二時間ナリ學生並ニ勞働者ノ車トシテ廻送シテ居ル其車ニ、學生並ニ勞働者ナラザル者ガ乗ツテ居ルト思フガ、此者ニ對シテドウスルカ、法律違反ノ行爲ヲ認メルカ否ヤト云フ詰問ヲ出スノデアリマス、ソレハ現ニ此法律ノ條文ニ依ツテ嚴酷ニ解釋致シマスレバ、學生並ニ勞働者ニアラザルトコロノ者ガ、縱令運送業者ヨリ運賃ノ割引ヲ受ルト雖モ、通行税ヲ免ズルノ限リデナイ、是ハ法律ノ成文通リノ解釋デアリマス、將來此ノ意味ニ於テ通行税ヲ通行者ニ免ゼシメント運送業者ガ故意ニ企テマシタナラバ、第五條ニ照シテ徵收スベキ運賃ヲ取ラザリシトコロノモノトシテ、運送業者ニ代ツテ運賃ヲ拂ハサスルコトガ當リ前ノコトデアリマス、ケレドモ此ノ通行税ノ今日マデノ施行ノ有様ヲ御覽ニナリマシタナラバ、如何ニ寛大デアアルカト云フコトハ承知セラル、デアリマセウ、他ノ税ニ對シテハ常ニ苛斂誅求ノ聲ガアルニモ拘ラズ、此通行税ナルモノハ極メテ寛大デアアル、諸君ハ未ダ嘗テ通行税ヲ拂ツタコトハナイダラウ、其通行税ヲ拂ハザルモノニ向ツテ何人ガ故障ヲ言ヒ、或ハ追窮ヲセラレタモノガアルカ、且又往復切符ノ如キハ此通行税法ニ於テ一ノ旅行ト見テ、税額ガ半分ニナツテ居ルノデアリマス、其往復切符ヲ車掌ノ見テ居ル前ニ於テ一ツツ割ツテ二人ノ人間ニ分ツテ特別ナル旅行ヲシテ居ルモノガ常ノ有様デアリマス、猥リニ世間ガ怪マザルノミナラズ、收税官吏其人ガ既ニ其コトヲ實行シツ、アルダラウト思フ、此ノ如キ寛大ナル通行税デアアルカラシテ、或ハハッキリ學生勞働者ト區別シ難クシテ、其恩典ニ與ツタルトコロノモノハ恐

ラク寛大ナル處置ヲ受ケ得ルコトニナルカモ知レヌ是デ不十分ナガラモ我黨提出ノ案ヲ辯護スルニ足リルトシテ、更ニ同志會案ナルモノニ向テ簡單明瞭ナル駁論ヲ加ヘテ置キマス、四十哩以下ノモノハ果シテ勞働者若クハ學生ノ如キ困難スルモノ、ミナルカ否ヤト云フ問題、矩短離ノ通行者ニハ困難ナルモノガアルト同時ニ、遊ブトコロノモノモ多イノデアリマス、殆ンド半々ノ有様ニ於テ遊ブタメニ旅行スルモノガ多イ、少シモ困難ナル人ヲ保護スルガタメニ四十哩以下ノ通行税ヲ免ズルト云フ道理ガ立タヌノデアリマス、更ニ四十哩以下ノ通行税ノ額ガ幾干ニナルカト勘定シテ見レバ、約三百九十萬凡ソ四百萬圓ト云フ程度ニ於テアル、通行税御承知ノ如ク通行税全部ノ金額ガ四百五十萬圓デアアルノニ、此改正案ニ依ツテ三百九十萬圓ヲ減ズルコト、ナリマスレバ廢税ト何ニガ異ナルトコロガアリマス、先ニ廢税論ナルモノガ一度破レタ以上、此ノ如ク形ヲ變ヘテ殆ド全廢ニ均シキ案ヲ提出シ來ツテ此議院ノ同意ヲ求メント欲スルノハ、妄案モ亦甚ダシイデアリマセヌカ、殊ニ此ノ如ク四十哩以下ノモノニ對シテ通行税ヲ全廢致シマスレバ、會社若クハ運送業者ヲシテ其通行税ダケ運賃ヲ控除セシムル餘地ヲ存セシムルコト、ナル、此場合通行税ノ問題ハ獨リ今日ニ止ムニアラズシテ、將來トモ起ルニ相違ナイ通行税ニ趣味ヲ有ツテ居ル諸君ノ考案ヲ煩ハシタキ二三ノ點ノ申シテ置クノデアリマス、通行税論ニ付テハ第一民力休養ヲ趣意トセラハトコロノモノガアリマス、恐ラク國民黨案ノ如キハ其案デアリマセウ第二ハ通行税ヲ廢シテ運送會社若クハ運送業者ノ繁榮ヲ來タサントスル論ヨリ通行税ノ廢止ヲ論ズルモノガアルノデアリマス、更ニ通行税ヲ廢シタダケノ金額ヲ運賃ニ加ヘテ取ラウトスルトコロノ論者モアルノデアリマス、此三ツノモノガ或ハ單獨ニ或ハ合同ヲシテ、此議會ニ於テ通行税廢止案若クハ通行税減税案ノ議論ガ起ツテ來ル所以デアリマス、國民ノ負擔ヲ輕カラシメヤウト云フ純粹ナル國民黨案ノ如キハ終始一貫ノ論トシテ宜シイ其他會社若クハ運送業者ノ運賃ヲ高メル所ノ目的ヲ以テ通行税ノ廢止ヲ論ズル者ハ、今ヨリ餘程注意シテ議論ヲシナイト自縛自縛ニ陥ルノデアリマス、私ハ通行交通ト云フコトニ關シテハ多大ノ趣味ヲ有ツテ居リマスカラシテ、其論ズル所ノ



人ガ反對黨デアラウガ反對黨デナイニ拘ハラズ、一應ノ注意ヲシテ置キタイト思フノデアリマス、先ニ問題トナッテ居ル所ノ第二十六議會ニ於テ市内ノ通行税ヲ廢セント欲スル案ヲ桂内閣ガ提出セントシタノハ、蓋シ市ノ收入ヲシテ多カラシムル目的ニ出デタルモノデアリマシテ、廢シタル通行税ノ額ヲ市ヲシテ徵收セシメヤウト云フ考デアリマシタ、今日通行税ノ廢止ヲ論ゼラル、諸君ノ中ニモ、必ズヤ此意味ニ於テ論ジツアル所ノ者ガアルト私ハ信ジマス、然ラバ此人達ガ國民黨ノ案ノ如ク、民力休養ノ意味ニ於テ通行税ノ廢止ニ御伴ヲシタナラバ、他日市内ノ税金ヲ上ゲント欲スル時ニ於テ多大ナル燒打ヲ喰ハナケレバナラヌト云フコトニナル、是ガ今カラ注意ヲオシナサイト我輩ガ云フ所以デアアル、夫バカリデハナイ、學生並ニ勞働者ニ對シテ區別ヲスルコトガ出來ナイト云フ議論ヲ、今日ニ於テ論ジツ、アッタナラバ、蓋シ市若クハ運送業者ガ運賃ヲ上ゲルト云フ際ニ於テ、必ズヤ勞働者並ニ學生ダケノ運賃ヲ上ゲテハイカヌト云フサヘ、區別ガ付カヌカラ全部ノ運賃ヲ上ゲテハナラヌト云フコトニ歸著スルノデアアリマセヌカ、是デ大概論ズベキ點ハ簡略ニ終ッタト致シマシテ、終ニ臨ンデ一言附加ヘナケレバナラヌコトガアル、諸君ノ謹聽ヲ要求スル、此終リノ辯論ニ付テハ正ニ諸君ノ謹聽ヲ要求スル、今ヤ四十哩以下ノ通行税ノ免稅ヲ提供シタル所ノ同志會ハ、先キニ營業税ノ二千六百萬圓通行税ノ全廢四百五十萬圓約三千百萬圓、是ニ何カ加ハッテ三千二百萬圓ノ稅源ヲ求メテケレバ——財源ヲ求メナケレバナラヌト屢、御議論ヲ承ッタデアリマス、而モ其三千二百萬圓ナルモノガ必ズシモ容易ナル有様ニ於テ出來ルトハ言ハレナイ、此豫算ノ有様ヲ見ルニ、約千六百萬圓隱レテアルカノ如クニ見エルガ、更ニ千萬圓ニ對シテハ海軍ノ費用ヲ削リ、其他ノ五、六百萬圓ニ付テハ行政ノ整理ヲナサネバナラヌト云ウテアルノデアリマス、其營業税ガ八百萬圓内外ノ所ニ減稅ガ止メラレテ、通行税ノ全廢案ガ倒レタル其次ニ於キマシテ、地租ノ七厘減ヲ提出致サレタノデアリマス、此金額ハ約八百五十萬圓ニナリマス、更ニ織物消費税ノ三割減ヲ提出セラレマシタ、此金額五百餘萬圓ニナリマス、治水費ノ特別會計ヲ廢シテ一般會計ニ移サウト言ハレタノデアリマス、此金額ヲ總計致シマシタナラバ恐クハ千五、六百萬圓ノ金額ニナリマス、全部ノ減稅ヲセラ

ル、モノト致シマシタナラ少ナクトモ四千六百萬圓以上ノ財源ガ無クテハナラヌヂヤナイカ、ソコデ三千二百萬ノ財源ヲ此ノ際産ムニサヘモ困難ヲスルト言ハレタニモ拘ハラズ、今ヤ數日ヲ經ズシテ四千八百萬圓ノ減稅ヲサレ、ト云フコトハ奇怪ノ感ニ堪ヘザルヲ得ナイノデアアル、營業税ノ全廢案ハ今年限リ打チ切ラレタノデアリマス、通行税ノ全廢案ハ今年限リ打チ切ラレタノデアリマス、營業税ノ全廢ト通行税ノ行ハレマシタナラバ、地租ノ七厘減ト織物消費税ノ三割減ハ拋棄シタト云フノデアリマス、若シ然ラズンバ、眞ニ四千六百萬以上五千萬ノ財源ヲ提供セネバナラヌノデアリマス、斯ノ如キ杜撰ナル案ニ對シテハ到底贊成ヲスルコトハ出來ナイ、少シモ誤解デアリマセヌ、斯ノ如クシテ吾等ハ我黨ノ案ヲ維持シ反對黨ノ案ヲ斥ケテ此ノ壇ヲ下ルモノデアリマス

議長ハ紫安新九郎君ヲ指名シタルニ長晴登君ヨリ討論終局ノ動議ヲ提出シタルヲ以テ先決問題ト認メ之ヲ採決シ多數ナルニ依リ討論ハ茲ニ終局シタル旨ヲ宣告ス  
相島勘次郎君ハ議事進行ニ關スル意見ヲ述ヘ紫安君ニ發言ヲ許スヘシト陳シ議長ハ之ニ對シ辯明セリ

守屋此助君ハ議員ノ發言權ニ關スル意見、肥塚龍君ハ之ニ關スル先例ヲ提示シ其ノ例ニ依ラムコトヲ希望シ、紫安新九郎君ハ自己ノ發言權ニ關シ意見ヲ述ヘ(此ノ時發言スル者アリ議場騒然)議長ハ靜肅ヲ注意シ次テ過刻宣告シタルノ外執ルヘキ道ナキ旨ヲ告ク(議場騒然)長晴登君ハ既ニ本會ノ決定ヲ經テ宣告セラレタル以上ハ議事ノ進行ヲ望ム旨ヲ述ヘタルニ花井卓藏君ハ「議長ニ於テ一旦發言ヲ許可シタル以上ハ其ノ發言ヲ終ル迄討論終局ノ動議ヲ提出スルヲ得ス」トノ動議及



關直彦君ハ「前ノ長晴登君提出ニ係ル討論終局ノ動議ヲ取消シ更ニ討論ヲ繼續スヘシ」トノ修正動議ヲ提出シ各提出者ハ其ノ趣旨ヲ辯明セリ

尾崎行雄君ハ花井君ノ動議ニ賛成ノ演説ヲ爲シ且暫時ノ休憩ヲ希望スル旨ヲ述ヘ阪本彌一郎君ハ花井君並關君ノ動議ニ反對ノ演説ヲ爲シ奥繁三郎君ハ關君ノ動議ニ反對シ且花井君ノ動議ニ對シ意見ヲ述フ

花井卓藏君ハ本問題協議ノ爲一時休憩ヲ希望シ議長ハ此ノ場合時間ヲ延長シテ暫時休憩ヲ爲ス旨ヲ宣告セリ

休憩後ノ會議ニ於テ質疑應答、意見ノ陳述、又ハ辯明等ノ後關直彦君ハ更ニ「大正三年三月五日通行税法中改正法律案ノ議事申長晴登君提出ノ討論終局ノ動議ニ基ク決議ハ之ヲ取消ス」トノ動議ヲ提出シタルニ横田千之助君ハ本動議ニ反對シ表決ニ及テ院議少數ニテ之ヲ否決シタリ

次テ第二案(四八)ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ武内作平君、才賀藤吉君ハ孰レモ其ノ提出セル修正案又ハ修正動議ノ趣旨ヲ辯明セリ

(武内作平君提出修正案)

通行税法中改正法律案(長谷場純孝君  
外六名提出)ヲ左ノ通修正ス

第一條ノ二 學生、兵卒、勞働者割引乗船車券所持人ニ對シテハ其ノ乗船車賃ノ割引歩合ニ準シ

テ通行税ヲ低減ス但シ以下削除

(田川大吉郎君外一名提出修正動議)

通行税法中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ一號ヲ加フ

一 市内又ハ命令ヲ以テ市内ニ準スヘキモノト定メタル區域内ノミヲ通行スルトキ

附 則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

武内作平君ノ演説

大變時間ガ長クナッテ居リマスノデ、此際實ニ私ガ發言ヲ致シマスコトハ諸君ニ非常ニ御迷惑トハ存ジマスケレドモ、必要ナコトデアリマスカラシテ、極ク簡單ニ修正案ヲ提出シ、併セテ修正案ノ提出ノ理由ヲ述ベマス、此通行税法ガ第一條ノ二トシテ「學生兵卒勞働者ニシテ割引乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ乗船車賃ノ割引歩合ニ準シテ通行税ヲ低減ス」斯ウ云フ條文ガ設ケラレマシテ之ノ制限ト致シマシテ、但書ガ附イテ居ルノデアリマス「但シ貸切、多人數、回数又ハ定期乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス」此但書ヲ削除スルト云フ斯ウ云フ



修正案デアリマス、東京ノ如ク學生ノ爲、或ハ兵卒ノタメ、労働者ノ爲ニ、特ニサウ云フ列車ガ發  
セラレテアリマス。トコロノ土地ニ於キマシテハ、是ニ依リマシテ此種ノ人ガ總テ通行税ノ免除  
ヲ受ケルコトニナルデアリマス。ガ、東京市ヲ除キマシテ其他ノ地方ニ於キマシテハ、學生列  
車或ハ兵卒列車労働列車ト云フヤウナモノガ出テ居ラヌデアリマス、夫デ勢ヒ貸切、多人數、  
回數若クハ定期乗車券ノ方法ニ依ッテ學生ノ乗車賃ヲ割引スルヨリ外ニ方法ハナイデアリマ  
ス、若シ此但書ガ此儘ニアルモノト致シマスルナラバ、東京ニ居ル學生ハ此恩澤ヲ受ケマスケレド  
モ、東京以外ノ地方ニ居リマスルコトコロノ學生兵卒労働者ハ、何等ノ恩澤ヲ受ケヌ結果ニナル  
デアリマス、ソレデ本案ハ通行税ヲ割引スルモノ、案ノ如ク見エマスルケレドモ、實際ハ割引  
デナイデアリマス、詰リ此種ノ人ニ總テ通行税ヲ免除スルコト云フ案ナンデアリマス、ナゼカト  
申シマスルト此五十哩以下ノ通行税ハ僅カニ一錢デアリマス、サウ致シマシテ一錢以下ノ端數  
ニナツタ場合ニハ總テ免除スルコト云フ第二項ガ附イテ居リマスカラ、其結果ト致シマシテ學生ハ  
總テ一錢以下ノ通行税ヲ拂フコトニナル結果ト致シマシテ、法文ニハ低減ヲスルコト書イテアリ  
マスルケレドモ、事實ハ總テ之ヲ免除スルコトニナルデアアル、元此法文ガ出來マシタトコロ  
ノ趣意——發案者ノ趣意ヲ御尋致シマスルト、回數券定期乗車券ノ如キモノハ總テノ割引ガシ  
テアルノデアアル、デアアルカラシテ此上割引ヲスル必要ハナイ、斯ウ云フコトデアッタデアリマ  
スルガ、此第一項ノ外單ニ割引ニ止マルノデアリマスカラ、ソレデモ均衡ヲ得ル譯デアリマス  
ケレドモ、條文ノ書キ方ハ斯ノ如クナツテ居リマシテモ結局免税ト云フコトニナルノデアアル、申  
スマデモゴザリマセズ、租税ノ一大原則トシテ互ノ均衡ヲ保持シナケレバナラヌノハ申スマデ  
モナイノデアアル、此場合ニ於キマシテ東京ダケノ學生兵卒労働者ガ此恩惠ヲ受ケテ、其他ノ地方  
ノ人ガ受ケナイト云フコトハ甚ダ遺憾千萬デアアルカラシテ、此但書ヲ削除致シマシテ、全國ノ此  
種ノ人間ニ總テ同一ノ課税、同一ノ恩惠ヲ受ケサセタイト云フノガ此案ノ趣意デアリマス

才賀藤吉君ノ演説

私ノ修正意見ハ現行法中ノ第三條ニ左ノ一項ヲ加ヘルト云フデアリマス、即チ「市内又ハ命令ヲ  
以テ市内ニ準スヘキモノト定メタル區域内ノミヲ通行スルトキ」附則本法ハ大正三年四月一  
日ヨリ之ヲ實施ス」ト是ダケノ修正デアリマス、デ此修正案ヲ提出致シマシタ理由ハ、長谷場純  
孝君外諸君ノ所謂政友會案ナルモノガ委員會ニ於テ通過致シマシタガ、若シ之ヲ行フト致シマ  
スルト實際ニ於テ之ヲ行ヒ得ナイコトニナル、先刻鐵道ニ就イテノ經驗家ト言ハル、小林君ヨ  
リ縷々御意見ガアリマシタケレドモ、小林君ハ鐵道ニ命令スル經驗ハ持ッテ居ラレタカ知レマセ  
ヌガ鐵道ヲ經營サレル御經驗ハドウデアッタカト思フ、鐵道ヲ經營スルモノ、立場ヨリ見マス  
レバ此所謂政友會案ナルモノハ之ヲ實行スルニ於テ頗ル困難ノモノデアアル、段々前議員ヨリ勞  
働者ノ點ニ付テモ議論ガアリマシタガ、即チ此労働者ヲ區別スルコトガ餘程困難デアアル、假ニ之  
ヲ實行シタ所デ約四十二三萬圓ノ減額ニナルト云フコトデアリマスルガ、委員會デ本員ト政友  
會ノ提出者及賛成者諸君ト意見ヲ交換シマシタ結果ニ依リマスルト、政友會ノ諸君ノ御説明デ  
ハ之ヲ實行スル上ニ於テ頗ル難儀ナコトヲ認メテ居ルガ、實行スルノハ不可能デアアルガ如ク感  
ゼラレマシテ、漸ク政府委員ガ之ヲ説明シマシテ、政府委員ノ説明ニ依ッテ稍、行ヒ易イコトガア  
ルヤウニ思ツタノデス、即チ労働者學生兵卒ハ契約ニ依ッテ割引ヲスルコト云フコトニナツテ居リ  
マスガ、契約ナルモノハ如何ニシテ契約スルカト云フコトデアアル、政府委員ノ所謂契約ハ乗車券  
若クハ乗船券ノ賣買ヲシタ時ガ即チ契約ノ成立シタ時デアアル、斯ウ云フ説明デアリマシタ、賣買  
ハ誰ガスルノデアアルカト云へバ、車掌船長若クハ驛長經營者ガ認メテ相當ノ權能ヲ與ヘタ者ガ  
此契約ヲスル、斯様ナコトニナルノデアアル、若シ斯様ニシテ労働者ノ認定ヲ車掌或ハ驛長ニ任セ  
テ置キマシタナラバ、ソレハ實際交通機關ヲ運轉サス上ニ於テ非常ナ障害ガ出來ル譯デアアル、汽  
車ノ中デ労働者ト認メル認メヌト云フヤウナ種々ナ問題ガ起リマシテ、實行スルノニハ頗ル困  
難デアリマス、又説明者ハ多ク均一制度ノ所ヲ引例サレタヤウデアリマスケレドモ、我國ニ於テ  
市内線ノ電車ヲ經營ヲ致シテ居リマスモノ、均一制度ヲ採ッテ居ル所ハ僅カニシカアリマセヌ、



全國到ル所ノ市内ノ交通機關ハ、多ク區間制度ヲ採ッテ居ルノデアアル、又市ニ準ズル市間鐵道、是モ無論區間制度ヲ採ッテ居ル、故ニ或會社ノ如キハ一線路内デ三十三種ノ切符ヲ持ッテ居ル譯デアアル、之ニ對シテ割引切符或ハ無稅ノ切符トカ云フガ如ク種類ヲ澤山ニ致シマシタナラバ、三十二種必要ナ場合ニハ六十四種要ルト云フコトニナリマシテ、營業上頗ル煩雜ヲ來スノミナラズ、其從業者ハ一人デ之ヲ圓滑ニ行フコトガ出來ナイヤウナ場合ガアリマス、又其結果經營者ニ費用ガ多ク掛ルタメニ百分ノ一ノ取扱納稅ノ徵收料ヲ交付スルト云フコトデアリマスケレドモ、百分ノ一ノ納稅料ヲ交付サレタトコロデ、經營者ハ結局此納稅取扱ノタメニ損耗ヲ來スヤウナコトモアリマス、デ此政友會案ニ依ッテ四十二三萬圓ノ減稅デアルト云フ御考デアリマスケレドモ、之ヲ實行致シマスレバ、約是ヨリ百萬圓位ハ減稅ノ程度ガ増スダラウト本員ハ竊カニ信ジテ、之ヲ別席デアアリマシタガ政府委員ニ尋ネマシタラ、政府委員モ或ハサウデアラウト云フヤウナ感ジヲ起シテ居ッタコトモアリマス、ソレデ吾々ハ此處ニ別ニ案ヲ提出シマシタ、ト申シマスノハ畢竟我國ノ通行稅ハ一種ノ國稅デアリマシテ、行爲稅ノ一種デアリマスケレドモ、特ニ汽車汽船電車等ニ限ラレテ居ルノデアッテ其他ノ交通機關ニハ何等課稅ヲ致シテ居ラス、市内線ニ於テ特ニ此課稅ヲスルト云フコトハ、外國ニ於キマシテモ頗ル其例ガ少ナイノデアリマス、英吉利杯ニ於キマシテモ運輸業者ニ對シテハ其乘客收入ニ課スル國稅ハ稅ノ轉嫁ノ如何ニ拘ラズ我國ノ通行稅トハ全ク性質ヲ異ニシテ居ルノデアリマシテ、千八百四十四年以後ハ鐵道ノ下等乘客ノ賃金收入ニ對シテ免除ヲシテ居ルノデアリマス、又市内線ハ無論通行稅ヲ課シテ居ラナイノデアアル、佛蘭西ニ於キマシテモ軌道ノ乘客ニハ稅ヲ課シテ居リマセヌ、奧太利、洪牙利、伊太利、是等ノ國モ皆市内ノ通行稅ハ徵收致シテ居リマセヌ、露西亞ノ如キモ同様デアリマス、獨逸デハ千九百六年ノ八月ニ汽車汽船ノ通行稅ヲ初メテ設ケマシテ、六十「ベニヒ」乃至二「マーク」ノ切符ニ對シマシテハ一「等」ニ「二十」「ベニヒ」ニ「等」ニ「二十」「ベニヒ」ニ「等」ニ「五」「ベニヒ」ヲ課シマシテ、段々ソレヲ増率シテ五十「マーク」以上ノ切符ニ對シテハ一「等」ハ八「マーク」ニ「等」ハ四「マーク」ダガ、汽車ノ而モ四等ハ全然免除シテ居ルノデアリマス、亞米利加ニ於テモ會社ノ

稅ハアリマスケレドモ、通行ノ稅ハアリマセヌ、斯ノ如ク外國ニ於テモ斯様ニ通行稅ト云フモノハソレ、市内若クハ市ニ準ズルモノハ多ク課稅ヲ致シマセヌ、我國ニ於テモ此市又ハ市ニ準ズベキ所ニ於テハ此稅ヲ課稅シナイ方ガ適當デアラウ、吾々ハ平素營業稅ノ全廢ヲ主張シテ居ル者デアリマスケレドモ、今日ノ形勢ニ依ッテ既ニ通行稅全廢ガ廢案ニナリマシタ以上ハ、斯ノ如キ修正案ヲ提出シマシテ、此案ヲ實行シマスレバ勞働者ノ問題モ起リマセヌ、營業者ニ於テモ適當ニ之ヲ運轉シテ行クコトガ出來ルノデアリマス、思フニ所謂政友會案ニ確定致シマシタ所デ、マダ明年ノ四月デナケレバ是ガ實施サレヌノデアリマスカラ、本員ハ固ク之ヲ信ジテ居ルデス、政友會ニシテ尙一步ヲ進メテ通行稅ハ如何ナルモノデアアルカト云フコトヲ御研究ニナリマシタナラバ、次ノ議會ニハ此度出サレタ修正案ニ對シテ、更ニ又修正案ヲ御提出ニナルヤウナコトガ必ズアラウト私ハ信ジマス、故ニ今日ハ吾々ノ修正案ニ大雅量ヲ以ッテ御贊成アラントヲ希望致シマス

議長ハ討論盡キタリト認メ各修正案ヲ採決シ院議兩案共ニ少數ニテ否決シ次テ本案ノ第三讀會ヲ開キ紫安新九郎君ハ本案ニ反對ノ演說ヲ爲セリ

紫安新九郎君ノ演說

諸君、本員ハ本案ニ對シマシテハ議案全體ヲ非トスルノ意見即チ全廢案ヲ主張スルノデゴザイマス、本員ハ多士濟々タル政友會諸君ノ御提案ニ依リマシテ、我國ノ法律ニ未ダ見ザルノ文字ヲ此法律案ニ於キマシテ見タト云フコトハ本員ノ甚ダ喜ブトコロデゴザイマス、法治國タル我國ノ法律ニ未ダ見ザル文字ヲ此法律案ニ見テ居ルノデアアル、即チ學生兵卒勞働者ト云フ名稱デゴザイマス、此學生兵卒勞働者ト云フ名稱ハ、世間普通ノ意義ニ於テハ何人モ之ニ疑ヲ挾ム者ハナイノデアリマス、併ナガラ是ガ法律上ノ用語トナルト云フコトニ付テハ多大ノ疑惑ヲ本員ハ抱クノデゴザイマス、何故ニ世間普通ノ意義ニ於テ何人モ疑ヲ挾マザル文字ニ向ッテ、本員ガ疑



ヲ抱クカト申シマスルト、大ニ抱クベキ理由ガアルノデゴザイマス、殊ニ勞働者ト云ヘル名稱ハ我國法上ニ於テハ未ダ少シモ頭ヲ出シテ居ナイ、所ガ此勞働者ナル文字ガ法律案ニ現ハレテ來タト云フコトハ、確ニ是ハ社會政策若クハ都市政策ニ觸レタモノデアツテ、將來此勞働者ナル法律上ノ用語ハ我國法上ニ於テ重大ナル意義ヲ有スルコトニナルデアラウト信ズルデアリマス此法案ニ云フトコロノ學生兵卒勞働者ト云フ者ハ何者ヲ指スノデアルカ、意義ガ甚ダ明白ナラヌデアアル、何故ニ意義ガ甚ダ明白ナラヌカト言ヒマス、刑事訴訟法第十六條ニハ生徒ト云フ文字ハアル、而シテ勅令ニ於テハ學生ヲ指シテ帝國大學生及ビ大學生院生ヲ之ヲ學生ト稱シ、高等學校以外ノ生徒ヲ即チ生徒ト稱シテ居ルノデアアル、故ニ茲ニ謂フトコロノ學生ナル文字ハ刑事訴訟法ニ云フトコロノ生徒ヲ指シテ居ルノデアアルカ、或ハ勅令デ云フトコロノ學生ヲ指シテ居ルノデアアルカ、此點ニ於テ意義甚ダ明白ナラヌデアアル、又兵卒ニ付テモ其通りデアアル、陸軍ニ於テハ下級ノ軍人ヲ稱シテ兵卒ト稱シテ居ル、海軍ニ於テハ最下級ノ軍人ヲ稱シテ水兵ト云ツテ居ルノデアアル、故ニ茲ニ謂フ兵卒ナル者ハ陸軍ノ最下級ノ軍人ノ兵卒ヲ指スノデアアルカ、或ハ海軍ノ最下級ノ軍人タル水兵ヲモ此中ニ包含セシメテ居ルノデアアルカ、甚ダ意義明白ナラヌデアアル、又第三ニハ此勞働者ナル用語デアアル、民事訴訟法第十六條ニハ所謂斯ウ云フコトヲ云ツテ居ルノデアアル、職工ト云フ文字モアリ又雇人ト云フ文字モアル、營業使用人若クハ從業者ト云フ用語ガアル、併ナガラ勞働者ト云フ法律上ノ用語ニ至ツテハ未ダナイノデアアル故ニ此勞働者ナルモノ殊ニ將來我國ノ都市政策社會政策ノ上ニ重大ノ意義ヲ有シテ居ルトコロノ勞働者ナル用語ガ法律上ニ現ハル、ニ至ツテハ、是ハ餘程慎重ニ意ヲ用弗ケレバナラナイコトデアラウト思フデアリマス、然ルニ多士濟々タル政友會諸君ニ依ツテ御提出ニナツタ此法律案ニ此文字ノ使用ニ付テ、意義ノ甚ダ明白ナラヌ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ曖昧摸稜ノ意義ヲ有スル法文ヲ見ルト云フコトハ、本員ハ政友會諸君ノ名譽ノ爲メニ甚ダ遺憾トスルトコロデゴザイマス、所ガ此勞働者ノ——勞働者ノ意義ニ付キ先刻小林君ガ政友會ヲ代表シテ演說ニナツタ、本員ハ小林君ガボツトトナカト長イ間御演說ニナツタ、小林君ハ此法案ヲ維持セラル、ニ付テ如何ナル

トコロニ根據ヲ御置キニナルデアラウカト云フコトニ付テ本員ハ初メヨリ終リマデ餘程注意ヲ拂ツテ居ッタノデアアル、初ヨリ終リマデ餘程注意ヲ拂ツテ居ッタコロガ、ナカト長イ間御論辯ニナリマシタカナレド、本員ハ此法案ヲ維持セラル、論據ト云フモノハ何處ニアルカト云フコトヲ捉ヘルノニ非常ニ苦ンダデアリマス、苦ンダ結果、本員ハ一ツノ論據ヲ擧ヘタノデアアル、小林君ハ先刻斯様ナ意味ノ御言葉ガアツタ、勞働者ノ定義ニ付テハ反對論者ハ種々ノコトヲ申シマス、併ナガラ勞働者トハ何ヲ言フカト云フコトニ法律ニ掲ゲルト云フコトハ、甚ダ煩雜ニナル是カラ先ガ諸君ノ御記憶ニ深ク存シタイ言葉デアリマス、是ハ運送業者ト通行業者トノ協定ニ任カシテ宜イト云フコトヲ小林君ガ斷言セラレタノデアアル、法治國タル我帝國ニハイロノ法律ハ澤山アリマス、併ナガラ此法律ノ適用ニ方テ、當業者ト御客様トガ協議ヲシテ法律ノ意義ヲ確定セントスルヤウナ法律ハ、本員不敏ニシテ未ダ一ツモ發見シナイノデアリマス、斯様ナ意義ヲ有スル法律案ヲ御提出ニナリマシテ、サウシテ是ガ實際ニ行ハル、ニ方ツテハドウナルカト云フト、決シテ是ハ實際ニハ運用ノ出來ナイ法律デアリマス、若シ小林君ノ言フコトヲ理由アリト致シマシテ、勞働者ノ如何ナルモノデアルト云フコトヲ定メル場合ニ、運送業者ト小林君ノ所謂通行業者——日本ニハ通行業者ナルモノハ本員ハ見ナイノデアアル、通行者ハアルカナレドモ、通行ヲ以テ業トシテ居ル者ハ本員不敏ニシテ未ダ見ナイノデアリマス、是ハ小林君ノ御言ヒ誤リデアッタラウト思ヒマス、此勞働者ト云フニ付テ單ニ其例ヲ東京ノミニ取ツテ見マシテモ、朝勞働者ガ電車ニ乘リマス時ニハ、幾百人若クハ幾千人ノ人ガ電車ノ昇降場ニ輻湊致シテ居ル、此場合ニ當テ小林君ノ申サル、通り、電車ノ車掌運轉手等ト乗客ト己ハ勞働者ダト云ヒ電車ノ車掌運轉手ハオ前ハ勞働者ト認メナイト云フ、其場合ニ數百人若クハ數千人ノ人ヲ相手ニ致シマシテ勞働者ノ意義ヲ協定致シマシタナラバ如何様ノ結果ヲ生ジマセウカ、其電車ハ一時間ニシテ動かサレルカ、或ハ數時間ニシテ動かサレルカ、或ハ一日動かカスコトガ出來ヌヤウナ結果ヲ生ズルデアラウト思ヒマス、是本員ガ實際ノ上ニ於テ行フコトガ出來ナイ、若シ之ヲ政友會諸君ガ強イテ行ハントスルナラバ、政友會諸君ノ——私ハ政友會諸君ノ中ニハ法律上ノ智識ニ



於テ甚ダ本員等ノ敬服スル人ノ勲カラザルコトヲ平素感ジテ居リマスガ、此法案ガ法律案トナッテ長ク我國ニ存スルト云フコトニナリマス、政友會諸君ノ法律上ニ於ケル智識ト申シマスルカ、御考ガ長ク其痕跡ガ此法律ニ依ッテ遺ルデアラウト思フ、ソレガ遺ルノハ政友會諸君ノ面目一ニ止マルノデアリマスガ、實際ニ此法律ハ適用セラレナイノデアアル、適用セラレルカセラレナイカハ此法律案ガ法律トナッタ其結果、一年ナリ二年ナリノ後ヲ諸君ガ十分ニ御考ニナッタナラバ、之ガタメニ當業者ガドレ程ノ迷惑ヲ感ズルカ、又諸君ノ此處ニ設ケラレタル學生、兵卒、勞働者ガドレ程ノ利益ヲ得ルカト云フコトガ明白ニナルノデアアル、故ニ私ハ政友會諸君ノ名譽ヲ維持スル上ニ於テ行フ可カラザル案ハ潔ク御撤回ニナランコトヲ希望スル、即チ議案全體ヲ否トスルノ意見ヲ述ベマス

他ニ討論ナク横田千之助君ハ委員長報告通可決セムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ表決ニ及テ紫安君ノ廢案說ヲ否決シ本案ハ茲ニ可決確定シタリ

第四案ニ對シテハ院議之ヲ否決シタリ

第一案及第二案ハ即日貴族院ニ送付、同院ハ三月二十日孰レモ否決シタリ

五一 織物消費稅法中改正法律案

織物消費稅法中左ノ通改正ス

第二條 消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ五トス

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年一月三十日岡部次郎君提出、二月五日、二十四日提出者ノ請求又ハ出席ナキ爲會議ヲ延期シ同月二十八日其ノ第一讀會ヲ開キ田川大吉郎君ハ提出者ニ代リテ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ趣意ハ、唯今簡單ト仰セノ如ク何等ノ多言ヲ費ス必要ヲ認メマセヌ、現行稅率ノ百分ノ十トナッテ居リマスルノヲ、頗ル高シト認メマシテ、之ヲ百分ノ五ニ輕減シタイト云フ希望ニ過ギマセヌ、但シ此提案ハ大正三年度ヨリ施行スル希望ニナッテ居リマス、故ニ政友會諸君ノ提案ト施行ノ期日ヲ異ニ致シテ居リマス、大正三年度ヨリ施行致シマスニ付テハ財源ノ必要ト致シマスガ、其財源ハ前ニ決定ニ相成リマシタル歳入ト歳出トノ相違、四千六百萬圓ニ求ムルノ趣意デアリマス、ドウゾ此案ニ御賛成ヲ希望致シマス、茲ニ此提案ノ説明ガ數、時機ヲ失ヒマシテ、今日ニマデ遲延致シマシタコトヲ御詫ヲ致シマス、御容捨ヲ乞ヒマス

次テ長谷場純孝君外六名提出織物消費稅法中改正法律案外三件委員ニ付託スルニ決シ委員ハ審査ノ末本案ヲ否決シ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月五日第一讀會ノ續會ヲ開キ討論ノ末本案ヲ否決セリ(前號參看)

五二 質屋取締法中改正法律案

質屋取締法中左ノ通改正ス



第三條 質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察官ニ申告スヘシ  
第五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ質置主ニ於テ之ヲ必要トナササルトキハ交付セサルコトヲ得

三年二月十六日岡田榮君外二名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(光森德治君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、質屋取締規則改正法律案ノ……理由ヲ述ベヤウト思ヒマス、質屋取締規則ノ第三條ニハ社會政策ト致シマシテ、質屋營業者ニ對シマスルトコロノ要求ガ重キニ失シテ居リマスルノデアリマス、ソレ故ニ質屋營業主ニ於キマシテ、其業ニ安ズルコトガ出來ナイノデ、夫デ其質屋營業者ヲシテ其業務ニ安ズルコトニ致シタイト云フノガ目的デアリマス、本案ハ本院ノ昨議會ニ於キマシテ通過シタル案デアリマス、會期ノ終デアリマシテ貴族院ノ方ヘ送付ニナリマシテ、同院ニ於テ決議ニ至ラナカッタ案デゴザイマス、ソレデ更ニ詳細ナル説明ヲ要セヌデモ良カラウト思ヒマスルガ故ニ、大體ニ付キマシテ辯ジャウト思ヒマス、先ヅ現行ノ質屋條例ノ第三條ヲ對照ノタメニ讀ンテ見マス「質屋ハ物品ヲ質ニ取ラントスルトキハ質置主ニ於テ其物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若シ不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ」トアリマス、之ヲ改正案ハ「質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其旨ヲ警察官ニ申告スヘシ」ト改正シマス、ソレデ此第三條ノ始ヲ削除シタコトニナリマスルノデ、此現行法ノ第三條ガアル故ニ、質屋ガ其業ニ安ズルコトガ出來ナイノト、サウシテ其要求ガ過大デアルカラ之ヲ輕減シナケレバナラヌト云フ理由デス、ソレハ質屋ガ善意ニ質物ヲ受入レマシテ後ニ、其物品ガ不正品デアルト云フコトガ分ル、分リマスルト云フト、其結果カラ、原因ヘ推上ッ

テ往キマスルト云フト、其質物ヲ受入ルトキニ於テ相當ナル即チ權利アリト云フ事柄ヲ推定スルコトガ出來ナイノデ、權利ナキ人が質ニ入レテアルノデスカラ、結果カラ推シマシテソレデ其當時ニ權利アリト云フコトヲ確認シ得ザル状態ニ於テ取引ヲシタト云フニ歸著スルノデ、サウナッテ來マスルト云フト、同法ノ二十三號ニ於キマシテ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラレルノデアル、ソレデ質屋營業者ガ質物ヲ取りマシタ後ニ於キマシテ、若シ其品ガ不正品デアッタ時分ニハ、斯ノ如キ制裁ヲ受ケナレバナラヌト云フ、年中不安ノ念ニヤハリ蔽ハレテ居ル、ソコデ其業務ニ安ズルコトガ出來ナイト云フノデ、其業務ニ安ズルヤウニ此法ヲ輕減シナケレバナラヌト云フ必要ガアルノデ、此三條ノ「權利アルコトヲ確認シタル後」ト云フコトヲ削リマスルト云フト、然ラバ質屋ノ倉庫ハ恰モ贓物ノ倉庫ト化シハシナイカト云フ茲ニ懸念ガ起ルトコロガ此改正案ニ於キマシテ「質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其旨ヲ警察官ニ申告スヘシ」トヤハリ現行法ノ一部ガ存シテ居リマスルカラシマシテ、質屋ノ倉庫ガ贓物ノ倉庫トナル恐レハアリマセヌノデゴザイマス、ソレデ社會政策ト致シマシテ犯罪ヲ間接ニ豫防スルト云フトコロノ目的ハ依然トシテ保タル、ノデアリマス、是ニ於キマシテソレナラバ不正品デアルト云フ事柄ノ疑ガアル物ハ警察ヘ届ケナレバナラヌ、其品ガ後ニ不正品ト云フコトニナッタナラバ始メテ前段ト同ジ如クニヤハリ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラレルト云フコトニナリマス、乍併其處ニ於テ責任ノ上ニ於テ舉證ノ上ニ於テ輕重ガアル、後ノヤウニ不正ノ疑ガアルトキハ其旨ヲ届出デヨトスルト、不正ノ疑ガアッタデアラウト、警察官カラ問ハレタ時ニ、私ハソナ疑ハナカッタト答ヘレバ宜イケレドモ、現行法ヲ見ルト權利アル事柄ヲ何デ確メタカト突込マレタ場合ニ、斯クノ次第デ確メタト云フ證據ガ舉ラナケレバ、ヤハリ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラレル、ソレデ舉證ノ上ニ於キマシテ現行法ヨリハ輕クナルカラ、質屋營業主ハ聊カ其業ニ安ズルコトガ出來ルノデアル、ソレデ此現行法カラ申シマス、質屋ハ例ヘバ百圓貸スト、元利百二十圓ナラ、百二十圓トスル、其品物ガ不正品デアレバ同法十六條ニ於テ警察官ハ何時デモ取上ゲルコトガ出來マスカラ、ソレデ罰金ニ處セズトモ貸シタ金ノ損ハ誰モシタクナイ



モノデアアルカラ、贓物ヲ受入レルコトヲ防グニ足ルノデアリマス、是ガ即チ質屋營業主ニ對スル  
トコロノ苦痛ヲ輕減シ、サウシテ其業ニ安ンズルコトガ出來レバ、社會政策トシテモ法ノ要求ヲ  
全然滅却致サナイノデゴザイマス、次ニ第五ノ第二項ニ但書ガ加ハリマス、ソレハ質屋ハ質契約  
ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スベシトアル、所ガ此質屋ニ質物ヲ入レニ行ク場合ハ、  
亭主ハ商業ノタメニ他ヘ出テ歸ラヌトキ、晚餐ノ支度ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ時間ガ  
切迫シタ時ニ、此家内ガ冬ナラ夏ノ物ヲ質ニ置キ、夏ナラ冬ノモノヲ置クト云フヤウナ工合デ以  
ツテ、其質ヲ置イタ人ハ早ク金ヲ持ッテ歸ラネバナラヌト云フ急務ニ迫ッテ居リマスカラ、質札ヲ  
其者ニ渡サウトシテモ、ソレヲ受取ラズニ其場ヲ去ルノデゴザイマス、サウスルトヤハリ二圓以  
上五十圓以下ノ罰金ニ處セラル、規定デアリマスカラ、質置キヲシタ人ガソレヲ要シナイ場合  
ニ於テハ、其者ニ強イテ質札ヲ渡サネバナラヌト云フ規定ヲ存スルノハ、質屋ガ其業ヲ營ムニ苦  
ムノデゴザイマスカラ、ソレデ此質置主ガソレヲ求メザル場合ハ交付スルニ及バヌト云フコト  
ニ改正シタイノデアリマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ三月二日委員長及理事ノ互  
選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

質屋取締法中左ノ通改正ス

第三條 質屋ハ質物ニ付不正ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察官ニ申告スヘシ

第五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ質置主ニ於テ之ヲ必要トナササルトキハ交付セサルコトヲ得

同月十二日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長高橋直治君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

唯今議事ニ上リマシタル質屋取締法中改正法律案ノ結果ヲ御報告致シマス、委員會ヲ  
開キマシタルコトハ三回ニシマシテ、本案ハ諸君モ御承知ノ通り、二十四議會ヨリ本院ニ可決  
確定致シマシテモ、政府委員ノ御同意ガ無キタメニ何時モ貴族院ニ於テ否決不成立ニ終リマス  
ルノデゴザイマス、故ニ今回ノ委員會ハ議ノ通りマセヌ、空論ヲ避ケマシテ、政府ノ同意ヲ求メ  
ルタメニ政府ト懇談協議會ヲ開イタ次第デゴザイマス、其懇談ノ結果、第三條ノ確認ト云フ  
文字ヲ警察官ガ苛酷ニ取扱ヒマシテ、當業者ガ苦ミマス次第デアリマス、故ニ委員會ノ請求ニ依  
リマシテ各地方官ニ訓令ヲ發シテ其ノ確認ト云フ文字ヲ地方官ニ穩カニ取扱ハセルト云フコト  
ヲ明言サレマシテ、委員會ハ其明言ヲ信ジマシテ、原案ヲ削除シタ次第デゴザイマス、第五條  
ノ但書、質置主ニ於テ必要ト爲サルトキハ交付セザルコトヲ得ト云フ原案ニ對シテ、但シ命令  
ノ定ムル所ニ依テ之ヲ交付セザルコトヲ得ト云フ修正案ガ吉原君カラ提出ニナリマシテ、之ニ  
ハ提案者モ満足シ、政府モ御同意ニナリマシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ修正ヲ可決致シタ次第  
デゴザイマス、本會ニ於キマシテモ滿場一致ヲ以テ可決確定アランコトヲ希望致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ  
即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

五三 國有土地森林原野下戻法中改正法律案

國有土地森林原野下戻法中左ノ通改正ス

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ土地森林原野ニ於テ主產物ヲ採收シタル者ハ所有ノ事實アリタルモノト看做ス但シ他

ニ所有者アリト認ムヘキ證據アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一條第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

第二條第四號中「分收」ヲ「收得」ニ改ム

三年二月十七日岡田泰藏君提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

議題ニ上リマシタ國有土地森林原野下戻法中改正法律案ハ、先年本院ノ協贊ヲ經マシテ貴族院ニ回付サレタ案デアリマス、然ルニ貴族院ノ見解一致セザリシモノデゴザイマスガ、茲ニ更ニ本改正ノ原因及理由ヲ一層明ニシテ從來ノ主張ヲ遂ゲタイト考ヘマス、其改正ハ同法第一條一項ノ次ニ「前項ノ土地森林原野ニ於テ主物產ヲ採收シタル者ハ所有ノ事實アリタルモノト看做ス但シ他ニ所有者アリト認ムヘキ證據アルモノハ此ノ限ニ在ラス」其他附隨セル二點ノ改正デゴザイマシテ、此改正ヲ致シマスル原因ハ、從來行政裁判所ノ爲シ來リマスル判例ガ、洵ニ不道理ヲ極メテ居リマスルノガ原因デアリマス、其一例ヲ茲ニ擧ゲマスルト、明治三十七年ノ第千八百十二號、明治四十二年十一月三十日第一號部宣告、此判決ノ要旨ニ依リマスルト、斯様ナ判決ヲ致シテ居リマス「原告ハ各證ニ依リ係争地ヨリ薪ヲ刈取リタルコト、秣ヲ收得シタルコト、山林ノ保護ヲ爲シタルコト、盜伐者ヲ處分シタルコト、立木ヲ賣却シタルコト、立木ノ一部ヲ村民ニ分與シタルコト、係争地ノ一部ヲ寄合林ト爲シタルコト等ヲ證スルモ、是等ノ行爲ハ毛上ノ權利ヲ有スルモノニ於テモ爲シ得ヘキ事項ナルニ依リ、土地所有ノ證據トナスコトヲ得ス」斯ウ云フ判

決ガ澤山アルノデス、思フニ貴族院ニ對シテ説明スル方法ガアリマセヌカラ、斯様ナコトハ改正ノ原因ト理由ダケハ充分述ベテ置キタイ、思フニ前記ノ判決文中ニ説イテアリマスルヤウニ、主產物ノ採收ガ獨リ土地所有權ノ效果ニ限ラズ、毛上收益權ノ效果トシテモ亦存在スルト云フノデアリマスルガ、言葉ヲ換ヘマスレバ主產物ノ採收ハ、獨リ毛上收益權者ノ行爲タルニ止ラズ、多クハ土地所有權者ノ行爲トシテ存在スルモノデアルカラ、行政裁判所ハ此主產物ノ伐採賣却又ハ代金ノ割賦等ノ事實ハ、土地所有權ノ效果トシテ存在スルカ、或ハ又毛上收益權ノ效果トシテ存在セルカ、須ラク二者何レニ屬スルカ審ニ事實ノ審査ヲ遂ゲ其確定ヲ明カニシ、然ル後ニ所有權ノ有ル無イ、從ッテ下戻請求ノ當否ニ對スル裁判ヲスベキ筋合デアルノニ、然ラズシテ主產物ノ採取ハ土地所有ノ證據デナイト云フ一言ヲ以テ排斥シ去ッテ他ヲ顧ミナイ、其結果ト云フモノハ全ク此下戻法ノ精神トスル人民所有ノ事實アルモノニ對シテハ、之ヲ躊躇ナク返付シ、人民ノ所有權ヲ尊重シ事ノ公明ヲ維持スルト云フ、此精神ヲ滅却シテ居ルコトニナリマスノデアリマス、政府ハ此道理ヲ解セヌノデナクシテ、現ニ下戻法發布後ニ明治三十五年五月二十日ノ農商務省ノ訓令第十二號、國有土地森林原野下戻法適用心得第四項ニ於テ、土地森林原野ニ關シ所有ノ事實ト稱スルハ左ニ列記シタルモノヲ謂フ、ト云フ箇條ガアリマシテ、其第八ニ「主產物ノ伐採賣却又ハ代金ノ割賦等ハ所有權ノ效果ト認メ得ヘキモノ」ト書イテアルノデアリマス、之ニ由テ是ヲ觀マスルモ、主產物ヲ採收セル事實ハ所有權ノ證據タリ、斯ル場合アルコトヲ特ニ規定シテ居リマス、然ルニ行政裁判所ノ維持シテ居リマスル幾多ノ判例ハ、主產物ノ採收ハ絶對ニ土地所有ノ證據トナラズトシテ排斥シテ居ルノハ不條理ノ甚ダシキモノデアリマス、元來土地所有ノ主要ナル效果ハ、其土地ヲ使用シテ是ヨリ生ズル收益ヲ得ルト云フコトニアリマスノデ、自由ニ使用收益ヲ爲シツアル者ニ對シテハ、之ヲ其土地ノ所有者ト推定スベキハ法理ノ然ラシムルトコロデアリマス、依ッテ此下戻法ヲ適用スルニ於キマシテモ、此法理ニ從ッテ他ニ所有者アリト認ムベキ事實ナクシテ、主產物ヲ自由ニ採收シテ居ル證據アル場合ハ、之ヲ所有ノ事實アルモノト認ムベキ筋合デアリマスルガ故ニ、本案ヲ以テ改正ヲ求ムル次第デアリマス



次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ三月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ同月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長則元由庸君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

私ハ極メテ簡單ニ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、此改正案ノ條項ハ現行規則ノ「第一條ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ前項ノ土地森林原野ニ於テ主產物ヲ採取シタル者ハ所有ノ事實アリタルモノト見做ス但シ他ニ所有者アリト認ムヘキ證據アルモノハ此限ニ在ラス」尙「第一條第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム」「第二條第四號中「分收」ヲ「收得」ニ改ム」斯ウ云フノデアリマス、提案ノ理由ト致シマスル所ハ、現行ノ下戻法ハ元來國有林野社寺土地處分ノ際ニ極メテ杜撰ノ取調ヲナシテ各持主ノ權利ヲ害シテ居ルカラ、之ヲ相當ノ方法ヲ以テ救済スルト云フノデアアルガ、爾來此法律ノ施行ヲ致シマシタル結果ニ付テ見マスト云フト、農商務省ノ取扱ッテ居リマスル處分ガ甚ダ穩當ヲ缺イテ居ル、尙ホ行政裁判所ノ裁判ノ理由ニ至リマシテモ、此法律ノ精神ヲ無視シテ居ル點ガアルカラ、即チ斯ノ如キ改正案ヲ提起致シマシテ、爾來當業者ノ權利ヲ十分ニ確保シタイト云フノ案デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ總員ノ御出席ヲ得マシテ、而シテ滿場一致ヲ以テ可決致シマシテゴザイマス、尙詳細ノ理由ノ如キモノハ、提案者岡田君ガ先日此壇ニ於テ詳細御述べニナッテ居リマスカラ略シマシテ、私ハ滿場ノ御賛成ヲ願ヒマス、此段御報告致シマス

岡本農商務省山林局長ハ本案ニ反對ノ演說ヲ爲セリ即チ左ノ如シ

甚ダ遺憾デゴザイマスケレドモ、本案ニハ反對デゴザイマス、其理由ト致シマシテ本案ノ改正案ニ依リマスレバ、森林原野ニ對シマシテ單ニ主產物ヲ伐リマシタト云フコトノミヲ以チマシテ、直チニ所有ノ事實アリタルモノト看做シマシテ、其森林原野ヲ下戻スト云フコトデゴザイマス、是ハ甚ダ當ヲ得ナイコト、存ジマス、又明治三十二年法律第九十九號ニ依リマシテ、下戻申請ニ本案ニハ反對デゴザイマス

次テ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ院議委員會ノ報告ヲ採用シ之ヲ可決確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

五四 東北六縣田畑地價特別修正法律案

- 第一條 本法ニ於テ東北六縣ト稱スルハ宮城縣、福島縣、山形縣、秋田縣、巖手縣、青森縣ヲ謂フ
- 第二條 東北六縣ノ田畑地價金ノ内五割ヲ修正低減ス
- 第三條 前條ノ低減ハ各筆毎ニ同率ニ之ヲ行フモノトス
- 第四條 地價修正ニ係ル市町村ノ費用ハ低減セラレタル地價ニ比例シテ土地所有主ヨリ徵收ス
- 第五條 本法ニ依リ修正シタル地價ハ大正三年ノ田畑地價ノ徵收ヨリ之ヲ用フ

三年二月十七日齋藤宇一郎君外六名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(齋藤宇一郎君)ハ



唯今議題ニ上リマシタ東北六縣田畑地價特別修正法律案ノ提案ノ趣意ヲ一言致シマス、此案ヲ提出致シマシタ趣旨ハ、趣意書ニモ大要認メテアリマス通リデアリマスガ、第一ニ辯ジテ置キタイコトハ此地價ノ不公平デアアル、從テ修正ヲ求ムルト云フ聲ハ全國一般ニ互ツテ喧シクナツテ居ルノデアリマス、此場合ニ於キマシテ東北ノ地價ノ修正案ヲ提出シタト云フコトハ、必ズシモ他ノ方ハ構ハズシテ差支ナイト云フ意味デハナイノデアリマス、デ最モ不公平ニシテ最モ高キ負擔ヲ持ツテ居ツテ、ソレガ爲ニ非常ナル苦痛ヲ感ジテ居ルトコロノ東北ノ救済問題ノ一トシテ、是非此地價ノ修正ハシナケレバナラヌト云フ趣旨ニ於テ提案ヲ致シタノデアリマス、故ニ然ラバ東北地方ハドレダケ不公平ナ地價ヲ負擔シテ居ルノデアアルカ、ドレダケ高キ地價ヲ盛ラレテアルノデアアルカト云フコトヲ、極ク簡單ニ述ベナケレバ、本案提出ノ趣旨ハ明カニナラヌノデアリマス、甚ダ時間ガ經過シテ居リマシテ御迷惑デアリマスルケレドモ、唯ホンノ表題ノミ此處ニ御紹介ヲ致シマシテ、細カイ事ハ委員會ニ於テ十分ニ私ノ取調ベマシタ材料ヲ提供シテ御研究ヲ乞ヒタイト思フノデアリマス御承知ノ通り、此農事ハ天候ニ依ツテ初メテ營マレテ居ルモノデアリマシテ、是ガ最モ重大ナル關係ヲ有ツテ居ルノデアリマスルノニ、東北ハ御承知ノ通り此氣候上非常ナル不利益ナ位置ニ位シテ居ルノデアリマスルカラ、人智ガ進ミ色々ナル此學理ノ應用ヲ致シマシテ、極力此農事ノ進歩ヲ努メテ居リマスル今日ニモ拘ラズ、ドウシテモ此天候ノ關係カラナカク、以テ他ノ地方ニ比シマシテハ、此智識及ビ其ノ他ノ改良ノ效果ト云フモノハ、舉テ參ラヌノデアリマス、故ニ歲ヲ經ルニ從ツテ東北ノ農業ト云フモノハ、萎靡振ハザルノ状態ニ陥ルノデアリマスルカラシテ、此場合ニ於テ之ヲ救済セズンバ、屢々此天候ノタメニ受クルトコロノ打撃ヲ受ケマシテ、遂ニハ東北ノ農業ガ發達セザルノミナラズ、漸次衰頽スルト云フヤウナコトニナルノデアリマス、是ガタメニ昨年ノ如キハ非常ナル打撃ヲ受ケマシテ、天下ノ同情ニ依ツテ目下此救済ヲ圖ラナケレバナラヌト云フヤウナコトニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ此救済ノ事業タルヤ多大ノ同情ヲ得タニモ拘ラズ、ホンノ一年間ヲ僅ニ一部ノ救済トシテ實施スルノ外

ニ效力ハナイノデアリマス、之ヲ永ク根本的ニ救済シテ行クニハ、斯ノ如キ不公平ナル、是ガタメニ重キ負擔ヲ負ウテ漸次衰頽シテ行クトコロノ根本ニ至ツテ改良ヲ加ヘナケレバナラヌト云フ考カラシテ、此地價ノ修正ト云フコトヲ提案シタノデアリマス、ソコデ此私ハドレダケ負擔ガ重クナツテ居ルカト云フコトヲイロク、調ベマシテ、又學者ノ調査モ參酌致シマシテ、種々ナル表ヲ作ツテ見マシタガ、結論ト致シマシテドウシテモ此統計表、其他ノ實地調査ノ數字ノ上カラ產出シマシタトコロノ計算ニ依レバ、東北ノ地價ハ約三割四分ベカリ高クナツテ居ルノデアリマス、尙具體的ニ申シマスレバ、若シ此純益ト云フモノカラシテ東北ノ地價ハ平均ドノ位ニアッタナラバ適當デアラウト云フコトヲ調ベテ見マスノニ、東北ノ地價ハ平均シテ十七圓、一段歩十七圓ガ今日ノ利益計算カラ調ベマシタ所ノ適當ナル此地價ノ數字ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ現今ノ地價ノ平均ハ御承知ノ通り二十六圓ニナツテ居リマス、故ニ此高キ歩合ト云フモノハ三割四分六厘ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ是等ノ數字ト云フモノハ御承知ノ通り目下日本ノ統計表ヲ作リマス所ノ規則ニ依ツテ、七箇年ノ收穫高ノ平均ニ依ツテ統計表ノ數字ガ平年作トシテモ不作ナル年トノ二箇年ヲ差引マシテ、残り五箇年ノ平均ニ依ツテ統計表ノ數字ガ平年作トシテ生レテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ之ヲ中國及九州地方ノヤウナ所ノ平年作ト較ベマスト云フト、同ジ平年作トシテ生レテ居リマスルトコロノ數字ノ上ニ於テ、最モ憂フベキ危險ノ歩合ノ數字ガ現ハレテ居ルノデアリマス、何トナレバ東北ノ凶作ト申シマスルト云フト、殆ド皆無ト云フコトニナツテ來ル、然ルニ氣候ノ宜シキ所ニ於キマシテハ、不作ト申シマシテモ其收穫ハ皆無ト云フヤウナコトハ極ク稀デアアル、ソレカラ豊作ト申シマスレバ、東北ニ於テハ甚シイ、五石モ六石モ取レルト云フヤウナコトハナイノデアアツテ、僅ニ此歩合ガ進ムダト云フニ過ギナイノデアリマス、故ニ此豊凶二箇年ヲ削ツテ後ノ五箇年五年デ平均スルト云フコトハ、東北ニ於テハ高クナツテ他ノ地方ニ於テハ低イト云フコトニナツテ參リマス、餘リ長ク申シマセズ、其他ニ理由書ニ書イテアリマス所ノ統計等ニ現ハレテ居ル數字ノ、他ニ氣候ノ宜シキ地方ニ於キマシテハ、或ハ御想像ニナリ兼ルヤウナ事情ガ此上ニ加ハツテ居ルト云フコトヲ述ベテ置キマ



シタ、ソレニ付テ一言ヲ加ヘテ置ク必要ガアラウト思ヒマス、ソレハ今統計表ノ數字ガサウ云フ理由ニ依テ、比較的東北ガ高クナツテ居ルト云フコトガ是モ一デアリマス、ソレカラ第二ニ此東北ニ於テハ從來ノ舊習ト申シマスレバ、舊習デアリマスケレドモ、氣候其他ノ關係カラ世間カラ笑ハレテ居リマス所ノ、通シ苗代ト云フモノガアルノデアリマス、苗ヲ取ツタ後ハ全ク一年中遊バセテ置クト云フ、不經濟ナル農作法ヲ用ルナケレバナラヌト云フヤウナコトモ、是非非常ナ損失ニナツテ居ルノデアリマス、此面積ハ少クトモ本田ノ三分ノ一ハ、此通シ苗代ニナツテ居リマス、良イ處ハ二十五分ノ一トカ或ハ二十分ノ一トカ云フ處モアリマス、ケレドモ先ヅ少クトモ三分ノ一ハ通シ苗代トシテハ遊バセテ置カナケレバナラヌコトニナリマスカラ、是等ノ損失モ利益ヲ減少セシムル一ノ理由ニナツテ居リマス、其他雪ガ降ルタメニ納屋ノ設備ヲ多ク要スル、種々乾燥上ノ手數及材料ヲ要スルト云フ事ノ如キ、種々ナルコトヲ合計致シマスレバ、此三割四分ノ上ニ尙數多ノ利益ヲ減少セシムベキ、他地方ニ於テハ想像モ及バザル多クノ不利益ガアルノデアリマス、私共計算ノ上カラ五割ノ地價ノ低減ヲシナケレバ、東北ノ農業ハ成立タヌ、之ヲ救済シナケレバ東北天地ハ決シテ世間ガ要求スル、ソレダケ農業ノ發展ハ致シテ參ラヌノデアリマス、故ニ本案ヲ提出致シタノデアリマス、ドウカ十分御研究ノ上本案ノ成立スルヤウ御願ヲ致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ三月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

五五 日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十四條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道財團、輕便鐵道財團及軌道財團ハ本法ノ適用ニ付キテハ之ヲ不動産ト看做ス

三年二月十七日白川友一君外四名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(白川友一君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ日本勸業法ノ第十四條第三項ノ次ニ「鐵道財團輕便鐵道財團及軌道財團ハ本法ノ適用ニ付キテハ之ヲ不動産ト看做ス」ト云フ一項ヲ加ヘマシテ、改正シタイト云フ主意デアリマス、本案ハ極メテ簡單明瞭デアリマスガ、チヨット一言申上ゲテ置キマス、交通機關タル鐵道及軌道ノ發達ト否トハ産業發展ニ多大ノ關係ノアルコトハ、吾々ノ申ス迄モ無イコトデアリマス、勸業銀行ハ此産業發達ノ上ニ關係ノアリマス銀行デアリマス、此勸業銀行法ノ中、第十四條ヲ唯今申シマシタヤウニ改正ヲ致シマシテ、鐵道並ニ軌道ノ事業ニ對シマシテ、資金融通ノ途ヲ開キタイト云フ主意デアリマス、本案ハ昨年當院ニ於テハ、滿場一致ヲ以テ可決ニナリマシテ、貴族院ニ同リマシタガ會期切迫ノタメニ議了ニナラナカッタノデアリマス、トウゾ御審議アランコトヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ三月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案

(一)ハ委員會修正



第十四條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道財團ト輕便鐵道財團及軌道財團ハ本法ノ適用ニ付キテハ之ヲ不動産ト看做ス

翌十二日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長伊東要藏君ハ左ノ報告ヲ爲ス

日本勸業銀行法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過結果ヲ御報告致シマス、本案ハ鐵道財團、輕便鐵道財團、及軌道財團ニ對シマシテ日本勸業銀行ヨリ放資ノ途ヲ開クト云フノ目的トスル案デアリマス、委員會ニ於キマシテハ質問應答ヲ重ネマシタル後ニ、藏内君ヨリ修正案ガ出マシテ、鐵道財團ト並ニ軌道財團ト云フ此九字ヲ削リマシテ、即チ輕便鐵道財團ダケニ對シテ放資ノ途ヲ開クト云フ修正案ガ出マシテゴザイマス、之ニ對シテ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、又政府委員モ此修正案ニ對シテ同意ヲ表セラレタノデゴザイマス、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ同月二十三日可決奏上シ同月三十一日法律第二十四號ヲ以テ公布セラ

五六 輕便鐵道補助法中改正法律案

輕便鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年六分ノ割合ニ達セザルト

キハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス

第四條 削除

三年二月二十一日白川友一君外三名提出、同月二十八日第一讀會ヲ開キ提出者(小林源藏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

輕便鐵道補助法實施ノ有様ニ鑑ミマシテ、此法律ノ效果ヲ十分ニ發揮セシメンガタメニ此修正案ヲ提出シタノデアリマス、此修正案ハ地方ノ開發、産業發達ニ付キマシテ殊ニ重大ノ關係ヲ有シテ居ルノデアリマスカラ、詳シク説明ヲシタイ積リデアリマシタケレドモ、時間モ切迫致シテ居リマスノデ、諸君ノ意思ヲ推測シマシテ極メテ簡單ニ説明致シマス、此改正ノ要旨ハ本法ニ於テ元ノ金額ガ舊法ニ於テハ益金ガ建設費ニ對シテ五分ノ割合ニ達セザル場合ニ補助スルトアルノヲ、六分ト致シ補助年限ガ五年トアリマスノヲ十年ニ延バシタイト云フノデアリマス、ソレカラ第四條ニ於キマシテ其鐵道ノ益金ガ年八米以上ニ上リマシタ時ニハ、超過シタル時ニハ補助ヲ受ケタル金ノ返濟ニ充テヤウト云フ今日ノ規定ガアルノデアリマスガ、此規定ヲ削除シタイト云フノデアリマス、畢竟金利ノ高イ此時勢ニ於キマシテ、五歩ノ補助デハ十分起業者ノ起業心ヲ満足セシムルコトガ出來マセヌ、又八歩ニ上ツタ以上ニ於テ與ヘタル金ヲ返サセルト云フヤウナコトハ、煩雜ニシテ此法律ノ本旨デアアルマイト思フノデアリマス、年限ノコトモ鐵道ノ發達スル期間ガ果シテ五年アリマスカ十年デ止マルカ分リマセヌケレドモ、先ヅ今日五年ト極ツテ居ルモノヲヨリ長クシタナラバ、起業者ガ大ニ安心スルダラウト思ヒマシテ、此ノ如ク改メタイト思フノデアリマス、詳シイ事ハ委員會ニ於テ申上ゲタイ積リデアリマス、諸君ノ御賛成ヲ得テ



成立セシコトヲ希望致シマス

次テ白川友一君外三名提出日本勸業銀行法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

輕便鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年<sup>五</sup>六分ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限り其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス

前項ノ建設費、營業費、營業收入及益金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第四條 削除

第五條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得ス

同月十三日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長伊東要藏君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

輕便鐵道補助法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過結果ヲ御報告致シマス、本案ハ輕便鐵道ノ發達助成ヲ圖ルタメノ案デゴザイマシテ、補助歩合ノ五歩トアルノヲ六分ニ改メ、補助年限ノ五年トアルノヲ十年ニシ、又第四條ヲ削除シテ利益八歩以上ニ上ツタトキニハ、其上ツタ額ノ半額ヅ、漸次先キノ補助額ニ對シテ返却シテ往カウト云フ條項ヲ削リ去ルト云フノガ提出者ノ案デゴザイマシタガ、委員會ニ於キマシテハ、慎重審議ヲ致シマシテ、當局者ノ意見モ聽キ折衝ヲ十分ニ盡シマシタ上ニ於テ、才賀君ヨリ修正說ガ出マシタ、其修正說ハ第一條ヲバ斯ウ改メ、輕便鐵道ニ於テ營業年度ニ於ケル益金ガ建設費ニ對シ一年五歩ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十年限リ其不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス 前項ノ建設費營業費營業收入及益金ハ命令ノ定ムルトコロニ依リ算出シタル金額ニ依ル」第四條ハ提出案ノ通り削除、第五條ヲ更ニ削除シマス、尙附則トシテ「本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム、本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得ス」斯ウ云フ修正案ガ出マシタ、第一條ノ此六歩ト云フ提出案ガヤハリ現行法ノ通り五分其儘ニ据置キ、而シテ其第二項ニ第五條ヲ削リマシタ、其五條ノ文句ヲ少シ變ヘテ挿入ヲシタ、斯ウ云フ修正デゴザイマスルガ、併シ此趣旨ニ於キマシテハ、現在ハ此補助ノ仕方ニ於テハ精算ヲシタ、其精算ノ結果ニ對シテ精算補助デアアルノヲ、豫算補助ニ改メルト云フ精神ニ是レデナルノデアリマス、ソレカラ一ツハ今ノ精算補助デアリマスルガタメニ、非常ニ營業ノ會社ニ於テモ其手數デアアル、又當局者ニ於テモ非常ナ手數デアアル、其手數ガ之ニ依テ省ケルト云フヤウナ趣意ハ、此改正ノ中ニハ意味ヲ含マレテ居ルノデゴザイマスガ、之ニ對シマシテ——此修正說ニ對シマシテハ其ニ滿場一致ヲ以テ此案ヲ可決ヲ致シマシタ、尙又當局者ニ於キマシテモ——政府ニ於キマシテモ 此修正案ニハ同意ヲ表スル、斯ウ云フコトデ此修正案ハ滿場一致ヲ以テ可決致シマシテゴザイマス、尙ホ委員會ニ於テハソレニ對シテ希望ヲ附加ヘテ置キマシタノハ、既ニ補助ヲ與ヘテアリマスルトコロノ輕便鐵道ニ對シマシテハ、在來與ヘマシタ補助額ヨリ下ラザルヤウニ、即チ既得ノ權利ヲ害セナイヤウニシテ貫ヒタイト云フ希望ト、今一



ツハ、此命令ニ依ル利益益金、營業收入及益金ノ對照ヲ致シ、其算定方法ガ定マルノデアリマス  
ガ、其算定方法ヲ定ムルニ、曲線或ハ勾配ト云フヤウナモノヲ十分ニ酌量ヲシテ貫ヒタイ、又其  
地方ノ人口ノ粗密等モ十分ニ加ヘテ、而シテ算定ヲ立ッテ貫ヒタイト、斯ウ云フ希望ヲ添ヘテ茲  
ニ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ次第デアリマス、此段御報告致シマス

質疑應答ノ後引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定シ即  
日貴族院ニ送付ス

同院ハ修正議決ヲ爲シ同月二十三日本院ニ回付シタリ

(回付案)

(小字及一ハ貴族院修正)

輕便鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年五分ノ割合ニ達セサル<sup>スト認ムル</sup>

キハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入  
ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス

前項ノ建設費、營業費、營業收入及益金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第四條 削除

第五條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得ス

即日議事日程ヲ變更シ回付案ヲ院議ニ付シタルモ其ノ議事ハ之ヲ後ニ爲スニ決ス次テ停會ニ次テ  
會期終了シ終ニ院議ニ付スルニ至ラサリキ

五七 印紙税法中改正法律案

印紙税法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一號ヲ加フ

- 一 産業組合ヨリ組合員ニ發スル通帳

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

五八 印紙税法中改正法律案

印紙税法中左ノ通改正ス

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



第四條中「一賣買仕切書 印紙税三錢」ヲ削ル

第五條中「一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書」ヲ「一賣買仕切書」ニ改ム

第十條中「賣買仕切書」ヲ削ル

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

五九 印紙税法中改正法律案

印紙税法中左ノ通改正ス

第四條中「一倉荷質入證券 印紙税三錢」ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券 印紙税三錢

第五條中「一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀」ヲ「一運送狀以外ノ送狀」ニ、「一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ」ノ下「非營業者ニ發スル賣買仕切書」ヲ「委託賣買ニ依ラサル賣買仕切書」ニ改ム

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(五七)三年二月二十一日中小路與平治君外一名、(五八)同月二十四日石橋爲之助君、(五九)同月二十五日三谷軌秀君外五名ノ提出ニ係リ三月十日三案ノ第一讀會(五八)及(五九)案ハ一括ヲ開キ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(五七)人見米次郎君ノ演說

印紙税法ノ改正法律案ハ、印紙税法ノ第五條ニ產業組合ヨリ組合ニ發スル通帳ニ用フルトコロノ印紙ヲ免除スルト云フ趣意デアリマス、抑、此產業組合ハ夙ニ政府ニ於テモ獎勵セラレタコトデアリマスガ、他ノ先進各國ノ例ヲ見テモ、獨逸ハ產業組合ガ最モ盛ナルモノデアリマシテサウシテ簡單ニ致シマスカラ暫ク御待チ下サイ、其組合ノ數ガ二萬二千ベカリアルノデアリマス、サウシテ其組合員ノ數ハ二百萬以上ニ達シテ居ルノデアリマス、又丁抹ノ產業組合モ最モ盛ナルモノデアリマシテ、製酪組合ダケニ於テモ千七百七十組、組合員總數ガ十五萬四千五百六十八人アルト云フコトハ最近ノ統計デアリマス、斯様ナ譯テ泰西各國ハ產業組合ハ餘程盛ンニナッテ居リマスガ、我國ハ未ダ十分ニ發達シナイノデアリマス、夫故ニ政府ハ、夙ニ之ヲ獎勵サレテ居ルニモ拘ラズ、此組合ヨリ發行スルトコロノ通帳其モノニ對シテ、組合ガ營業稅ヲ免除サレテ居ルニモ拘ラズ、印紙稅ヲ徵收スルト云フコトハ甚ダ不當デアル、即チ營業稅及所得稅ヲ免除セラ、以上ハ、之レヲ營業ト見做サズシテ、通帳ヲ無稅ニシテ貰フト云フノガ本案ノ趣意デアリマス、餘マリ深クハ申シマセヌ、是ダケノ趣意デゴサイマスカラ充分ニ御贊成アラントヲ望ミマス



(五八)石橋爲之助君ノ演説

本案ノ内容ハ賣買仕切書ノ印紙税ヲ免除スルト云フコトデアリマス、此仕切書ハ從來稅務官吏ノ見解モイロク違ヒマスシ、裁判所ノ見解モ違ヒ、營業者ノ見解モ違ヒ、イロクナ紛雜ヲ來シテ居リマシテ、最モ取引ノ圓滑ヲ阻碍スルノデアリマスカラ、ソレデ之ヲ免稅ニ致シタイト云フノデゴザイマス、何卒御協賛ヲ願ヒマス

(五九)三谷軌秀君ノ演説

此印紙稅法改正案ニ付テ極メテ簡單ニ説明致シテ置キマス、先キニ石橋君ノ提出ニナッタノト少シ違フノハ、賣買仕切書ノ中ニ問屋ノ仕切ル部分ガ殘ル、夫カラ送狀ヲヤハリ免稅ノ區域ニ入レル、其中商法ノ規定スル運送業ダケハ矢張有稅ニスルト云フノト、モウ一ツ商業證券タルモノ又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券、是モ商法ノ規定シテアルノデアリマスガ、此中ノ倉庫券トカ、貨物引換證トカ、船荷證トカ云フモノハ、既ニ二錢ノ部ニナッタモノデ、夫ト變リガナイカラ之ヲ三錢ノ部ニ設ケタ、是ガ新ニ加ハルコトニナルノデアリマス、ドウカ御贊成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末第一案ニ修正ヲ加ヘ第三案ヲ可決シ同月十四日孰レモ報告書ヲ議長ニ提出セリ又第二案ニ對シテハ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

(第一案委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一號ヲ加フ

一 産業組合ヨリ<sup>其ノ</sup>組合員ニ發スル通帳

附則

本法ハ大正<sup>四</sup>三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

同月十七日第一及第三ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長石黒磐君ハ左ノ報告ヲ爲セリ付託ニナリマシタ印紙稅法中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ茲ニ御報告ヲ致シマス、就キマシテハ印紙稅法中改正法律案ハ三案出テ居リマス、三案共ニ同一ノ委員ニ付託サレマシタ、第一ニ此五十七號ト云フ方カラ先ニ御話ヲ致シマス、是ハ單純ニ印紙稅法中ノ第五條ニ左ノ一號ヲ加フ、是ハ「産業組合ヨリ組合員ニ發スル通帳」斯ウ云フコトニナリマシテ、附則ノ方ガ「本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」斯ウアリマスノヲ「産業組合ヨリ其ノ組合員ニ發スル通帳」其ノ「ト云フ字ヲ修正ヲ致シマシタ、ソレカラ大正三年四月ト云フノヲ「大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」斯ウ云フコトニ修正ヲ致シマシテ、茲ニ可決ヲ致シマシタ、其理由ハ産業法ニ於キマシテハ特ニ營業稅、或ハ所得稅ヲ免除ニナツテ居ルノニ、組合員中ニ取合ヒラスル通帳ニ印紙ヲ貼ルト云フコトハ、少シ保護ト云フ趣意ニハ背イテ來ハシナイカ、故ニ産業法ノ精神ニ基イテ、此印紙モ免除スルコトガ當然デアアル、且之ニ對シテハ政府委員ハ印紙稅ノ性質カラ御同意ハナイノデアアルケレドモガ、保護ト云フ點竝ニ一ノ團體デスル仕事デアリマスカラ、之ヲ免除スルコトヲ相當ト致シテ、委員會ハ全員一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシタ次第デアリマス、ソレカラ一ツ飛ビマシテ六十號ガ付託ニナツテ居リマスガ、更ニ六十三號ノ方ヨリ御報告ヲ致シマス、此六十三號ノ方ノ案ニ付キマシテハ、修正ハ字句等モ何等ノコトモ致サズ、原案ヲ此儘委員會ニ於テハ認メマシタ、政府ニ於キマシテモ是ハ達テノ反對ハナイ、議會ヲ通過シ又貴族院ヲ通過スルコトデアレバ、斯ウ云フコトデ絶對ノ反對ハゴザイマセヌ、是ハ別段ニモウ説ク必要モナイヤウ



デゴザイマスガ、チヨット此何ダケヲ申上ゲテ置クト、印紙税法中ノ第四條ト云フモノニ總テ二錢トカ三錢トカノ印紙ヲ貼レトナッテ居ル、然ルニ物トカ有價證券、商法ノ三百三十二條ニ在ル、之ニ對シテ印紙ヲ貼ルコトガ列擧シテナイ、ソレ故ニ隨分脱税ヲシイロ、ノ事情ガゴザイマスカラ、ソコデ斯ウ云フ箇條ヲ加ヘテ僅カノ印紙稅ヲ貼ラシテ相當ニヤラシテ宜カラウ、ソレカラ第五條デチヨット説イテ置キマセンナラヌハ、金高五圓未滿若クハ、金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀」斯ウ云フコトガ第五條カニアリマス、是ハドウ云フ事情ダト云フト、第四條ノ方ニ單ニ送狀ト云フモノガアル、送狀ニ對シテハ同ジク三錢ノ印紙ヲ貼ルコトニナッテ居ル、然ルトコロ第五條ニ來マシテ送狀全體ノモノデハナイ、制限ヲ加ヘマシテ即チ前ノ法律デハ運送契約ニ依ラザル送狀ト云フノハ、モウツ範圍ヲ廣クシマシテ、即チ運送狀以外ノ送狀、チヨット説キ惡イカ知リマセヌガ、即チ荷送人カラ運送者ニ向ッテ直接ヤルノガ運送狀デアル、其以外ノモノニハ稅ヲ取ラナイ斯ウ云フコトニナリマス、ソレカラ下ノ方ニ於キマシテ委託賣買ニハ印紙ヲ貼ルケレドモ、普通ノ賣買仕切書ニハ印紙ヲ拂ハナイ、是ハ説明ハ先ヅ明瞭デゴザイマセヌ、是ハ滿場一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ次第デ、其次ニ付託ニナッテ居ル六十號ヲ申シマスト、六十號ノ方ハ印紙税法中ノ賣買仕切書ヲ全部削ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、然ルニ唯今報告シマシタ六十三號デ委託賣買ニ依ルモノダケハ取除クコトニナッテ居リマスカラ、是ガ議決ニナリマシタ以上ハ、六十號ノ方ハ自然消滅、斯ウ云フコトニナッテ來マス、是ダケ委員會ノ結果ヲ報告致シマス

菅原大藏省主稅局長ハ第一案ニ反對ノ演說ヲ爲シ石黒磐君ハ之ニ對シ本案維持ノ演說ヲ爲ス

菅原大藏省主稅局長ノ演說

唯今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ印紙税法中ノ改正法律案中、三谷君等ヨリ御提出ニナリマシタ賣買仕切書及送狀ニ關スルモノニ付キマシテハ、課稅上疑義ノアル問題デアリマシテ、屢々官民ノ間ニ紛爭ヲ惹起ス虞アルモノデアリマスカラ、其意義ヲ明確ナラシムル必要上、其課稅

範圍ヲ縮小スルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ヌコトデアラウト思フノデゴザイマスカラ、是ニ付キマシテハ強テ反對ヲ申サヌノデゴザイマスガ、中小路君等ヨリ御提出ニナリマシタコロノ産業組合ヨリ發スル通帳ニ付キマシテハ、政府ハ御同意致シ兼ヌルノデゴザイマス、御承知ノ通り印紙稅ナルモノハ、苟モ財產權ヲ證明スベキ帳簿書類デアリマシタナラバ、其作成スル人ガ何人デアリマシテモ、官廳又ハ公署ヨリ發スルモノニ非ザル以上、總テ課稅スルト云フコトハ、今日印紙稅法ノ原則ニナッテ居ルノデゴザイマス、然ルラ産業組合ヨリ發スルモノナリトシテ、是ニ對シテ課稅ヲ免除スルト云フコトニナリマス、獨リ印紙稅法ノ原則ヲ破リマスソミナラズ、或ハ同業組合ナリ、或ハ漁業組合ナリ、其他公益ヲ目的トシテ居ルトコロノ各種ノ法人ニ對シテモ、同様ノ取扱ヲ爲サナケレバナラヌト云フコトニナルデアリマシテ、左様ニナリマスト云フト益、免稅ノ範圍ヲ擴張シナケレバナラヌト云フコトニナルデアリマス、然ラザレバ大ニ其權衡ヲ失スルト云フコトニナルデアリマス、デ唯今委員長ヨリ産業組合ニ對シテハ營業稅、所得稅等ヲ免ジテ居ルガ故ニ、印紙稅ヲ免除スルガ相當デアルト云フコトヲ御述ベニナリマシタケレドモ、申スマデモナク營業稅ト所得稅ト並ニ印紙稅トハ、各其性質ヲ異ニシテ居ルノデアリマシテ、營業稅又ハ所得稅ヲ免除シテ居ルモノニ對シテ、印紙稅ヲ課シテ居ルト云フコトハ、獨リ産業組合ノ場合ニ限ルノデハナイノデアリマス、又或ハ産業組合ヨリ發スルトコロノ通帳ナルモノハ、零碎ナル貯金ヲ爲ス場合ニ於ケルモノデアアルガ故ニ、ソレニ對シテハ免稅スルガ相當デアルト云フヤウニモ、理由書ノ中ニ見エテ居ルノデアリマスガ、若シ左様ナ理由ヲ以テ免稅致スト云フコトニナレバ、獨リ産業組合ニ於ケル貯金通帳ノミナラズ、貯金銀行ニ於ケル貯金通帳ニ對シテモ免稅スルト云フコトニナラナケレバ、此間大ニ權衡ヲ失スルコトニナルノデゴザイマス、其他或ハ保險證券ナリ其他ノ證書帳簿ニ對シテモ印紙稅ヲ免除スルコトニナラヌケレバ、其間ニ大ナル不權衡ヲ見ルト云フコトニナラウト思フノデアリマス、要スルニ産業組合ノ發達ヲ獎勵スルト云フ御趣意ニ付キマシテハ、固ヨリ異存ハナイノデゴザイマスケレドモ、斯様ナル印紙稅法ノ原則ヲ破リ各種ノ權衡ヲ失フト云フコトヲ致シテマデモ、此印紙稅ヲ免除



シナケレバナラヌト云フコトハ如何デアラウカト思フノデゴザイマス、私共ノ見ル所ニ於キマシテハ此印紙税ヲ課スルガタメニ、産業組合ノ發達ヲ阻礙スルト云フ程度ニマデハ見テ居ラヌノデアリマス、是等ノ理由ヲ以テ本案ニ反對ヲ致シマス

石黒磐君ノ演説

唯今主税局長ガ此産業組合法ノ通帳ヲ免税ニスルト云フコトニ付テ反對ヲセラレタガ、甚ダ私ニハ解サレヌノデアリマス、ト云フハ大體此印紙税法ト云フモノノ性質ハ即チ權利關係ノタメニ用ルモノガ多イノデアアル、甲ト乙トノ間ノ——内部ニ於テハ收税ガ目的デゴザイマセウ、併ナガラ表面ニ於テハ權利關係ヲ明カニスルガ即チ印紙税法ノ本意デアラウト私ハ思フソレデ此産業組合法ニ付テ政府ガ此ノ如キコトヲ言ハレルノハ甚ダ私ハ其意ヲ得ヌ、何トナレバ大體織物税ノ例ヲ私ハ引キマス、織物ニ對シテハ獎勵トシテ外國へ輸出スルトコロノ織物ニハ課税ヲシナイ、或ハ自家用ノモノニ課税ヲシナイ、自分用ノモノ又其家族ノ用ルモノニハ課税ヲシナイ、併シ私ガ友人ニ織ッテ貰ッテ私ガ用ルモノハソレハイカヌノデアアル、トコロ産業組合ノ方ニ於キマシテ絲ヲ買入レマシテ、お互ニ自分バカリデナイ、即チオ仲間ノ組合員ニ向ッテ織物ヲ織ッテ渡シテモ之ニ税ヲ課サナイ、ソレハナゼ課税シナイナラバ、一軒ノモノ一團體ヲ一家族ト同様ニ看做シテ居ルカラデアアル、シマスルト今此印紙ハ産業——成程理由書ハ不完全デアアル、理由書ハ取ラヌ、保護ト云フ點ト一方ハ家族的ノモノデアアルカラ家族的ノモノニ印紙ヲ貼ッテ權利證明ナドハ必要ガナイノデアアル、是ガ即チ私ガ政府者ノ議論ヲ聽カナイ所以デアリマス、チヨット説明ヲシテ置キマス

他ニ討論ナク引續キ兩案ノ第二讀會ヲ開キ院議執レモ委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日兩案ヲ貴族院ニ送付シタルモ孰レモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

六〇 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第十三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ノ保護ヲ受クル株式會社ノ重役及其ノ使用人ハ被選舉權ヲ有セス若當選ノ後其ノ重役又ハ使用人トナリタルトキハ之ニ因リテ直ニ議員タルノ地位ヲ失フ

第十六條 内閣ト進退ヲ共ニセサル官吏ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得ス但シ其ノ官吏ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三年二月二十一日尾崎行雄君提出、三月十日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

衆議院議員選舉法ノ改正案ハ他ニモ段々出テ居リマスル、選舉權ノ擴張其他本員等ノ滿腔ノ贊成ヲ表スベキ議案ガ澤山出テ居リマス、然ルニ茲ニ衆議院議員ト官吏及準官吏トモ申スベキ點ニ付テ、他ノ案ニ漏レテ居ルヤウニ考ヘマスル故ニ、已ムヲ得ズ此單純ナル改正案ヲ提出致シマシタ、元來官吏ヲ衆議院議員ニ入ルベキモノナルヤ否ヤト云フコトハ、世界列國ニ於テ憲法上ノ大問題デアリマス、申スマデモナク衆議院議員ナルモノハ、輿論民意ヲ代表シナケレバナラヌトコロノモノデアアル、官吏ハ行政政府ニ使ハレテ其指揮命令ヲ受ケナケレバナラヌ答ノモノデアアル、故ニ此官吏ト衆議院議員ト云フモノハ、其性質ニ於テ餘程兩立シ難イ答ノモノデアリマスルガ故



ニ、世界列國ニ於テモ古ヘ議院ノ未ダ發達セザル場合ニ於テハ、議員ヲ腐敗セシメ、議員ヲ自由自在ニ使ヒ廻ハスガタメニ、腐敗的ノ意味ヲ以テ衆議院議員ヲ頻リニ官吏ニ任命致シテ、政府ノ議案ニ盲從セシメ、或ハ官吏ヲシテ選舉ヲ争ハシメ、而シテ之ヲ衆議院ニ入レテ、詰リ院議ヲ蹂躪スルト云フ素地ヲ造ツタ例ハ澤山アリマス、而シテ其弊害ニ堪ヘナイガタメニ立憲政體ノ祖國トモ云フベキ英吉利アタリニ於テハ、段々嚴重ナル法律ヲ制定致シテ、官吏ナルモノハ、全部之ヲ拒絕シ、單ニ内閣ト共ニ進退スベキモノ、即チ政務官ダケハ衆議院議員ニ列スルコトヲ許スガ、其他ノ官吏ハ一人モ列スルコトヲ許サヌト云フコトニナツテ、是ガ憲法上動スベカラザル制規トナツテ居ルノデアリマス、其他ノ國ニ於テモ或ハ憲法ヲ以テ之ヲ制限スルトコロアリ、或ハ法律ヲ以テ之ヲ制限スルトコロアリマスルガ、何レノ國ト雖モ官吏ト議員ト相兼ヌルコトヲ許サズト云フ點ニ至ツテハ少シモ異ナルトコロハアリマセヌ、然ルニ茲ニ最モ不思議ナルノハ、獨リ日本國ニ於テハ或種類ノ官吏ヲ除イタモノハ議員ヲ兼ヌルコトヲ得ズト他ノ國デハ書イテアルノニ、日本ノ選舉法ニ於テハ相兼ヌルコトヲ得ト書イテアル實ニ驚クベキコトデアリマス、何故ニ斯ノ如キコトヲシタカト言ヘバ、御承知ノ如ク憲法制定ノ當時ニ在リテハ、成ルベク國論即チ輿論民意ノカヲ以テ政府ニ迫マラレルコトヲ防グガタメニ、貴族院ニモ衆議院ニモ模樣ニ依ツテハ官吏ヲ充滿セシメテ、之ヲ樂ニ通過シヤウト云フ考ハ憲法制定者ノ腦中ニアツタモノト見エマス、故ニ世界列國ノ制令ニ反シテ或種類ノモノヲ除イタ官吏ハ、全部衆議院議員ト兼ルコトヲ得ト定メ、又貴族院ノ如キハ現在ト雖モ非常ニ多數ノ官吏ヲ以テ議員ヲ兼シメテ居ルノデアリマス、其結果ヤ初期以來ノ選舉ニ於テ、政府モ官吏ヲ候補者ニ出シテ衆議院議員ヲ競争セシメタコトモアリマス、然ルニ其當時ニ於テハ、政府ニ反對スル所謂自由民權ノ空氣ガ盛ンデアッタガタメニ、官吏候補者ノ多クハ失敗ヲ致シテ衆議院ニ多クノ座席ヲ占ムルコトガ出來ナカッタデアリマス、是ハ帝國ノ憲法史上ニ於テ極メテ幸福ナル寧ロ僥倖ナル結果トモ申スベキ譯デアリマス、又他ノ一面カラ申シマスルト、強テ官吏ニセズトモドウカ斯ウカ他ノ手段ヲ以テ衆議院ヲ通過スルコトノ出來ルト云フ事實モアツタ結果トシテ、餘リ此條ヲ濫用スルニ至ラズシテ今

日マデ憲法發布以後二十五年間ヲ經過シタモノト見エマス、併ナガラ今ニシテ之ヲ改メテ置キマセナイト、他年亂暴ナル政治家ガ出デマスルナラバ、多クノ官吏ヲシテ候補者トナツテ議院ノ議席ヲ争ハシムルコトモ出來マスルシ、又衆議院議員ノ中反對黨ヲ多ク官吏ニ任命シテ、我ガ爪牙トナスト云フコトモ途ハ開ケテ居ルノデアリマス、此途ヲ鎖スコトハ立憲政體ノ發達上極メテ必要ナルコトデアリマス、元來ヲ言ヘバ官吏ハ一人モ議員ヲシテ兼シメナイト云フノガ其性質カラ申シマシタナラバ適當ナコトデアリマセウ、併ナガラ英吉利ノ如キ制度ニ於テハ、政府委員ナルモノト雖モ大臣ト雖モ議席ヲ持タナイ者ハ、一切議場ニ出入スルコトヲ許サナイガタメニ、止ムヲ得ズ大臣及大臣ト共ニ進退スルトコロノ政務官ナルモノハ議場ニ出入シテ政府ノ議案ヲ説明辯護スルノ必要上カラ議員ト相兼ヌルコトヲ許シテアリマス、其數ヤ極メテ少ナクシテ且其境界ハ極メテ嚴重ニ致シテ置キマス、日本ノ如キ終身官デアルベキ純然タル事務官、純然タル刀筆ノ官吏ヲシテ議員ヲ兼ヌルコトヲ許スガ如キ、不思議ナル事例ハ殆ド世界列國ニ於テ見ルコトノ出來ナイ點デアリマス若シソレガアリトスレバ何レ極メテ劣等ナル、マダ立憲政體ノ本色ヲ發揮シテ居ラナイトコロニ僅ニアルカ知レナイ獨逸ノ如キハ嚴重ニ禁ジテアリマス——帝國議會ニ於テハ極メテ嚴重ナル規則ヲ以テ禁ジテアリマス日本ノ如キ大臣及政府委員ハ議席ヲ持タズトモ、議院ニ出入スルコトノ出來ルト云フ規則ヲ設ケテ居ル國ニ於テハ、實ヲ言ヘバ一人モ官吏ヲ議員ト爲スノ必要ハナイノデアリマス、元來ヲ申セバ大臣ト雖モ大臣ノ職權ニ依ツテ此處ニ列席スルコトガ出來マスル故ニ、議員トナラズトモ差支ナイノデアアル、併ナガラ是ハ一ツ他ノ點カラモ考慮シナケレバナラヌ、元來政治家ナルモノト事務家ナルモノトハ其性質ニ於テ全ク違ツテ居リマスガ故ニ、日本從來ノ如ク事務家出身、極ク下級ノ官吏カラ段々縮上リニ登タモノヲ次官トナシ局長トナシ、但シハ大臣トナスト云フコトハ非常ニ弊害ノ源ヲ啓クコトニナリマス、事務家トシテ育ッタ者ハイツマデ登ツタトコロガ大臣タルノ器ヲ具ヘルコトハムヅカシイモノデアリマス、育チガ違フ、事務家ナルモノハ人ニ使ハル、コトヲ稽古シテ育ツモノデアアル、政治家ナルモノハ人ヲ使フコトヲ心得テ育ツモノデアアル、使ハレル心懸ケト使フ心懸



ケトハ全ク性質ガ違フガタメニ、我ガ今日ノ内閣大臣ナルモノハ多クハ事務家出身屬僚出身デ、人ニ使ハレテ育ツモノデアリマスルガ故ニ、大臣トナツテモ多クハ大臣タルノ心得ヲ持ツコトガ出来ナイノデアリマス、其著シキ事例ヲ舉ゲマスルト、屬官ノ身ニ取ツテハ一番下級ノ法令ガ最モ己ノ頭ヲ支配スベキ大切ナルモノトナル、低キ役人ハ憲法ノ問題杯ニ觸レル機會ガ少ナイ、憲法ヨリカ法律ノ支配ヲ受ケル機會ガ多ク、法律ヨリカ勅令ノ支配ヲ受ケル機會ガ多イノデアリマス、其位地ガ低ケレバ低イホド其人ノ腦髓ヲ支配スルモノハ、低キ制度ガ主モナルモノトナルノデアリマス、故ニ屬官トシテ育ツタ者ニ取ツテハ勅令ヲ一番大切ガ、ナゼナレバ平生子供ノ時カラ勅令ノ支配ヲ受ケテ育ツタガタメニ勅令ヲ最モ大切ニ思ヒ、其上ニアルトコロノ法律ヲ一層輕ク思ヒ、其上ノ憲法ノ如キハ殆ド何ト書イテ居ルカ知ラナイ者ガ多イノデアリマス、現ニ今ハ總理大臣トナツテ居ルトコロノ山本伯ノ如キモ、モト屬僚育チデアリマスルガ故ニ、彼ノ腦髓ヲ支配シテ居ルモノハ今日尙憲法ヨリカ法律ガ重ク支配シテ居ル、法律ヨリカ尙勅令ニ支配セラレテ居ルノデアリマス、其實例トシテ過日本員ガ豫算委員會ニ於テ國防計畫ト憲法第五十五條ノ關係ヲ問ヒマシタ、總理大臣ハ如何ニシテ國防計畫ニ對スル責任ヲ持ツカト彼ニ尋ネマシタトコロガ、彼ハ是ニ答ヘルコトガ出来ナイ、唯纔ニ參謀本部ノ條例ガ斯ウ書イテアルカラ責任ヲ持ツコトガ出来ナイ、成程參謀本部ノ條例、或ハ軍事參議院等ノ官制ヲ見マスルト、國防計畫ト云フ大問題ヲ内閣以外ノ機關ニ依ツテ決スルコトハ書イテアル、併シソレハ勅令デアアル——法律ノ下ニ在ルトコロノ勅令デアリマス、ソナモノハ内閣員タルモノハ閣議ヲ決定シテ陛下ノ御裁可ヲ得テ改正ヲシナケレバナラヌ等ノモノデアアルノニ、彼ハ憲法上ノ問題ヲ尋ネラルレバ勅令ヲ以テ答ヘル、參謀本部ノ條例ニ書イテアレバ憲法違反ノ仕事デモ尙是ニ服從シナケレバナラヌモノ、如クニ心得テ居ルト云フノハ、即チ彼ガ屬僚育チデアアルガタメニ今日大臣トナルト雖モ尙其心ヲ持ツコトガ出来ナイノデアリマス世ノ中ニハ桁違ヒト云フコトガアリマス、桁モ一桁位ノ見違ヒナラバ容赦ハ出来ルガ、彼ハ憲法上ノ問題ニ付テモ勅令ヲ以テ答ヘル、即チ二桁取違ヘテ居ル男デアリマス、有爲ナルコト彼ガ如ク、聰明ナルコト彼ガ如キ者ト雖

モ屬僚育チデアレバ此通り政治家トナルコトハ出来ナイノデアアル、況ヤ彼以下ナル者ガ刀筆ノ吏トシテ成長ヲ致シマスレバ、ドウシタトコロガ大臣ニナツタトコロガ、大臣ノ器ヲ備ヘルコトガ出来ナイノハ當然ノ次第デアリマス、此點カラ見マスルト多年政治家ヲ養成スルガ爲ニハ、屬僚ハ爲サズシテ議員ト爲シ、初メカラ政務官ノ職ニ就ケテ人ノ支配ヲ受ケズシテ、人ヲ支配スベキ練習ヲサスコトガ必要デアリマス、故ニ此點カラ政府委員トシテ此處ニ列スルコトニ致シマシテモ、尙政務官ダケニハ議席ヲ與ヘテ政治家ノ練習ヲサセルコトガ出来ル途ヲ開イテ置クコトハ、國家ノ爲ニモ必要デアラウト考ヘマス、故ニ私ハ此ニ於テ政府委員トナルベキ役人、但シ其數ハ今日ヨリ減ラスモ宜シイ、各省ノ次官重立タル局長、法制局長カラ内閣書記官長或ハ警視總監其他ノ者、兎ニ角政府委員トナツテ政府ヲ代表シテ此表舞臺ニ出ヅベキ此役人ダケハ、是ハ刀筆ノ吏ト區別ヲ致シテ、他年政治家トナルベキ卵ト看做シテ是等ニハ議席ヲ與ヘル途ヲ開イテ置クコトガ宜シイト思フノデアリマス、其他終身官トシテ何レノ内閣ニモ仕ヘル——給料サヘ與ヘレバ保守主義ノ内閣ニモ事ヘル、自由主義ノ内閣ニモ事ヘル、誰ノ内閣ニモ事ヘルト云フ雇兵ノ如キモノハ、是ハ議席ヲ與ヘルベキモノデナイノミナラズ、表舞臺タル帝國議會、貴衆兩院ニハ顔スラ出サスベキモノデハゴザイマセヌ彼等ハ殆ド朝ニ吳客ヲ迎ヘ夕ニ越人ヲ送ル藝娼妓ノ如キモノデアルドノ座敷ニモ出テ來レバドノ内閣ニモ仕ヘルノデアアル、斯ノ如キモノハ陰ニ隱シテ置クコトハ宜シイガ、表ニ出シテ其恥ヲ曝サスト云フコトヲ單リ本人ニ對シテ氣ノ毒デアアルノミナラズ、此帝國ノ政治舞臺ヲ汚ス遣リ方デアリマス故ニ此ニ於テ嚴重ニ區別ヲ定メテ政府委員ニハ事務官ヲ一切用非ナイ、但シ參考トシテ委員會位ニ内證デ之ヲ來ルコトハ許スガ、表向ノ舞臺ニ事務官ハ一切出サヌ政務官ニ限ル、政務官ノ數ハ何々ヲ政務官トスルト云フコトハ、是ハ勅令ヲ以テ定メテ宜シイト思ヒマスルカラ、ソレダケハ議員ヲ兼ネサセルガ、其他ノ者ハ一切議員ヲ兼ネサセヌト云フコトニ致スノガ宜シカラウト思フ今日ハ少シク此制度ハ政友會ノ同志ノ内閣ノタメニ改正セラレテ多少好クナツテ居リマス、即チ從來次官ノ如キハ全部終身官トシテ扱ハレテ、内閣ガ變テモ容易ニ之ヲ變ヘルコトハ出来ナカッタノデアリマ



スルガ、特別任用ノ制度ガ開カレテ、今日ハ政黨員ガ——試験ヲ經テ十年、十五年政府ニ子飼ニ飼ハレタ者デナクテモ次官ニ成ルコトノ出來ル途ヲ政友會ノ内閣ガ開イタコトハ是ハ先ヅ賞スベキコトデアリマス、從ッテ次官ノ如キハ多クハ政友會ニ入黨シテ居ルト思ヒマス、是モ亦宜シイコトデアアル、然ルニ茲ニ不思議ナノハ同ジ政府ノ政府委員トシテ此處ニ陳列セラレテ居ル人間ノ中主義政策ヲ同ジウスルタメニ、政府ノ議案ヲ辯護スルトコロノ人モアル、サウカト思フト唯純然タル雇兵デ主義政策ニ付テハ全ク反對ノ意見ヲ有ッテ居ルケレドモ、唯役人トシテ生キテ居ルカラ已ムヲ得ズ、口ダケ賣ッテ之ヲ辯護スルト云フモノモヤハリ同ジ政府委員ト云フ名義ノ下ニ居ル、故ニ名ハ同ジ政府委員ト雖モ其性質ヲ解剖致シテ見マスト、主義ノタメニ働イテ居ル者モアリ、雇兵ニナッテ給料ノタメニ働イテ居ル者モアル所謂妻妾雜居ノ有様デアッテ、此席ハ何ガ何ヤラチットモ分ラヌノデアアル斯ノ如キ不體裁ハドウシテモ改メナケレバナラヌノデアリマス、政府ヲ辯護スル者ハ唯腦髓ヲ切賣スル者デハイケナイ、己レノ精神カラソレヲ是認スルガタメニ辯護スル者デナケレバナラヌ、サウデナイ者ハ表舞臺ニ出スベキモノデハナイ、帝國議會ハ日本第一ノ莊嚴ナル舞臺デアリマス、此席ニ出ル者ハ腦髓ヲ切賣スルガ如キ卑劣漢ハ此處ニ陳列スベキモノデアリマセヌ其點カラ此制限ヲ加ヘテ、或制限ノ下ニ官吏ノ兼任ヲ許スト云フコトニセヌケレバナリマセヌ大體ニ於テハ兼シメザルヲ本則ト致シマス、政治家ヲ養成シテ主義政策ノタメニ、政府委員トナル者ダケハ初メカラ政治家トシテ取扱ッテ議員ト兼ヌルコトヲ許スガ宜シイ、許スト云フ取除ケテ居ルコトナラバソレデ宜カラウト思フ、次ニ同ジヤウナ性質ノモノハ保護會社——政府ノ保護ヲ受ケテ居ルトコロノ會社ノ役員デアリマス、實ハ此事ハ私ハ餘リ強ク論ズルコトヲ好マヌノハ、吾々ガ多年朋友デアッタ所ノ人々ガ、偶然保護會社ノ重役トナッテ此席ニ列シテ居リマス、其人ヲ眼前ニ据エテ置イテ之ヲ非難スルノハ誠ニ情トシテ忍ビヌノデアリマスルケレドモ、憲法上ノ大義ヲ論ズルニ方ッテハ已ムヲ得ヌノデアアル保護會社ノ重役、政府ト特別關係アル會社ノ重役ヲシテ議員ヲ兼シメテ相成ラヌト云フコトハ、是ハ殆ド辯論ヲ費ス必要ハナイト思ヒマス、政府ノ請負ヲ爲ス者、若クハ主トシテ政府ノ請負ヲ爲ス會

社ノ重役デスラ、我が選舉法ニ於テハ衆議院議員タルコトヲ禁ジテアリマス、政府ノ請負ヲ爲ス者、或ハ主トシテ政府ノ請負ヲ爲ス會社ノ重役ト、純然タル保護會社ノ重役ト、殊ニ政府カラ任命セラル、所ノ重役ト、其獨立ヲ失ッテ居ル點ニ於テトチラガ重イノデアリマス、殆ド三尺ノ童子ト雖モ辨識ニハ苦シマヌノデアアル、然ルニ我が衆議院議員選舉法ハ政府ノ請負ヲ爲シテ居ル者ハ衆議院議員タルコトヲ許サヌ、主トシテ政府ノ請負ヲ爲ス會社ノ重役ハ、衆議院議員タルコトヲ許サヌ、併ナガラ政府ノ保護ヲ受ケテ居ルタメニ任命セラル、會社ノ重役ハ、衆議院議員タルコトヲ許シテ居ルノミナラズ、現ニ其重役ト成ッテ此處ニ列席シテ居ル諸君ガアル、是ハ如何ニモ不釣合デハナイカ、殊ニ其諸君ガ不幸ニシテ多年政黨内閣ノ主義ヲ唱ヘ、時トシテ議院内閣ナドト云フコトヲモ口カラ言ウタ所ノ人ガ其事ヲ致シテ居ル是ハ實ニ驚キ入ッタル事デアアル、政黨主義ヲサウ云フ所ニ持ッテ行ケバ、所謂政黨主義ナルモノハ天下カラ嫌ハルベキ物體トナルデハナイカ、政府ノ請負ヲスル者スラ禁ジテ居リナガラ、保護會社ノ重役デアッテ尙議員ヲ兼ネテ居ッテ宜シイナドト云フコトハ、苟クモ立憲主義ヲ口ニスル者ノ斷ジテ爲スベキコトデアリマセヌ、全ク辻褄ノ合ハナイコトデアアル、故ニ議員タルコトヲ重シクシテ重役ヲ辭スベシ、重役ヲ重シクシテ議員ヲ辭サナケレバナラヌ夫ヲ兼ネテ居ルト云フニ至ッテハ未ダ立憲政體ノ何モノタルヲ解セズ、殊ニ政黨主義議院政治ノ何タルヲ寸毫モ解シ得ヌ人々ト言ハナケレバナリマセヌ斯ノ如キ痛烈ナル言葉ヲ用キルコトハ本員ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマスルケレドモ、我憲政ノタメ我帝國ノタメニ此理義ハ明カニシナケレバナラヌ又會社ノ方カラ見マシテモ、是ハ餘程考フベキコトデアアル、日本ニ保護會社ハ現在ト雖モ餘程アル、日本銀行ヲ始トシテ餘程澤山アル、此重役ハ皆衆議院議員ト相兼ネルコトヲ得ト云フナラバ、獨立ノ言行ヲナスコトノ出來ナイ常ニ政府ノ鼻息ヲ伺ハナケレバナラヌトコロノ位置ヲ占ムルトコロノ重役——會社ノ重役ハ何十人トナク殆ド百人内外此衆議院ニ這ッテ來ルコトガ出來ルノデアリマス、若シ他年質ノ宜シクナイ内閣ガ出來テ、是等ノ重役ヲ皆議員トナスノ工夫ヲ爲シ、但シハ又議員ヲシテ此百有餘ノ重役ニ就クコトノ趣向ヲ致シマシタナラバ、直チニ自分ノ手下即チ自由意思ノナイ議員ヲ



數十名若ハ百名造ルコトガ出來ルデハナイカ、眞ニ立憲政體ヲ思フ者ヲシテ悚然トシテ肌ニ汗ヲ生ゼシムルコトノ事實ガ此處ニ直チニ出來ルノデアリマス、議員ナル者ハ皆自由意思ニ依ッテ政府ノ議案、議員提出ノ議案ニ於テ言議ヲ挾マナケレバナリマセヌ、然ルニ保護ヲ受ケテ居ル會社ノ重役ハ、自由ニ政府ノ議案ニ贊否ヲ表スルコトガ出來ナイデハナイカ、若シソレヲ表スレバ己レノ務ヲ盡サナケレバナラヌトコロノ會社ノ利害ト衝突スルコトニナルデハナイカ、又是等ノ會社ノ重役ニハ多分多クハ年限ガアルト思ヒマス、四年乃至六年、即チ内閣ノ變動如何ニ拘ラズ忠實ニ其會社ノタメニ盡サナケレバナラヌト云フ性質デアアルガタメニ、年限ヲ付ケテ居ルノデアアル、然ルニ議員ナル者、殊ニ政黨ニ席ヲ置クトコロノ議員ナルモハ、内閣ト主義主張ヲ同ジクスルノデナケレバナラヌ、而シテ内閣ニハ壽命ガナイ、極ッテ居ラヌ、長キハ三年四年短キハ半年一年ニシテ倒レル、此内閣ノタメニ任命セラレタ者ハ任期未ダ盡キザルニ當ッテ他ノ全ク性質ノ異ッタ内閣ガ出來テ、其人々ノ重役ノ意見ニ反對スル主義ノ議案ヲ出シタ時ニハ、其重役兼議員トナッテ居ル者ハ如何ナル舉動ヲスルノデアリマス、其時ニ至レバ必ズ良心ノ使命ニ從フナレバ辭スルヨリ外ハナイノデアリマス、重役ヲ辭スルヨリ外ニ途ガナイノデアアル、辭サナケレバ己レノ良心ニ背カナケレバナラヌ、良心ト重役ノ位置ト兩方ヲ完ウスルコトハ如何ナル人ト雖モ出來マセヌ、故ニ辭スルト言フデアラウ、縱シ數十ノ重役ガ皆此手ニ依ッテ議員ヲ兼ネテ居ル時代ガ生ジタト見ル、而シテ内閣ガ變ッタ、此數十ノ重役日本銀行ヲ始メ而モ大切ナル會社デアル興業銀行、勸業銀行、朝鮮銀行、拓殖會社、滿鐵皆國家大切ナ機關デアアルガ、是等ノ重役ガ議員ヲ兼ネテ居ッテ、而シテ異主義ノ内閣ガ出來タ、已ムヲ得ズ良心ヲ全ウスルガ爲ニ皆年限ハアル、未ダ盡キザルニモ拘ラズ皆袖ヲ例ネテ辭職シタト假定セヨ、日本銀行以下ノ重役總テガ政府ト共ニ辭職シタト假定セヨ、夫ハ實業社會ニ如何ナル惡影響ヲ及スモノト御考ヘニナリマス、是等ノ者ハ皆政黨ト主義ヲ同ジウスベキモノデハナイ、況ヤ政黨ノ機關トナルベキモノデハナイ、然ラバ議員ト相兼ネルコトヲ許サヌト云フコトハ當リ前ノ次第デアリマス、會社ノ利害カラ言ッテモ、國家ノ利害カラ言ッテモ、是等ノ者ハ決シテ議員ト相兼ヌルコトヲ許スベキ性質ノモノ

デハアリマセヌ、故ニ吾々ハ今日ノ場合ニ於テ官吏及準官吏保護會社ノ重役ハ、總テ議員ト相兼ヌルコトヲ許サヌト云フコトヲ原則ト致シ、唯政府ノ委員トナッテ此處ニ出席スベキ五十乃至七八十ノ重要ナル政務官ダケハ之ヲ議員ト兼ヌルコトヲ許スコトニ致シタイ、先ヅ衆議院規則ヲ衆議院ノ選舉法ヲ斯ク改メ、而シテ之ニ伴フ所ノ勅令ヲ發布致シマスレバ、夫デ他日段々他ノ方面モ改良ノ途ニ著ク、是ニ於テ始メテ政黨主義ノ完全ナル發達ガ出來ラウト思ヒマス、日本銀行以下總テノ重大ナル會社ヲ攪亂スルガ如キ方法ヲ以テ、而シテ是ガ政黨主義デアアル、政黨ノ勢力ヲ發達スル所以デアルト考ヘレバ、是非常ナル間違ヒデアッテ、吾々ハ政黨ノ勢力ヲ發達セシムルト云フコトニ付テハ、敢テ人後ニ落チナイ者デアリマス、ソレト同時ニ其途ヲ擇バズシテ此力ヲ伸バヌト云フコトハ、獨リ政黨主義ノタメニ害ヲ爲スノミナラズ、立憲政體及國家ノタメニ大害ヲ爲スモノト考ヘル、故ニ已ムヲ得ズ此議案ヲ提出シタ次第デアリマス、願クハ諸君ニ於テモ虚心平氣ニ御勸考ニナッテ、大多數ノ贊成ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス、次テ關直彦君外七名提出衆議院議員選舉法中改正法律案外二件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六一 地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第三條第五項中「第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川缺、押堀石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノ」ノ下ニ「及早害ニ由リ土性硬化シテ田地龜裂シテ特殊ノ工事ヲ施スニ非サレハ復舊セサルモノ」ヲ加フ



三年二月二十三日人見米次郎君外一名提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者(人見米次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ地租條例ノ第三條第五項ノ天災ニ依ル荒地ノ種類ヲ明記シテアル中ニ、早魃ノ災害ニ依ルモノモ追加セントスル趣意デアリマス、ソレデ其大體ノコトハ理由書ニ書イテ置キマシテゴザイマスカラ、極ク簡單ニ此處ヲ説明ヲ致シマスルガ、元來此強粘土質ノ田地デアリマシテ、著シキ早魃ニ遭遇シタルトキニハ土質ガ硬化スルモノデアリマス從ッテ其後ノ復舊工事ノ費用ニハ大變ニ澤山ナ金ヲ要スルヤウナ次第ゴザイマシテ、他ノ風害トカ或ハ山崩レ川成等ノモノノ復舊工事ト敢テ其程度ガ變ラヌヤウナコトニナリマス、現在昨年ノ大早魃ニ於キマシテ、滋賀縣ニ於ケル早魃被害ノ狀況ヲ申述ベマスルナラバ、被害ノ反別ガ甲賀郡一郡ダケニ於キマシテ千三百二十八町ト云フヤウナ被害ノ高ニナッテ居リマス、其内ニ畦堀工事ト申スモノヲ施シマスルモノガ九百七十八町、ソレカラ床張工事ト云フモノヲシマスルモノガ三百五十町ト云フ位ナコトデアリマス、之ニ要スル費用ガドノ位掛ルカト言ヒマス、總計ニシテ人夫ガ七十六萬四千人、此費用ガ五十三萬八千三百圓ト云フ計算デアリマス、一縣ノ早魃ノ害ニ致シマシテスラ此ノ如クデアリマス、是マデニ政府ノ方ニ於キマシテ往々早魃ノ時ニ於テハ特別ノ取扱ヲ受ケテ居リマス、現ニ明治十六年及二十六年ノ時ノ如キモノハ最モ甚ダシイノデアリマス、政府ガ早魃ノ被害地ヲ検査ヲ致シマシテ、一年カラ五年マデノ間ノ免租ヲシテ居ル處モゴザイマス、ソレカラ又三十箇年賦デ五萬圓ノ貸付ヲ受ケタコトモアルノデゴザイマス、所ガ此地租條例ニ明文ガアリマセヌガタメニ、時ニ依リマシテハ稅務署ニ依リマシテ往々解釋ヲ異ニスルノデアリマス、現ニ昨年ノ早魃ノ如キモノニシマシテモ、大阪ノ監督局ト名古屋ノ監督局ト見解ヲ異ニ致シマシテ、損害ノ程度ハ同ジ程度デアリナガラ、滋賀縣ノ方ハ大阪監督局ノ方ノ検査ヲ受ケ、三重縣ノ方ハ名古屋監督局ガ贊成ヲシナカッタト云フコトデゴザイマス、ソレ故ニ此法律ノ不備ヲ補ハ

ンガタメニ茲ニ一ノ明文ヲ加ヘマシタナラバ、此不公平ノ所ガ將來ニ無クナルダラウト思ヒマス、尙詳細ノコトハ委員會ニ於テ申述ベマスルガ、大體此ノ如キ次第デアリマスカラ、希クハ御贊成ヲ願ヒタウゴザイマス

次テ齋藤宇一郎君外六名提出東北六縣田畑地價特別修正法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六二 通行稅法中改正法律案

通行稅法中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ一號ヲ加フ

- 一 市内又ハ命令ヲ以テ市内ニ準スヘキモノト定メタル區域内ノミヲ通行スルトキ

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年二月二十四日田川大吉郎君提出、本案ハ同種法律案(長谷場純孝君外六名提出通行稅法中改正法律案)議決ノ結果消滅セリ



六三 著作權法中改正法律案

著作權法中左ノ通改正ス

第十一條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 新聞紙ニ記載シタル事項ニシテ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルモノ

第二十條 新聞紙ニ記載シタル電報及雜報ニ限リ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記シタリト雖發行ノ

日ヨリ三日ヲ經過シタルトキハ其ノ出處ヲ明示シテ之ヲ轉載スルコトヲ得

三年二月二十四日石橋爲之助君外一名提出、三月十日第一讀會ヲ開キ提出者(石橋爲之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ内容ハ新聞紙ノ記事ニシテ、特ニ轉載ヲ禁ズルト云フ旨ヲ明記シテアルモノニ權利ヲ保護スルト云フ主意デアリマス、但シ雜報及電報ノ類ハ長ク轉載ヲ禁ズルト云フ必要ハアリマセヌノデ、發行ノ日ヨリ三日ヲ經レバ其出所ヲ明記シテ轉載スルコトヲ得ト云フ規定ニ致シタイ、何故ニ斯ウ云フ提案ヲ致シマスカト申シマスルト、新聞紙ガ特ニ轉載ヲ禁ズルト云フ旨ヲ掲載イタシマスルモノハ、主トシテ海外ヨリ取ル所ノ特殊ノ電報デアリマス、ソレハ最も多クノ經費ヲ要シテ居リ、又其新聞ノ特殊ノ材料トシテ尊ブ所ノモノデアリマス、ソレガ今日マデノ實例ヲ見マスト、例ヘバ東京ニ於テ其電報ノ著スルヤ直ニ號外ヲ發シマスルト、其本紙ハマダ地方ニ届カヌ先キニ地方ノ新聞ハ東京カラ電話デ以ッテ其號外ヲ直グ取寄セテ、サウシテ何等ノ斷リモナクシテ自己ノ新聞ニ著シク電報ノ如キ體裁ヲ以テ、直ニ發行スルト云フヤウナコトガ行ハレテ

居リマス、其タメ肝腎ノ元ノ新聞紙ハ廣ク配布サレテモソレダケノ効力ヲ失フト云フコトニナリマシテ、非常ニ損害ヲ受クルコトニナッテ居リマスカラ、サウ云フ不公平ノコトハ是ハ保護シナケレバナラス、其權利ヲ保護シナケレバナラスト云フコトヲ必要トシマスノデ此案ヲ出シタ譯デアリマス、何卒御賛成アラントヲ希望シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六四 醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第十四條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ニ依リ醫術開業前期試験ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出テ特ニ定メタル醫術開業後期受験資格名簿ニ登録スルヲ要ス

受験資格名簿ニ登録シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試験ヲ舉行ス

同條第二項中「前項」ヲ「前三項」ニ改ム

三年二月二十六日濱田政壯君外三名提出、三月十日第一讀會ヲ開キ提出者(濱田政壯君)ハ左ノ如



醫師法中改正法律案ヲ提出致シマシタニ付キマシテ、少シ詳シク申上ケル筈デアリマシタ所ガ、斯ウ云フ場合デアリマスカラ簡單ニ申上ゲテ御賛成ヲ得タイト思ヒマス、此醫師法ニ依リマシテ醫術開業試験ガ本年ノ九月限り廢サレコトニ極ッテ居リマス、其タメニ此法律ノ效果トシテ多數ノ醫學生ニ落伍者ガ出來ルコトニナリマシタ、ソレガ甚ダ不幸ヲ招クト云フコトニナルノデアリマス、即チ是等ノ落伍生ハ進ムニモ進マレズ、又退クニモ退カレズ、所謂進退維谷ルト云フヤウナ生殺ニナル所ノ醫學生ガ此結果トシテ出來ルノデアリマス、之ヲ今後二箇年間延長致シマシテソレヲ救ヒタイト云フ精神デゴザイマスドウゾ是ハ此議會ニ於キマシテ此法案ヲ決議スルト否トガ全ク學生ノ運命ニナッテ居ルノデゴザイマスカラ、ドウゾ其邊ヲ深ク御高察ヲ願ヒマシテ、切ニ滿場一致ノ御賛成ヲ願ヒタイノデアリマス

次テ政府提出肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六五 衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

神奈川縣橫濱市ノ次ニ

橫須賀市 一人

長崎縣長崎市ノ次ニ

佐世保市 一人

新潟縣新潟市ノ次ニ

長岡市 一人

高田市 一人

三重縣四日市市ノ次ニ

宇治山田市 一人

愛知縣名古屋市ノ次ニ

豊橋市 一人

静岡縣静岡市ノ次ニ

濱松市 一人

長野縣長野市ノ次ニ

松本市 一人

福島縣若松市ノ次ニ

福島市 一人

廣島縣廣島市ノ次ニ

廣島市 一人



吳	市	一人
ヲ加フ		
大分縣		
大	分	市
郡		部
北海道廳小樽區ノ次ニ		六人
旭	區	一人
ヲ加フ		

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

三年二月二十八日小泉又次郎君外二十六名提出、三月十日第一讀會ヲ開キ提出者（小泉又次郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此案ハ横須賀市外十市並ニ本年四月一日ヨリ區制ヲ施行サレマストコロノ北海道旭川ヲ合セテ、即チ十一市一區此所ヲ從來ノ法ヲ改メマシテ、更ニ之ヲ獨立ノ選舉區ニシタイト云フ法律案デアアルノデアリマス、其理由ト致シマシテハ、此十一市並ニ一區ヨリシテ商工業者ノ代表者ヲ選

舉スルコトガ極メテ至當ナルコトデアアル、斯様ニ信ジテ居リマスルガ故ニ、此案ヲ提出シタ理由デアアルノデアリマス、此際ニ附加ヘテ申上ゲテ置キタイコトガアルノデアリマス、ソレハ政友會ノ諸君カラ御出シニナッテ居リマスルトコロノ衆議院議員選舉法中改正法律案モ、是ト同ジヤウデアアリマスルガ、末尾ニ附記シテアリマスルトコロノ北海道ノ増員ト云フノハ、私ハ反對デアリマス、此趣意ニ付テ賛成デアリマスルガ、此北海道ノ増員ヲスルト云フコトガアレバ獨リ北海道ノミナラズ、現在ノ戶數人口ヲ選舉權ニ割當テマシテ、北海道ノ増員ノ如ク増員スベキトコロノ選舉區ハ多々アルノデアリマスカラ、増加ヲ標準トシテ改正セントスルナラバ、獨リ北海道ノミナラズ他ノ府縣ニ於キマシテモ同様ニ之ヲ提出セネバナラヌト思ウテ居リマスカラ、私ハ此意味ニ於テ此増員ハ後ノ議會若クハ此議會ニ於キマシテモ能ク調査シテ、更メテ増員ノミヲ提出スルノ考ヲ持ッテ居リマス、ソレガ故ニ政友會諸君ノ御提出ニナリマシタ案トハ、此選舉區ヲ獨立ニシテ、即チ商工業者ノ代表者ヲ出スト云フノ意味合ノミノ提案ヲシタノデアリマシテ、増員ニ關スル分ハ追テ提出セントスルノ考デアリマスカラ、此理由ヲ附加ヘテ申上ゲテ置キマス、御賛成アラムコトヲ希望致シマス

次テ關直彦君外七名提出衆議院議員選舉法中改正法律案外三件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六六 農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第一條中「二十圓」ヲ「五十圓以内」ニ改ム

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



第四條 削除

第五條 削除

三年二月二十八日西谷金藏君外二名提出、三月十日第一讀會ヲ開キ提出者(西谷金藏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極ク短ク申シマス、本案ハ農工銀行法中第一條株式ノ金額ガ二十圓トアルノヲ五十圓マデ進ムルコトヲ得ル、是ハ御承知ノ通り農工銀行ハ特殊銀行デゴザイマスガ故ニ、大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テスルコトハ素ヨリデゴザイマス、又第四條ヲ削除シ第五條ヲ削除スル、ソレダケナノデアリマス、此第一條ニ付テハ二十八議會ニ於テ本員ガ提出致シマシテ、衆議院ハ全會一致ヲ以テ通過シ、政府モ同意セラレ、貴族院ニ於テ通過ノ間合ヲ得ズシテ成立致シマセナンダ、又第四條ノ削除ハ政府ガ二十七議會ニ提出致シマシタ當時ハ、未ダ之ヲ全ク削除スルノ時期ニアラズトシテ、局部ノ改正ヲ以テ通過ヲ致シマシタガ、爾來經濟界ノ發達ニ依リ資本共通ノ必要上之ヲ廢止スルノ必要ヲ認メマシタノデ、此第四條第五條共ニ削除スル案ヲ提出致シマシタ、ドウゾ御賛成アラシコトヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

農工銀行法中左ノ通改正ス

(小字及——ハ委員會修正)

第一條中「二十圓」ヲ「五十圓以内」ニ改ム

前項ノ株式金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ五十圓迄ニ上スコトヲ得

第四條 削除

農工銀行ノ取締役及監査役ハ農工銀行ノ營業區域内ニ住所ヲ有スルコトヲ要ス

第五條 削除

中「府縣郡市町村」ノ下ニ「及市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區」ヲ加フ

翌十四日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長西谷金藏君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

諸君、委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、此農工銀行法ノ改正ハ現行法ノ第一條第四條第五條此三條ニ付テ修正、若クハ削除致シマシタノデアリマス、委員會ハ此第一條ニ付キマシテハ、提案ハ株式ノ金額ハ二十圓トアルノヲ「五十圓以内」ト改ルトナッテ居リマシタノヲ、更ニ修正シテ「前項ノ株式金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ五十圓迄ニ上スコトヲ得」斯ウ云フコトニ修正致シマシタ、是ハ第二十八議會ニ於テ既ニ此通ニ本會ハ滿場一致ヲ以テ可決セラレマシタ案ニシテ、其理由ヲ更メテ申シマスレバ、農工銀行法ハ明治三十九年ノ發布ニシテ、爾來二十年經濟界ハ漸次膨脹シテ參リマシタノデ、最初ノ如ク株式金額ノ小サキニ失スルノハ、増資等ノ場合ニハ、往々不便ヲ感ズルコトガアルノデゴザイマス、又最初農工銀行ヲ拵ヘマシタ時ハ、其府縣ノ下ニ於テ極メテ零碎ノ資金ヲ集メテ銀行ヲ拵ヘマシタガ、漸次農工銀行ノ小サイ株主ガ減ッテ、今日ハ株式ハ段々大キク纏ッテ參ッタノデアリマス、此故ニ増資ヲセラル、場合ニ於テ、大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ、之ヲ五十圓迄進ムコトハ却テ増資ノタメ便利ヲ得ルト云フノデ、此ノ如キ改正ヲ致シマシタ、是ニハ政府ハ無論異論ノナイ所デ、其次ハ第四條デ、第四條ノ現行法ハ「農工銀行ノ營業區域内ニ住所ヲ有スルモノニアラサレハ其株主タルコトヲ得ス、株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主タルノ資格ヲ失フコトナシ」此條ヲ削除致シ



マシタノデゴザイマス、更ニソレニ換ヘルニ第四條「農工銀行ノ取締役及監査役ハ農工銀行ノ營業區域内ニ住所ヲ有スルコトヲ要ス」斯ウ云フ條ニ換ヘタイノデアリマス、是ハ二十七議會ニ政府ガ此第四條削除ノ提案ヲセラレマシタガ、當時本院ハ時期尙早シトシテ局部ノ改正ヲシテ兩院ノ通過ヲ見マシタ次第デゴザイマスガ、爾來經濟界ノ發展ニ伴ヒ、又現在各地ノ農工銀行ノ資金ガ潤澤ナラズシテ、此ノ如キ改正ヲ要スルノ必要ヲ認メタノデ、農工銀行ハ御承知ノ通り、當リ前ノ株式資本ノ他多クノ場合ハ、債券ノ募集ニ依テ營業シテ居ルノデアリマスガ、此農工銀行ノ親銀行タル勸業銀行ガ、農工銀行ノ債券ノ多クハ引受ケベキモノニモ拘ラズ、勸業銀行ニ於テ之ヲ引受ケルコトヲ得ズ、又二三年前大藏省ノ預金局ヨリ農工債券ニ應ズルコトニナツテ居リマシタガ、近時預金部ノ金ガ段々減ツテ參リマスト同時ニ、農工銀行ノ債券ニ應ズルコトガ出來ナクナツテ參リマシタノデアリマス、ソコデ農工銀行ノ近時ノ債券ハ大抵年七朱手取九十八圓乃至九十五圓位マデニナツタノデ、初メハ六朱以内デ募集シツ、アッタモノガ、今日ハ七朱ニ利子ガナルト同時ニ、更ニ手取リノ金ハ九十五圓位ヲ以テ募集セザルヲ得ヌヤウナコトニナリマシタニ付テハ、從テ株主ノ制限ヲ解キ、地方共通ノ途ヲ開クノ必要ヲ認メマシタメ、此農工銀行ノ株主タル住所ノ制限ヲ撤廢シ、若シ此住所ノ制限ヲ撤廢シタル場合ニ於テハ、或ハ弊害ガ起リハシナイカ、田舎ノ農工銀行ニ向ツテ中央ノ資本家ガ出テ參ツテ、或ハ地方ノ農工銀行ノ基礎ヲ危ウスルヤウナコトガアリハシナイカト云フ心配ノ御方モアリ、政府又此感ヲ持タル、ガ故ニ、第四條ノ現行法ヲ削除スルト同時ニ其府縣ニ住所ヲ有スル者ニ非ザレバ、取締役及監査役ニナルコトガ出來ヌト云フコトニシテ、其弊ヲ避ケルコトト致シマシタ、夫カラ其次ニ第五條、第五條ハ現行法ハ「第五條農工銀行ノ營業區域ノ府縣郡市町村モ亦其株主タルコトヲ得」斯ウアル、之ニ此第五條中「府縣郡市町村」ノ下ニ「及市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區」此二十二字ヲ挿入スルノデアリマス、是ハ東京市ニ於ケル區ノ如キモノガ株主タルコトヲ得ナイカラ、之ニ株主ノ特權ヲ與フルコトハ極メテ必要デアラウト云フ議論デアリマス、以上申上マシタ通り修正ヲ致シマシタガ、委員會ハ二回開キ、此案ニ對シテハ各派ニ於テ議論ガ無イノミナラズ、政

府ニ於テモ満足ニ同意サレマシタ、ドウゾ御審議ノ上此通ニ御決議アラシムコトヲ切望致シマス別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ同月二十三日可決奏上シ同三十一日法律第二十五號ヲ以テ公布セラル

六七 所得稅法中改正法律案

所得稅法中左ノ通改正ス

第三條第六項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ戸主又ハ家族ノ勤勞ニ因ル所得ニシテ其ノ額各四百圓ニ滿タサルモノハ之ヲ合算セス

三年二月二十八日大西五一郎君提出、三月十日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ  
 極ク簡單ニ申シマスガ故ニ、本席ヨリ説明ヲ致サウト思ヒマス、ソレハ但書ヲ加ヘマス、ソレハ所得稅法ノ第三條ノ六項ノ二デゴザイマス「戸主又ハ家族ノ勤勞ニ因ル所得ニシテ其額各四百圓ニ滿タサルモノハ之ヲ加算セス」斯様ナ但書ヲ加ヘマスノデ、是モ要シマスルトコロハ四百圓ヲ以テマシテ今日ハ最低限度ニナツテ居リマスルノニ、家族ノ所得ヲ合セマシテ四百圓トナリシモノ即チ之ヲ例ヘテ申シマスレバ、其戸主ニシテ二百圓ノ年額所得アリ其家族ニシテ百圓ノ所得アリ、而シテ之ヲ四百圓トシテ課稅サレマスコトハ可憐ナル下級社會ニ對シマシテ宜シクナイコトヲ認メマスルノデ、故ニ之ヲ合算セヌコトニ致シマシテ、夫等ノモノニ付テ稅ヲ全ク免除致シマス趣意ニ出テ居リマス、宜シク御贊成ヲ願ヒマス



次テ政府提出生産獎勵特別免稅法案外一件委員ニ併セ付託スルニ決シ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六八 盲人保護法案

盲人保護法

第一條 按摩業ハ盲人ニ限リ試驗ノ上免許ヲ與フルモノトス但シ本法施行以前按摩業ノ免許ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ盲人以外ノ者ト雖試驗ノ上按摩業ヲ免許スルコトヲ得

第三條 本法施行ニ關スル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三年三月二日齋藤珪次君外五君提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者(齋藤珪次君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

盲人保護法案ノ提出者ノ一人ト致シマシテ、私が代ッテ極ク大要ヲ申述ベマス、案其モノニ付テハ御承知デゴザイマセウガ、本案ハ按摩業ヲ盲人本位ト致シタイ考デアリマスサリナガラ既得權ヲ害ス譯デモナク、又盲人以外ト雖モ地方長官ハ其土地ノ狀況ニ依テ之ニ許スコトモ出來

ル、斯様ノ取除ケモアリマス、即チ盲人ヲ本位トシテサウシテ生眼者ハ除外スルト云フノガ本案ノ骨子デアリマス、斯ク吾々ガ此案ヲ出シマシタニ付キマシテハ種々ノ理由モアリマスルガ、先ヅ大體ニ於テ古來我國ニ於テハ盲人ヲ非常ニ保護致シテ、之ニ對シテ按摩業ヲ專業ニ致サセタト云フコトノ先例ヲ復活致シタイト云フノガ趣意デアアル、又社會ノ進歩ニ從ッテ生存競争ガ益、盛ニナッテ來ル場合ニ於テ、此廢疾者タル盲人ガ今日ノ如ク競争場裡ニ置カレテハ、到底堪ラレヌノデアアルカラシテ、ソレデ之ヲ保護致シタイト云フノデアアル、然ルトコロガ現在ノ制度ニ於キマシテハ、盲人ヲ殆ド死地ニ陥レルト申シテモ宜カラウト思フ、ナゼナレバ内務省令ニ於テ按摩業ヲ甲乙二種ニ區別シテアリマシテ、其甲ナル者ガ生眼者デアッテ目明キデアアル、乙ナル者ガ盲人デアッテ此者ハ修業年限モ短ク致シテ、ソレカラ學科モ簡易ニ致スト云フコトデ、一面ヲ見マスレバ盲人ハ非常ニ憐ナル形ニ於テ洵ニ是ハ恩惠アル制度ノ如ク見エルノデアリマスケレドモ、事實ニ於テハ同ジ按摩業ニ致シテ生眼者ハ甲者トシテ優等ナルガ如キヲ示シ、一方盲人ハ乙者トシテ劣等ナルガ如キコトヲ示シテ居リマスルガタメニ、サナキダニ身體動作ノ自由ヲ缺イテ、兎角疎シ居ラレル上ニ此乙種ト云フ名儀ノ下ニ、盲人ハ一層劣等ナリトシテ社會カラ輕蔑サレ、蔑如サレルト云フ狀況ニナッテ居ルノデアリマス、故ニ是ハ盲人ヲ本位ト致シテ斯ノ如キ區別ノナイ區別ノナイヤウ、按摩業ハ盲人ガ主ナルモノト云フコトニ復古致シテ、サウシテ此營業ヲ發達セシメタイト云フノデアリマシテ、今之ヲ以テ人ノ自由、營業ノ自由ヲ奪フナドト生眼者ガ申シテ居リマスルケレドモ、御承知ノ通り盲人ハ廢疾ノ者デアアル、此者ハ普通ノ職業ハ出來ナイノデアアル、而シテ此按摩業ハ洵ニ微々タル職業デアアル、サウシテ盲人ニ向ッテ最モ適當ナル職業デアアル、纖弱ナル手先ニ於テモ爲シ得ラレル職業デアアルカラ、社會カラ此纖弱ナル職業ヲ一ツ取ッテ、之ヲ盲人ノ專業ニ致スト雖モ、決シテ是ガ天賦ノ營業ヲ害シ自由ヲ害スト云フガ如キ範圍デナイト私ハ信ズルノデアリマス況ヤ一方ニ於テ取除ガアッテ既得權ヲ害サズ、將來ト雖モ或ル程度マデハ生眼者ニモ許スト云フ以上ハ、決シテ營業妨害ニアラズ、一面ニ此不幸ナル盲人ヲ救フノ法案デアリマスカラ、ドウカ御賛成アッテ通過アランコトヲ望ミマス



次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ同月十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ翌十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
翌十三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長齋藤珪次君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

極ク簡單デアリマスカラ本席カラ申シマス、本案ハ委員會ニ於キマシテ當事者ト質問應答ヲ致シマシタ結果、些ノ修正モナク又反對論モナク、全會一致ヲ以テ原案ノ通り可決スベキモノト決定致シマシタ、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ院議原案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ同月十八日之ヲ否決シタリ

### 六九 國有土地森林原野下戻法中改正法律案

國有土地森林原野下戻法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「明治三十三年六月三十日迄」ヲ「大正三年十二月三十一日迄」ニ改ム

同條第三項中「未定地脫落地」ノ下ニ「地上權ト認ムヘキモノ」ヲ加フ

第二條ニ左ノ二號ヲ加フ

七 入會地ニシテ國有ト認ムヘカラサルモノ

### 八 社寺上地ニシテ朱、黑印地ニ非サルモノ

三年三月三日伊藤祐一君外六名提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者（關信之介君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國有土地森林原野下戻法ノ改正案ニ就キマシテ、提出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、本改正ノ要旨ハ「第一條第一項中「明治三十三年六月三十日迄」ヲ「大正三年十二月三十一日迄」ニ改ム」同條第三項中「未定地脫落地」ノ下ニ「地上權ト認ムヘキモノ」ヲ加フ」第二條ニ左ノ二號ヲ加フ「七、入會地ニシテ國有ト認ムヘカラサルモノ」「八、社寺上地ニシテ朱黑印地ニ非サルモノ」斯様ニ改正致シタイ趣意デアリマス、御承知ノ如ク三十二年ノ法律九十九號ノ國有土地森林原野下戻法ト申シマスルモノハ、維新後府縣設置ノ當時、社寺上地其他ノ土地處分ヲ爲スニ際シ、又地租改正ヲ爲スニ際シマシテ、其當時ノ吏員等ガ誤ッテ民有地ヲ官有地ニ編入スルノ取調ヲ爲シ、爲メニ人民ガ從來持來ッタトコロノ所有權ヲ失ハシメタガタメニ此所有權ヲ喪失シタ者ニ對シテ此下戻法ニ依リ下戻ノ申請ヲ爲サシメ、而シテ此下戻法ノ規定ノ要項ニ適合致スモノニハ是ガ下戻ヲ爲シテ、而シテ此現ニ國有トナッテ居ルモノヲ皆下戻ヲ爲シテ、其所有權喪失者ヲ救済スルノ趣旨ニ外ナラヌ次第デアリマス、然ルニ明治三十二年法律第九十九號ハ發布後實施期限ト云フモノガ僅ニ七八箇月ノ短期間デアッタガタメニ、僻陬ノ村落ニ居リマス者ハ其法律ノ期限内ニ申請ヲ爲サルガタメニ、遂ニ其恩典ニ浴スルコトガ出來ナイ、折角誤ラ正シテ此所有權ヲ失ッタ者ヲ救フト云フトコロノモノガ、一面ハ此法律ノ恩澤ニ浴シテ所有權ヲ得ルコトガ出來、又一面ハ此所有權ヲ失フト云フヤウナコトニナリマシテハ、此下戻法ニ依ッテ救済スルト云フトコロノ趣旨ニ甚ダ反スルコトニナリマシタ次第デアリマス故ニ此場合ニ於テ本案ハ大正三年十二月三十一日迄此期限ヲ延期ヲ致シマシテ、而シテ其間ニ曩ニ申請ヲ爲サナイデ此恩澤ニ浴



セザル者ニ對シテハ、此下戻ノ申請ノ權利ヲ得セシメルト云フノガ第一ノ趣意デゴザイマス、ソレカラ第二ハ地上權——永久的地上權トモ認ムベキモノニシテ、全ク人民ガ此共有ノ權利ヲ有シナイ者ガアリマス、然ルニ此地上權ヲ有スル者ニ就テ此所有權ヲ與ヘヌガタメニ、非常ニ是等ノ地上權ヲ有シテ居リマス者ガ、甚ダ困ッテ居ルト云フヤウナコトデアリマスカラ、是等ノ者ニモ例外トシテ此下戻法ヲ準用シテ所有權ヲ下付シテヤリタイト云フノカ趣意デアリマス、ソレカラ入會地ニシテ國有ト認ムベカラザルモノ、入會地ト云フモノハ御館林或ハ御林トカ云フモノハ兎ニ角、其他ノモノハ大抵是ハ民有ノモノガ多カッタデアリマス、然ルニ地租改正ノ當時一概ニ入會地ト云フモノガ殆ド官有ニ編入致シマシテ、此入會地ヲ失ッタガタメニ、林或ハ柴草薪炭等ノ採取權ヲ失ッテ、甚ダ難澁ヲ致シテ居ル者ガ澤山アリマス、故ニ此規定ヲ此處ニ加ヘマシテ、而シテ是等ノ者ニシテ全ク元ト國有デナイモノデアッタ場合ニハ、此下戻ヲ許スコトニ致シタイト云フノデアリマス、ソレカラ其次ニハ社寺土地ニシテ朱黑印地ニアラザルモノニ就テハ、行政裁判所ニ於テハ前ニ是等ノモノニ就テ、農商務省ガ下戻不許可ノ處分ヲ爲シタノヲ認メテ皆敗訴ニ歸セシメ、後ニ半ヨリ以上ニ至ッテハ、之ニ下戻ヲ許シタト云フ甚ダ偏頗ナ判決ガ出來テ居リマス、ソレデ前ニハ下戻スコトガ出來ナカッタモノガ、後ニ至ッテ下戻スコトガ出來ルト云フ判例ニナリマシテ、同一精神ノモノニ就キマシテ、一ハ下戻ノ恩澤ニ浴シ、一ハ下戻ノ恩澤ニ浴スルコトガ出來ナイト云フコトデアリマスカラ、此一項ヲ加ヘテ此等ノ爲メニ甚ダ偏頗ナ處置ヲ受ケテ苦ンデ居ル者ヲ救済スルタメニ、斯様ニ致シタイノデアリマス、ドウカ御審議ノ上御賛成アラントヲ希望致シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
 (委員會報告書)  
 (小字及——ハ委員會修正)

國有土地森林原野下戻法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「明治三十三年六月三十日迄」ヲ「大正三年十二月三十一日迄」ニ改ム

同條第三項中「未定地脫落地」ノ下ニ「地上權ト認ムヘキモノ」ヲ加フ

第二條ニ左ノ二號ヲ加フ

七 入會地ニシテ國有ト認ムヘカラサルモノ

八 社寺土地ニシテ朱、黑印地ニ非サルモノ

同月十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長關信之介君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

國有土地森林原野下戻法中改正案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス、本案ニ付キマシテハ兩度委員會ヲ開キマシテ、政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、政府委員ト數回應答ノ結果、諸君ノ御手許ヘ御配付致シマシタ通り、第一條ノ次ノ「同條第三項中「未定地脫落地」ノ下ニ「地上權ト認ムヘキモノ」ヲ加フ」ト云フ一項ヲ除キマシテ、其次ニ「第二條ニ左ノ二號」ヲ「左ノ一號」ト致シ、第八ノ「社寺土地ニシテ朱黑印地ニ非サルモノ」之ヲ削除致シマシタ、此削除シタ所以ハ、改正案ノ第二項ニアリマス所ノ「地上權ト認ムヘキモノ」ト云フモノヲ、所有權ノ取戻ト云フコトニ當符メルノハ少シ穩當ヲ缺クモノデアルカラ、此事ハ他日研究シテ、別ニ法律案ヲ出スコトト致シマシテ、今日ハ之ヲ削除スルコトニ致シマシタ、又第八ノ「社寺土地云々」ト云フコトハ、既ニ請願委員長ヨリ特ニ下戻法案ト云フモノヲ本院ニ御提出ニナリマシテ、多數ノ賛成ヲ得テ可決ニナリマシテ、今ヤ貴族院ニ同付ニナッテ居ルノデアリマスカラ、重複ニ涉ルタメニ之ヲ除キマシタ、而シテ此事ニ付キマシテハ、政府ハ此期限ヲ延ベマスコト及ビ「入會地ニシテ國有ト



認めハカラサルモノト云フコトヲ入レルコトハ反對デアル、其事ハ此下戻ニ關シテハ、嚮ニ相當ノ期限ヲ定メテ此ノ申請ノコトヲ許シタニ拘ラズ、其間ニ申請ヲシナイモノハ、是ハ自ラ其權利ヲ放棄シタモノデアアルカラ仕方ガナイト云フコトデ此事ニ反對シ、又入會地ノコトニ付テハ國有ト認ムベキモノハ申請者ニ立證ノ責任ガアルノニ、却テ政府ニ立證ノ責任ヲ負ハスト云フコトハ穩カデナイカラ、此事ニハ反對スルト云フコトデアリマス、此期限ヲ延ベタコトハ嚮ニ提出ノ理由ヲ申上ゲルトキニ大要申上ゲマシタ通り、前ノ申請ノ期間ハ誠ニ短日月デアッタカラ、山間僻陋ノ者ハ此期間内ニ申請スルコトガ出来ナイ、故ニ其申請ヲシタモノハ下戻ノ恩澤ニ浴シ、申請ヲシナイ者ハ此恩澤ニ浴スルコトガ出来ナイト云フヤウナコトデアッテ、嚮ニ本案ヲ岡田泰藏君ガ御提出ニナッタ下戻法ノ時分ニ、政府委員ハ反對ノ理由トシテ此法案ハ縦シ法律ニナッタ所ガ、僅ニ百二十七件シカ無イ、其中ノ幾分ニ過ギナイカラ此法律ガ出来タ場合ニハ、是マデ處分ヲ受ケタモノ、不幸ニナッテ、此法律ノ爲メニ僅ニ十件カ二十件ノ利益ヲ得ルニ止マリ、甚ダ是ハ不公平ナモノデアアルカラ、此事ニハ贊成シナイト云フ御言葉ヲ以テ反對シマシタ、此法律ハ嚮ニ法律ニ依テ申請スル期限ヲ失ッタガ爲メニ、同一ノ權利者ニシテ其權利ヲ得ルコトガ出来ナイモノガ、此法律ガ出マスト前ニ權利ヲ失ッタモノニ權利ヲ得セシムルノデアアルカラ、政府ガ反對シタ理由ト反對ニ此法律ノ爲メニ公平ヲ得ルコトデアアルカラ、政府ノ此法案ニ付テノ反對ハ甚ダ理由ノ無イモノデアリマス、又入會地ニシテ國有ト認ムベカラザルモノ即チ民有デアッタナラバ返スノガ當然デアアル、國家ハ之ヲ返シタ所ガ少シモ差支ナイモノデアリマスカラ、委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

岡本農商務省山林局長ハ左ノ如ク本案ニ反對ノ演説ヲ爲セリ

遺憾デゴザイマスケレドモ本改正案ニハ反對デゴザイマス、本改正案ノ要點ハ申上ゲルマデモナク二點デゴザイマシテ、第一ハ下戻申請期間ヲ延長スルト云フコトデゴザイマス、其理由ト致シマシテハ委員長ヨリ御報告ニナリマシタガ、政府ニ於キマシテハ此下戻申請期間ハ決シテ短

クナカッタト考ヘテ居ルノデゴザイマス、此事ニ付キマシテハ嚮ニ同様ノ改正案ガ出マシタトキニ言明シテ居ル通りデゴザイマシテ、即チ地租改正以後下戻法ノ發布ニナリマスマデ、其間約二十年間ニ於キマシテ、農商務省ノ訓令ナリ省令ニ依ッテ其地租改正當時ノ處分ノ誤謬ヲ訂正シ來ッタノデアリマス、假令下戻法ニ於テ其期限ヲ限局致シテ居リマシテモ、其誤謬ノ訂正ノ申請ハ實質ニ於キマシテ、地租改正ノ當時ヨリヤリ來ッタモノデアリマスカラ、決シテ短クナカッタト考ヘテ居ルノデゴザイマス、而已ナラズ今日ハ既ニ下戻ノ申請事件モ結了致シテ居ル際デゴザイマスノデ、再ビ此期限ヲ延長致サレマスコトニナリマスレバ、今日著々進行致シテ居リマス所ノ國有林野ノ經營上ニ甚大ノ支障ヲ來スノデゴザイマス、第二ニ第二條ニ一號ヲ御追加ニナリマシテ「入會地ニシテ國有ト認ムヘカラサルモノ」ト云フコトヲ加ヘラルルコトニナリマシタ、御承知ノ通りニ入會地ト云フモノハ其權利ノ内容ニ立入ッテ見マスレバ、其狀態ハ一ツデナクシテ、多様ニナッテ居ルコトデアリマシテ、假令入會地デアアルコトガ分リマシテモ、直チニ地盤マデモ其所有權ガアッタト云フコトヲ認メルコトハ出来ナイノデアリマス、地租改正當時ノ扱ヒヲ見マシテモ、其入會地ニシテ慣行成績ガ顯著デゴザイマシテ、民有ト認ムベキモノハ民有ニナッテ居ル筈デゴザイマシテ、其官有ニ歸シマシタモノハ、地上ノ毛上權ヲ採取スルニ止マルモノガナッテ居ルノデアリマス、然ルニ本法ニ依リマシテ入會關係アルモノハ直チニ地盤ノ所有權アリトシテ、反證ナキ限りハ下戻スト云フコトニ付キマシテハ、道理上當ヲ得ナイコト、存ジマス爲ニ、本案ニハ反對デゴザイマス

他ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ  
即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

七〇 公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律案



第一條 公共團體ニ於テ管理スル道路、公園、堤塘、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地物件ヲ濫ニ使用シ又ハ其ノ管理ニ關スル規則ニ基キ發シタル命令並許可ノ條件ニ反シテ使用スル者ニ對シ管理者タル行政廳ハ其ノ使用ヲ禁止若ハ制限シ及地上物件ノ撤去其ノ他原狀回復ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ行政執行法第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三年三月三日原田十衛君外十五名提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者(原田十衛君)ハ本案ノ趣旨ハ理由書ニ明カナル旨ヲ述フ

(參照) 理由書

本案第一條ノ事實ニ對シ公共團體ハ之カ強制權ヲ有セス行政上支障尠ナカラサルニ由ル是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(一)ハ委員會修正)

第一條 公共團體ニ於テ管理スル道路、公園、堤塘、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地物件ヲ濫ニ使用シ又ハ其ノ管理ニ關スル規則ニ基キ發シタル命令並許可ノ條件ニ反シテ使用スル者ニ對シ管理者タル行政廳ハ其ノ使用ヲ禁止若ハ制限シ及地上物件ノ撤去其ノ他原狀回復ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ行政執行法第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

翌十三日第一讀會ノ續會ヲ開キ理事田川大吉郎君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

委員長不在ノ爲私ヨリ代ッテ報告ヲ致シマス、本案ハ公共團體ニ於テ管理スル道路公園堤塘溝渠其他公共ノ用ニ供スル土地物件等ヲ私人ニ於テ濫ニ使用シテ居ル者ガアル、又ハ許可ノ條件ニ違背シテ使用シテ居ル者ガアルノニ對シテ、行政廳ハ之ヲ原形ニ復スル爲ニ必要ナル強制權ヲ現在ニ於テハ持ッテ居マセヌノデアリマス、故ニ此法律ニ依テ其強制權ヲ管理者タル行政廳ニ與ヘタイト云フ趣旨デアリマス、委員會ハ審議ノ上此趣旨ヲ是認致シマシタ、但法文トシテハ提案ノ文字ガ稍煩雜ニ過ルコトヲ心付キマシタ爲ニ、全部其趣旨ニ從ッテ文字ヲ稍簡明ニ修正致シマシタ、其修正ノ文案ハ御手許ニ達シテ居ル筈ト信ジマス、故ニ此ニ朗讀ヲ致シマセヌ、而シ



テ政府モ其修正案ニ向ッテ全部 意ヲ致シマシタ、委員會ノ經過ノ要領ハ斯ノ通デアリマス、ドウゾ御賛成ヲ希望致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ 即日貴族院ニ送付、同院ハ同月二十日可決奏上シ四月四日法律第三十七號ヲ以テ公布セラル

### 七一 耕地整理法中改正法律案

耕地整理法中左ノ通改正ス

第十四條第一項中「從前ノ地域ニ依リ其ノ」ノ下ニ「五分ノ一ヲ超過シタル段別ノ」ヲ加フ

三年三月三日大橋松二郎君外二名提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者(熊谷五右衛門君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此耕地整理法ノ第十四條ニ耕地整理ノ面積五分ノ一以上ニ達スル地目變換等ノアツタ場合ニハ、其五分ノ一ニ達スルマデノ分ハ恩典ヲ受クルコトニナツテ居リマスガ、五分ノ一以上ニナリマスト此恩典ヲ受ケルコトガ出來ナイノデアリマス、因テ五分ノ一以上ニナツタモノモ五分ノ一以上ニナルマデノモノモ、此恩典ヲ受ケラレルヤウニシタイト云フ趣意デアリマスカラ、ドウカ之ニ御賛成ヲ願ヒマス

次テ政府提出耕地整理法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ノ末本案ハ同

種議案可決ノ結果議決ヲ要セサルモノト決シ同月十四日同種議案(政府提出耕地整理法中改正法律案)議決ノ結果本案ハ消滅シタリ(本章第四款第一項第三二號參看)

### 七二 議院法中改正法律案

議院法中左ノ通改正ス

第五十四條ノ二 甲議院ノ提出シタル議案ニシテ乙議院ニ移リ委員ニ付託セラレタルトキハ其ノ發議者タル議員ハ乙議院ノ委員會ニ出席シ提案ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

三年三月三日高木益太郎君提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ  
兩院議員ガ互ヒニ提案ノ趣意ヲ委員會ニ於テ説明ヲシタイト云フ修正案デアリマシテ、兩院ノ意思ヲ疏通スルタメニ必要ナルコト、思ヒマスカラ、宜シク御審議ヲ煩ハシタイト思ヒマス  
質疑應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

### 七三 刑事訴訟法中改正法律案

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第四十八條ノ二 第二十條第二十一條第九十二條ノ二第九十五條乃至第九十七條及ヒ第三百一條ノ規定ハ檢事、司法警察官、稅務官、林務官其他ノ公務員犯罪捜査ニ關スル書類作成ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條ノ二 勾留狀ヲ執行シタル時ヨリ一箇月ヲ經過シタルトキハ豫審判事ハ被告人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其勾留ヲ繼續シ又ハ被告人ヲ放免シ若クハ保釋ヲ許ス旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

豫審カ終結スルニ至ル迄ハ順次一箇月毎ニ前項ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條ノ三 公訴ノ提起アリタル時ヨリ重罪事件ニ付テハ四箇月其他ノ事件ニ付テハ二箇月ヲ經過スルモ尙豫審ノ終結ニ至ラサルトキハ被告人ハ豫審判事ノ屬スル地方裁判所刑事部ニ對シ速ニ豫審ヲ終結スヘキコトノ命令ヲ發セムコトヲ請求スルコトヲ得

地方裁判所刑事部ハ豫審判事ノ意見ヲ求メタル上決定ヲ以テ一定ノ期間内ニ豫審ヲ終結ス可キコトヲ命スヘシ

前項ノ期間ハ豫審判事ノ申立ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第九十二條ノ二 被告人其他ノ豫審調書ニハ供述人ヲシテ其各葉ニ契印セシメ且挿入削除及ヒ

欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印セシムルコトヲ要ス

第九十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫審判事ハ被告人ヲ訊問スルニ先チ公訴事實ヲ告知スルコトヲ要ス

第九十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

陪席判事、檢事及辯護士ハ裁判長ニ告ケ證人及被告人ヲ訊問スルコトヲ得

第九十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

被告人ノ利益ノ爲唯一ノ證據方法ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ必ス之カ取調ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三條 刑ノ言渡ヲ爲スニハ左ノ事項ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付スルコトヲ要ス但控訴裁判所ハ原判決理由ノ一部又ハ全部ヲ援用スルコトヲ得

第一 公訴事實及爭點ノ摘示

第二 裁判所ノ認定シタル犯罪構成要件、犯罪ノ日時、場所及ヒ之ヲ認メタル證據

第三 攻撃防禦ニ關スル重要ナル證據方法採否ノ理由

第四 累犯及刑ノ量定ニ關スル情狀並其證據

第二百十九條第二項中「必要ナル」ヲ「内容ヲ證據トスル」ニ改ム

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



第二百六十九條ニ左ノ二號ヲ加フ

第十一 重要ナル争點ニ關スル證據調ノ申請ヲ却下シタルトキ

第十二 不當ニ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ササルトキ

第二百七十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二百四十五條第二百四十七條及第二百四十八條ノ規定ハ上告趣意書提出ノ場合ニ之ヲ準用ス

三年三月三日高木益太郎君外一名提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者(高木益太郎君)ハ趣旨辯明ヲ省略スル旨ヲ述フ

(參照) 理由書

訴訟手續ノ正確ヲ圖ルト共ニ關係人ノ權利ヲ擁護スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

七四 明治二十三年法律第二十七號中改正法律案

明治二十三年法律第二十七號中左ノ通改正ス

第三條 委任經理ニ屬スル給與ノ殘金、廢物賣却代金及補償金ハ各、其費目ニ屬スル積立金ト爲シ各、其費目ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得

第五條 削除

第六條 政府ハ毎年總決算ト共ニ委任經理ニ係ル積立金現在高ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

附 則

本法ハ大正三年度ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ積立金ハ各、其費目ニ分割スヘシ其分割方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三年三月五日高木正年君外一名提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者(高木正年君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

是ハ陸軍ノ委任經理ニ關スル改正ノ法案デアリマス、大體主ナル眼目ト致シマシテハ委任經理ハ會計検査院ノ認可ヲ經ナイコト、ナツテ居リマス、ソレヲ削除スルト云フコトガ第一ノ趣意デアリマス、其他ハ委任經理ニ依ルトコロノ項目ハ、其項目ニ於テ之ヲ使用シテ他ニ流用スルコト



ヲ得ナイモノデアリマスカラ、毎年總決算ト共ニ會計検査院ノ認可ヲ經テ帝國議會ニ報告スベシト云フノガ、改正ノ三箇條ノ趣意デアリマスカラ、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ否決シ同月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十九日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長濱名信平君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

此法律案ハ二十三年法律第二十七號ニ對シマシテ改正ヲシヤウト云フ提出案デゴザイマス、之ニ就キマシテ特別委員會ヲ開キマシテ段々調査ヲ致シマシタ、此法律案ノ趣意ハ御承知ノ通り陸軍ニ於ケル委任經理ノ方法ヲ規定セラレタモノデアリマス、其費目ノ如キハ即チ此法律案ニアリマス通り、糧食費被服費消耗品新營費馬匹等ニ掛カルトコロノ給費殘金等ヲ即チ經理委任トシテ陸軍ニ委託セラル、方法デアアルノデアリマス、然ル所ガ此法律ニ依テ見マスルト、第三條ニアリマス如ク其殘餘金ノ使用方法ニ付キマシテハ費目ノ流用ヲ自由ニスルコトガ出來マスノデ、此改正案ノ趣旨ニ依ッテ見マスルト、凡ソ費用ノ不整理ハ何カラ起キルカト云フト、重ニ費目ノ流用カラ生ズルコトデアアルカラ、些末ノ積立金デアアルケレドモ斷然法律ニ於テヤハリ費目ノ流用ヲ禁ジテ置カネバナラヌト云フトコロノ趣意カラ、第三條ニ改正ヲ加ヘタイト云フノデアリマス、ソレカラ第五條ニ於キマシテハ會計検査院ノ第十六條ニ依ルト云フトニ法律ニ十七號ハ出來テ居リマスケレドモ、凡ソ此經費ニ付キマシテハ、自分ガ支出致シタル——取扱ッタルモノヲ自分ガ検査スルト云フトハ、甚ダ面白クナイコトデアアルカラ、ヤハリ相當ニ他ノ經費ヲ検査スル如ク、検査院ノ法規ニ依テ検査院ノ検査ヲ受クベキモノデアアルト云フトニ致シタイ、即チ此検査院ノ第十六條ニ依ルト云フトコロノ法文ヲ打消シタイト云フノガ、即チ此第五條ノ修正デアリマス、ソレカラ第六條ニ於キマシテ、總テノ經濟ノコトハ衆議院ガ知ラヌト云フトハ甚ダ面白クナイコトデアアルカラ、年々帝國議會ニ此積立金等ノ金高ハ報告スルコトニ致

シタイ、斯ウ云フ趣意デ此改正案ヲ出サレタノデアリマス、段々はニ付テ審議ノ要點ヲ申上ゲマスレバ、或ハ一部ノ賛成ヲ致シテ半バ反對ヲ主張セラレタ人モアリマス、ケレドモ結局多數ハ絶對否決ト云フトニ決シタノデアリマス、其否決ノ理由ハ何カト申シマスルト、經理委任ノ法ハ固ヨリ多少ノ弊害ハナイトモ斷言出來ヌコトデアリマスケレドモ、若モ此事ヲ茲ニ急遽實行シヤウトスルナラバ、ヤハリ検査院ノ検査ノ方法カラ講ジテ往カナケレバナラヌ、即チ検査ノ役人ヲ増スカ、或ハ其他多數ノ費用モ茲ニ又相伴ッテ問題ガ起キルコトデアリマスカラ、雷ニ茲ニ急遽此方法ガ宜イトシテ検査ノ方法ヲ削除スルト云フトハ甚ダ危險デアアル、殊ニ今日ノ實際ノ經理委任ノ方法ハ、大分ニ嚴格ニナリマシテ、各師團ニ於キマシテハ師團長或ハ旅團長ノ認可ヲ得テ、充分ニ當局者ノ意見ヲ聞イテ見タリスル嚴重ナル手續ニ依テ調査ヲ遂ゲラレテ居ルノデ、聊カ弊害ノ點ハ認メルコトハ出來ヌコトデアアルカラシテ、是ハ斷然尙之ヲ實行スルトシマシテモ、經費ノ點ニ關係ガアリ、實際ニ就テモ充分調査ヲシタイト云フヤウナコトカラシテ、絶對否決ト云フトノガ多數デゴザイマシテ、此案ハ否決ト云フトニ決シマシタカラ此段御報告ヲ致シマス

高木正年君ハ本案維持ノ爲左ノ演說ヲ爲セリ

是ハ極メテ重大ナ案件デアリマスノデ、時間ガアリマズレバ充分ナル討議ヲ願ヒタイノデアリマスルガ、何分期日切迫致シテ居リマスカラ、極メテ簡單ニ申上ゲテ諸君ノ御熟考ヲ煩ハシタイノデアリマス、陸軍ノ委任經理ハ一方ニ於テハ最モ良キ方法デアアルト云フトハ認メマシテ居ルト同時ニ、他方ニ於テハヤハリ是ハ伏魔殿ト云フ稱號ノアル問題デアリマス、デ此改正案ハ多年決算ノ問題トシテ常ニ此委任經理ノコトハ年々歳々問題ニナッテ居ルノデアリマス、デ委任經理ガ如何ナルコトガ一番缺點デアアルカト申シマスルト、第一ハ検査院ノ検査ヲ經ズシテ會計検査院ノ官制ノ第十六條ニ依ッテ陸軍ノ軍吏ニ検査ヲ委任スルト云フトガ委任經理ノ最モ弊害ノ起ルベキ箇條デアリマス、ソレガ即チ此改正法ノ第五條削除ト云フトガ書イテアル所ニ相



當スルノデアリマス、明治二十三年法律二十三號陸軍給支ニ關スル件ト云フモノ、中ニ會計檢査院ノ官制ノ十六條ニ依テ檢査ヲ委託スルト斯ウ書イテアル、是ガ即チ委任經理ノ中デ最モ問題ニナツテ居ルコトデアリマス、陸軍ハ之ニ對シテハ強テ反對ヲ表サナイ、陸軍ノ整理ノ上ニ付テハ是ニ反對ヲ表スル理由ガナイノデアリマスルタメニ、陸軍ハ是ニ強テ反對ヲシナイノデアリマス、唯陸軍ノ言フ所ヲ承リマスルト、陸軍ハ陸軍トシテ相當ノ檢査ヲ爲シテ居ルノデアアル、又檢査ノ成績ニ付テハ今取纏メタル上ニ付テハ檢査院ニ報告ヲシテ居ルノデアアル、或ル場合ニ於テハ檢査院ニ又檢査ヲシテ貰フコトモアルノデアアル、斯様ニ申シテ居ルコトコロガ若シ此陸軍ノ筆法ヲ以テ他ノ官省ヲ律シマシタナラバドウデアアルカト云フト、他ノ官省ニ於テモ悉ク官省自身檢査ヲ爲シテ居ルノデアアル、大藏省ハ大藏省、農商務省ハ農商務省、遞信省ハ遞信省トシテ彼ノ會計課長ナルモノガ十分此間ニ於テ會計ノ整理ヲ爲シ、從ッテ此等ノ官省ニ於テハ其長官タル者ガ、是等ノ會計ノ上ニ付テ、監督權ヲ以テ十分ニ是等ノ檢査ヲ行ハレ得ベキ筈デアアル、而モ尙獨立スルトコロノ會計檢査院ヲ要シテ檢査ヲセシムルト云フモノハ、行政ヲ行フ者自身ガ之ヲ檢査スルコトハ決シテ公平ヲ得ル途デナイト云フコトニ、是ハ歸著シナケレバナラヌノデアアリマス、例ヘバ商會社ニシテ何故ニ監督權ヲ置クカ、商會社ノ重役ハ無論株主ヲ代表シテ居ルノデアアリマスカラ、彼等ノ行ツタ上ニ付テ自身ガ之ヲ監督シ又之ヲ整理スル責任ガアル、而モ尙株主ヲ代表スルトコロノ監督役ヲ置クノハ、即チ政府ニ於テ會計檢査院ヲ獨立ノ官衙トシテ是等ノ檢査ニ任ゼシムルト同ジ是ハ意味ニ解サネバナラヌノデアアリマス、殊ニ陸軍ニ於テハ本年ノ決算ニモヤハリ現ハレテ參ルデアリマセウガ、年々歳々此會計檢査院ガ異議ヲ唱ヘルトコロノ違反事件ト云フモノガ最モ多イノデアリマス、既ニ會計檢査院ノ手ヲ經ベキコトニナツテモ、斯クマデ多數ノ犯跡ノ多イ役所デアリマス、此頃諸君ノ御耳ニハ達シテ居リマセウガ、例ノイロイロナ議會ノ大問題ガアルタメニ、陸軍ノ問題ハ閉却サレタ氣味ガアリマスガ、去月二十七日デアッタカ東京砲兵工廠ニ憲兵隊ガ活動シタト云フ記事ガ新聞紙ニ現ハレタノデアリマス、ソレハ何デアアルカト云ヒマスルニ、其年度ニ餘ッタモノヲ剩サル形ニ之ヲ地中ニイケテ置イテ、

サウシテ次年度ノ要求ニ於ケルトコロノ金額ヲ仕拂フ途ヲ付ケルト云フコトヲ爲シツ、アルト云フコトヲ發見シタノデアリマス、而モ是ニ付テハ犯罪ガ其間ニ含マレテ居ルカノ如ク新聞ハ書イテ居ル、所謂銃ノ臺木トナルトコロノ十萬挺分ヲ地中ニイケテ置イテ、年度ノ過ギタ後之ヲ發見シタ、更ニ之ヲ買上ゲタ形ニシテ七八十萬圓ノ金ヲ此間ニ仕拂ヲ爲シタト云フコトノ事實ガ、新聞紙ニ現ハレテ居ルノデアリマス、既ニ檢査院ノ檢査ヲ經ルモノニ付テモ陸軍ニ斯ノ如キ失態ガ常ニ在ルノデアリマス、獨リ是ハ陸軍ノミナラズ、先頃吳ノ工廠ニ於テヤハリ製鐵ノ鐵材ヤイロノナモノガイケテアルト云フコトノ投書ヲ受取ッタコトガアルノデアリマスガ、既ニ檢査院ノ手ヲ經ルモノニ付テモ、斯ノ如キコトガ毎々起ル時ニ當ッテ、陸軍ハ陸軍デ檢査ヲ爲スカラ檢査院ノ檢査ハ不必要デアルト云フコトハ、眞逆ニ陸軍當局トシテハ言ヒ得ヌノデアアル、是ガタメニ本案ノ改正ニ反對ヲ言ハナイノデス、ソレカラ委員長ノ言ハレタ第四條ノ費目ノ流用ヲ許サヌ、是ハ元ノ委任經理ノ方ニハ流用ヲ許サヌコトニナツテ、各項目共ニヤハリ積立金ヲスルコトニナツテ居ッタノヲ、四十三年ニ改正セラレテ今日ノ如キ現行法ニナツテ居ルノデアリマス、是ニ付テ陸軍當局ハヤハリ今日モ此改正ノ法規通リニヤツテ居ルノデアリマス、唯困ルコトハ時ニ依ッテ是ヲ流用スル必要ガ起ルノデアリマス、其例ヲ云ヘバ器械ヲ以テ此炊爨ノコトヲ行フ、米ヲ炊キ物ヲ煮ルコトヲ行フ時分ニ、蒸汽機械ヲ据エテ置イテ之ヲヤレバ其蒸汽ノ一部ヲ以テ入浴ヲ辨ズルコトガ出來ル、洗濯ヲ辨ズルコトガ出來ル、ソレ故ニ一費目ノ下デナクテハ頗ル不便デアルト云フコトヲ言ハレルノデス、是ハ陸軍ノ要求次第ニ於テハ、必ズシモ陸軍ノ言フガ如ク委任經理ノ各費目ヲ一ノ下ニ置カネバ此事ガ行ヘヌト云フコトハナイノデアアル、現ニ監獄ノ如キハ皆此方法ニ依テ實際行ツテ居ル、入浴モ辨ジテ居ル、洗濯モ辨ジテ居ル、機械買入ノ場合ニ於テ備品ノ中ヨリ殊ニ此金ヲ要求スレバ宜シイ、ソレヲ造ル初度調辦ニ於テ其金ヲ要求スルガ宜シイ、決シテ議會ガ之ニ向フテ承諾ヲ致サナイト云フガ如キ不調査ナコトデ以テ豫算會ハ終ルモノデナイデアリマス、唯所謂燃料等ニ於テ混淆シテ費用ヲ拂フト云フコトデアリマスルガ、是ハ分割スレバヤハリ分ルノデアリマス、現ニ監獄ニ於テハ是等ノコトハチャント款項目ノ流



用ヲ許サズトモ現在是ハ行ウテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ第四條ニ於テ反對スルコトモ又無意味ナリト言ハナケレバナラヌ、陸軍モ是ニハ強イテ反對シテ居ラヌ、第六條ニアリマシテモ委任經理ノ積立金ヲ以テ決算ト同時ニヤハリ會計検査院ノ審査ヲ經テ、之ヲ議會ニ報告スルト云フ箇條ガ書イテアル是ハ陸軍デモ殊ニ反對ヲシ得ナイ、今日ト雖モ法規ノ上ニ規定ハナイガ、何時モ決算委員デ御求メニナリマスカラ提出ヲシテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ此箇條ニ付テ反對ヲ稱サナイト云フコトヲ言ハレテ居ル、斯様ニ明瞭ニ陸軍ハ答辯セラレテ居ルノニ、審査ノ要ナキガ如キ言ヲ以テ審査未了ノ如クニシテ、此案ヲ否決スルト云フコトハ頗ル其當ヲ得テ居ラナイノデアリマス、本年ノ議會ノ通過如何ハ豫メ知ルコトハ出來マセヌガ、兎ニ角陸軍ノ整理ヲ爲ス上ニ付テ、此事ハ最も重要ナコトデアリマス、願クハ慎重審議此本案ヲ可決ニナリマスルヤウ御願ヒ致シタイト思フノデアリマス

他ニ討論ナク表決ニ及テ院議本案ヲ否決シタリ

### 七五 市制町村制中改正法律案

市制町村制中左ノ通改正ス

市制第十條中及町村制第八條中「第二項乃至第五項」ヲ削ル

市制第十八條第二項第二號「有給吏員」ノ下ニ「及市ノ囑託事務ヲ取扱ヒ常ニ其ノ手當ヲ受クル者」及町村制第十五條第二項第二號「有給吏員」ノ下ニ「及町村ノ囑託事務ヲ取扱ヒ常ニ其ノ手當ヲ受クル者」ヲ加フ

市制第二十七條第一項中及町村制第二十四條第一項中「代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得」ノ下ニ「盲者啞者ニシテ文字ヲ書スル能ハサル者亦同シ」ヲ加フ

三年二月五日石黒磐君提出、同月十日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ヲ提出致シマシタノハ、市制ノ第十條及町村制第八條ノ規定ハ必要ナクシテ害ノアルモノト思ヒマスカラ、削除スルコトニシタイノデアリマス、詳シイコトハ委員會デ申述ベマス、其次ノ市制第十八條並ニ町村制第十五條第二項第二號中ニアル囑託員ナルモノハ、殆ド俸給ト同様ノ手當ヲ受ケテ市町村ノ事務ニ從事シテ居ル、尾崎君ノ説明セラレタノト殆ド趣意ハ同ジコトデアリマスガ、非常ニ困ッテ居ル事實モアリマス、是ハ尙ホ委員會デ詳シク説明致シタイト思ヒマス、次ニ市制第二十七條、是ハ盲啞者ニモ選舉權ヲ代理ヲ以テ許スト云フノデアリマス、是モ亦委員會デ詳シク申シマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十一日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

### 七六 競馬法案

#### 競馬法

第一條 本法ニ於テ競馬ト稱スルハ專ラ馬匹ノ改良ヲ目的トシ民法第三十四條ニ依リ設立シタ

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



ル社団法人ノ開催スルモノヲ謂フ

第二條 社団法人ハ競馬ノ種類、競馬場ノ位置、馬場ノ設備、諸建築物ノ種類及構造ニ付主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 競馬ニ於ケル競走馬匹ノ優劣ヲ判定シ其ノ趣味ヲ増進セシムル爲社団法人ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ馬票ヲ發行スルコトヲ得

馬票ハ競馬場内ニ於テ發賣シ社団法人ノ會員ニ非サレハ之ヲ購買スルコトヲ得ス  
馬票ノ種類、金額及其ノ購買ノ制限ハ主務官廳之ヲ定ム

第四條 馬票發行ノ收入ハ勝馬ノ賞金、會員ノ新馬購入ノ補助金、一般産馬事業ニ對スル獎勵金及社団法人ノ經費補充等ニ供スルモノトス

第五條 競馬規則、馬票發行及取扱規程ハ社団法人ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

第六條 競馬ノ主催者タル社団法人ノ役員及掛員並騎手又ハ馬丁ハ馬票ヲ購買スルコトヲ得ス

第七條 社団法人ノ會計及業務ノ施行ハ主務官廳之ヲ監督ス  
第八條 主務官廳ハ必要ト認メタルトキハ競馬ノ開催又ハ馬票ノ發賣ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第九條 社団法人ノ役員ノ就職ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

主務官廳ハ社団法人ノ行爲カ法律命令ニ違反シ又ハ公益ニ害アリト認メタルトキハ役員ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第十條 第八條ノ命令ニ違反シタル者又ハ本法ニ據リ設立シタル社団法人ニ非スシテ馬票ヲ發行シタル者若ハ之ヲ購買シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 第三條若ハ第六條ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
本條ノ罪ハ現行犯ニ非サレハ之ヲ罰セス

附則

本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三年三月五日廣澤辨二君外二十名提出、同月十二日第一讀會ヲ開キ提出者(廣澤辨二君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ニ付キマシテハ私ハ幾多述べマシテ諸君ノ御清聽ヲ煩ハシタイト豫テ考ヘテ居ッタノデゴザイマスルガ、段々時間モ切迫シ殆ド時間ノ餘裕ガナイヤウナ場合ニ臨ミマシタカラ、極メテ簡單ニ申上ゲヤウト思ヒマス、本案ハ馬匹ノ改良上ニ最モ必要ナル案デゴザイマシテ、歐米ノ諸國ニ於テハ盛ニ競馬ガ行ハレテ居ルト云フコトハ皆サン御承知ノ次第ト思ヒマス、唯之ニ伴フト



コロノ競馬ニ伴フトコロノ馬券ト云フモノガアルタメニ、本邦ニ於テハ兎角ノ議論ガ行ハレテ、或ハ是ハ忌ハシキ金錢授受ノ機關ニ供スルモノデナイカト云フヤウナ誤解ヲ受ケテ居ルトコロノモノデゴザイマス、其邊ハ我輩等ハ甚ダ平素遺憾ニ感ジテ居ル次第デゴザイマスルガ、ソレニ付テ茲ニ申述ベルコトハ避ケマスルガ、兎ニ角本案ヲ提出シタ所以ノモノハ、所謂ソレ等ノ幾多ノ非難ノアルコトヲ豫想致シマスルガ、ソレ等ニ拘ハルノ違ナクシテ、本案ヲ提出シタ所以ガ茲ニ抑々一ツアルノデゴザイマス、其第一ハ何デアアルカト申シマス、是ハ諸君能ク御聽ヲ願ヒタインデゴザイマスルガ、我國防上ニ於キマシテ目下ノ馬産界ノ状態ニアッテハ、此我陸軍ノ軍備上ニ要スルトコロノ軍馬ト云フモノハ、イザ有事ノ日トナッタナラバ大ナル不足ヲ告ゲルト云フコトガ、吾々ハ默視出來ナイ點デアアルノニ依ッテ、本案ヲ提出シタ譯ナノデアリマス、ソレヲ統計ニ照シテ申上ゲレバ、長クナリマスルカラ其數字ハ委員會ニ於テ申述ベヤウト思ヒマスガ、兎ニ角統計上ヨリ數字ヲ以テ表ハシマスレバ、約十五萬頭ト云フモノハ不足ヲ告ゲルト云フコトヲ此處ニ申上ゲテ置キマス、併シ絶對ニ不足ヲ告ゲルトシタナラバ是ハ大變ナ問題デアアルニ依ッテ、軍事當局者ハ是ハ如何ニ補充スルカト云ヘバ、ソレハ牝馬ヲ以ッテ之ヲ補充スルト云フコトニ設計ハシテ居ルノデアリマス、諸君、牝馬ト牡馬ハ其力量ニ於テ、其用非ノ方法ニ於テ、自カラ同一ナルコトヲ得ナイ、牝馬ハ牡馬ニ比シテ力ノ弱イト云フコトハ、分リ切ッタ話デアアル、然ルニ牡馬ガ缺乏シテ居ルガタメニ、適當ナルモノガナイタメニ、イザト云フ時ニハ隨分其牝馬ヲ集メ來ッテ、我が戰場ニ送ラウト云フ計畫ニナッテ居ルノデアリマス、之ヲ思ヒマスレバ、如何ニ我軍事上ニ於ケル軍馬ノ缺乏ト云フコトガ分ルデアラウト思フノデアリマス、諸君、是等ノコトヲ考ヘマシタナラバ、今日馬匹ノ状態ト云フモノハ如何ナル手段ヲ以ッテモ、有ユル手段ヲ以ッテ是ガ改良發達ヲ圖ラネバナラヌト云フコトノ論點ニ歸著セザルヲ得ヌト思フノデアリマス、尙ホ一ツノコトハ、是モ極メテ簡單ニ申シマスルガ、近時社會交通機關ノ發達ニ依ッテ、馬匹ノ用途ト云フモノハ段々少クナッテ居ルノデアリマス、又一方社會ノ進歩ト申シマスカ、經濟界ノ膨脹ト申シマスカ、馬匹ニ關スル生産費ト云フモノハ年々高マッテ參リマシテ、而シテ一方ニ於ケ

ル其需用ト云フ點ニ於キマシテハ、別段ニ殖エルコトモナク別段ニ發達シ得ル前途モナイノデアリマス、シテ見マスルト此儘ニ置キマシタナラバ、馬匹即チ産馬業ト云フモノ、決シテ發達スルコトヲ得ナイハ、倍テ措イテ、寧ロ退歩ノ状態ニ向ヒツ、アルト云フコトハ、現下ノ状態デゴザイマス、而シテ附加ヘテ申シマスレバ、産馬ノ業ハ、此天惠ノ薄キトスルトコロノ東北及北海道ノ主ナル事業デアリマシテ、所謂此地方ハ日本ノ驥地ト唱ヘラレテ居ル地方デアリマス、勿論九州ニ於テモ鹿兒島及ビ宮崎其他ニ於テモ産馬業ハ、盛ンニ營マレテ居ルケレドモ、此業ハ天惠ノ薄キト云フトコロノ東北及北海道ノ産業デアリマスルニ於キマシテハ、益々此地方ノ發展ノタメ、本業ノ隆盛ヲ希望スルト云フコトハ、自然ノ數ト言ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、是等ノ事情ガアリマスルニ依ッテ、如何ナル非難ガアリ、如何ナル議論ガアリマシテモ、吾々ハ此國家ノ安危及將來ノ産馬業ノ前途ニ向ヒマシテハ、有ユル手段如何ナル事ヲ盡シテ此前途ノ發達ヲ圖ラネバナラヌト云フコトヲ信ジテ居ルノデゴザイマス、人或ハ競馬法トカ若クハ馬券ト言ヒマスルト、何ダカ一種ノ意味ヲ以ッテ金錢ノ授受ヲ意味スルガ如ク人ニ誤解ヲサレマスケレドモ、其關係スルトコロハ今申シマシタトコロノ二大事由ガアルノデアリマスカラ、吾々ハ本案ノ成立ヲ何處マデモ希望スル次第デゴザイマス、他ニ申上ゲタイコトハ實ハ澤山ゴザイマスケレドモ是デ止メテ置キマス

次テ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十三日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

七七 運河法中改正法律案

運河法中左ノ通改正ス



第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條 本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

三年三月七日齋藤珪次君外二名提出、同月十二日第一讀會ヲ開キ提出者(齋藤珪次君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ最モ簡單ノ案デゴザイマシテ、此現行ノ運河法ノ實施サレマシタ以前ニ於テ許可ヲ受ケテ居リマシタ運河ハ、其用地等ガ免許ノ條件ニ依テ官有ニ歸シテ居ッタノデアリマス、故ニ該營業者ナルモノハ免許權ダケヲ以テ讓渡シ、其他抵當等モ致スト云フコトニナツテ居ッタ、所ガ本法ノ運河法ガ制定ニナリマシテ、運河財團ノ組織ヲ許ルシ其抵當若クハ賣買讓渡等マデモ、其目的物土地耕作物等ヲ出スコトガ出來ルト斯ウ云フコトニ制定ニナリマシタガタメニ、以前ニ於テ許可ヲ受ケマシタ者ハ既得權ヲ害サレテ、サウシテ又新法ニ依テ財團ヲ組織スル等ノ特權ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイノデゴザイマスカラ、其缺點ヲ補フタメニ以前ニ於テ官有ニ歸シテ居ッタ運河用地ヲ、經營者ノ希望ニ依テハ之ヲ返付スルコトガ出來ルト云フコトノ法律案デアリマス、最モ簡單デゴザイマスカラ、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十三日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ同月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
同月十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長漆昌巖君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

此運河法ト云フモノハ昨年發布ニナリマシタ運河法モゴザイマスガ、其以前ノ即チ舊太政官布告ニ基イテヤツテ居リマスモノハ、原資償却ヲ目的トシ使用料ノ徵收ヲ免許シタルモノニシテ、昨年發布ニナツタ運河法ハ即チ營利主義デアツテ、例ヘバ私設鐵道會社等ノ財團ガ自由ニナシ得ルコトニナツテ居リマス、然ルニ其以前ニ發布セラレタモノニ依テ免許ヲ受ケタル運河ハ、均シクサウ云フコトノ均霑ヲ受ケルコトガ出來マセヌ故ニ、昨年發布ニナツタ運河法ト均シク均霑ヲ受ケ得ラル、ヤウニ改正致シタモノデアリマス、ソレデ附則ノ二十一條ノ次ニ第二十二條「本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得」ト云フコトヲ加ヘマシタ、即チ是マデ官有ニ屬シテ居ッタモノヲ經營者ガ申請スレバ下付スルコトヲ得ト云フヤウニ改正致シタノデアリマス、政府モ至極之ヲ相當ナリトシテ政府委員ハ同意致サレマシタ、又委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ院議原案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

七八 奈古浦丸ノ所有者救恤ニ關スル法律案

第一條 明治三十七八年ノ戰役ニ際シ陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ニ擊沈セラレタル汽船奈

古浦丸ノ所有者ニ對シ救恤金ヲ下付ス

第二條 前條ノ救恤金ハ四萬圓トス



三年三月七日請願委員長提出、同月十二日第一讀會ヲ開キ提出者(渡邊修君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案モ度々請願委員會ニ出マシテ採擇ニナツテ居ル問題デアリマス、是ハ三十七年ノ二月九日ニ即チ日露戰爭ノ宣戰公布ノ前々日デアリマス、陸軍省ノ内命ニ依リマシテ此奈古浦丸ガ酒田ニ碇泊シテ居ッタノガ是カラ小樽ノ方ヘ廻ッテ宇品ヘ行キマス途中デアリマス、陸奥ノ國艦作岬沖合ニ於キマシテ三十七年二月十一日ノ午前十時三十分頃ニ露艦ニ沈没サレタノデアリマス、如何ニモ是ハ氣ノ毒ナ事情デアアル、政府委員當局者ハ誠ニ氣ノ毒デアルケレドモ、何ニシロ公然マダ御用船ニナツテ居ラヌノデアアル、宇品マデ來レバ初メテ御用船ノ命令ヲスルノデアアルケレドモ、其宇品ヘ來ル航行ノ途中デアリマス、情ニ於テ忍ビヌガ、今日ノ法規トシテ如何トモシ難イト云フ從來ノ答辯デアッタノデゴザイマス、外務省モ亦大ニ同情ヲ表シテ居ルケレドモ、如何トモ今日ノ有様デ仕様ガナイト云フ譯デアリマスガ、毎々請願委員會ニ於キマシテ事情已ムヲ得ヌ、誠ニ氣ノ毒ナモノデアアルカラ、又陸軍省モ是ハ幾ド形式ニ流レテ居ルノデアアル、内命ヲ傳ヘテ其途中デアリサレタノデ、九日ニ命令サレテサウシテ十一日ニ擊沈サレタノデアアルカラ、船長ナリ其船ハ日露開戰ノ公布ニナツタコトヲ知ラヌノデアアル、ダカラ何等ノ用意モセズニ航行中突然露艦ノタメニ擊沈サレタト云フ譯デアリマスカラ、之ニ向ッテ相當ノ救恤ヲスルト云フコトハ至當ノコトデアアルト云フコトニ相成リマシテ、是モ請願委員會ニ於キマシテ特別ノ委員ヲ設ケマシテ段々當局トモ交渉ヲサセマシテ、審議ノ結果幾ラカノ救恤金ヲ交附スルト云フコトガ適當デアアルト云フコトニ決定ヲ致シマシテ、即チ此單行ノ法律案ガ出來タ次第デアリマス、此救恤金ガ四萬圓デゴザイマスルガ、此四萬圓ト云フコトハ別ニ標準モ何モナイノデアリマス、本人ノ請求スル所ニ依リマスレバ、船體其他自分ノ品物ヲ積ンデ居ッタ其荷物ノ價等ヲ合算致シマシテ、十八萬圓餘ヲ請求ヲ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ是ハ公然ノ御用船ニナツテ居リマシタナラバ、無論請求ノ通り國庫ヨリ下付サル、コトデアリマセウケレドモ、今申上ゲ

ル如ク其途中ニ於テ擊沈ヲサレタノデ、マダ公然タル御用船ニ相成ッテ居リマセヌ、故ニ本人ノ權利デナイ、救恤ヲスルノデアアルカラ少クテ宜カラウト云フコトデ、段々調査ヲ致シマシタガ此船ガ六萬圓ノ保險ヲ附ケテ居ッタト云フコトデアリマス、故ニ保險タケドウダト云フコトガアリマシタケレドモ、先ヅ六萬圓ノ保險料ノ三分ノ二、即チ四萬圓ヲ交附スレバ適當デアラウト云フコトニ決議ヲ致シマシタ、本案ニ付キマシテハ政府ニ於キマシテモ反對ハ致サヌ、斯ウ云フ法律案ガ出來レバ宜シイト云ウテ同意ヲ致シタノデアリマス、ドウカ満場此案ニ——此事情ヲ御諒察下サレマシテ、本案ノ通過スルコトヲ希望シマス

次テ討論ニ移リ花井卓藏君ハ本案ニ反對、大橋松二郎君ハ贊成ノ演說ヲ爲セリ

花井卓藏君ノ演說

諸君、本員ハ本案ヲ以ッテ立法上重大ナル問題ト信ズルノデアリマス、其案ノ含ムルトコロハ僅カニ四萬圓ノ救恤事項ニ過ギズト雖モ、斯ノ如キノ法案通過ハ確カニ憲法ノ條規ヲ無視スルモノデハナイカト思ヒマス、諸君、私モ委員長ト同様ニ情ニ於テ誠ニ忍ブベカラザルモノデアアルコトヲ諒トスル者デアリマス、而シテ又行政作用ニ依リテ何等カノ途ヲ開イテ救恤スルコトノ至當ナルコトヲ認ムル者デアリマス、併ナガラ本案ノ如キ、法律ノ下ニ斯ノ如キノ道ヲ執リ得ラルベキモノナリヤ否ヤト云フノ問題ニ至リマシタナラバ、多クヲ語ルヲ要セヌト私ハ信ジテ居ルノデアアル、憲法ハ所謂立法事項ナルモノヲ法文ノ上ニ定メテ居ルノデアリマス、戒嚴ノ要件及效力、是ハ憲法ノ第十四條ニ掲ゲマシテゴザイマス、而シテ臣民タルノ要件ハ十八條、兵役ノ義務ハ二十條、納稅ノ義務ハ第二十一條、居住及移轉自由ハ二十二條、逮捕監禁審問所罰ノ事ハ二十三條、裁判ヲ受クルノ權ハ二十四條、住所侵入及搜索ノ保障ハ二十五條、信書ノ祕密ハ二十六條、所有權ノコトハ二十七條、言論著作印行集會及結社ノ自由ハ二十九條、衆議院議員選舉法ノ事ハ三十五條、司法權ノ行使ハ五十七條一項、裁判所ノ構成ハ五十七條二項、裁判官タルノ資格ハ五十八條一項、裁判官ノ懲戒ニ關スル條規ハ五十八條三項、裁判ノ公開ハ五十九條、特別裁判



所ノ管轄ハ六十條、行政裁判所ノ構成及ビ管轄ハ六十一條、租稅ノ賦課及稅率ノ變更ハ六十二條、會計検査院ノ組織及職權ハ七十二條、是レガ我憲法ニ掲ゲラレタル立法事項デアリマス、而シテ是等ノ事項ハ立法權直接ノ行動ニ依ルベキモノデアルト云フコトハ問題ニナラナイノデアリマス、ソモ、國家重用ノ事務ニシテ、立法權ノ行動ニ待ツトコロノモノハ其ノ數尠ナカラヌノデアリマス、必ズシモ以上ノ列記ニ制限セラル、モノデアリマセヌ、サリナガラ

——サリナガラ私ハ今私ガ讀上ゲマシタ條規若シクハ之レニ均シキモノ、若シクハ是レヨリ以上ノモノ、斯ノ如キモノガゴザイマシタナラバ、是ハ立法事項ノ上ニ行動スルト云フコトハ憲法ニ列記ナシトモ私ハ敢テ答メナイノデアリマス、然ルニ本案ハ此列記事項ニ比シテドレ程輕重ノ差ガアルカト研究ヲ遂ゲテ見マシタナラバ、殆ド輕イトモ重イトモ比較ニナラヌ程ノモノデアルト云フコトハ案其モノガ證明致シテ居ルノデアリマス、而モ法律ノ支配力ト云フコトニナリマスト云フト、目的ハ單ニ一人デアアル、一人ヲ目的トシタル法律デアアル、而シテ又一行爲ヲ目的トシタル法律デアアル、又一時的ノ法律デアアル、一時的ニ一人ノ爲ニ一行爲ヲ目的トシタル、ソレガ法律トシテ、憲法ノ所謂立法事項トシテ差支ナイモノデアリマセウカ、私ハ俄ニ諸君ノ説ニ贊成致シ兼ネルノデアリマス、私自身ノ研究トシテ未ダ斯ノ如キ立法事項アルコトニ接シテ居リマセヌ、成程情ノ憐ムベキ點ハ之ヲ認ムル、私ハ之ヲ救フベキ道ハ立法事項ニ依ルヨリハ尙ホ他ニアルコトヲ信ジテ居ルノデアアル、立法事項ニ依リテ此救ヒヲ得ントスルコトハ寧ロ却ッテ困難ナルコトデアルト思フ、其困難ニ比スレバ行政作用ニ依リテ救ヒノ道ヲ開クノ更ニ大ナル便利ナルモノアルコトヲ信ジテ居ルノデアアル、縱令立法事項ニ依ルト致シマシテモ、斯ノ如ク一人ヲ目的トセズ、一行爲ヲ目的トセズ、一時的ニ限ラズシテ本案ニ掲ゲラレテアルガ如キ場合ニ適用スベキ廣キ意味ノ法律ヲ拵ヘテ、サウシテ其適用ヲ受ケシメテ本案ノ如キ憐ムベキ請願人ヲ救フガ宜イノデアリマス、本案ハ立法トシテ顛倒ノ甚シキモノデアルト思フノデアリマス、第一條「明治三十七八年ノ戰役ニ際シ陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ニ撃沈セラレタル汽船奈古浦丸ノ所有者ニ救恤金ヲ下付ス」ト斯ウ書テアル、之ヲ人ニ譬ヘテ見マシタナラバ、明治三十七

八年ノ戰役ニ際シ云々ノ不幸ヲ被リタル人民某ニ對シテ、救恤金ヲ下付スト云フ法律ト同ジモノニナル、私ハドノヤウニ考ヘテ見マシテモ、之ヲ立法事項トシテ衆議院ヲ通過セシムルト云フコトハ、體面上宜シカラザルコトト思フノデアアル、而シテ請願委員會ノ決議デゴザイマスルカラシテ、之ヲ重んズルノ念慮ハ私ハ有シテ居ル、有シテハ居リマスケレドモ、夫ト同時ニ請願委員會ノ立法上ノ權威ト云フモノモ保タナケレバナラヌト云フコトヲ心得テ貫ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、私ハ案ノ内容事實ニ反對スルコトヲ欲セザルガ故ニ、寧ロ延期ノ動議ニテモ提出シテ更ニ御研究ヲ願フ、之ヲ救フノ途ヲ開キタイト云フ考ヲ持ッテ居リマシタケレドモ、大勢ハ既ニ即決ヲ迎ヘルト云フヤウナ傾向デアアルカノ如ク承リマシタカラ、今俄ニ此意見ヲ立テ、救フ乞フノデアリマス、而シテ後ニ御意見デモゴザイマスレバ、更ニ之ヲ承リマシテ論述スル積リデアリマス、公平冷靜ノ見地ニ立チテ、立法事項ト云フモノニ本案ノ如キモノハ合マルベキモノデナイト云フコトヲ、深ク諒トセラレンコトヲ望ム次第デアリマス、時ノ迫ッテ居ル場合モ内容ニ同情ヲ表シナガラ此處ニ立ツ所以ノモノハ眞ニ立法權ニ重キヲ置クガ故デアアルノデアリマス

大橋松二郎君ノ演說

私ハ唯今議題ニナッテ居リマストコロノ、此奈古浦丸ノ請願ノ部ニ於キマシテ、丁度私ハ此部ノ主査ニ當ッテ居リマシテ、此特別委員並ニ立案ノ際ニ種々關係ヲ致シマシタル立場ノ上ニ於テ、唯今花井君ヨリ反對ノ御意見ガアリマシタカラ、一言私共ノ此起草ヲ致シマシタル側ノ意見ヲ申上ゲテ、サウシテ反對ノ御意見ノ御方ノ御參考ニ供サウト思ッテ居リマス、デ唯今花井君ノ御議論ハ要スルニ事柄ハ同情ヲ表スルコトデアアル、サリナガラツマリ一人ノ事項ニ就テノ法律案ノ起草デアアルカラ、ツマリ反對ヲスルトカ、要スルニ考ヘモノデアルト云フ斯ウ云フ御意見デアリマシタガ、元來之ヲ遂ニ法律トシテ茲ニ提出致シマスルマデニナリマシタル事項ノ方ヲ先ニ述ベマシテ、サウシテ後ニ其意見ヲ申上ゲ様ト思ヒマス、此日露戰爭當時ニ當リマシテ明治四



十二年ノ議會ニ於キマシテハ、既ニ其年ニ法律第三十八號ヲ以ッテ、明治三十七八年ノ戰役ノ爲メ損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スルト云フ特ニ法律ガ出來マシテ、此内容ハ「露西亞領亞細亞、清國、滿洲及韓國義州方面ニ在留シタル帝國臣民ニシテ明治三十七八年戰役開始ノ際引揚ケタル爲損害ヲ被リタル者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ下付ス」斯ウナッテ居リマス、其第二條ニ於テ金高ヲ百萬圓ト限ラレテ、三條、四條、五條ト云フ方ハ詰リ此下付ヲ致シマスルマデノ手續デアアル、此法律ノ出來マシタル當時ニ既ニ此奈古浦丸ノ問題ガ起ッテ居ッタノデアアル、此時ノ議ノ要領ヲ段々調ベテ見マスルト云フト、先以テ陸上方面ノ事ヲ一ツ片ヲ附ケテ置イテ、海上ノ方ノ出來事ハ次ニ致ス、斯ウ云フ證議ノ筋ニナッテ居ルラシイ、所デハ陸上ノ方ハ仲間ガ多カッタガ故ニ片ガ付イタガ、然ルニ海上ノ方ニ於テ損害ヲ受ケタル所ノモノガ、奈古浦丸ノ外ニマダアルデアラウト存ジマス、サリナガラ既ニ其當局ノ内命——形ノ上カラ申シマスルト、此奈古浦丸ガ航路ニ就キマシタトキニハ、ヤハリ日本船主同盟會東部事務所ト云フ方面カラ官報ノ電報ヲ以テ言ウテ來テ、夫ニ依ッテ航行ニ就イタノデアアル、斯ノ如キモノハ即チ明治四十二年ニ出來マシタ所ノ法律ト同様ナル救恤等ノ恩典ニ與カルベキモノナリト云フコトヲ第一ニ於テ信ジタノデアリマス、次ニハ此方ノ者ニ向ッテハ再ビ當局モ亦議會モ遂ニ之ヲ證議ヲスルコトガ延期ヲ致シタノニ過ギナイノデアアル、然ルトコロ段々其後年所ヲ經ルニ隨ヒマシテ、イロ／＼取調ヲシテ見マスケレドモ、最早斯ノ如キ立場ニナッテ、サウシテ遂ニ理由ナクシテ葬ラレテ居ルトコロノモノハモウ他ニ無イノデアアル、唯今花井君ノ言ハレタ如ク有レバソレヲ共ニ入レテ、サウシテ事項ノ方ヲ先ニ定メテ、茲ニ適當ナル法律ヲ定メルト云フコトハソレハ勿論デアアルケレドモ、此奈古浦丸ト狀況ノ同ジモノハ無イノデアアル、是ハ即チ事前デナクシテ事後デアアルカラ、其事ガ明瞭ニ分ッテ居ル、當局ニ於テモ分ッテ居ル、此立場ノ上ニ於テ此法律ヲ即チ提出スルコトニ致シタノデアリマス、是ガ一人ノ事項デアアルカラシテ法律トシテ成立ノ出來ナイト云フコトハ、別段ニ明カニ見エテモ居ラス、法律上ノ一ノ議論ニ過ギナイ、ソレ故ニ私共ガ此法案トシテ提出ラシ、諸君ノ御同意ヲ得テ是レノ成立センコトヲ希望スル次第デゴザイマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ翌十三日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ表題ヲ「明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案」ト改メ同月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(小字及——ハ委員會修正)

(委員會報告書)

第一條 明治三十七八年戰役ノ際陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ノ爲損害ヲ被リタル船舶又ハ其ノ積荷ノ所有者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ下付ス

第一條 明治三十七八年ノ戰役ニ際シ陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ニ擊沈セラレタル汽船奈

古浦丸ノ所有者ニ對シ救恤金ヲ下付ス

○以內

第二條 前條ノ救恤金ハ四萬圓トス

第三條 本法ニ依リ救恤金ヲ受ケムトスル者ハ大正三年七月三十一日迄ニ申請スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同月十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長横田千之助君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

諸君、奈古浦丸所有者救恤ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ簡單ニ御報告致シマス、本案

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



ハ請願委員長ヨリ提出ニ係ルモノデアリマシタガ、先日ノ會議ニ於テ、一人一行爲ニ對シテ一ノ法律ヲ作ルノハ、立法上ノ形式トシテ聊カ考慮ヲ要スルト云フ反對論ガ出タノデアリマス、法律ノ力ニ依ッテ此事柄ヲ救済スルト云フ其實質上ノ問題ニ付テハ、總テノ方面ニ於テ一致シテ居ルノデアルガ、唯如何ナル形式ニ依ッテ此法律ヲ編成シ、法ノ缺陷ニ依ッテ損害ヲ被ッテ居ル人ヲ救済スルカト云フコトガ問題ニナッタノデアリマス、此ニ於テ委員會ハ、此本會議ガ委員會ニ移サレタルトコロノ精神ヲ深ク體シテ、二回調査ノ結果、法律ノ力ニ依ッテ此事柄ヲ救済スルヨリ外ニ途ハナイト云フコトニ、各派ヨリ選バレタル委員諸君ガ一致シタノデアリマス、而シテ之ヲ法律ニスル上ニ於テハ其題名ヲ變ヘナケレバナラス、即チ奈古浦丸所有者救恤ニ關スル法律案ト云フ題目ヲ、明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案ト云フコトニ改メタノデアリマス、而シテ其第一條ヲ「明治三十七八年戰役ノ際陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ノ爲損害ヲ被リタル船舶又ハ其ノ積荷ノ所有者ニ對シ本法ニ依リ救恤金ヲ下付ス」斯ウ云フコトニ改メマシタ、此法律ノ要望スル要件ニ適合シタ人々ハ、獨リ奈古浦丸所有者ニ限ラズシテ、ヤハリ救恤ヲ求ムルコトガ出來ルト云フコトニ一般的ニ改メタノデアリマス、サウシテ尙此原案ニアル船舶バカリデナク、積荷ノ所有者ニ對シテモ尙救恤金ヲ與フルト云フコトニ訂正致シマシタ其第二條ハ「前條ノ救恤金ハ四萬圓トス」ト云フノヲ「四萬圓以內トス」ト改メマシタ、第三條ヲ更ニ附加ヘマシテ「本法ニ依リ救恤金ヲ受ケントスル者ハ大正三年七月三十一日迄ニ申請スヘシ」尙附則ヲ加ヘ「本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス」ト云フコトニ訂正致シタノデアリマス、要スルニ本法ノ精神ハ明治四十二年ニ是ト同様ナル法律ガ出來マシテ明治三十七八年ノ戰役ノ爲メニ、陸上ニ於テ被リタルトコロノ損害ニ付テノ救済ノ法案ガ施行サレタノデアリマス、時偶海上ニ於テノ損害ダケガ落チテ居ッタ、此海上ニ於テ被リタルトコロノ損害ダケヲ救済セズト云フコトハ、非常ナル偏頗ナコトニナル、斯ウ云フ意味合カラ拵ヘタ法律デアリマスカラシテ、本案ハ僅カ三條デゴザイマスガ、要スルニ法ノ缺陷ノ爲メニ損害ヲ被ムッテ、損害ヲ求ムルニ所ナシト云フ民ノ怨嗟無カラシムル所ノ法案デアルノデアリマス、此意味ハ各派ヨリ選バレタルト

コロノ各委員ニ能ク徹底致シマシテ、滿場一致ヲ以ッテ可決シタモノデアリマスカラ、何卒御贊成アランコトヲ希望致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

七九 社寺上地下戻ニ關スル法律案

第一條 社寺舊境内及境外地ニシテ社寺上地處分ニ依リ現ニ國有ニ屬スル土地林野ハ其ノ社寺ニ下戻スヘシ

第二條 本法ニ依ル下戻ノ申請ハ大正四年七月三十一日迄トス

第三條 此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 第一條ニ依リ下戻ヲ受ケタル者ハ國ノ有スル權利義務ヲ承繼ス

第五條 本法ニ依リ下戻ヲ受ケタル土地林野及其ノ立木竹ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ抵當權、質權ノ設定若ハ賣渡、讓渡等ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

附則

本法ハ大正三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス



三年三月七日請願委員長提出、同月十二日其ノ第一讀會ヲ開キ提出者(渡邊修君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、時間モ段々移リマシタカラ極メテ簡潔ニ要領ノミヲ報告致シマス、社寺上地下戻ノ件ハ是マデ度々問題ニナリマシテ、請願ハ數度採擇ヲ致シマシタ、而シテ法律案トシテモ此議會ヲ數回通過ヲ致シテ居ルノデアリマス、今般モ此請願ガ出マシタノデアリマスガ、請願者ハ各宗ノ管長二十名デアリマス、紹介議員ハ小川平吉君、鶴澤總明君、箕浦勝人君、高野金重君、柏原文太郎君、此四君デアリマス、是ハ此請願ノ趣旨ハ明治三年ニ上地令ニ依リマシテ社寺ノ境内ヲ總テ國有ニシテシマッタ、取上ゲラレタト云フコトハ如何ニモ無理デアアルカラ之ヲ還付シテ貫ヒタイト云フ趣旨デアリマス、從來ノ歴史ヲ調べテ見マスト、農商務省ノ政府委員ハ之ニ反對ヲ致シテ居ルノデアリマス、而シテ其反對ノ理由モ一貫ヲ致シテ居リマセヌ、或時ハ政府ノ收入ガ大ニ減ズルカラ反對デアアルト言ッテ居ル、或時ハ風致ヲ害スル、之ヲ社寺ニ下戻セバ之ヲ濫伐スル、而シテ風致ヲ害スル虞レガアル故ニ反對スルトモ言ッテ居ル、又或時ハ是ハ公有地デアッテ社寺ノ私有地デナイ、故ニ反對スルト云フヤウナ議論デアリマシタ、併シ本年ハ宗教ヲ監督スル所ノ文部省ノ政府委員ハ此請願ニ賛成ヲ致シテ居ルノデアリマス、段々取調べマスト云フト御承知ノ通り社寺ノ境内ナルモノハ、古ノ名僧高德ガ深山幽谷ヲ開拓致シマシテ社寺ニスル、或ハ諸侯——王侯ノ下付サレタト云フコトモアリマス、又信徒ト云フ者ノ喜捨シタ即チ寄附ニ依テ出來テ居ルト云フ社寺モアリマス、又社寺自ラ資金ヲ投ジマシテ之ヲ買得シタト云フ社寺モアルノデアリマス、所ガ總テ斯ウ云フモノガ政府ニ取上ゲラレテシマッテ居ル、甚シキハ有名ナル立派ナ寺ニシテサウシテ縁ノ下マデ國有ニナッテ居ル、寺ノ地所ト云フモノハ寸地モナイト云フヤウナ處モアルノデアリマス、故ニ是ハ此上地處分ナルモノハ甚ダ其當ヲ得テ居ナイト云フ考デアリマシテ、又行政裁判ノ例ヲ調べテ見マシテモ、以前ハ行政裁判所ハ寺ニ權利ガナイト云フコト

ヲ判決シテ居リマシタガ、三十九年以後ハ行政裁判所モ變リマシテ、ヤハリ是ハ社寺ノ私有地デアルト云フコトノ判決ニナッテ居ルノデアリマス、本問題ハ區々タル山林ノ行政ニアラズシテ、實ハ數千年來ノ歴史、即チ社寺ヲ創建サレタ所ノ歴史ニモ關係スルノデゴザイマス、又宗教ノ消長ニモ關係致シマスルトコロノ高等ノ政治問題デアアルト考ヘルノデアリマスルガ故ニ、請願委員會ニ於キマシテハ相當ノ請願ト認メマシテ、特ニ委員中カラ特別委員ヲ選ミマシテ、サウシテ法律ノ起草ヲ致シタノデアリマス、即チ其法律案ガ諸君ノ御手許ヘ回ッテ居ル案デアリマス、此法律案ハ昨年本院ヲ通過致シテ居リマスル法律案ト少シモ違ヒハナイノデアリマス、唯自然ノ結果ト致シマシテ、此二條ト附則ノ年月日ガ相違シテ居ルノミデアリマシテ、大體法律ノ趣意ハ昨年ト同一デアリマス、請願委員會ニ於キマシテハ此法律案ヲ具シテ報告スルヲ適當ト認メテ報告ヲ致シタノデアリマスガ、併シ年々同ジ問題ヲ繰返シテ、唯議會デ通過シテモ實行サレヌト云フコトデハ何等ノ益モナイコトデアリマスカラ、多年ノ問題デアアルガ故ニ成ベク速ニ之ヲ解決スルコトヲ委員長ニ於テモ努メロト云フ請願委員會ノ決議デアリマシタ、故ニ私ハ紹介議員タル小川君ト共ニ農商務、文部、兩大臣ニ會見ヲ致シマシテ、本問題ノ區々タル行政ノ山林行政ノ問題ニアラズシテ極メテ高等政治ノ問題デアアル、故ニ政治家ハ大ニ之ニ向ッテ考慮ヲ費サナケレバナラヌト云フコトヲ陳述致シタノデアリマス、文部省ハ御承知ノ通り大臣ハ新任デアリマシテ篤ト協議ヲ致シテ省議ヲ決定スルト云フコトデアリマス、又農商務大臣モ宜ク協議ヲシテ成ルベク實行スルヤウニ致シタイ、斯ウ云フコトデアリマス、ドウカ諸君ハ御賛成ヲ願ヒタイ、又政府ニ於テモ小サナ理窟ニ囚ハレズシテ、大局ヨリ觀察致シマシテ本問題ヲ解決セラレンコトヲ希望致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ院議原案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラザリキ



八〇 區裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

福島地方裁判所管内福島區裁判所管轄區域ヨリ左ノ各町村ヲ割キ同地方裁判所管内郡山區裁判所管轄ニ編入ス

安達郡ノ内

和木澤村	高川村	仁井田村	荒井村	岩根村
青田村	玉井村	本宮町		

福島地方裁判所管内白河區裁判所管轄區域ヨリ左ノ各町村ヲ割キ同地方裁判所管内郡山區裁判所管轄ニ編入ス

岩瀬郡ノ内

西袋村	仁井田村	白方村	白江村	榊衝村
濱田村	稻田村	鏡石村	長沼町	須賀川町

石川郡ノ内

小鹽江村	川東村	大森田村
------	-----	------

附則

本法ハ大正三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ受理シタル事件ハ其ノ區裁判所ニ於テ處理スルモノトス

三年三月七日吉田定之助君外一名提出、同月十三日第一讀會ヲ開キ提出者(吉田定之助君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ區裁判所管轄區域變更ニ關スル單純ナル案デゴザイマシテ、ソレハ福島縣地方裁判所管内福島區裁判所管轄内中安達郡本宮町外七箇村ヲ割キ、同縣郡山區裁判所ノ管轄區域ニ編入スルト云フノト、ソレカラ同縣白河區裁判所管轄ニ屬シテ居リマス、トコロノ岩瀬郡須賀川町外一町八箇村及石川郡小鹽江村、川東村、大森田村、三箇村ヲ割イテ郡山區裁判所ニ編入スルト云フノデゴザイマシテ、此福島白河兩區裁判所ノ管轄ニ屬シ居リマス、トコロノ此各町村ハ、孰レモ近キハ七里、遠キハ十數里ニナツテ居ルノデアリマス、此中白河區裁判所ニ屬シ居リマス、トコロノモノハ、一箇村ダケ五里半ト云フノガゴザイマスガ、其他ハサウ云フ里程ニナツテ居リマス、之ヲ郡山區裁判所ニ編入スルコトニナリマスレバ、近キハ二里半遠クトモ尙七里未滿ニナツテ居ルノデ、是マデ甚ダ不便ヲ感ジテ居リマシタノニ、何ガ故ニ斯ク不便ニモ拘ラズ福島區裁判所、白河區裁判所ノ管轄ニ這入ツテ居ッタカト言ヘバ、郡山區裁判所ハ此福島白河區裁判所設置ヨリ十數年後ニ設置ニナリマシタ故ニ、其爲メニ之ヲ郡山區裁判所ニ編入ニナラズ、福島及白河ニ編入ニナツテ居リマス、殊ニ又安達郡ノ西部ノ如キハ、岩越線ノ郡山ニ出マシテ、ソレカラ福島ニ行クト云フヤウナ不便ニナツテ居リマスノデ、之ヲ其管轄ヲ變更スルト云フコトハ適當ト認メマス次第デアリマスカラ、本案ノ成立ニ御賛成アラントラ希望致シマス

質疑應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ



八一 地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第一條第一項中「宅地地價百分ノ二箇半」ヲ「宅地地價百分ノ一箇八五」ニ改ム

附則

本法ハ大正四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年三月七日大西五一郎君外一名提出、同月十三日第一讀會ヲ開キ提出者(大西五一郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ御承知ノ通り地租條例中ノ第一條、即チ其第一項ニゴザイマス所ノ宅地地價百分ノ二箇半トゴザイマスノヲ、宅地地價百分ノ一箇八・五ト改メ、附則トシテ本法ハ大正四年九月一日ヨリ施行ス、斯様ニ改メタイト申スノデアリマス、其理由ヲ一言致シマスデゴザイマスガ極ク簡單ニ致シマスカラ御靜肅ニ願ヒマス、此宅地租輕減ヲ致サント存ジマスノハ、全ク從前地租ニ於キマシテハ田畑宅地ト申シマスルモノハ、何レモ元トノ百分ノ二箇半デゴザイマシタノヲ、非常特別稅ト致シマシテ課セラレマシタ其額ハ田畑ニ於キマシテ百分ノ三箇ヲ増シ、市街宅地ニ百分ノ十七箇半ヲ増シ、郡村宅地ニ百分ノ五箇半ヲ増シマシタ、然ルニ其後ニ於キマシテ、非常特別稅ト致シマシテ増率イタシマシタ所ノ田畑地租ニ於キマシテ、即チ其三箇ノ中ヨリ此以前ニ於テ八厘ヲ減ジ、而シテ過日ノ本會ニ於テ又二厘ヲ減ジ、全ク一箇ヲ減ジマシタノデゴザイマス、左様致シマスルト非常特別稅トシテ増率致シマシタ三箇ノ内ヨリ一ヲ減ズルコトニ相成ルノデアリマス、取リモ直サズ是三分ノ一ヲ減ジマシタノデアリマス、而シテ今日ノ田畑ニ於キマス

ル地價ハ十二億二千七百九十三萬八千九百九十六圓、其地租額ガ元トノ百分ノ二箇半デゴザイマス時分ニハ三千六十九萬八千四百五十五圓、而シテ三箇ヲ増シマシタ其増額ガ三千六百八十三萬八千四百六十六圓、即チ是ガ百分ノ五・五トナリマシタ所ノ率ニナリマスガ、此地租額ガ六千七百五十三萬六千六百一圓トナッテ居リマス、而シテ以前ニ八厘ヲ減ジマシタ減額ガ九百八十二萬三千五百十圓、全ク百分ノ四箇七ガ五千七百七十一萬三千九百五十五圓、而シテ此當度二厘ヲ減ジマシタモノガ、此地租額ガ二百四十五萬五千八百七十六圓、全ク斯様ニ致シマスルト、大正四年度ヨリハ百分ノ四箇五トナッテ、此地租額ガ五千五百二十五萬七千二百九十九圓トナル、全ク之ニ依リマシテ三分ノ一ノ減稅ニナッテ居ル、千二百二十七萬九千三百八十六圓ヲ減ジテ居リマス、元來之ニ依リマシテ舊ノ地租額カラ申シマス、市街宅地ニ於キマシテ地價額ガ三千八百三十二萬九千二百四十三圓、是ガ以前ノ地價額デゴザイマシテ、ソレニ百分ノ二箇半ニ對スル地租ガ九十五萬八千二百三十一圓デアリマス、而シテ百分ノ十七箇半ト申シマス、所謂七倍トナリマスカラ、總額ヲ云ヒマス、其高ガ六百七十萬七千六百八十八圓、即チ是ダケノ十七箇半ニ對スル以前ノ百分ノ二箇半ト合セテ二十、即チ其地租額ガ七百六十六萬五千八百四十九圓、斯様ニナッテ居ル、而シテ郡村宅地ニ於テ地價ガ一億六百五十九萬三千六百八十六圓、之ニ對スル地租百分ノ二箇半ガ二百六十六萬四千八百四十二圓、之ニ五箇半ヲ増率致シテ居リマスガ故ニ、其地租額ガ五百八十六萬二千六百五十三圓、全ク百分ノ八ト云フコトニ致シマスルト、地租額ガ八百五十二萬七千四百九十五圓ト相成ッテ居リマス、而シテ其總高ニ致シマスルト六百五十七萬三千二百七十七圓、斯様ニ相成ルノデアリマス、而シテ郡村ノ宅地ト申スモノハ、御承知ノ通り以前ニ於テハ地價額ヲ修正致シマシタニ付テ、目下ノ所デハ郡村市街ノ區別ハゴザイマセヌ、宅地トナッテ居リマシテ、總地價ガ六億四千二百九十三萬四千九百五十一圓、參考トシテ其內譯ヲ致シテ見マス、ト市街宅地價ガ三億千五百九十六萬六千七百八十一圓、之ニ對スル二箇半ノ地租額ガ七百八十九萬九千六百六十九圓、郡村宅地價ガ三億二千六百九十六萬八千一百七十圓、此地租額ガ八百七十七萬四千二百四圓、サウ致シマスルト、此地租額ガ百分ノ二箇半ニ致シテ一千六百七十三萬三千三百



七十三圓、是ガ現行法ニナツテ居リマス、而シテ當度ノ改正案ニ致シマスレバ、即チ百分ノ一箇  
八・五デアリマス、ソレヲ地租額ニ致シマスト一千八百九十九萬四千二百九十七圓トナルデアリ  
マス、全ク差引ヲ致シマシテ、此當度ノ案ニ依ル所ノ減額致シマス地租ガ四百七十七萬九千七百六  
圓、是ダケヲ減ジ得タト云フノデアリマス、先キニ申上ゲマシタル所ノ田畑宅地ニ限リマシタル  
地價ノ三分ノ一ト云フ所カラ比例ヲ以チマシテ減ジマスルト、數理上ヨリ出マスルモノガ四百  
十七萬九千七百六圓ト相成ルノデアアル、ソレデ當度ノ改正ヲ致シマスレバ先キニ申上ゲマシタ  
四百七十七萬九千七百六圓カラ全ク數理上差ノゴザイマスモノガ一萬一千四百圓トシカ相成リマ  
セヌノデアリマス、以上數字ニ舉ゲマシタル所デゴザイマシテ、之ヲ要スルニ非常特別稅ト致シマ  
シテ増率致シマシタル所ノ田畑百分ノ三箇ヲ先程申上ゲマシタル如ク一箇ヲ減ジテ二箇ト改メマ  
シテ、以テ二分ノ一ヲ減スルコトニ相成リマスガ故ニ、同一理由ヲ以テ増率致シマストコロノ此  
宅地ニモ十七箇半、又郡村ノ宅地ニ於テ五箇半トモ、等シク三分ノ一ヲ減租致サントスルノデゴ  
ザイマス、諸君宜シク慮心悞懷以テ審議ヲ盡サレ、本同成案ヲ成立シテ速ニ實施セラレンコトヲ  
千祈萬望ノ至リニ堪ヘヌノデゴザイマス

次テ齋藤宇一郎君外六名提出ニ係ル東北六縣田畑地價特別修正法律案外一件委員ニ併セ付託スル  
ニ決シ委員ハ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

八二 不動産登記法中改正法律案

不動産登記法中左ノ通改正ス

第二十七條中「又ハ相續」ヲ、「相續又ハ法人ノ合併」ニ改ム

第百五條「被相續人」ノ下ニ「若クハ合併ニ因リテ消滅シタル法人」ヲ加フ

三年三月七日三谷軌秀君提出、同月十三日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極メテ案モ簡單デアリマスシ、説明モ簡單ニ提出ノ理由ヲ申述ベタイト思ヒマス、本案ハ登記手  
續ニ關スル案デアリマシテ、株式會社其他法人ノ合併シタル場合ニ於ケル登記ノ手續ヲ簡略ニシ  
ヤウト云フノデアリマス、ソレハ登記法ノ二十五條ニ、登記ハ法律ニ別段ニ定メアル場合ヲ除ク  
ノ外當事者ノ申請云々ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズト云フコトニナツテ居リマス、二十  
六條ニ登記ハ登記權利者及登記義務者又ハ其代理者登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス  
ト云フコトニナツテ、其例外トシテ二十八條ニ判決又ハ相續ニ依ル登記ハ登記權利者ノミニテ  
之ヲ申請スルコトヲ得ルト云フコトニナツテ居リマスガ、會社ノ合併シテサウシテ其合併ニ依リ  
消滅シタル會社ノ財產ヲ、合併ニ依リ存續スルトコロノ會社ノ名義ニ移ス登記ノ手續デ、此場合  
除外例ノ無イタメニ合併ニ依リ消滅シタル會社ノ代表者ノ連署ヲ要スルト云フヤウナ面倒ガ  
起ツテ來ルノデアリマスカラ、之ヲ相續ノ場合ト同様ニ合併ニ依リ存立スル會社ノミニテ登記ノ  
申請ヲスルト云フコトニシタイト云フダケノ案デアリマスカラ、ドウカ御賛成アラントラ望  
ミマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十四日委員長及理事ノ互  
選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ同月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字ハ委員會修正)

不動産登記法中左ノ通改正ス



第二十七條中「又ハ相續」ヲ、「相續又ハ法人ノ合併」ニ改ム

第二十八條ノ二中「又ハ相續人」ヲ、「相續人又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ニ、「相續ニ因ル」ヲ「相續若クハ法人ノ合併ニ因ル」ニ改ム

第四十一條中「相續」ノ下ニ「又ハ法人ノ合併」ヲ加フ

第四十二條中「登記權利者又ハ」ヲ「登記權利者若クハ」ニ、「身分」ヲ「相續又ハ法人ノ合併」ニ改メ「相續人」ノ下ニ「又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ヲ加フ

第二百二條ノ三中「又ハ相續人」ヲ、「相續人又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ニ、「相續ニ因ル」ヲ「相續若クハ法人ノ合併ニ因ル」ニ改ム

第二百三條中「又ハ相續人」ヲ、「相續人又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ニ、「相續ニ因ル」ヲ「相續若クハ法人ノ合併ニ因ル」ニ改ム

第二百五條中「被相續人」ノ下ニ「若クハ合併ニ因リテ消滅シタル法人」ヲ加フ

第百六條中「被相續人」ノ下ニ「若クハ合併ニ因リテ消滅シタル法人」ヲ加フ

翌十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長三谷軌秀君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

本案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、本案ニ付キマシテハ委員會ハ二回開キマシテ、御

手許ニ御差上ゲマシタ如ク修正可決スルコトニ決シマシタ、本案ノ趣意ハ法人ノ合併ニ因ル登記ヲ相續ノ場合ト同一手續ニスルト云フ趣意デアリマス、其理由ハ不動産登記ハ其原則トシテ登記義務者及登記權利者ガ申請センケレバナラヌト云フ規定ニナツテ居ル、權利者ノミニヨリ申請スル場合ハ法律ニ規定ヲ要スト云フコトニナツテ居リマス、即チ二十七條ニハ判決又ハ相續ニ因ル登記ニ付テハ、登記權利者ノミニヨリ申請スルコトヲ得ルト云フコトニナツテ居リマス、法人ノ合併ノ場合ハ此處ニ規定シテナイガ爲ニ、此登記手續上困難ヲ生ジタコトハ屢々實例ガアルノデアリマス、之ヲ正サンガ爲ニ二十七條ト百五條ノ二箇條ヲ改正セントスルノガ本案ノ條項デアリマス、委員會ニ於キマシテ審査ノ結果、此趣意ヲ貫徹スルニ付テハ、尙他ニ改正ヲ要スル簡條ガアルト云フコトヲ發見致シマシタ、即チ二十八條ノ二ノ滯納處分ニ因ル差押登記ヲ囑託スル場合ノ簡條、夫カラ四十一條ノ登記ノ原因ヲ生ズル書面ニ關スル簡條四十二條中ノ登記ノ權利者又ハ登記ノ義務者ノ相續人ニ關スル簡條、百二條ノ三中ノ既登記ノ土地ガ河川ノ敷地トナツタ場合ニ其抹消登記ヲ囑託スル場合ニ關スル規定、百三條中ノ土地收用法ニ依ツテ收用セラレタ場合ニ起業者ノ登記ヲ申請スル場合ノ簡條、百六條中ノ建物ノ所有權登記ヲスル場合、其敷地ガ被相續人ノ所有トシテ土地臺帳ニ記載セラレテアル場合ニ關スル簡條、以上ノ六箇條ヲ相續ノ場合ト同様ニ法人合併ノ場合ニ適用ノ出來ルヤウニ改正シナケレバ、本改正ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フ爲ニ、以上ノ簡條ヲ改正セントスル即チ本案ノ修正ヲ致シタノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、政府委員ハ從來精神解釋ニ依ツテ相續ノ場合ト同一ノ取扱ヲセントスルモノデアッタノデアアル、今本案ノ如ク改正スレバ事明確トナツテ、登記手續上ノ疑惑ヲ避ケル譯デアツテ、本案ハ至極適當デアルト云フコトデ政府ハ贊成セラレタノデアリマス、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク引續キ第二讀會ヲ開キ院議委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ  
即日貴族院ニ送付シタルモ終ニ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ



八三 陸軍治罪法中改正法律案

陸軍治罪法中左ノ通改正ス

第二條 軍法會議ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ軍法會議ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

八四 海軍治罪法中改正法律案

海軍治罪法中左ノ通改正ス

第二條 軍法會議ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ軍法會議ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

兩案ハ三年三月十日花井卓藏君外二名提出、同月十三日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(花井卓藏君)ハ兩案ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、説明ハ極メテ簡ニシテ盡スコトガ出來ルノデアリマス、海軍治罪法第二條並ニ陸軍治罪法第二條ニ規定セラレタル條文ヲ讀上ゲマス「軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但シ其ノ裁判官告ヲナストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス」斯ノ如クニ規定セラレテアルノデアリマス、ソレヲ改メマシテ「軍法會議ノ對審判決ハ之ヲ公開ス安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ軍法會議ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得」斯ノ如クニ改正スルノ案デアリマス、改正ヲ致シマスル理由ハ唯一ツデアリマス、其一ツハ大切ナル憲法上ノ理由デアリマス、憲法第五十七條ニ掲ゲラル、ガ如ク、裁判權ハ 天皇ノ名ニ於テ行ハルベキ最モ大切ナルモノデゴザイマシテ、其裁判權ノ普通人ト軍人トニ依リテ異ルベキ筋ノナイト云フコトモ、是亦言フヲ要セヌコトデアリマス、憲法第五十九條ニ「裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス」斯ノ如ク規定セラレ「但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得」ト規定セラレテアリマス、公開ヲ以テ原則トスル、而シテ安寧秩序ヲ害スルノ虞アルトキ、風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ之ヲ以テ例外トスル、斯ノ如クニ定メラレテ居ルノデアリマシテ、通常裁判所ニ於キマシテハ總テ此憲法ノ趣旨ニ則リテ居ルノデアリマス、獨リ軍事裁判所ニ於キマシテ公開ノ原則ニ離レテ、明治二十二年ニ制定セラレタル祕密ノ裁判ノ主義ヲ墨守致シテ居ルノデアリマス、之ヲ改メントスルガ本案ノ目的デアリマス、唯單ニ日本ノ憲法ヲ基礎トシテ申スバカリデナイノデアリマス、別段ナル理由ト致シマシテハ、各國ノ法制ニモ軍事裁判ノ公開ハ英國ニ於キマシテハ既ニ二百五十三年行ハレテ居ルノデアリマス、獨逸ニ於キマシテハ大ニ後レタリト雖モ行レテ既ニ十五年ノ年所ヲ閱シテ居ルノデアリマス、其他立憲君主國ニ於テ軍事裁判所ヲ有スル所ニ於キマシテ、之ヲ祕密ニスル所ハ一モナイノデアリマス、何事モ公開ト云フコトガ裁判ノ上ニ於テ大切ナルコトデゴザイマシテ、之ヲ祕密ニスルト云フコトハ弊害ノ之ニ伴フテ出ズルコト勿論デアリマスカラシテ、憲法ノ條規ニモ則リ、諸國ノ法制ニモ則リ、刑事訴訟法原則ニモ則リ、而モ今日ノ時局ニ於テ、此法案ノ當院ヲ通過スルト云フコトハ極メテ其當ヲ得タルモノト信ズルノデアリマス、法案ノ立テ方ハ種々ニ研究ヲ遂ゲテ見タノデアリマス、第一案トシテ本



案ヲ提出シマスルガ、第二案ト致シマシテ、ヤハリ別ノ立法方モアルノデアリマス、私ハ裁判所構成法、行政裁判法、ソレカラ特許法、會計検査官懲戒法、判事懲戒法、海員懲戒法ト云フガ如キ類似ノ法令ニ依リ研究ヲ遂ゲテ、今茲ニ提出致シマシタルガ如キ立法例ニ依リマシテ、毫モ支障ノナキコトヲ信ジテ居リマスルガ故ニ、併セテ之ヲモ説明ノ補充トシテ申上ゲテ置キマス

次テ兩案ハ議長指名(十八名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シタル後楠瀬陸軍大臣ハ本案ニ對シ政府ノ意見ヲ述ヘ次テ花井君ノ質疑ニ應答セリ

楠瀬陸軍大臣ノ演說

唯今花井君ノ御提案ニ對シマシテ、一言陳述致シテ置キタイト考ヘマス、御意見ハ吾々洵ニ當然ノ御意見ト考ヘマスルガ、既ニ軍事當局ニ於キマシテハ、先年來此陸軍ノ治罪法ヲ改正シナケレバナラヌト云フコトニ氣ガ付キマシテ、陸軍ニ於キマシテハ法官部長ニ命ジマシテ、先年來各國陸軍治罪法其他ノ必要ナ材料ニ依リマシテ取調ヲシマシタ、サウシテ此陸軍ニ於キマシテハ略、完結ヲ致シテ成文ヲナシテ居リマス、ソレガ實行ニナリマスレバ、唯今ノ御意見ハ全然行ハレルコトニナルダラウト思ヒマス、實ハ本年ノ議會ニ之ヲ出シタク考ヘテ居リマシタケレドモ、海軍トノ打合モ出來マセヌシ、自然遲レマシタノハ洵ニ軍事當局トシテハ遺憾ニ堪ヘヌ次第デアリマス、此ノ如キ事情デゴザイマスカラシテ、今後ハ海軍モモウ出來テ居ル様子デアリマスカラ、海軍ト交渉ヲ致シ、サウシテ斯道ニ堪能ナル專門者ヲ之ニ加ヘマシテ審査ヲ致セバ、モウ直グニ成案ニナル都合ニナッテ居リマスカラシテ、無論今年ノ議會ニハ提出ニナリ得ラレルコトト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、故ニ當局者ト致シマシテハ、此案ガ實行ニナルノモモウ長イコトデゴザイマセヌ故ニ、特ニ此第二條ダケヲ改正スルコトヲ、今暫ク御猶豫ヲ願ヒタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス

議長ハ即日委員ヲ指名シ委員ハ翌十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經

ルニ至ラサリキ

八五 薄荷營業取締法案

薄荷營業取締法

第一條 薄荷ノ栽培製造又ハ販賣ヲ業トスル者ハ産業組合法ノ規定ニ依リ産業組合ヲ組織スルコトヲ要ス

薄荷産業組合ニ加入シタル者ヲ除クノ外薄荷ノ栽培製造又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 薄荷産業組合ニシテ薄荷ノ輸出ヲ爲サムト欲スルトキハ地方ニ聯合會ヲ東京ニ中央會ヲ設立スルコトヲ要ス

地方聯合會ノ數其ノ位置及中央會ノ位置ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ過料ニ處シ三年間薄荷ノ營業ヲ停止ス

第四條 第二條ノ規定ニ違反シタル組合ハ産業組合法罰則ノ規定ヲ準用ス

第五條 本法ニ規定アルモノヲ除クノ外薄荷産業組合ニ對シテハ産業組合法ニ關スル規定ヲ準用ス



三年三月十日木下成太郎君外二名提出、同月十三日第一讀會ヲ開キ提出者(木下成太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此案ハ一條カラシテ五條マデ出來テ居ルノデゴザリマス、理由ハ御手許ニ上ゲテアリマスル通りデアッテ、之ヲ詳シク申上ゲルコトハ姑ク避ケタイト思ヒマスルガ、近年薄荷ノ需要ガ益殖エテ參リマシタニ從ヒマシテ、屢々農民ト商人トノ間ニ著シキ行違ヒガ出來テ參ルヤウナ都合ニナッテ參ッタノデアリマス、ソレハ薄荷ノコトハ凡十二年以前ヨリ外國ノ方ニ販路ガ開ケマシテ、日本ノ薄荷ト云フモノハ著シク發達ヲ致シテ參ッタノデアリマス、現今ニ於テハ日本カラシテ輸出致シマスモノガ約百萬斤ベカリゴザイマス、其金高ガ約八百萬圓アルノデアリマス、而シテ從來政府ニ於テハ少シモ是ニ對シテ保護ヲシテ居ナイ、隨テ無智ナル生産人ハ常ニ外國ノ「トラスト」ノ手先トナッテ居リマス、商人ニ利ヲ龍斷セラレマシテ、常ニ不遇ノ地位ニ居ルノデアリマス、ソレデ今日此案ヲ提出致シマシタトコロノ理由ハ、此生産者ヲ保護スルト云フノガ是ガ目的デゴザイマシテ、第一ノ理由トシテハ生産者ノ保護ヲスルコトト、第二ノ理由トシテハ作付段別ノ制限ヲシヤウト云フコト、第三ノ理由トシテハ外國市場ニ於ケル需要供給ノ調節ヲ圖ラウト云フコト、第四ノ理由ト致シマシテハ、市價ノ維持ヲシタイト云フ、要スルニ今日此生産者ガ無智デアリマスト共ニ、其無智ヲ利用致シマシテ商人ニ蹂躪セラレ、而シテ生産者ハ外國市場ノ實狀ヲ能ク知リマセヌガ爲メニ、需用ト供給ノ「バランス」ヲ計ラズシテ、自由ニ栽培ヲ致シマス、其結果常ニ市場ノ商人カラシテ需要ノ過多ヲ唱へ、サウシテ尙外國カラ壓迫ヲ受ケ日本ノ薄荷栽培者ハ常ニ悲境ノ地位ニ居ルト云フ都合デアリマス、ソレ故ニ農商務省ニ屢々此事ニ付テ忠告致シマシテ、此四年ベカリノ間ハ政府ハドコマデノ保護ヲシテ、ドコマデ此薄荷栽培者及製造者ヲ指導シ、其利益ヲ圖ルコトノ方法ヲ講ジテ居ルカト云フコトニ付テハ、特ニ監視モ致シマシタケレドモ、日本ノ今日ノ産業上ノ有様ト云フモノハ、申スマデモアリマセヌ頗ル萎靡不振シテ居ルノデアリマス、ソレデ是ハ此儘ニシテ置キマストキニハ、漸次外國商人ノ爲メニ生産者ガ

蹂躪セラレマシテ、救フベカラザル形ニ陥ルノデアリマスカラ、今日ニ於テ何等カノ方法ニ依テ、生産者ヲ保護シナケレバナラヌ必要ヲ認メタノデアリマス、依ッテ此案ヲ提出シタ次第デゴザイマスカラ、何分ニモ御協賛ヲ願ヒタウゴザイマス、委細ノコトハ何レ委員會ニ於テ精シク説明ヲ致スコトニ致シタイト思ヒマス  
次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

八六 市制中改正法律案

市制中左ノ通改正ス

第九九條ノ二 市カ收益ノ目的ヲ以テ新ニ營造物ヲ設ケムトスル場合ニ於テ現ニ其ノ區域内ノ需用ニ應スル爲官廳ノ許可ヲ受ケ同一目的ノ事業ヲ營ムモノアルトキハ市ハ該營業ニ對シ相當ノ處分ヲ爲シタル後ニ非サレハ營造物ヲ設クルコトヲ得ス但シ從來ノ營業者其ノ處分ヲ欲セサルトキ又ハ利害相反セサル場合ハ其ノ處分ヲ要セス  
前項ノ處分方法及手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

八七 町村制中改正法律案

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



町村制中左ノ通改正ス

第八十九條ノ二 町村カ收益ノ目的ヲ以テ新ニ營造物ヲ設ケムトスル場合ニ於テ其ノ區域内ノ需用ニ應スル爲官廳ノ許可ヲ受ケ同一目的ノ事業ヲ營ムモノアルトキハ町村ハ該營業ニ對シ相當ノ處分ヲ爲シタル後ニ非サレハ營造物ヲ設クルコトヲ得ス但シ從來ノ營業者其ノ處分ヲ欲セサルトキ又ハ利害相反セサル場合ハ其ノ處分ヲ要セス  
前項ノ處分方法及手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

兩案ハ三年三月十日小出五郎君外一名提出、同月十三日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(小出五郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本法律案ハ市制並ニ町村制中ノ規定中ノ一ノ不備ナルモノガアル、其一箇條ヲ追加致シタイト云フノガ趣意デアリマス、其箇條ハ從來市若クハ町村ニ於キマシテ、官廳ノ許可ヲ得テ其市町村内ニ於ケル需要ニ應ズル爲メ營業ヲ致シテ居ル者ガアル場合ニ於キマシテ、其後突然市若クハ町村ガ同一ノ目的ノ事業ヲ營ム場合ニ於テ、前ノ營業者ヲ其儘ニ差置クナラバ、將來非常ナ競争ヲ免レヌト云フコトハ既ニ例ノアルコトデアアル、斯ノ如キハ即チ不對等者間ノ競争ヲナサシムルモノデアアル、甚ダシキ弊害ハ既ニ實例ニ存スルトコロデアアル、私ハ斯ノ如キ弊害無カラシメンガ爲ニ、若モ市若クハ町村ガ同一ノ目的ノ事業ヲナサントスル場合ニハ、從前ノ營業者ニ對シテ相當ナル處分ヲナシテ、然ル後ニ著手スルコトニ致シタイノデアリマス、然ラバドウ云フヤウナ方法ガ最モ相當ナ處分デアアルカトスレバ、是ハイロ／＼ノ方法モアリマセウガ、場合ニ依リ

其事ニ付テハ適當ナル手續方法ハ勅令ヲ以テ豫メ極メテ置キタイノデアリマス、大體ノ趣意ハ斯ノ如キ趣意デアリマス、速カニ御賛成アラントラ希望致シマス

次テ議長指名ノ同一委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ翌十四日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末兩案共ニ修正ヲ加ヘ同月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(八六)案委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

市制中左ノ通改正ス

第九條ノ二 市カ收益ノ目的ヲ以テ新ニ營造物ヲ設ケムトスル場合ニ於テ、現ニ其ノ區域内ノ需用ニ應スル爲官廳ノ許可ヲ受ケ同一目的ノ事業ヲ營ムモノアルトキハ市ハ該營業ニ對シ相當ノ處分ヲ爲シタル後ニ非サレハ營造物ヲ設クルコトヲ得ス但シ從來ノ營業者其ノ處分ヲ欲セサルトキ又ハ利害相反セサル場合ハ其ノ處分ヲ要セス  
前項ノ處分方法及手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(八七)案委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

町村制中左ノ通改正ス

第八十九條ノ二 町村カ收益ノ目的ヲ以テ新ニ營造物ヲ設ケムトスル場合ニ於テ、其ノ區域内

第七條 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案



定アルモノヲ除クノ外現ニ  
ノ需用ニ應スル爲官廳ノ許可ヲ受ケ同一目的ノ事業ヲ營ムモノアルトキハ町村ハ該營業ニ對  
シノ相當ノ處分ヲ爲シタル後ニ非サレハ營造物ヲ設クルコトヲ得ス但シ從來ノ營業者其ノ處  
分ヲ欲セサルトキ又ハ利害相反セサル場合ハ其ノ處分ヲ要セス  
前項ノ處分方法及手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

同月十九日兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長石黑磐君ハ左ノ報告ヲ爲セリ

諸君、御委託ニナリマシタ市制中改正法律案並ニ第二ノ町村制中改正法律案、委員付託ニナリマシタ委員會ノ經過及結果ヲ此處ニ報告致シマス、百一號ノ市制中改正法律案ニ付キマシテハ、精神ニ變リハゴザイマセヌガ、文字ヲ餘程澤山修正ヲ致シマシタ、此修正ノ報告ハ諸君ノ御手許ヘソレソレ配付致シタルコト、存ジマスガ、尙此處デ修正ノ點ダケヲ一應讀ミマシテ理由ヲ更ニ説明シマス、市制ノ第九條ノ二從來ノ「市カ收益ノ目的ヲ以テ」ト云フ此「收益ノ目的ヲ以テ」ト云フ文字ヲ削リマシテ、ソレカラ「新ニ」又下ノ「營造物ヲ設ケ」ト云フ字ヲ削リマシテ、斯ウ云フコトニ替ヘテアリマス、第九條ノ二「市カ新ニ特別ノ事業ヲ經營セムトスル場合ニ於テ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外」所謂「場合ニ於テ」ト云フ下ヘ「法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外」ト斯ウ入レマス、ソレカラ「現ニ其ノ區域内」是ハ從來ノ通り「現ニ其ノ區域内ノ需用ニ應スル爲メ官廳ノ許可ヲ受ケ同一目的ノ事業ヲ營ムモノアルトキハ市ハ該營業」ト云フ「營」ノ字ヲ「該事業」ト云フ「事」ノ字ニ替ヘマシタ「該事業ニ對シ」其下ニ「豫メ」ト云フ字ヲ入レマシタ「豫メ相當ノ處分ヲ爲シタル後」ト云フ「シ」ノ字カラ削リマシテ「相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス」ソレカラ十數字ヲ減ジマシテ、但書ニ飛ビマシテ「但シ從來ノ營業者其ノ處分ヲ欲セサルトキ又ハ利害相反セサル場合ハ此限ニ在ラス」其ノ處分ヲ要セス」ト云フ文字ヲ「此ノ限ニ在

ラス」ト替ヘマシタ、其次ニ「前項ノ處分方法及手續」斯ウアリマス「及手續」ノ三字ヲ消シマシテ、其ノ代リニ「前項ノ事業ノ種類及」之ヲ先キニ入レマス「前項ノ事業ノ種類及處分方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」斯様ニ修正ヲ致シマシテ委員會ハ全會一致決議ヲ致シマシタ、其精神ニ至リマシテハ少シモ變リマセヌガ、唯先ノ提案ノ儘デアリマスルト收益ノ目的ヲ以テト云フガ少シ穩カデナカラウ、或ハ營造物ヲ設ケルト云フ文字ガ多少ドウモ公共的ノミノ方ニ屬スル傾キヲ持ッテ居リマスカラ、寧ロ特別ノ事業ヲ經營セントスル場合ニ於テト云フコトニ致シマシテ、趣意ハ喩ヘテ申セバ一ノ個人ガ此處ニ電燈ナリ電鐵ナリヲ營ンデ居ル場合ニ、市町村ニ於テ之ヲ爲サウト云フ場合ニハ、相當ノ處分ヲ致シテ然ル後ニ相談ヲシテヤッタガ宜カラウ、徒ニ競争ヲ致シタリ個人ノ爲シテ居ル事業ヲ或事情ノ政黨ノ争トカ政派ノ争トカナドデ壓迫ヲスルコトハ宜シクナイ、斯ウ云フ即チ改正法案ノ趣意デアアル、其通りノ意味合ハ少シモ變ヘマセヌ、斯様ニ修正ヲ致シマシテ、政府モ是ニハ斷然同意デゴザイマスカラ、委員會ノ報告ヲ此處ニ致シテ置キマス……少シ御待下サイ、次ハ町村制ノ方デゴザイマス、是ハ條項ハ町村制デハ第八十九條ノ二ニ當リマス、説明ト修正ハ唯今ノ通りデゴザイマスカラ、合セテ御報告ヲ致シマス

別ニ討論ナク引續キ兩案ノ第二讀會ヲ開キ院議執レモ委員會ノ報告ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付シタルモ同院ノ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

八八 軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

明治四十四年法律第五十九號附則第二項、第三項及第五項乃至第八項ヲ削リ左ノ二項ヲ加フ



明治四十四年四月一日以前現役ヲ離レ現ニ退職恩給、免除恩給、增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニ給スヘキ恩給金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル

陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭案並ニ其家族扶助概則、海軍退隱令又ハ陸軍武官恩給令ニ依リ扶助料、退隱料又ハ恩給ヲ受クル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法規定ノ金額ヲ給ス

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年三月十二日森茂生君提出、同月十四日第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、本員ハ多數諸君ノ御贊成ヲ得マシテ茲ニ軍人恩給法中改正法律案ヲ提出致シマシタコトデゴザイマス、此恩給法中改正法律案ハ、其理由トスル所ハ之ニ認メ置キマシテ、諸君ノ御手許ニ既ニ配付セラレテアルコトデアリマスカラ、聊カ其理由ノ足ラザルトコロヲ茲ニ補ハウト思フノデゴザイマス、此軍人恩給法ノ改正ノ必要ハ、茲ニ本員ガ辯論ヲ要スルマデモナク業ニ已ニ諸君御承知ノ通りデアリマシテ、年々歳々請願トシテ現レツ、居ルノデアリマシテ、本年ノ如キモ各派議員諸君ノ紹介ヲ以テ數十件請願ガ呈出ニナツテ居ルノデアリマス、其理由ト致シマストコロハ、明治四十四年ニ恩給法ノ改正ヲセラレタコトデアリマス、其當時ニ改正以前ニアルトコロノ軍人ハ、甚ダ寡少ナル恩給ヲ受ケテ居ルノデアリマシテ、四十四年以後ノ退職者ニ對シテハ其恩給額ガ頗ル宜クナツテ居ルノデアリマス、同ジ帝國ニ於テ軍人ヲ勤メテサウシテ退職致シタトコロノ者、ソレガ一ハ厚ク一ハ薄シト云フヤウナ恩給ヲ給スルト云フコトハ甚ダ國家ノ爲

ニ宜シクナイト思フノデアリマス、此退職恩給免除恩給ヲ受ケテ居ル者ハ、其前ト後トノ違ハ大差ガアルノデアリマス、是ハ決シテ退職ニナツタ人ニ對シテ區別スル必要ハナイト思フノデアリマス、又扶助料ノ如キハ長ク國家ニ對スル功勞ガ全ク甲モ乙モ同一ノモノデアアルノデアリマス、其同一ノモノ、遺族即チ軍人タルモノ、父或ハ夫タルモノガ亡クナリマシタ時ガ、明治四十四年ノ三月三十日ニ亡クナツタ者ト、四月一日ニ亡クナツタ者ト、一日ノ違ヲ以テ此扶助料ニ大差ガアルノデアリマス、是ハ吾々ノ最モ遺憾トスルトコロデアアルノデアリマス、故ニ斯ノ如ク我國ノ軍人ガ退職シテ恩給ヲ受クル者ニ其等差ノアルト云フコトヲ、甚ダ吾々ハ悲ム者デアリマス、之ヲ政府當局ニ質シマスルト、政府當局ハ唯財政ヲ奈何セント云フコトノ一點張ヲ以テ、此事柄ハ政府ニ於テハ贊成ヲ致シテ居リマスガ、財源ノ爲ニ已ムヲ得ヌト云フヤウナ甚ダ不親切ナコトヲ言ウテ居ルノデアリマス、希クハ一國ノ軍人デアリマスカラ、同一ノ扱ニセラレタイガ爲ニ、此法案ヲ提出シタ所以デアリマス、希クハ滿場諸君ノ御贊同ヲ乞ヒタイト思フノデアリマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同月十六日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ翌十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ然レトモ本案ハ終ニ院議ニ上ラサリキ

八九 裁判所構成法及辯護士法ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案

第一條 裁判所構成法及辯護士法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

第二條 臺灣臺北ニ臺灣控訴院、臺北地方裁判所、臺北區裁判所ヲ置キ同島宜蘭ニ宜蘭區裁判所







第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

司法裁判、民事、刑事及監獄ニ關スル事項ニシテ臺灣ニ特別ナルモノニ付テハ前項ノ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

現行ノ律令ハ勅令ヲ以テ之ト牴觸スル規定ヲ爲スモノノ外其ノ效力ヲ存ス

九一 行政裁判法及訴願法ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案

第一條 明治二十三年法律第四十八號行政裁判法明治二十三年法律第百五號訴願法及明治二十

三年法律第百六號行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

第二條 行政裁判法及訴願法中各省大臣又ハ內閣直轄官廳ノ處分ニ關スル規定ハ臺灣總督又ハ

臺灣總督府直轄官廳ノ處分ニ準用シ各省又ハ內閣ニ關スル規定ハ臺灣總督府ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

以上三案ハ孰レモ三年三月十二日松田源治君外四名提出、同月十七日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(松田源治君)ハ三案ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ第一案ガ裁判所構成法及辯護士法ヲ臺灣ニ施行スル法律案、是ハ裁判所構成法及辯護士法ヲ臺灣ニ施行シタイ、アトハ結果ニ關スル條文デゴザイマス、ソレカラ第二ハ裁判所構成法ヲ臺灣ニ施行スル結果六三デス、今デハ三十一號ト云フ法律ニナツテ居リマス、此中ヲ改正シナケレバナラヌ、即チ臺灣總督ニ立法ヲ委任スル權利ヲ與ヘテ居ル、即チ律令ヲ以テ立法ニ代ル所ノ規定ヲ爲スコトガ出來ルノデアリマス、其法律ヲ改正シテ臺灣ニ特別ナルモノ、ミ臺灣總督ニ委任立法ヲスル、併シ臺灣ニ特別ナルモノデアッテモ、司法裁判民事刑事及監獄ニ關スル事項ハ此限ニ在ラス、是ハ委任立法ヲシナイ、ソレカラ之ヲ委任立法ヲシナイ結果、臺灣ニ特別ナルモノガアリマス、ト必ズ法律デ規定シナケレバナラヌト云フコトハ、頗ル不都合ナ事ヲ生シマスルカラ、臺灣ニ特別ナルモノニ付テハ、勅令ニ委任シテ特別ノ規定ヲ設ケシメル、是ガ第二案デゴザイマス、第三案ハ行政裁判法ト及ビ訴願法ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スル法律、是ガ第三案デアリマス、本案ハ總テ政黨政派ノ問題ニ非ズシテ、國民ノ權利ノ消長ニ關スル重大ナル問題デアリマス、總テ立憲國ニ於キマシテハ、國民ノ裁判ナルモノハ行政官ヨリ獨立シテ居ル、獨立ノ地位アル終身官タル所ノ司法官ガ裁判スルノガ原則デアアルノデゴザイマス、申ス迄モナク憲法第五十七條ニハ「司法權ハ 天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム」是ガ憲法ノ通義デアリマシテ、行政官ヲシテ裁判ヲ爲サシメルト云フコトハ此變例デアアルノデアリマス、然ルニ臺灣ニ於キマシテハ領有既ニ二十年ノ今日、臺灣ノ裁判官ハ律令ヲ以テ規定シテ居ルトコロノ臺灣總督府ノ法院條例ニ依リマシテ、獨立ノ地位ノ無イ即チ總督ニ直屬シテ居ルトコロノ行政官ノ性質ヲ帶ビテ居ル裁判官ガ裁判ヲ爲スト云フコトハ、臣民ノ權利ノ伸長ニ付テ至大ナル關係ガ生ズルト私ハ思フノデゴザイマス、殖民地ノ制度ニ於キマシテハ、外國ニ於キマシテモ種々制度ガアリマス——制度組織ガアリマス、總テ違ッテ居リマ



スルケレドモ、獨立ノ裁判官ヲシテ裁判セシメナイ、行政官ノ性質ヲ帶ビテ居ルトコロノ司法官ヲシテ裁判ヲセシムルトコロノ例ハ甚ダ少ナイノデアリマス、英國ノ如キハ殖民地ニ於キマシテモ、確カニ行政官ト司法官ト云フモノハ、注意ヲシテ是ハ截然トシテ區別ヲシテ居ルノデアリマス、サウシテ獨立ノ地位ヲ與ヘ終身官ノ地位ヲ保證致シテ居ル者ガ裁判ヲ致シテ居ルノデアリマス、獨逸ノ如キハ英國ノ如ク截然行政官ト司法官ノ地位ヲ區別シテハアリマセヌケレドモ、裁判官トシテ裁判ヲ爲ス時分ニハ、行政官ノ直屬デナク行政官ノ干渉ヲ排斥シテ自由ノ地位ヲ與ヘ、獨立ノ地位ヲ與ヘテ裁判ヲセシメテ居ルノデアアル、然ルニ我臺灣ノ法例ニ於キマシテハ、今日ニ於テハ獨立ノ地位ノナイ、何時ニテモ臺灣總督府ヨリ必要ノアル場合ニハ休職ヲ命ゼラル、トコロノ裁判官ガ裁判ヲシテ居ル、是ハ憲法治下ニ於テアルベカラザルトコロノ私ハ事デアルト考ヘルノデゴザイマス、諸君モ御承知ノ通り昨年臺灣ニ於テ陰謀事件ガアリ、朝鮮ニモ陰謀事件ガアッタ、而シテ此朝鮮臺灣ニ於ケル陰謀事件ガ其審理ニ付テ内外ノ疑惑ヲ招イタノハ何デアアルカト申シマスレバ、主トシテ即チ總督ニ直屬シテ居ル所ノ行政官ガ裁判ヲ爲スガ爲メデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、之ヲ廢シマシテ我國ノ裁判所構成法ヲ臺灣ニ施行スル下云フコトハ、最モ今日必要ナル案件ト考ヘルノデアリマス、其結果、上告ニ付テモ三審制度

日本ノ内地ノ大審院ニ上告ヲ許ス、是ハ當然ノ結果デアラウト思フ、今日ハ内地ノ臣民デア

ッテモ臺灣ニ行ッテ居ル内地ノ臣民ハ、裁判所構成法ノ保護ヲ受ケズシテ、二審ガ終審デ全ク法律ヲ統一スルトコロノ、大審院ノ三審ニ上告スルコトガ出來ヌト云フコトハ、人民ノ權利ヲ私ハ侵害シテ居ル行爲ナリト申サナケレバナラヌト思フノデゴザイマス、故ニ裁判所構成法ヲ施行シマシテ、臺灣ノ土人ニモ内地ノ臣民ニモ、盡ク獨立シテ居ルトコロノ裁判官ノ裁判ヲ受ケシメ、又法律ヲ統一スルトコロノ大審院ニ上告スルノ權利ヲ與ヘタイト云フノガ本案ノ趣旨デアアルノデアリマス、又行政裁判法及訴願法ヲ臺灣ニ施行スルノハドウ云フ譯カト申シマスレバ、憲法六十一條ニハ「行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタルトスルノ訴訟ニシテ、別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス」

行政官廳ノ違法處分ニ依ッテ臣民ノ權利ヲ傷害セラレタル者ニ於テハ、行政訴訟ヲ許スト云フコトハ是亦立憲國ノ通義デアルト考ヘル、今日臺灣ノ臣民ハ如何ニ行政官廳カラ權利ヲ蹂躪サレ、權利ヲ傷害サレテモ、之ヲ訴フルトコロノ道ガナイノデアアル、訴訟ヲ起スコトモ出來ナケレバ、訴願ヲ起スコトモ出來ナイ、唯哀訴嘆願シテ上司官廳ニ憐ミヲ乞フト云フトコロノ奴隸ノ状態デアルト言ハナケレバナラヌ、此奴隸ノ状態ヨリ救ヒマシテ而シテ行政官廳ガ臣民ノ權利ヲ傷害シタル時分ニハ、憲法ニ與ヘラレタル權利ニ依テ之ヲ行政裁判所ニ訴ヘル道ヲ開クト云フコトガ、是亦臣民ノ權利ノ上ニ於テ最モ私ハ必要ノコトデアルト考ヘルノデアリマス、斯ノ如キ問題デアリマスカラ、ドウカ諸君ハ御賛成ノ上本案ノ通過セラレンコトヲ私ハ希望致シマシテ此壇ヲ降ルノデアリマス

次テ各案ハ共ニ政府提出裁判所構成法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ニ著手シタルモ孰レモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

九二 酒造稅法中改正法律案

酒造稅法中左ノ通改正ス

第八條但書中「清酒ニ限リ」ヲ「清酒及味淋ニ限リ」ニ改ム

附則

本法ハ大正三年十月一日ヨリ同四年九月三十日ニ至ル酒造年度分造石稅ヨリ之ヲ適用ス



三年三月十二日三輪市太郎君外一名提出、同月十七日第一讀會ヲ開キ提出者(三輪市太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

極メテ簡單ニ申シマス、此酒造稅法中改正法律案ヲ要スルノ理由ヲ極メテ簡單ニ申シマスガ、第八條但書中ニ「清酒ニ限リ」トアルヲ「清酒及味淋ニ限リ」ト改メルノデアリマス、其趣意ハ清酒ニハ御承知ノ通り、造石數ヨリ百分ノ二滓引ナルモノガ引カレルコトニナツテ居リマス、然ルニ味淋ニ於テモ百分ノ二如キデアリマセヌ、實際ハ百分ノ五モ滓ガ溜ルノデゴザイマス、之ヲ滓引ガナイト云フノハドウ云フ譯デアラウカト調ベテ見マスルニ、此酒造稅ヲ制定サレマシタ即チ明治二十九年ノ頃ニハ、味淋ハ飲料ニ用弗ラレ、又値段ニ於テモ相當ナ清酒ノ平均價格ヨリ高イ値段ヲ維持シテ居リマシタ、又稅率ノ上ニ於テ酒精分ノ二十度三十度ノ差ガ同様ニシテアリマシタ、ソレガ爲メニ當業者モ辛棒致シテ居リマシタトコロガ、近來ハ諸君モ御承知ノ通り「ベルモット」トカ何トカ種々ノ西洋酒ガ入ルタメニ、モウ味淋ヲ飲料ニ用弗ルト云フノハ實ニ片田舎ノオ婆サン位ナモノデアツテ、中流以上デハ決シテ之ヲ飲料ニ用弗ル者ガナイト云フ有様デアリマス、從ツテ値段モ其當時ヨリ清酒ト比較シテ漸次味淋ノ値段ガ下ガリマシテ、今日デハ清酒ノ平均價格ヨリ稍高イ位ノ値段ヲ保ツテ居リマスガ、併シ滓ノ點ニ於テハ清酒ハ實際ニ百分ノ二位ヨリ溜リマセヌガ、味淋ニ於テハ百分ノ五位溜リマスカラシテ、之ヲ清酒ト同様ニシテモ敢テ不當デハナカラウト思ヒマス、所ガ是等ノ問題ハ全國ニ互ツテ味淋ナルモノ、石數ハ僅ニ二萬石位、之ヲ百分ノ二引キマシタトコロガ四百石ニ對スル課稅デアツテ、政府ニ於テモ餘リ重キヲ置カレズ、又當業者モイロく是迄不平ヲ言フテモ何分少數ノ當業者ノ爲メニ、一向ドウモ耳ニ止メラレナカッタデアリマスガ、併シ不當ト知リツ、之ヲ拋棄シテ置ク譯ニハイカナイカラシテ、茲ニ本案ヲ提出シタ譯デアリマス、ドウカ御贊成アラントラ望ミマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同月十九日委員長及理事ノ

互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

九三 朝鮮産ノ牛革並其ノ革製品ニ對シ移入稅免除ニ關スル法律案

附則

本法ハ大正三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

三年三月十二日小出五郎君外二名提出、同月十七日第一讀會ヲ開キ提出者(白川友一君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

茲ニ提案シテアリマスノハ、朝鮮産ノ牛革並其ノ革製品ニ對シ移入稅免除ニ關スル法律案デゴザイマス、其要旨ハ朝鮮産ノ牛革並其革製品ニハ移入稅ヲ課セズ、附則ニ參リマシテ、本法ハ大正三年七月一日ヨリ之ヲ施行スルト云フノガ趣意デアリマス、尙簡單ニ其理由ヲ述ベマス、近來朝鮮産ノ牛革並其革製品ハ漸次産額ヲ増加シマシテ、今ヤ其産額ハ百萬圓ヲ超ヘテ、製産夥多ノタメ大ニ當業者ハ困難ヲシテ居ルデアリマス、之ヲ内地ニ移入センカ、牛革ニ付テハ毎百斤ニ付十五圓二十錢、革製品ニ付テハ毎百斤ニ付三十七圓二十錢ノ移入稅ヲ課セラル、ニ依リマシテ、引合ハナイデアリマス、而シテ内地ニ於ケル需用ハ年々歲々益々多クナリツ、アリマシテ、農商務省ノ統計表ニ依ツテ見マスルト、明治四十年カラ四十四年ニ至ル五箇年間ノ内地ノ製造額ハ次第二減少シツ、アルノデアリマス、而シテ外國カラ輸入シテ居リマストコロノ牛革ハ、



百十四萬斤カラ二百五十萬斤ノ多額ヲ輸入シテ居ルノデアリマス、現時内地ニ於ケル革製品ノ價格ハ每百斤ニ付キマシテ八十五圓前後ノ高價ヲ保ッテ居リマス、故ニ此移入税ヲ免除致シマシテ、朝鮮ニ於ケル牛革及革製品業者ヲ救ヒマシテ、又一面ニ於テハ内地ノ需用者ノ利益ヲ謀リタイト云フノガ、本案ヲ提出シタ理由デアリマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同月十九日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

九四 醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第十三條第三項但書及第四項ヲ削ル

三年三月十二日福井三郎君外二名提出、同月十七日第一讀會ヲ開キ提出者(福井三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

是ハ登壇ヲシテ説明ヲスル程長イコトヲ言フ必要ハナイノデアリマス、明治三十九年ニ現行醫師法ヲ改正シテ、域外往診治療ヲ妨グズト規定セラレタ、限地醫ノ地域ヲ撤廢シテシマツテ、普通醫者ト同ジヤウニシタイト云フ意見ナノデアリマス、ソレドモ云フ風ニシタラバサウナルカト申セバ、醫師法ノ第十三條ノ第三項但書及第四項ヲ削リマシタナラバ、是ガサウナルノデアリ

マス、折角登壇致シマシタカラシテ、少シ理由ヲ述ベテ置キマスガ、此三十九年ノ改正ノ時分ニハ、限地醫ノ地域ヲ取ッテ普通ノ醫者ニシヤウト云フ議論モアッタノデアリマス、然ルニソレヲ反對シタ方ノ意見ハドウ云フ意見デアッタカト云フト、限地醫ト云フモノハ大抵寒村僻地ノ醫者ノ無イヤウナ所ニ許サレテアルノデアアル、ソレヲ東京ノ真中ニ出テ來ルト云フヤウナコトニナルト、立派ナ醫者ガ迷惑ヲスル、斯ウ云フコトナドガ、イロ／＼反對ノ理由モアリマシタガ、ソレ等ガ重ナル反對ノ理由デアッタヤウデアリマス、其不道理ナコトハ其時モ今モ變リハナイノデアリマス、既ニ醫者ト云フコトヲ許シテアル以上ハ、地域ヲ限ッテ其地域内ニ於テハソレガ醫術ノ効ガアツテ、地域ヲ越ヘテシマッタラ醫術ガ消滅スルト云フ譯モナイ譯、人間ニ術ヲ許シテアルカラ、川ヨリ手前ニ於テハ醫者ノ能力ガアルガ、橋ヲ一ツ渡ッテ川ヲ越ヘタラ醫者ノ能力ガ無クナルト云フ道理ガナイ、故ニ道理ノ上カラ許シテアル以上ハ、他ニ地域ヲ限定スル必要ハナイ、又何處ヘ其醫者ガ出テ來テ見タトコロガ、ソレカラ先キハ優勝劣敗デ、實物勝負デアアル、北海道ノ山ノ奥ニ地ヲ限ラレテ開業シテ居ル醫者ガ、此地域ヲ撤廢サレタル結果トシテ東京ニ出テ開業シタトコロガ一向妨グナイ、若シ東京デ流行レバ流行ッテモ一向差支ナイ、流行ラナカッタナラバ當人ガ諦メルマデノ話ダ、法律ノ上カラソレガ東京ニ流行ラレテ下手ナ治療ヲサレテハ困ルト云フコトヲ心配スルニハ及バヌ、人間ノ生命ノ大切ナルコトハ誰モ知ッテ居ルカラ、ソレガ庸醫デアッタナラバ東京ノ真中ニ出テ來タ上デ治療ヲヤルト云ツテモ、治療代ヲ醫者ノ方カラ出シテヤルト云ツテモ、其處ニ行ッテ治療ヲ受ケル者ハナイ、縦シ之ヲ妨グテ法ヲ以テ地域ヲ限ッテ、北海道ノ山奥ニ追入ンデ置イテモ、是ガ名醫デアッタナラバ東京カラデモ北海道ノ山奥ニ尋ネテ行ッテ治療ヲ受ケルノデアリマス、故ニ斯ノ如キ實物ガ主タルモノハ優勝劣敗ニ任シテ置ケバ宜イノデアリマス、不道理ナル法律ヲ以テ之ヲ限定シテ置クト云フコトハ甚ダ宜シクナイト思ヒマス、寧ロ斯ノ如キモノハ舊時代ノ遺物デアアルカラ、オ前ハ許サヌ認メナイト云フナラ分ッテ居ル、其既得ノ權利ヲ奪ッテ差支メテ差支ナイト云フナラ無論分ッテ居リマスガ、既得ノ權利デアアルカラ奪フコトハ出來ヌト云フコトヲ認メテ置キナガラ、地域ヲ限ッテ認メテ置カナケレバナラヌ



ト云フ必要ハナイ道理デアラウト思フ、故ニ不道理ナル此規定ニ對シテ改正ヲ加ヘヤウト云フ  
ノデ、改正ヲ加ヘルノハ十三條ノ第二項但書第四項ヲ削レバ道理ニ適ウタル法律トナルト云フ  
ノデゴザイマシテ、ソレデ益スル所モ多イシ、又法トシテノ缺點モ無クナルノデアリマスカラ、  
茲ニ此改正案ヲ提出シタル次第デアリマス、何卒御賛成アラント希望致シマス  
次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同月二十日委員長及理事ノ  
互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

九五

刑ノ執行又ハ未決勾留ヲ受ケタル無罪者ニ對スル損害賠償ニ關スル法律案

第一條 再審手續ニ依リ無罪ノ裁判ヲ受ケタル者ニシテ刑ノ執行ヲ受ケタルトキハ之ニ付國庫  
ニ對シ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二條 無罪免訴又ハ公訴不受理ノ裁判ヲ受ケタル者ニシテ未決勾留ヲ受ケタルトキハ之ニ付  
國庫ニ對シ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得

第三條 被告カ故意又ハ重過失ニ依リ有罪判決又ハ未決勾留ヲ招キタルトキハ第一條第二條ノ  
請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ノ場合ニ於テハ情狀ニ依リ第二條ノ請求ハ之ヲ棄却スルコトヲ得  
一 被告ノ行爲カ犯罪ノ豫備ナルカ又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキ

二 被告ノ行爲カ泥酔精神病等ニ因ル心神喪失ニ基キタルモノトシテ無罪又ハ免訴ノ裁判アリ  
タルトキ

三 被告ハ前ニ被告事件ニ同種又ハ類似ノ犯罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケタルモノナルトキ

四 被告カ一定ノ住居ナキカ營生ノ業務若ハ資産ナキカ又ハ理由ナクシテ諸方ヲ徘徊シタル  
トキ

五 被告カ逃走ヲ企テ又ハ證據湮滅ヲ圖リタルトキ  
第五條 國庫ノ賠償スヘキ損害ハ刑ノ執行又ハ未決勾留ニ依リ被告ニ生シタル財産上ノ損害ニ  
限ル

第六條 無罪又ハ免訴ヲ言渡シタル裁判確定シタルトキハ被告ハ三箇月内ニ損害賠償ノ申立書  
ヲ事件ノ繫屬シタル第一審裁判所ニ提出スヘシ

申立書ニハ申立ノ理由タル事由ヲ成ルヘク簡明ニ記載スヘシ  
第一項ノ期間内ニ申立書ヲ提出セサルトキハ被告ハ申立ヲ爲スノ權ヲ失フ

第七條 第一條及第二條ノ請求ハ被告ニ對シ扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者モ亦之ヲ爲スコトヲ  
得

但シ其ノ扶養ノ利益ヲ失ヒタル程度ニ限ルモノトス



第八條 申立ヲ受ケタル裁判所ハ事件ニ付賠償要求權ノ存否及賠償額ヲ定ムルニ必要ナル調査ヲ爲スヘシ

第九條 裁判所カ調査ヲ終リタルトキハ申立人ニ審訊スル手續ヲ爲シ且檢事ノ意見ヲ聽キタル上意見ヲ付シテ書類ヲ大審院ニ進達スヘシ

大審院ハ裁判所ノ調査ヲ以テ不十分ナリトスルトキハ其ノ補充ヲ命スルコトヲ得尙職權ヲ以テ自ラ補充調査ヲ爲スコトヲ得

第十條 檢事及申立人ハ調査書類ノ閱覽及謄寫ヲ爲シ且調査ニ付書面ヲ以テ意見又ハ希望ヲ陳述スルコトヲ得

第十一條 大審院ハ申立ニ付理由ヲ付シタル決定ヲ以テ裁判ス決定ハ職權ヲ以テ申立人ニ送達ス

第十二條 左ノ場合ニ於テハ申立ヲ棄却スヘシ

- 一 申立期間經過シタルトキ
  - 二 申立權ナキトキ
  - 三 申立カ第四條ニ依リ棄却スヘキ情狀アルトキ
- 第十三條 申立ノ理由アリトスルトキハ國庫ニ賠償スヘキ義務ヲ命シ記録ヲ司法大臣ニ送致ス

ヘシ

決定ノ要旨ハ官報ヲ以テ公告シ且申立ノ提出アリタル裁判所ノ掲示板ニ決定ノ要旨ヲ記載シタル文書ヲ貼付スヘシ

第十四條 前條第一項ノ手續アリタルトキハ司法大臣ハ大審院ノ決定ニ基キ被告ノ職業地位經歷等ヲ參酌シテ自由ナル意見ヲ以テ賠償金額ヲ確定スヘシ

附則

第十五條 本法ハ其ノ施行前受ケタル刑ノ執行又ハ未決勾留ニ之ヲ適用セス

第十六條 本法ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三年三月十七日伊東知也君外五名提出、同月十九日第一讀會ヲ開キ提出者(高木益太郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ何等一點ノ過失モナイヤウナ人が、全ク當該官吏ノ失策ニ因リマシテ不幸ニシテ獄窓ノ下ニ呻吟シタル場合ニ、是等ノ人が被リマシタル財産上ノ損害ニ付テ、國家ノ賠償責任ヲ定ムルト云フコトハ、個人ノ權利ヲ尊重スル立憲政治責任政治ノ本旨ヲ貫徹スル上ニ於テ必要ナ次第ト信ジマス、ソレ故ニ本案ヲ提出ヲシテ諸君ノ御審議ヲ煩ハス次第デアリマス

次テ高木益太郎君外三名提出犯罪搜查ニ關スル法律案委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ニ著



手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

九六 刑法施行法中改正法律案

刑法施行法中左ノ通改正ス

第三十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

本法施行以前ノ犯罪ニシテ舊刑法及ヒ他ノ法律ノ刑ヲ適用スヘキ罪ニ付テハ其主刑ニ從ヒ公訴ノ時効期間ニ付舊法ノ規定ヲ適用ス

三年三月十七日土方千種君外一名提出、同月十九日第一讀會ヲ開キ提出者(土方千種君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ御注文通り極ク簡單デゴザイマスルガ、ドウモ反對論ノアラウト云フ豫期ガゴザイマスルカラ、登壇ノ必要ヲ感ジ是マデ出マシタ、本案ハ刑法施行法中ノ第三十八條ノ末項ニ、本法施行前ノ犯罪ニシテ舊刑法及他ノ法律ノ刑ヲ適用スル罪ニ付テハ其主刑ニ從ヒ、公訴ノ時効期間ニ付テハ舊法ノ規定ヲ適用シタイ、斯ウ云フ末項ヲ加ヘタイト云フノガ希望デゴザイマス、御承知ノ如ク此刑法施行法ハ四十一年十月一日ヨリ新刑法施行ト共ニ實施セラレタ法律デゴザイマス、或ハ此改正ノ法文ニ對シマシテハ、刑法施行以前ノ犯罪ニト云フ訂正ノ方ガ或ハ穩當カモ知レマセヌガ、先ヅ提案ヲ維持スルコトニ致シテ置キマシテ、本件ノ案ヲ提出致シマスル主要ハ舊

法ニ於キマシテハ御承知ノ通り、刑事訴訟法デハ第八條ニ於テハ死刑ハ十年、重罪ニ付テハ七年、輕罪ニ付テハ三年ト云フ消滅時効デアッタ、然ルニ此刑法施行法ノ第三十八條ノ改正案ニ於キマシテ、數時効ニ此時効ガ分タ、其分タ結果ト致シマシテハ、舊刑事訴訟法ニ於キマシテ三年ノ時効デアリマシタモノガ七年ノ時効ニナルヤウナ關係ニナツテ來タ、然ルニ此施行法ヲ立法セラレタ人ノ意思、及司法省ノ參考書トシテ提出セラレタモノニ依ツテ見マスレバ、舊刑事訴訟法ノ條項ヲ此法律以前ノ犯罪ニ對シテ適用スル意味ニ於テ出來テ居ル筈デアアル、然ルニ刑事訴訟法ノ第二十二條ニハ此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ又適用スル、斯ウ云フ法文ガアル、此法文ニ據ツテ大審院ハ近來ノ明治四十三年以後ノ判決例トシテハ、何時モ以前ニ於テ三年ノ時効デ公訴ハ消滅ニナルベキモノヲ、總テ七年ノ時効ナリトシテ、取扱ハレテ居ル、斯ウ云フ判決ヲシテ居ル、大審院ノ如キ法律ノ解釋ニ於テ統一ヲ圖ルベキ上級裁判所ニ於テ、斯ウ云フ判決ヲシテ居ル、下級裁判所ニ居ル人ハ法理如何ニ拘ラズ、ドウモ今日ノ裁判官ニ對シテ法理ヲ貫ク判決ヲ以テ幾回破棄セララル、モ厭ハズト云フヤウナ勇氣ヲ持タレト云フコトハ、望ムベカラザルコトデゴザイマセウト思ヒマス、從ツテ此刑法施行法ノ立法者或ハ法律解釋ニ慧眼ヲ持ッタ人ハ、或ハ此法律ヲシテ改正スルノ必要ハナイ、刑法施行法ノ精神ニ付テハ舊刑法施行法ノ消滅時効ヲ適用スベクシテ、新法ノ時効ヲ適用スベキデハタイト云フ御解釋ノ下ニ、此改正ノ必要ガタイト云フ反對論ヲ受ケヤウカト云フ虞レガアルノデアリマス、要スルニ法律ハ任意ニ解シ得ラレル、即チ兩意ニ解スルヤウナ疑ヒノアル法律ハ、執法官ニ對シテハ、吾々立法部ニ於テ誤リノナイヤウニ法律ヲ改正スルノガ吾々ノ責任ダラウト信ズルノデ本案ヲ提出スル所以デアリマス、尙法文ノ不備ナ點ガゴザイマスレバ、委員會ニ於テ改正スルコトヲ少シモ厭ハナイ譯デアリマス

次テ高木益太郎君外三名提出犯罪捜査ニ關スル法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員ハ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ



會計監查士法

第一章 會計監查士ノ職務及資格

第一條 會計監查士ハ當事者ノ囑託ヲ受ケ又ハ官廳ノ命ニ依リ左ニ掲クル職務ヲ執行スルモノトス

- 一 會計事務ノ監査
- 二 損益計算表、貸借對照表、財産目錄其ノ他計算ニ關スル書類ノ調査及證明
- 三 計算ニ關スル爭議ノ鑑定及仲裁
- 四 定款及企業目論見書ノ起草
- 五 會計組織ノ立案
- 六 會社ノ創立、合併及清算ニ關スル事務執行ノ受託
- 七 株式及社債ノ發行登錄並名義書換ニ關スル事務執行ノ受託
- 八 有價證券所有者ノ爲其ノ證券ニ表示セラルル權利義務ニ關スル事務執行ノ受託
- 九 統計ニ關スル事務執行ノ受託
- 十 無能力者ノ財産、相續財産及破産財團ノ管理

第二條

會計監查士タラムトスル者ハ左ニ掲クル資格ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 帝國臣民ニシテ三十歲以上ノ男子タルコト
- 二 會計監查士試験ニ合格シタルコト

會計監查士試験ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條

三箇年以上辯護士判檢事又ハ財務ニ關スル高等官タリシ者ハ前條第二號ノ資格ヲ要セスシテ會計監查士タルコトヲ得

第四條

左ニ掲クル者ハ會計監查士タルコトヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
- 三 禁治産者及準禁治産者
- 四 懲戒ノ處分ニ依リ免官若ハ免職セラレタル者又ハ辯護士法ニ依リ除名セラレタル者ニシテ免官免職又ハ除名後三年ヲ經過セサル者

第五條

會計監查士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、府縣會常置委員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

會計監查士ハ商業ヲ營ミ又ハ會社ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ農商務大臣ノ許



可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

千百三十

### 第二章 會計監查士名簿

第六條 會計監查士ハ會計監查士名簿ニ登録セラルルコトヲ要ス

第七條 會計監查士名簿ハ農商務省ニ之ヲ備フ

第八條 會計監查士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ請求書ヲ提出スヘシ

登録請求書ニハ第二條、第四條、第五條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第九條 會計監查士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ登録手数料トシテ金二十圓ヲ納ムヘシ

第十條 登録ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

### 第三章 會計監查士ノ權利義務

第十一條 會計監查士ハ正當ノ事由アルニ非サレハ當事者ノ囑託又ハ官廳ノ命ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 會計監查士ハ利害ノ關係ヲ有スル事業ノ會計事務ヲ監查シ又ハ之ヲ證明スルコトヲ得ス

第十三條 會計監查士其ノ職務ノ執行ニ關シ囑託人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ會計監查士ノ

故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第十四條 會計監查士ハ囑託人ヨリ報酬及旅費ヲ受ク

第十五條 會計監查士ハ正當ノ理由ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知り得タル祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 會計監查士ハ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十七條 會計監查士ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

### 第四章 會計監查士協會

第十八條 會計監查士協會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ規約ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七章

議事 第三節 議案ノ討議及表決 第四款 法律案 第二項 本院提出法律案

千百三十一



第十九條 會計監查士協會ヲ解散シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第五章 懲戒

第二十條 會計監查士職務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲アリタルトキハ懲戒ニ付ス

第二十一條 懲戒ハ左ノ四種トス

- 一 譴責
- 二 千圓以下ノ過料
- 三 一年以下ノ業務停止
- 四 除名

第二十二條 懲戒ハ農商務大臣之ヲ行フ但シ會計監查士協會ニ屬スル者ノ懲戒ハ其ノ議決ヲ經タル後之ヲ行フモノトス

附則

本法公布ノトキ第一條ニ掲グル職務ヲ營ム者ニシテ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ會計監查士名簿ニ登録ヲ請フトキハ第二條第二號ノ資格ヲ要セスシテ會計監查士タルコトヲ得

三年三月十七日石田仁太郎君外一名ヨリ提出シタルモ終ニ院議ニ付スルニ至ラス

九八 議院法中改正法律案

議院法中左ノ通改正ス

第十六條第一項中「書記官數人」ノ下ニ「及守衛長一人」ヲ加フ

同條第二項中「書記官」ノ下ニ「及守衛長」ヲ加フ

第十七條第一項中「書記官」ノ下ニ「及守衛長」ヲ加フ

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

守衛長ハ議院ノ警察事務ヲ掌理ス

同條第三項中「書記官」ノ下ニ「及守衛長」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三年三月十九日岩崎勳君外八名ヨリ提出シタルモ終ニ院議ニ付スルニ至ラサリキ



第五款 上奏案及建議案

第一項 上奏案

一 開院式 勅語奉答文案

二年十二月二十六日本院ハ開院式ニ賜リタル 勅語ニ對シ直ニ奉答文ノ件ヲ院議ニ付シ議長指名ヲ以テ起草委員ヲ設ク起草了ルヤ會議ヲ再開シ委員長谷場純孝君ハ「勅語奉答文起草委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、起草委員會ハ委員長ニ不肖當選致シ、理事ニ花井卓藏君、古島一雄君ガ當選致サレマシタ、而シテ謹ンデ審議ノ末、一ノ成案ヲ作成致シマシタ（奉答文ハ第一章ニ掲ク）……」ト報告シ奉答文案ヲ朗讀ス總議員起立敬意ヲ表シ全會一致ヲ以テ可決シタリ

二 上奏案

衆議院議長 臣奥繁三郎 誠恐誠惶謹テ

奏ス伏シテ惟ニ

陛下聖神極ニ御シ億兆慶ニ頼リ寔ニ國家興隆ノ時運ニ會ス特リ不幸ニシテ頃日ニ迨ヒ海軍吏僚ノ罪惡中外ニ暴露シ高級ノ武臣家宅搜索ヲ受ケ喚問拘禁ヲ被ル者頻頻相踵ク帝國海軍ノ威嚴

ヲ失墜スルコト焉ヨリ甚シキハ莫シ當路ノ大臣斷シテ其ノ責ヲ道ルヘカラス而シテ天下群起シテ之ヲ攻ムルヤ言ヲ左右ニ託シテ責任ヲ回避シ詭譎百端掩蔽是レ努メ終ニ警吏ヲシテ肆ニ良民ヲ逮捕傷害セシメ又言議刊行ノ自由ヲ奪ヒ專恣橫暴至ラサル所ナシ是レ

先帝立憲ノ勸旨ニ悖リ大正新政ノ光輝ヲ汚スモノニシテ苟モ其ノ責ヲ明ニスルニアラスムハ憲政ノ實亡フルニ庶幾シ竊ニ按スルニ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛多年海軍行政ヲ掌リ任ヲ去ルノ後依然トシテ海軍ノ實權ヲ私ス而シテ今次ノ事亦其ノ統督ノ道ヲ誤ルニ由ル此ノ如クニシテ内ハ紀綱ノ頽廢ヲ來シ外ハ列國ノ輕侮ヲ速ク臣等憂虞已ム能ハス伏シテ願クハ陛下日月ノ照鑒ヲ垂レ

神籌睿斷忝ク

聖裁ヲ賜ハムコトヲ

天威ヲ冒瀆シ恐懼ノ至ニ任ル無シ臣奥繁三郎 誠恐誠惶謹テ

奏ス

三年三月十九日犬養毅君外五名提出、同月二十三日院議ニ付シ提出者(犬養毅君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明シ菅原傳君ハ反對ノ演說ヲ爲ス



私ハ上奏案ニ付テ説明ヲ致シマス、此度ノ即チ海軍事件並ニ警官ノ殺傷事件、是ニ付テ 天聽ヲ煩ハシ奉ルト云フ案デアリマス、本年ハ御即位ノ御大典ヲ前ニ控ヘテ居リマスル、其年ニ當ッテ斯様ナ不吉不祥ナ事件ヲ以テ 天聽ヲ煩ハシ奉ルト云フコトハ臣子ノ分トシテ實ニ忍ビザルトコロデアリマス、夫故ニ前ニ決議ヲ以テ 吾々議員ノ間ニ於テ此問題ヲ解決シテ 天聽ヲ煩ハシ奉ラヌト云フ手段ヲ執リマシタ、併ナガラ其以來ノ經過益々人心ハ沸騰シ、此事件モ益々擴大ニ相成ルト云フ有様デアリマス、ソレ故ニ萬已ムコトヲ得ズシテ 陛下ニ訴ヘ奉ルト云フ最後ノ手段ヲ執ルコトニナリマシタノデアリマス、元來此ノ海軍ノ事件タル、總理大臣ニ於テ責任ヲ是非トモ取ラレネバナラヌ、何故デアアルカト申シマスレバ、二十七八年戰役以來、事實ニ於テ海軍ノ功績モ其過失モ詰リ功過ト云フ事實ハ、現總理大臣山本伯爵ガ負ハネバナラヌノデアアル、二十七八年戰役以來ノ偉大ナル勳功モ認メル、併ナガラ其以來ノ海軍ニ過失ガアレバ 其過失モ亦其ニ山本伯爵ハ負ハレナケレバナラヌノデアアル此ノ點カラ致シマスレバ、今日ノ海軍ノ問題即チ贈賄——收賄問題ガ事實如何ナル關係ヲ有ッテ居ルカト云フコトハ、私ハ問フノデアアリマセヌ、縱令一人ノ犯罪者ガ出ヅトモ即チ權力ヲ常時有ッテ居ラレタト云フ山本伯爵ハ、其責ヲ免レルコトハ出來ナイノデアリマス、二十七八年戰役以來永イ間ノ勳功ト云フモノヲ負ハレル以上ハ、其ノ罪過モ同様ニ責任ヲ負ハレナケレバナラヌノデアリマス此點ハ私ハ總理大臣此ノ責任ヲ有タレナケレバナラヌト云フ意味デアリマス、ソレカラモウ一ツハ如何ニシテモ此疑——疑念ヲ明カニ晴ラサウト云フノニハ、其内閣總辭職致サレネバ私ハ出來ナイト考ヘルナゼ出來ナイカト云ヘバ、最早全國ノ疑ヒ、此疑念ハ彌蔓シテ居ルノデアリマス、ソコデ其疑念ガ正當デアルカ不正當デアアルカト云フコトハ敢テ問フ必要ハナイ、此疑念ガ此位蔓コッテ居ル以上ハ、疑問ノ中心ト目指サル、人ガ權力ノ地位ニ在ッテ、如何ニ後來ノ廓清ヲ圖ラレテモ益々疑ハ解ケナイノデアアル、ソレ故ニ此際勇退致サレ、全ク違ッテ手ニ内閣ガ出來ル、若クハ其山本伯爵ノ適當ナリト信ズルトコロノ人ノ手ニ落チタナラバ、却テ疑念ハ晴レル、此間ニ廓清ヲ立派ニヤラレタナラバ、果シテ此山本伯爵以下關係ガ餘リナカッタナラバ、是ハ立派ト云フコトガ分カル、所ガ現在ノ

内閣ノ權力ノ下ニ何度查問會ヲ開カレヤウガ、軍法會議ガ開カレヤウガ、一度ビ生ジタ疑念ハ此權力ノ下デハ疑問ヲ晴ラスト云フコトハ出來ナイ、ソレ故ニ山本伯爵以下ノタメニ計ッテモ、是ハ今日勇退致サレテ、他ニ御任セニナルト云フコトガ適當ノ方法ト私ハ考ヘルノデアリマス、モウ一ツハ海軍ノ問題デアリマス、軍隊ト云フ上カラ見タ問題デアリマス、斯ク犯罪事件ガ起リマスルト、此疑念タル軍隊ノ全般ニ互ッテ來ル、ソレ故ニ一ツ罪人ガ出レバ、他ノ全ク關係ナイ人マデガ多少ノ疑ヒヲ受ケル、此疑ハ延イテ全般ニ及ブノデアアルカラ、即チ軍隊ノ間デハ上長ヲ疑フ、上長官ガ若シ何カアリハシナイカト云フコトノ此疑念ガ一度ビ生ジタナラバ、軍隊ハ大變デアアル、唯軍紀ノ上法律的ニ壓迫スルト云フノデハ、有事ノ日ニ樂シンデ生命ヲ抛ツト云フコトハ出來ナイ、上長官ト兵隊トノ間ニハ道德的連鎖ガ無クテハナラヌ、此道德的連鎖ガ打破ラレ、ク今日ノ所謂海軍ノ一派、即チ山本伯爵ノ一派ト稱セラレテ居ル人ガ一先ヅ此要衝ヲ退カレテ、シテ變ッテ手デ此廓清ヲ圖ラレルト云フコトデナケレバ、後來軍隊、軍隊ノ上長官ト兵卒トノ間ノ道德的結合ト云フコトヲ圖ルコトガ餘程私ハ困難ニ相成ルト考ヘル、無論多年ノ間日本ノ微々タル海軍ヲ斯クマデニ致サレタト云フ功勞ハ、私モ認メテ居リマス、然ラバ此海軍ニ盡サレタ人々ハ、此度ノ事件ニ依テ帝國ノ海軍ガ汚名ヲ受ケル、帝國海軍ノ上長ト兵卒トノ間ノ信用ガ破壊サレタト云フコトヲ考ヘマシタナラバ、己レ自ラ退イテ却テソレガタメニ帝國海軍ヲ立派ナモノニスル、建直シ恢復ヲスルト云フコトヲ爲スガタメニ退カレルコトハ、樂ンデ喜ンデ退カレベキ筈デアアルト私ハ考ヘルノデアリマス、要スルニ私ハ此二點デアリマス、此二點ノタメニ早ク進退致サレルト云フコトヲ私ハ希望スル者デアアル、殊ニ決議案ヲ出シマシタ時分トハ餘程此事實ガ進行致シテ參ッタノデアアル、ドウ相成リマスカ存ジマセヌガ、唯今決議ヲ爲サレタ豫算デアアル、此豫算ハツマリガ今日ノ形勢ヲ以テ見マスレバ、豫算ハ不成立ニ終ルト云フコトヲ何人モ考ヘ得ラレルノデアアル、ソコデ内閣ハ其儘存在シテ居ル、議會ハ其儘存在シテ居ル、而シテ豫算ハ不成立ト云フ、此奇異ナ現象ヲ遺スト云フコトハ、後來ノ非常ナ惡例デアルト云フコトヲ考ヘ

第七章 議事 第三節 議案ノ討議及表決 第五款 上奏案及建議案 第一項 上奏案 千百三十七



ナケレバナラヌ、ソコデ此豫算不成立ニ於テハ、此ニ一言致スノハ無論私共ハ貴族院ノ主張サレ  
 ル所ノ議論ヲ是認スルモノデアリマセヌ、多ク批評スル必要ハアリマセヌガ、所謂陸海軍軍備  
 ノ偏重偏輕、此ノ論ヲ以テ此ノ大豫算ヲ打碎カレタト云フコトニ付テハ、私ハ滿腹ノ遺憾ヲ持  
 テ居ル者デアアル殊ニ貴族院ニ於テハ、軍事専門ノ智識、豐富ナル尊敬スベキ智識ヲ有テ居ラレ  
 ル一院ニ於テ、軍備ノ偏重偏輕トハ何事デアアル、凡ソ國防ナルモノハ國ノ方針ガ一定シ、國ノ方  
 針ニ從テ外交ガ生ジ、之ニ依テ四圍ノ狀勢ハ極マルノデアリマス、四圍ノ狀態ニ依テ或時ハ海  
 軍ヲ縮小シ得ベキ時モアリ、或時ハ陸軍ヲ縮小スベキ時モアルノデアリマス、此政府即チ閣族政  
 府ガ年來主張シタ、所謂車ノ兩輪ノ如ク鳥ノ雙翼ノ如ク、薩摩ノ海軍ガ一億ノ金ヲ求ムレバ長  
 州ノ陸軍必ズ一億ヲ求メルト云フ不理智ガ何處ニアリマスカ、ソレ故ニ其根柢タル豫算破壊ノ  
 根柢ニ私ハ服從スル者デハナイ、全ク異論デアリマス、殊ニ議院始テ以來ノ豫算先議權ハ、賢明  
 ナル貴族院ニ於テハ好慣例ヲ是マデ致シテ居タノデアリマス、一朝此慣例ヲ打破ラレタト云フ  
 コトニ付テハ、私ハ滿腹ノ遺憾ヲ持テ居ル、況ヤ解散ノ無キ一院ニ於テ、屢、内閣ノ信任ヲ問フ  
 ト云フ惡例ヲ開イタナラバ、後來議院政治ハ如何ニ運用ガ出來ルカト云フコトヲ考ヘナケレバ  
 ナラヌ、ソレ故ニ數ヘ來レバ議論ノ根柢ト云フモノニ付テハ私ハ御同意ガ出來ナイノデアアル、併  
 ナガラ内閣ハ是ニ於テ一考致サルベキ價ガアルノデアアル、何故此間ニ熟慮致サルベキ必要ガア  
 ルカト申セバ、貴族院ガ如何ナル手段ヲ取ルニ拘ラズ、其根本ノ起リハ何レニ在ッタカト云ヘバ  
 則チ海軍問題ガ累ヲ爲シテ居ル、然ラバ此海軍問題、此問題ノタメニ豫算不成立、全部ノ政務ヲ  
 擧ゲルコトガ出來ナイト云フコトニシタノハ誰デアアルカ、此點カラ申シマシタナラバ今日我國  
 ノ狀勢ハ非常ノ國務多端ナ時デアアル、一日モ停滯スベカラザル狀勢ニ在ル秋ニ方ッテ、此豫算不  
 成立ヲ招カレタト云フ責任ハ確ニ内閣ニアルノデアアルカラ、貴族院ガ斯クマデ惡例ヲ爲シタ原  
 因ハ内閣ニアルノデアアル、ソレ故ニ内閣ハ速ニ處決致サレテ此國務進行ノ停滯スルト云フコト  
 ヲ避ケラレルト云フコトハ、私ハ今日ニ於テ最モ速ニ執ラレベキ手段デアアラウト考ヘルノデア  
 リマス、是ダケガ私ノ上奏ヲ致ス趣意デアリマス、此御即位前ニ方リマシテ、斯様ナコトヲ以テ

天聽ヲ煩シ奉ルト云フコトハ臣子ノ分トシテ莫クモ恐懼ノ至リニ堪ヘマセヌノデアリマス、  
 唯萬已ムコトヲ得ナイタメニ吾々ハ最後ノ手段ヲ執ルノ已ムヲ得ヌニ至リマシタ、ドウゾ之ヲ  
 御諒察ノ上滿場ノ御賛成ヲ仰ギタイノデアリマス  
 菅原傳君ノ演說

本員ハ上奏案ニ反對ノ意思ヲ表明致シマス、其反對ノ主ナル理由ハ、上奏案ノ實質内容ヨリシテ  
 反對シ、更ニ誠心誠意ト云フ點ヨリ推論シテ之ニ反對スル者デゴザイマス、唯今犬養君ヨリ提  
 出ノ理由ヲ御説明ニナッタ次第デアリマスルケレドモ、此上奏案全部ノ説明デナク、唯一端デア  
 ルト考ヘタノデアリマス、私ノ此上奏文ヲ通讀スルトコロニ於キマシテハ、海軍問題、内務ノ  
 所管ニ屬スル集會言論印刷等ノ取締ニ關スル問題、而シテ之ヲ總督スルトコロノ總理、殊ニ海  
 軍ト長キ歴史ヲ有スルトコロノ此總理大臣ニ對スル責任問題ト云フヤウニ拜見シテ居ルノデ  
 アリマスルガ、唯今犬養君ノ御論ジニナツタトコロハ、主ニ海軍ニ關スルコトデアアル、總理大臣  
 ノ責任ヲ問ハレ、而シテ之ヲ 天聽ニ達シ 聖斷ヲ仰グト云フ趣意デアリマシテ、内務ニ關ス  
 ルコトハ殆ドナイノデアリマシタガ、要スルニ大體ヨリ申シテ見マスレバ去ル二月十日海軍ニ  
 關スル政府不信任ノ決議案ガ其實質内容デアッタヤウニ認メルノデゴザリマス、此上奏案ヲ見  
 マシテモ大體斯ノ如ク私ハ認メルノデアリマス、此上奏案ナルモノハ名ニ於テ形ニ於テ變化  
 シテ居リマスルケレドモ、唯今申述ベタル通り去月前後二回本議場ニ於テ論議否決サレタトコ  
 ロノ二決議案ノ綜合シタルモノト私ハ認メルノデアリマス、既ニ否決セラレタルトコロノ二  
 決議案ヲ綜合シタモノデアリマス、零ト零トヲ合スレバ、其結果ハ零ナリト云フコトハ數學ノ  
 原則デアリマス、議院法ニ依リマシテモ同一問題ヲ同一議會ニ於テ論議スルト云フコトハ禁  
 ゼラレテアルノデアリマス、此問題ハ實質ニ於テハ殆ド同一問題ノ如ク其結果知ルベキノミ、  
 嚴格ナル意味ニ於テハ殆ド論議スベカラザル問題ト私ハ認メルノデアリマス、假ニ一步ヲ讓  
 リ、此處ニ於テ議論スベキモノトシテモ内容ハ既ニ論ジ盡サレテアリマス、大體ニ概括的ニ論



ジテ見マセウ、先ヅ海軍問題ヨリ論ジマスル、次ニ内務問題、次ギニト漸次述ベマスル海軍ノ問題ハ私共モ實ニ遺憾ニ感ズル次第デアリマス、今回ノ出來事タル管ニ海軍ノ面目ヲ失スルノミナラズ、外國人ニ對シテハ吾々日本人モ亦海軍々人ト同様ニ遺憾ニ感ズル所デゴザイマスル、此ノ點カラ申シマシテハ御同様外國ノ出來事カノ如ク喜ビ勇ンデ議スベキ問題デハナイノデアリマス、悲シムベキ問題デアリマス、冷靜ニ慎重ニ議スベキ問題デアリマス、御同様ニ惡シキ所ハ攻メ、廓清スベキハ廓清スベキ問題デアアル、實ニ吾々ハ悲シムベキ問題トシテ之ヲ見ルノデアリマスル、同時ニ吾々ハ此問題ノ全般ヲ知ツタ後ニ判斷ヲ下スコトガ當然デアルト思フノデアリマスル、既ニ政府當局ニ於テモ斯ノ如キコトヲ呼ウテ居ル、當局者ハ決シテ責ヲ回避セヌノデアアル、殊ニ事實ノ明瞭ヲ俟ツテ是ガ處斷ヲナシ、進退ヲ爲スト言ウテ居ルノデアアル、是ハ相當ナル順序ト吾々ハ考ヘルノデアリマス、事實不明瞭ニシテ早急ニ何カ政權爭奪ノ問題カノ如ク之ヲセシムルガ如キハ、本員等ノ取ラザルトコロデアリマス、飽マデモ事實ヲ明カニシ、而シテ後最後ノ判斷ヲ下スベキモノデアアルノデアアル、當局者ニ於テモ其事實ノ真相ヲ明カニシ、上 陛下ニ對シ奉リ、下吾々國民ニ對シテ執ルベキ途ヲ執ルノガ順序デアラウカト考ヘルノデアリマス、而シテ内務問題ニ付テハ犬養君ヨリハ別ニ御議論モアリマセナカッタガ、簡單ニ此處デ申上ゲテ置キマスレバ、此問題ハ前回ノ決議案ノ際十分ニ論議サレテアリマスガ、大體此去月十日以來ノ集會或ハ言論等ニ對スル行動、此内務當局ノ執リタル處置ハ果シテ當ヲ得ルヤ否ヤト云フコトヲ、大體カラ見ルコトガ必要ト思フノデアリマス、吾々固ヨリ言論ノ自由集會ノ自由印刷ノ自由ヲ尊ブノデアリマス、同時ニ秩序ナキトコロノ集會ト放縱ナル言論トカ無責任ナル印刷トカ云フコトニ付テハ、嚴重ナル取締ヲ吾々ハ求ムルノデアリマス、去月十日ノ日比谷ノ集會ノ如キモノレヨリ延イテ起リタルトコロノ騷擾事件ノ如キモ大局ヨリ達觀スルコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、彼ノ騷擾事件ノ如キ日比谷ノ集會ノ如キモ、人ニ依テ各見ル所ヲ異ニスルデアリマセウガ、吾々ハ彼ノ十日ノ日比谷ノ集會ノ如キハ、秩序アル集會ト認メヌノデアリマス、諸君ノ首領ナルトコロノ加藤男爵ノ如キモ之ヲ認メテ居ルノデアリマス、今其意見

ヲ此處デ讀ンデ見マセウ、加藤男爵ハ二月二十日ノ時事新報ニドウ云フコトヲ言ッテアル、國民大會ノ如キ動モスレバ志——動モスレバ素志ト異リタルトコロノ惡結果ヲ生ズルガ如キ無責任ナル行動ハ斷然之ヲ排斥スルト云フコトヲ言ッテアリマス、苟モ相當ナル政治家ナラバ此ノ如キコトヲ言明スルノハ當然デ、諸君ノ首領ナル加藤男爵ガ斯ク言明致シタルノデアアルノデアリマス、天下ノ良民モ亦之ニ同感ダラウト思フノデアリマス、日比谷ノ會合ノ如キハ名ヲ屋內ノ集會ニ藉ルニモ拘ラズ、殆ド屋外ノ集會ノ如ク秩序紊レ衆議院ノ門扉マデモ打破ルト云フコトニナッタノデアリマスルカラ、是ガ警固ニ當リタル警察官ハ固ヨリ安寧秩序ノためニ相當ノ處置ヲ執ルコトハ當然ノコト、思フノデアリマス、延イテ言論ノ如キモ舞文曲筆大ニ此教唆的記事ガ多カッタノデアリマスカラ、相當ノ内務當局ニ於テ處置スルト云フコトハ當然ノコトデアリマス、又此上奏案ニ多數ノ良民ヲ拘留スル等ノコトモアリマスケレドモ、是等ノ如キモ既ニ論ゼラレタルガ如ク、深更ニ於テ多數ノ人々ガ集ッテ或ハ交番所ヲ襲フ等ノ如キ場合ガアッテ、已ムヲ得ズ此元兇ヲ捕ヘントシテ知ラズ識ラズノ間ニ罪ナキ人モ捕ヘルト云フヤウナコトガアッタケレドモ大體此安寧ヲ保ツタメニ出タ事デアリマス、若シ是等ヲ放任シタルラバ如何ニ此市ナルモノガ此、幾萬ノ市民二百萬ノ市民ガ如何ニ安寧ヲ保ツコトガ出來ルノデアリマセウカ、要スルニ此上奏案ハ大體過般決セラレタル——否決サレタル所ノ決議案ヲ二ツ繼合セタル所ノ案件ヲ、全ク先日ニ於テ否決サレタモノヲ今日ニ於テ復否決サル、コトハ當リ前デアルカラ、詰リ實質上吾々ガ反對シナケレバナラスト云フコトデアリマス、更ニ、犬養君ノ御議論ニ付テ是ヨリ反對ヲ表シテ見ヤウト思フノデアリマス、犬養君ノ御議論ハ既ニ去月ニ於テ決議致シタケレドモ已ムヲ得ズ又茲ニ上奏案ヲ出スト云フ趣意デアアル、上奏案ハ容易ナラザルモノデアアル、併ナガラ已ムヲ得ズト云フ御議論デアリマスガ、私ノ如キモ犬養君ト同様ニ上奏案ノ容易ナラザルコトハ承知シテ居ルノデアリマス、吾々政治上ノ爭ハ出來得ルダケ吾々間ニ於テ決定シタイモノデアリマス、之ヲ 天聽ニ達シ 聖斷ヲ仰グト云フコトハ、御同様慎マナケレバナラヌコトデアリマシテ、諸君ニ於キマシテモ政爭ヲ皇室ニ及ボス如キコトガアッテハ相濟マヌト云フコ



トハ、常ニ々々諸君ノ論ゼラル、所デアリマス、此意味合ニ於テ吾々ハ固ヨリ御同様デアリマスガ、唯犬養君ト茲ニ違フ所ガアルノデ、犬養君ハ決議ハ否決サレタケレドモ已ムヲ得ズ上奏スルト云フノデアアル、是ガデス、決議ガ可決セラレ可決セラレテモ尙大臣ガ進退ヲ決セヌ、内閣ガ動かヌト云フヤウナ如キ場合ニ於テ初メテ上奏スルノガ至當ト思フノデアリマス、然ルニ決議案ガ二回マデ否決セラレテ、而シテ上奏案ヲ提出シ、之ニ 聖斷ヲ仰グト云フガ如キニ至ッテハ、實ニ矛盾シタル所ノ御議論ト言ハネバナラヌノデアリマス、若シ諸君ガ言フ如ク、若シ上奏案ガ否決ニナッテモ成敗利鈍ヲ顧ミズト云フガ如キ議論デアッタナラバ、寧ロ 上奏案ヲ弄ブモノト見ナケレバナラヌノデアリマス、此點ニ就テハ、誠心誠意ト云フコトヨリ論ジテ反對セナケレバナラヌノデアリマス、要スルニ此上奏案ナルモノハ、實質内容カラ論ジテモ反對シナケレバナラヌ、何トナレバ既ニ否決サレタル所ノ議案ヲ、上奏案ナル形式ノ下ニ出シタルニ過ギヌノデアリマス、又上奏案ナルモノ、精神意義カラ申シマシテモ、唯上奏權ヲ弄ブニ過ギヌノデアリマスカラ、此意味カラ申シマシテモ反對ヲ表スルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ反對ノ意ヲ表スルノデアリマス

坂口仁一郎君ハ曩ニ小河源一君ヨリ請求セル内閣總理大臣ノ出席ニ關シ質疑ヲ爲シ議長ハ之ニ應答ス次テ大石正己君ハ賛成ノ演説ヲ爲ス

大石正己君ノ演説

今日ハ吾々共ノ上奏案ハ首相内相、是ハ目的ノ人デアリマスガ、此問題ノ際ニ總理大臣及原内相ノ居ナイト云フコトハ甚ダ遺憾ノ次第デアリマス、凡ソ是マデ上奏案若クバ決議案ナルモノ、議會ニ出タル場合ニ、總理大臣ガ居ナイト云フコトハ——例ヘバ 貴族院ニ居ルト云フコトデアリマスガ、斯ウニ云フ問題ノ時ニハ本院ノ慣例トシテ洵ニ御出席ノアリタイコト、思フ、併ナガラ御出席ノナイト云フ以上ハ致方モナイ、私ハ此總理大臣山本伯爵……(議場騒然)今日非難ノ

標的ニナッテ居ル、又實ニ非難サレベキ事實ヲ具ヘラレテ居ル、私ハ茲ニ此事實ニ就テ著シキ點ヲ擧ゲテ上奏ノ已ムベカラザル理由ヲ陳述致ス積リデアリマス、第一ニハ海軍收賄問題、第二ニハ内相ノ人権蹂躪問題、第三ニハ 貴族院ニ對スル總理大臣ノ其責任ナル一大失態ヲ擧ゲテ其理由トスルノデアリマス、藤井少將、澤崎大佐等ノ監禁セラレタト云フコトハ、即チ海軍部内ニ於テ官紀ヲ紊亂シ收賄腐敗ノ事實アルコトヲ事實上證據立テ、居ル、是レ取モ直サズ我が帝國ノ安危存亡ヲ託シテ居ル所ノ、即チ國防ノ機關ヲ毀ケルモノデアアル(議場騒然)此國防ノ機關ヲ傷ケ我が帝國ノ海軍ノ名譽ヲ潰シタ、是レ其モノガ既ニ首相タル山本伯ノ重大ナル責任デアアル、明カニ海軍部内ニ於テ要部ノ官憲ガ收賄腐敗ノ大罪惡ヲ犯シテ居ルト云フコトヲ證據立テ、居ル、此一事件ガ即チ首相ノ責任問題デアアル、而シテ山本首相ハ二十年來其勢力ヲ海軍ニ逞ウシ、現ニ今日海軍要部ニ居ラル、人々ハ皆山本伯ノ股肱ト云ハル、トコロノ人デアアル、故ニ山本首相ガ時ノ海軍大臣デアルト否トニ拘ラズ、海軍ニ對シテ總理ノ責任ト云フモノハ外ノ總理大臣ノ比デハナイ、而モ先日來當局大臣ハ或ハ裁判ノ進行ニ見ル(以下議長中止ヲ命ス)

右演説中停會ノ 詔書ヲ傳達セラレ次テ會期終了シ議決ヲ經ルニ至ラサリシ

第二項 建議案

一 豫戒令廢止ニ關スル建議案

明治二十五年一月勅令第十一號ヲ以テ發布セラレタル豫戒令ハ今日ニ於テ其ノ必要ヲ認メス依



テ速ニ之ヲ廢止セムコトヲ望ム

右建議ス

二年十二月二十六日關直彥君外四名提出、三年一月二十四日提出者ヨリ之ヲ撤回セリ（但シ三年一月二十一日勅令第四號ヲ以テ豫戒令廢止ノ件公布セラレル）

## 二 臨時國防會議開設ニ關スル建議案

帝國國防ノ大方針ヲ確立スル爲國務大臣軍務當局者及特ニ任命サレタル者ヲ議員トシテ臨時國防會議ヲ組織スルノ必要ヲ認ム政府速ニ之カ開設ヲ企畫セムコトヲ望ム  
右建議ス

二年十二月二十六日關直彥君外五名提出、三年一月三十一日日程ヲ變更シテ本案ヲ院議ニ付シ大養毅君ハ提出者ニ代リテ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

國防會議設置ニ關スル建議案、提出者ニ代テ私ガ説明ヲ致シマス、此問題ハ餘程重大ナル問題デアリマスル故ニ、慎重ニ極ク公平ニ御考ニナッテ、願クハ全院一致デ此建議ヲ致シタイト考ヘマス、私共此建議ヲ出シマシタ理由ハ、第一今日ノ官制ノ上ニ、甚ダ不備ヲ感ズルト云フコトガ一ツ、ソレカラ國防ノコトニ付テ實施運用ノ上ニ、今日ノ制度デハ餘程差支ヲ來ス、此兩面カラ此間ニ一ツノ融通ヲ求メタイト云フガ主デアリマス、御承知ノ通り今日ノ國防用兵ニ關シテハ、ドウナッテ居ルカト云ヘバ、參謀本部軍令部ガ計畫ヲヤル、其參畫シテ勅裁ヲ仰イダモノガ即チ

其部内——海軍部内陸軍部内ニ一ノ全計畫ガ成立ッテ、サウシテ其計畫ガ所管ノ海軍大臣陸軍大臣ニ移サレテ、始メテ是ガ内閣ト關係ヲ有ッテ來ル、斯ウ云フモノデアルカラ、軍事當局者ニ於テ計畫サレタルトコロノ國防ノ大根本問題ハ、總理大臣ト雖モ經費關係ニ付テ求メテ出ラレルマデハ知ラナイノデアアル、但シ軍人出身ノ總理大臣デアラナラバ、他ノ軍事參議官ト云フヤウナ他ノ資格デ、是ニハ參加サレテ居ルカラ、其方ノ資格デハ知ッテ居ラル、ガ、總理大臣トシテハ知ラナイノデアアル、斯ウ云フ有様ニナッテ居ル、此制度ノ關係カラシテ、此間中モ豫算會其他ニ質問ノ出ルノガ始終此問題デアアル、總理大臣ガ答ヘラル、トコロハ官制通リニ答ヘラレル、計畫ハアルデアラウ併ナガラ自分ハ知ラヌ、自分ハ二個師團ヲ求メテ出タトキニ知ル、一億六千萬求メタトキニ始メテ知ルノデ、其以外ハ知ラヌ、ソコデ此知ラヌト云フコトモ官制ノ上カラ云ヘバ尤モデアアル、又政治ノ全體カラ質問スル人ノ方カラ云ヘバ、一國ノ大勢ヲ擔テ居ル國ノ治亂興亡ニ大責任ヲ有ッテ居ル總理大臣ガ、一番大切ナ國防計畫ノ全計畫ニ付テ、知ラヌト云フコトガアルカト云フノガ政治ノ問題トシテハ、又尤モナ問デアアル、官制ヲ度外ニ於テ問ヘバ尤モナル問デアアル、始終是ガ議院ノ質問應答ノ衝突點ニナッテ居リマスガ、元來此國防ノ如キ大計畫ハ、一國ノ大勢カラ割出シ、一國ノ大方針カラ割出シ、而シテ財政經濟外交諸般ノ事情ヲ商量斟酌シテ、之ヲ決定シナケレバナラヌ問題デアアル、ソレダカラ吾々ハ斯ク申スカラト云ッテ軍事當局者ノ專門智識ヲ輕蔑スルモノデハナイ、專門ノ學術經驗練達之ニ對シテハ、十分ニ吾々ハ之ヲ尊重シテ居ルノデアアル、併ナガラ之ヲ尊重スルト同時ニ、軍事ニ於テ學識經驗練達ヲ有ッテ居ラル人ニハ、外交財政經濟ニ於テハ均シク門外漢デアアル、吾々ガ軍事ニ於テ門外漢タルト同様ニ門外漢デアアル、此門外漢デアアルノダカラ、何時モ軍事計畫ハ一國ノ大勢方針外交經濟財政ヲ全ク度外ニ置イタ計畫デアアルカラ、如何ナル立派ナ計畫ガ出來テモ行フコトガ出來ナイト云フ結果ニ終ルノデアアリマス、此制度ヲドウカシナケレバナラヌ、ソコデ制度ノ不備ハ段々進ムニ從ッテ補ハナケレバナラヌ、是ハドウデアアルカト云ヘバ、海軍獨立、陸軍獨立デ此間ニ連鎖ハナカッタ、ソコデ此海軍ト陸軍トノ連鎖ハ如何ナル官制ニ於テ連結サレルカト云フト、軍事參議官ガ出テ、サウシテ相互ノ關



係ヲ調理スルト云フ一ツノ機關ガ出來タ、戰時ニ於テハ戰時大本營、是デ連絡スルコトニナッテ居ルガ、平時ノ計畫ニ於テ一國ノ財政ト調和シ、相互ノ關聯ヲ調理スルト云フ機關ハ今日無イノデアリマス、其上カラドウシテモ茲ニ國防會議ト云フ、即チ外交財政經濟ト軍事専門ノ智識、雙方ノ尊重スベキ智識ヲ連結スルト云フ機關ガ必要デアル、是ガ第一ノ理由デアリマス、ソレカラ軍事當局者ニ於カレテ御熟考ヲ願ヒタイノハ、吾々ハ斯ル機關ヲ以ッテ今日多年問題トナッテ居ルトコロノ軍事計略ヲ叩キ破ラウト云フノデハナイ、又縮小一逼デシヤウト云フ考デモナイ、今日ノ有様デハ陸軍當局者、海軍當局者ガ如何ナル計畫ヲ立テラレテモ、其計畫ハ無効ニ屬スルト云フコトニナル、何故無効ニ屬スルカト云ヘバ、一國ノ財政經濟外交ヲ度外ニ置イテ立ッタモノデアルカラ、此計畫ハ時期ト云フモノヲ定メルコトハ出來ナイ、時期ト云フコトガ必要ナノデス、陸軍ガ二十五師團拵ヘルト云フノハ、何年間ニ拵ヘルノダ、海軍ガ幾干ノ艦隊ヲ拵ヘルト云フノハ、何年間ニ拵ヘルト云フ時間ガ大切ナ問題デアル、所ガ時間ヲ計ルコトガ出來ナイ、全ク一國ノ政治ト離レタ計畫デアルカラ、何時行フト云フコトハ何デアルカト云ヘバ、世ニ所謂「ストライキ」、陸軍大臣ガ辭職スル後ノ大中將ニ命ズル、是ガ辭職スル、段々斯ウヤッテ陸軍海軍ノ國務大臣ヲ得ナイ時ニハ、内閣瓦解デアルト云フ、此威嚇運動「ストライキ」ト云フ一ノ術ヨリ外ハ、ドシナ立派ナ計畫ヲ立テ、モ行フコトハ出來ナカッタノデアル、所ガ此「ストライキ」威嚇手段モ、今日ハ餘程效能ガ薄ライダノデアル、御承知ノ通り資格ヲ延ベラレテ、豫後備ノ大中將ニマデ延ベラレタカラ、此以後運動モ出來ナイ、サウナッタナラバドウシテ之ヲ行フカ、軍事當局者ガドウ計畫ヲ立テラレテモ行フト云フ時間ノ問題ヲ外ニシタ問題ハ、殆ド畫餅——畫ニ描イタ餅デア、ソレダカラソシナコトヲスルヨリハ、財政經濟外交、言ヒ換ヘルナラバ内閣ノ關係アル國務大臣ト云フモノヲ交ヘテ、初メカラ行ヒ得ラルベキ雙方承知シテ居ルト云フ計畫ノモノヲ立テタイ、併ナガラ此計畫ニ付テ軍人以外ノ素人デモ専門ノ學術練達——熟練ト云フモノニ切込モウト云フノデハナイ、併ナガラ吾々ハ此専門智識熟練ヲ尊敬スルト同時ニ、軍人モ外交財政經濟

ニ向ッテ尊重シナケレバナラヌ、サウシナケレバ計畫ガ立クヌカラ此融通ヲ立テタイ、此機關デ立テルト初メテ連繫ガ出來ル、海軍ノ連繫ハ何處デ出來ルカト云ヘバ、軍事參議官、戰時ノ連繫ハ何處デ出來ルカト云ヘバ、戰時大本營ニ依ッテ出來ル、夫カラ平時ノ連繫ハ何處デ政事軍事ニ徴シテ雙互ノ關係ヲ取ルカト云ヘバ、是デ取ルヨリ外致方ガナイノデアリマス、ドウカ之ヲヤリタイ、其上ニ吾々御同様ニ、是ハ憲法政治ノ上ニ於テ餘程大切ナ問題デアリマス、此制度デアリマスレバ、總理大臣ガ文官デアル時ニハ直接ハ無論、間接ニモ此計畫ニハ何モ參加シナイノデアリマス、ソコデ參加シナイモノニ向ッテ責任ヲ負ハナケレバナラヌ、一國ノ大事件ハ何デモ總理大臣ハ責任ヲ負ハナケレバナラヌ、參加シナイモノニ向ッテ責任ヲ負ハナケレバナラヌ、斯様ニナッテ居ル、ソレ故ニ將來文官ノ總理大臣ト云フモノハ、此制度ノ續ク限リハ永久ニ出來ナイモノニナルノデアリマス、幸ニシテ今日ハ軍人出身ノ總理大臣ガ出來タノデアリマスカラ、此總理大臣ノ大奮發デ、此連繫ヲヤルト云フコトヲ私ハ希望致スノデアリマス、是ダケガ趣旨デアリマス、ソレカラ此組織デアリマス、權能デアリマス、此權能ニ付テハ、何レ各派ノ間ニ御意見ガ澤山アラウト考テ、殊ニ茲ニ書キマセヌ、書キマセヌト云フノハ、要スルニ國務大臣ト軍事當局者トノ間ノ關係ヲ調理スルト云フ一ツノコトガ行ハレサヘスレバ、ドンナモノデモ無イヨリハ宜イト云フマデハ吾々ハ讓歩スル積リデア、ソレカラ説明ニハ廣ク人材ヲ簡拔スルトアリマスガ、此廣クト云フノハ比較的ノ言葉デ是モ直チニ讓歩ガ出來ル、ソコデ此廣クト云フ文字ガ使テアルト、純粹ノ軍人ノ間ニハ恐怖心——奇怪ノ觀念ヲ持タレルノデアラウガ、吾々モ國防用兵ト云フ事柄ハ、萬一事ガアッタ時ニハ有效ニ、所謂敵國ニ打勝ツ最モ有效ナモノデナケレバナラヌカラ、從ッテ機密ト云フコトハ最モ嚴格デナケレバナラヌ、ソコデ機密ノ嚴格ニ保タレルト云フ範圍、廣クト云フ中ニハ廣汎ニ陷ラズ、散漫ニ流レナイト云フ程度ニ御互ニ之ヲ御相談致シタイ、是ガ趣意デ、ソレ故ニ又此委員會ニ於テモ通常ノ委員ト違ッテ、國家ノ大問題デアリマスカラ、餘リ多イ委員ハ好マナイ、成ルベク少ナイ委員ニシテ各黨ノ院内總理、其他有力ノ人ニ之ニ御參加ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ趣意デアリマス、終リニ臨ンデ此豫算關係ニ付テ、私共執ッテ居ルト



コロノ意見ヲ陳述スルコトガ關係上必要ト考ヘル、吾々ハ此國防會議ヲ成ベク——成ベクダケ速ニ組立テラレテ、是デ國防ノ根本方針並ニ今度ハ時間ノ添フタ計畫ニシタイ、何年ノ間ニハドウシテ行フ、斯ウ云フモノニ一ツ致シタイ、ソコデ之ヲ極メルマデハ吾々ハ此今年求メラレテ居ルトコロノ一億六千萬圓ニ付テノ協賛ノ致方ガアル、此一億六千萬圓ノ計畫ノ中ノ三隻ノ戰艦、即チ先年度ニ於テ六百萬圓頭ヲ出シタノハ、是ハ既ニ約束濟ニナッテ居ルモノデアアルカラ、是ハ吾々ハ協賛スルノデアリマス、ノウ々ハ別ニ御理由ヲ御述ベナサッタラ宜カラウ、私ハ確信スル、吾々ハ協賛スル、謹ンデ協賛スル、ソコデ新タニ増サレタル七千萬圓ノ計畫ハ、マダ此奧ニ計畫ガアルト云フコトヲ吾々ハ認メルノデアアルカラ、此國防ノ全體ノ問題ガ決定シタ後デ決定メルモ未ダ遲シトシナイデアラウ、斯ウ考ヘルノデアリマス、モウ一ツ此案ニ間接ノ關係ヲ持ッテ居ル、最モ忌ハシキ此度ノ收賄問題、此收賄問題ニ付テハ當局者ハ無論非常ニ痛心致サレテ、ソレノ手續ヲ執ラレテ居ルデアラウガ、最モ急速ニ黑白ノ明ニナルヤウニ、成ベク急速ノ手段ヲ執ラレタイト云フコトヲ附加ヘテ希望致シテ置ク、ソレカラ委員等ニ付テハ、例ノ如ク政友會ノ進行係ノ諸君ニ謹ンデ御委任ヲ致シマス

質應應答ノ後議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月三日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ終ニ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

### 三 災害地義務教育費國庫補助ニ關スル建議案

天候ノ不順其ノ他避クヘカラサル災害ヲ蒙リテ農作物ノ凶歉ニ陥リ義務教育費ノ一部又ハ全部ヲ支辨スルコト能ハサル地方ニ對シテハ之ヲ國庫ノ負擔トシ相當補助ノ方法ヲ執ラムコトヲ望ム

右建議ス

二年十二月二十六日關直彦君外五名提出、三年一月三十一日院議ニ付シ提出者(小西和君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

簡單ニ此處カラ申シマス、是ハ主トシテ東北デアリマス、東北地方ノ小學校教員ノ俸給ヲ仕拂フコトモ出來ナイ有様ニナッテ居ル、生徒モ亦辨當ヲ持ッテ來ルコトガ出來ナイヤウナ憐ナ状態ニナッテ居リマス、是ハ町村費ガ納ラナイ、詰リ其結果デアリマスガ、本院ハ曩ニ災害地ノ地租免除法案ヲ通過致シマシタ、既ニ東北ノ被害地ニ對シテ同情ヲ致スト云フ事實ヲ現シタノデゴザイマスカラ、更ニ一步ヲ進メテ教育費ノ補助ヲ致シ、サウシテ大切ナル義務教育ガ中斷セラレナイヤウニ致シタイト云フノガ、本案ヲ提出スル所以デゴザイマス、ドウカ御賛成ヲ……

次テ議長指名ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二日委員長又理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ修正ヲ加ヘ表題ヲ災害地義務教育費補助ニ關スル建議案ト改メ二月二十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

天候ノ不順其ノ他避クヘカラサル災害ヲ蒙リテ農作物ノ凶歉ニ陥リ義務教育費ノ一部又ハ全部ヲ支辨スルコト能ハサル地方ニ對シテハ之ヲ國庫ノ負擔トシ相當補助ノ方法ヲ執ラムコトヲ望ム



右建議ス

千百五十

三月十四日再ヒ院議ニ付シ理事工藤吉次君ハ右ノ報告ヲ爲ス

此席カラ簡單デスカラ報告致シマス、委員會ニ於キマシテハ滿場一致ヲ以テ可決致シタノデア  
リマス此段報告致シマス

副議長關直彦君ハ報告書ハ修正アル旨ヲ告ケ工藤君ハ其ノ報告書通全會一致ヲ以テ可決シタル旨  
ヲ述フ

院議異議ナク委員會ノ報告ヲ採用シ即日政府ニ呈出ス

#### 四 上越鐵道建設ニ關スル建議案

本鐵道ハ東京ト北越トヲ聯絡スル最必要ノ線路ニシテ信越線及岩越線ニ比シ數十哩ヲ短縮スル  
ノ捷路タリ故ニ本鐵道ヲ敷設スルハ軍事上經濟上一日モ忽諸ニ附スヘカラサルモノトス依リテ  
政府ハ速ニ本鐵道ノ敷設ニ著手シ以テ國運ノ發展ニ資セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

#### 五 信越河東鐵道建設ニ關スル建議案

長野縣下屋代驛ヨリ松代町、須坂町、飯山町新潟縣下十日町ヲ經テ小千谷町ニ達スル鐵道線路ハ  
其ノ延長七十九哩ニシテ此ノ間長野縣下ニ在リテハ國產生絲ノ產地トシテ一箇年貨物ノ輸出入  
高三千萬貫目以上ヲ算シ其ノ他澁溫泉ヲ始メトシ數箇所ノ溫泉場アリテ一箇年ノ浴客數ハ一百  
五十萬人ニ及フ從テ之ニ對スル物貨ノ輸出入實ニ夥多ヲ極ム又新潟縣下ニ在リテハ十日町、小  
千谷町ヲ中心トシテ絹織物業ノ隆盛市上取引ノ頻繁ニ伴フ原料並貨物ノ輸出入實ニ著大ナリト  
ス尙北信南越一帶ニ亘レル千山萬岳ノ抱有スル無限ノ大森林及鑛物ヲ開發シテ生産事業ノ發展  
ニ資スルハ目下ノ急務ナルヲ認ム依リテ政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設全通シ沿道地方無限ノ富源ヲ  
開發スルト同時ニ交通運輸ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ發達ヲ計ラレムコトヲ望ム  
右建議ス

#### 六 羽越沿岸鐵道建設ニ關スル建議案

新潟縣下村上町ヨリ山形縣下鶴岡町、酒田町及秋田縣下本庄町ヲ經テ秋田市ニ達スル鐵道線路  
ハ其ノ延長一百二十四哩ニシテ本線路ニ據ルトキハ北海道ト京阪地方トヲ聯絡スルニ東北線ニ  
比シ實ニ一百七十哩餘ヲ短縮スルノ最捷路タリ而シテ此ノ間ニ於ケル農産物、林産物、水産物、



礦物等豊富ナルハ勿論沿道中新潟縣下瀨波、山形縣下温海、田川、湯之濱等各温泉場ノ盛況ハ一箇年浴客ノ計數約一百万人ヲ算フ然ルニ交通甚タ不便ヲ極メ且海上モ冬期及其ノ前後ハ風波暴威ヲ逞ウシ殆ト交通杜絶ノ慘況ナルヲ以テ沿道住民ノ不幸措ク能ハサル所ナリ加フルニ本線ハ已ニ南部中部ニ於テ起工中ニ屬スルヲ以テ之ヲ連絡スルハ鐵道自ラノ經濟上ニ於テモ亦急要ナルヘシ依リテ政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設全通セシメ羽越地方無限ノ富源ヲ開發スルト同時ニ東北交通ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ發達ヲ計ラレムコトヲ望ム

右建議ス

以上三案中(四)ハ三年一月二十一日高津仲次郎君外七名、(五)ハ同日加藤勝彌君外一名、(六)ハ同日佐藤信古君外十一名ノ提出ニ係リ同月三十一日就レモ議院ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(四)高津仲次郎君ノ演說

本案ハ是マデ屢々提出ニナリマシテ、本院ヲ通過致シタ問題デゴザイマスカラ、私ハ極メテ簡單ニ唯提出ノ理由ヲ説明シヤウト思ヒマス、上越鐵道ハ群馬新潟兩縣ノ中央ヲ橫斷致シマシテ、高崎ヨリ長岡ニ達スル間九十六哩、若シ前橋ヲ起點ト致シマスレバ九十三哩半トナルデアリマス、此線ハ東京ヨリ北越ヲ接近セシムルトコロノ最モ必要ナル線路デアリマス、今上越線ト信越線トノ距離ヲ比較致シテ見マスレバ七十哩ヲ短縮致シマス、又岩越線ヲ上越線ニ比シマスレバ六十二哩ヲ短縮致シマス、實ニ東京ト北越トヲ聯絡セシムル上ニ於テ、上越線ヨリ近ク且ツ便利

ナル線ハナイノデアリマス、今日東京ヨリ北越ニ至リマスニハ、信越線ニ依ルノ外ハナイノデアリマス、此信越線中ニハ御承知ノ通り彼ノ有名ナル碓氷峠ノ如キ七哩ノ間十五分ノ一ト云フ難所ガアリマス、此難所ガアルタメニ非常ニ輸送力ヲ減殺ヲ致シマシテ、貨物ノ堆積致シテ居リマスルコトハ常ニ二割以上ニ達シテ居ルト云フコトデアリマス、平時ニ於テ斯ノ如シデアリマス、若シ一朝事アル時ニ軍隊輜重其他軍事輸送ヲ爲ス場合ニ、如何ニシテ其任務ヲ完ウスルカ、日露兩戰役ノ當時ヲ追想致シマスレバ、實ニ憂慮ニ堪ヘヌ次第デアリマス、此缺陷ヲ補ヒマスルニハ唯上越鐵道ノ建設アルノミデアリマス、又上越鐵道ノ沿道ヲ見マスレバ、石油、米穀其他農産物、林産物、礦物等ハ此沿道ノ富源デゴザイマシテ、此上越鐵道ノ建設ニ依ッテ勃興スベキトコロノ産業ハ實ニ莫大ナルモノデアラウ、斯ノ如ク上越線ノ建設ハ經濟上ヨリ見マシテモ、國防上ヨリ見マシテモ、一日モ忽セニス可カラザルトコロノ線路デアラウト思フノデアリマス、政府ニ於テモ既ニ充分ノ調査ヲ遂ゲラレテアルト云フコトデアリマスカラ、一日モ早ク御敷設ニ著手セラレンコトヲ希望ニ堪ヘマセヌ、諸君幸ニ御贊成アラントヲ望ミマス

(五)加藤勝彌君ノ演說

此建議案ハ信越河東線即チ鐵道ノ速成ヲ希望致スノデアリマス、此線路ハ長野縣下ノ屋代停車場ヨリ分岐シテ、新潟縣下ノ十日町ヲ經テ小千谷ト云フ町ニ達シマス、其延長ハ七十九哩、此間ニ於キマスル長野縣下ノ産物ノ豊富ナルコト、新潟縣下ニ於キマスル絹織物ノ最モ是ハ大ナル地方ヲ通過シマスノデアリマス、是ガ交通不便ノ爲メニ無限ノ此富源ガ封鎖セラレテ居ルト云フヤウナ憫レナル状態デアリマス、此鐵道ニ付キマシテモ、既ニ二十八議會又三十議會、此二期ノ議會ニ於テ諸君ノ御同情ニ依ッテ此議場ヲ通過シタ線路デアリマス、又今茲ニ提出ヲ致シマシテ、諸君ノ御同情ニ依リマシテ一日モ早ク此成立ヲ見ルコトヲ熱望シテ止マヌ次第デアリマス、ドウゾ一ツ滿場ノ御贊成ヲ得マシテ、敷設シマスヤウニ希望致シマス



(六)同上

簡單明瞭ニ申シマス、此鐵道ハ本年デ十六回バカリ滿場ノ御同意ヲ得マシタ、殊ニ此鐵道ノ南ノ方ハ既ニ二十一哩起工ニナツテ居リマス、本年ノ秋ニハ開通スル豫定ニナツテ居リマス、ソレカラ真中頃山形縣ノ酒田カラ餘目ニ至ル所ガ、是モ起工中デ、明年中ニハ開通ニナルノデゴザイマス、此西海岸ノ重要ナル縱貫線ノ南端ト中部ガ起工中デアリマス、故ニ政府ノ經濟ト致シマンテモ此切レノ場所ヲ連續セシムルト云フコトハ最モ必要ト存ジマス、是ハ十數年來幸ニ諸君ノ御同情ヲ得タ線路デアリマス、幸ニ政府モ此線路ニ對シテハ最モ重キヲ置クト云フコトハ、一昨年此議場ニ於キマシテモ、亦委員會ニ於キマシテモ、御明言ニナツタ譯デゴザイマス、ドウゾ一ツ諸君ノ御贊助ヲ得マシテ速ニ成立ヲ見ルニ至ルヤウニ希望致シマス

各案ハ議長指名同一ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末(四)案ヲ可決シ(六)案ニ修正ヲ加ヘ三月二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(六)案委員會報告書

(小字及——ハ委員會修正)

新潟縣下村上町ヨリ山形縣下鶴岡町、酒田町及秋田縣下本庄町ヲ經テ秋田市ニ達スル鐵道線路ハ其ノ延長一百二十四哩ニシテ本線路ニ據ルトキハ北海道ト京阪地方トヲ聯絡スルニ東北線ニ比シ實ニ一百七十哩餘ヲ短縮スルノ最捷路タリ而シテ此ノ間ニ於ケル農產物、林產物、水產物、礦物等豐富ナルハ勿論沿道中新潟縣下瀨波、山形縣下湯海、田川、湯之濱等各溫泉場ノ盛況ハ一箇年浴客ノ計數約一百萬人ヲ算フ然ルニ交通甚タ不便ヲ極メ且海上モ冬期及其ノ前後ハ風波暴

威ヲ逞ウシ殆ト交通杜絶ノ慘況ナルヲ以テ沿道住民ノ不幸措ク能ハサル所ナリ加フルニ本線ハ已ニ南部中部ニ於テ起工中ニ屬スルヲ以テ之ヲ連絡スルハ鐵道自ラノ經濟上ニ於テモ亦急要ナルヘシ依リテ政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設全通セシメ羽越地方無限ノ富源ヲ開發スルト同時ニ東北交通ノ利便ヲ増加シ國家經濟ノ發達ヲ計ラレムコトヲ望ム  
右建議ス

三月十九日兩案ヲ一括シテ再ヒ院議ニ付シ委員長高津仲次郎君ハ左ノ報告ヲ爲ス

上越鐵道建設ニ關スル建議案及羽越沿岸鐵道建設ニ關スル建議案、此二案ノ委員會ノ經過ヲ報告致シマス、委員會ニ於テハ慎重審査ノ上、上越鐵道建設ニ關スル建議案ハ全會一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ、羽越沿岸鐵道建設ニ關スル建議案ノ方ハ、報告書ノ通修正ヲ加ヘテ多數ヲ以テ決定致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

院議異議ナク兩案トモ委員會ノ報告ヲ採用セリ即日政府ニ呈出ス

(五)案ニ對シテハ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

七 清酒防腐劑「サリチール」酸使用延期ニ關スル建議案

明治三十六年内務省令第十號飲食物防腐劑取締規則清酒防腐劑「サリチール」酸ハ同四十三年同省



令第二號ヲ以テ同四十九年(大正五年)九月三十日迄使用期間ヲ延長セラレタリ然ルニ近時清酒ニ對スル一般ノ嗜好ハ酒精分稀薄ニシテ風味亦淡泊ナルモノヲ尙フニ至リ爲ニ清酒ノ耐久力ハ漸次減退ノ傾向ヲ呈シ前途一層防腐劑ノ必要ヲ感シ而モ他ニ適當ナル防腐劑及防腐方法ヲ發見シ能ハサルノ秋ニ際シ「サリチール」酸ノ使用ヲ禁止スルトキハ酒造業者ハ廢業破産等ノ悲境ニ沈淪シ酒造業ノ發達ヲ阻害シ唯一ノ稅源ヲ涸渴シ國家ノ基礎ヲ危殆ナラシム依リテ「サリチール」酸ニ代ルヘキ適當ノ防腐劑若ハ防腐方法ヲ發見スルニ至ル迄「サリチール」酸使用期間ヲ延長シテ酒造業ノ發展ヲ期シ稅源ヲ涵養セラレムコトヲ望ム

右建議ス

八 輸出入種苗及飲食物検査ニ關スル建議案

横濱、神戸其ノ他必要アル對外貿易港ニ輸出入種苗及飲食物検査ノ機關ヲ設置シ海外ニ輸出シ及輸入スル種苗ニ對シテ病蟲ノ有無ヲ検査シ又飲食物ニ付テモ有害有毒ノ物質ヲ含メルヤ否ヲ検査シ之カ輸出及輸入ヲ許否スルノ方法ヲ實施セラレムコトヲ望ム

右建議ス

以上二案中(七)ハ三年一月二十三日武藤金吉君外四名、(八)ハ同月二十七日小西和君ノ提出ニ係リ一月三十一日院議ニ付シ各提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(七)武藤金吉君ノ演說

清酒防腐劑「サリチール」酸使用延期ニ關シマスル建議案ノ理由ヲ說明ヲ致シマス「サリチール」酸ノ使用ハ明治三十六年内務省令第十號ヲ以テ、飲食物防腐劑取締規則ニ依ッテ發布サレテ殊ニ七箇年間、一定ノ量即チ清酒一石ニ對シテ十匁ト限ッテ使用ヲ許サレテ居ルノデアリマス、四十二年ニ至リマシテ同省令第二號ヲ以テ、四十四年即チ大正五年九月三十日マデ是ガ延期サレテアルノデアリマス、今日カラ見マスルト餘ス所ガ二箇年アリマス、二箇年アリマスガ此「サリチール」酸ノ使用禁止如何ハ重大ナ問題デアリマス、我國ノ最大ノ稅源タル酒ノ稅ハ現ニ九千萬圓ヲ超エテ居ルノデアリマスガ、此「サリチール」酸ノ使用ヲ禁ズルト云フコトニナリマスルト、巨額ナル此稅源ヲ減ズルノミナラズ、今日ノ此酒ヲ如何ニスルカト云フ問題ニ影響スル事柄デアリマス、サリチール」酸ノ使用禁止ハ一體人體ニ有害デアルト認メタノデアリマス、而シテ其有害ノ程度ハ一石ニ對シテ十匁以内デアレバ害ガナイト云フコトデ、使用ヲ許サレテ居ルノデアリマシテ、今日ハ此「サリチール」酸ノ定量如何ハ、學說上ハ非常ナ問題ニナッテ居リマス、内務省ノ方面ニ於テハ勿論是ハ有害デアルカラ許サヌ方ガ宜イト云フ說ヲ採ッテ居リマスガ、大藏省ノ方ノ收入ノ方カラ關係スルト、酒ヲ腐ラスカラ之ヲ今俄ニ禁止スルト云フコトハ、我國ノ稅源ニ非常ナル影響ヲ及ボスト云フコトデ、同政府ニ於キマシテモ、内務省ノ方針ト大藏省ノ方針トハ平常ニ於テ違ッテ居ルノデアリマス、而シテ今此ノ問題ヲ解決スルニハ、ドウシテモ是ハ人體ニ有害デアルカ無害デアルカト云フコトヲ、決定スルノガ必要デアリマスガ、未ダ學說ハ決定致シテ居リマセヌ、此場合ニ於テ之ヲ禁止スルト云フコトハ出來マセヌノデアリマスカラ、近來漸ク酒造石數ハ激増ヲ致シ、而シテ稅モ上ッテ居ルノデアリマス、二年ヲ餘ス今日ニ於テ之ヲ極



メテ置キマセヌト、二年先キニナッテ俄ニ禁止スルト云フコトニナリマスルト、一般ノ酒造家ハ倒レル、倒レルノミナラズ酒ヲ造ル者ガ盡キテ來ル、ナゼナラバ「サリチール」酸ヲ入レマシタ桶ナドハ、藥ヲ入レマセヌデモ、二年間ハヤハリ防腐ノ有効期間トナッテ居リマスカラ、二年前ニ之ヲ決定シテ置キマセヌト、ドウシテモ總テノ桶其他ノ容器ハ改メネバナラヌト云フコトデアリマスカラ、是非トモ本年ニ於テ此延期ヲ政府ガ決定ヲシテ貫ヒタイ、サウシテ此防腐劑ノコトニ付キマシテ、何時マデ之ヲ延バスカト申シマスルト、此「サリチール」酸ニ代ルベキ適當ノ防腐劑ヲ發見スルカ、若クハ防腐ノ方法ヲ發見スルニ至ルマデハ、使用期間ヲ延長シテ、サウシテ一面ニ於テハ公衆衛生ヲ重シ、サウシテ酒造業者ノ發展ヲ計リ、而シテ國案ノ稅源ヲ涵養セラレムコトヲ望ム次第デアリマシテ、此建議案ハ頗ル一般ノ當業者ニ對シ、公衆衛生ニ對シ、又國家ノ稅源ニ對シテ重大ナル事柄デゴザイマスカラ、何卒諸君ノ御協贊ニ依ッテ、建議ノ目的ヲ達シタイト思フノデアリマス

(八)小西和君ノ演說

本案ノ提出ノ理由ハ、大體理由書ニ認メテアルノデゴザイマスルガ、世界ノ各文明國ニ於テハ概シテ之ニ關スル設備ガアリマス、然ルニ我國ハ此事ニ關シテ全ク開放サレテ居ルノハ甚ダ危險ナノデアリマス、ソレガ爲メ様々ノ不都合ナ事ガ出來テ居ルノデアリマス、其不都合ナ一例ヲ極メテ簡單ニ述ベマスルト云フト、御承知ノ通りサンホゼイ貝殼蟲デアリマス、是ガ外國カラ輸入サレテ我國ノ果樹ニ非常ナ害ヲ及ボシテ居リマスコトハ世間ノ均シク認ムルトコロデアリマス、今一ツハ林檎ノ棉蟲ガ如何ニ慘憺タル被害ヲ與ヘテ居リマスルカト云フコトモ、是亦明カナル事實デアリマス、近年ニ至ッテ静岡縣長崎縣アタリノ柑橘ニ棉吹貝殼蟲ガ輸入サレテ附イテ居リマス爲ニ、大ナル被害ヲ與ヘツ、アリマスルコトモ、是亦閑却スベカラザル事柄デアリマス、又日本カラ外國ヘ輸出致シマシタモノニ付キマシテハ、先年東京府力東京市カデアリマシタガ、亞米利加ノ華盛頓ノ方ヘ櫻ノ苗木ヲ送ッタデアリマス、所ガ日本ニ於テハ此病蟲ノ檢査ヲ機關ガ

アリマセヌ爲ニ無檢査ノ儘デ外國ヘ出シタ、其結果折角日本カラ向ヘ呈上致シタモノガ、向フニ於テ燒却ヲサレルト云フヤウナ無慘ナ目ニ遇ウテ、ソレガ爲ニ日本ノ好意ヲ空シウスルノ外ナキニ至ラシメ、加フルニ我國ノ體面ヲ傷ケタヤウナ次第デゴザイマス、又茶——外國ヘ輸出スルトコロノ製茶デアリマス、之ニ對シテ色ツケノモノガ澤山ニアリマシテ、海外ニ於テ信用ヲ墮シ、輸出ヲ阻害致シテ居ル實例モアリマス、既ニ人間ノ病氣ニ對シマシテハ檢査ノ方法ガ出來テリマス、ドウゾ此種苗及飲食物ニ對シマシテモ、檢査ヲ致シテ農業衛生及貿易ノ三方ニ對シテ安居固ナ手段ヲ取ルヤウニ希望スル次第デアリマス

(七)案ニ對シ中川虎之助君ハ質疑ヲ爲シ政府委員應答ノ後議長指名ノ委員、(八)案ハ(七)案ノ委員ニ併セ付託スルニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス委員ハ二月二日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末(七)案ハ可決、(八)ハ否決シ三月五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(八)案ニ對シテハ委員大口喜六君外三名ヨリ左ノ少數意見書ヲ議長ニ提出セリ (少數意見書)

(一)ハ修正

輸出入種苗及飲食物檢査ニ關スル建議

横濱、神戸其ノ他必要アル對外貿易港ニ輸出入種苗及飲食物檢査ノ機關ヲ設置シ海外ニ輸出シ及輸入スル種苗ニ對シテ病蟲ノ有無ヲ檢査シ又飲食物ニ付テモ有害有毒ノ物質ヲ含メルヤ否ヲ檢査シ之カ輸出及輸入ヲ許スルノ方法ヲ實施セラレムコトヲ望ム  
右建議ス